

令和7年度  
子ども・子育て支援調査研究事業  
企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究  
事業報告書

令和8年3月  
PwC コンサルティング合同会社



## はじめに

日本における少子化は年々加速しており、厚生労働省の発表によると、令和7年の出生数は過去最少の約71万人であり、10年連続で最少を更新した。

過去を振り返ると、昭和24年の第1次ベビーブームの約270万がピーク、次点は、昭和48年の第2次ベビーブームで209万人となり、それ以降ほぼ毎年減少を続けている。

一方、女性の就業率が上昇し、共働き世帯が増えたことに伴い、待機児童数は平成29年に約2.6万人とピークを迎えるまで増え続けた。

待機児童対策の推進及び従業員の多様な働き方に応じた保育を提供する施設として、企業主導型保育事業が平成28年に創設された。企業主導型保育施設は、認可保育所等と異なり事業主拠出金を財源として企業が設置する保育所であり、新たな保育の受け皿として政府は新規開設を推進してきた。創設以来、数を増やしてきた企業主導型保育施設の受け入れもあり、待機児童数は年々減少し、令和7年4月時点で約2,300人とピーク時の約1/10以下となっている。

このような状況下において、企業主導保育事業は創設から約9年が経過し、独自の待機児童対策として評価されてきた部分もあるが、認可保育所においても定員を下回る施設が増えるなど、保育を取り巻く環境の変化を踏まえ、求められる企業主導型保育について、改めて考察する時期を迎えている。

企業主導型保育施設は認可保育所等と開設手順が異なり、都道府県等による認可を経ずに設置することができる。このため、創設から間もない時期には、地域ニーズを十分加味出来ず開設されたことに起因する定員割れや保育士不足による休園などの問題が一部で発生し、保育の質の担保が取り沙汰されることもあった。

しかし、令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「企業主導型保育事業における地域の課題対応に関する調査研究」の先行調査であるアンケート調査やヒアリング調査によると、保護者のニーズに寄り添った保育・サービスを提供する工夫をする施設が増えるなど、以前よりも多くの企業主導型保育施設が改善に取り組んできたことがわかった。これは企業主導型保育施設における保育内容が保護者に評価されてきたと考えられる。

当該先行調査を踏まえ、本事業では、以下のリサーチクエスションに対する答えを出すことを目的に、4つのアンケート調査や施設・自治体へのヒアリング調査、認可保育所に関するデスクトップリサーチを実施した。また、ヒアリング調査の結果については、事例集の形で取りまとめを実施した。

### 【事業目的】

本調査研究では、下記3点のリサーチクエスションに対する答えを出すことを目的とし、企業主導型保育施設に関する実態把握調査や、企業主導型保育施設の特色を活かした運営や地域のニーズに応えるなど定員充足率引き上げに尽力している施設や施設数が多い自治体にヒアリング調査を実施した。

- ① 定員充足率が低い施設の運営課題とその改善策は何か
- ② 企業主導型保育施設が選ばれている理由は何か
- ③ 定員充足率や施設が選ばれている理由に地域差はあるか

### 【調査方法】

目的の達成のため、下記4つのアンケート調査とヒアリング調査、デスクトップリサーチを実施した。なお、調査設計や分析に当たっては、有識者による検討委員会から助

言を得ながら検討を進めた。

1. 企業主導型保育施設長向けアンケート調査
2. 従事者向けアンケート調査
3. 保護者向けアンケート調査
4. 自治体向けアンケート調査
5. 企業主導型保育施設・自治体に対するヒアリング調査
6. 認可保育所に関するデスクトップリサーチ

## 目次

---

1. 事業の目的と概要 .....	1
(1) 事業の実施背景及び目的 .....	1
(2) 事業の実施概要 .....	1
(3) 検討委員会 .....	4
2. 先行研究等の整理 .....	6
3. 実態把握調査・ヒアリング調査概要 .....	8
(1) 施設長向け調査 .....	8
(2) 従事者向け調査 .....	62
(3) 保護者向け調査 .....	76
(4) 自治体向け調査 .....	93
(5) 認可保育所関連のデスクトップリサーチ .....	103
(6) 施設・自治体ヒアリング調査 .....	106
4. まとめ .....	123
(1) 本調査研究の成果と考察 .....	123
付録 .....	130
付録1 施設長向け調査 .....	130
付録2 従事者向け調査 .....	139
付録3 保護者向け調査 .....	141
付録4 自治体向け調査 .....	146

## 1. 事業の目的と概要

---

本章では、本調査研究の背景と目的、スケジュールについて記載する。

### (1) 事業の実施背景及び目的

---

創設から約9年が経過した企業主導型保育事業は、独自の待機児童対策として一定の評価を得てきた一方、保育需要の変化や認可保育所における定員割れの増加など、制度を取り巻く環境は大きく変化している。

また、創設当初には定員割れや人材不足などの課題も指摘されたが、令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「企業主導型保育事業における地域の課題対応に関する調査研究」の先行調査では、保護者ニーズに寄り添った保育を提供する施設が増加していることが確認された。

令和5年度事業の先行調査結果を踏まえ、施設長、従事者、保護者、自治体へのアンケートや、施設へのヒアリングを通じて、企業主導型保育事業における地域分析を行うとともに、定員充足率の向上に取り組む事例を発信する。

### (2) 事業の実施概要

---

#### ① 目的

以上の背景を踏まえ、本調査研究では、下記3点のリサーチクエスションの解を出すことを目的とし、企業主導型保育施設の実態把握、及び企業主導型保育施設の強みを活かした運営や利用者ニーズに応える工夫を実施している施設の事例集の作成を行った。

本調査研究の結果は、今後の企業主導型保育施設の在り方を検討する際の基礎資料となることを想定している。

図表1 リサーチクエスション

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| ① | 定員充足率が低い施設の運営課題とその改善策は何か  |
| ② | 企業主導型保育施設が選ばれている理由は何か     |
| ③ | 定員充足率や施設が選ばれている理由に地域差はあるか |

## ② 全体像

本調査研究の目的を達成するため、実態把握を目的とした企業主導型保育施設、施設に従事する職員、施設を利用する保護者、企業主導型保育施設への指導監督権のある都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市宛てのアンケート調査を実施するとともに、事例集作成を目的とした企業主導型保育施設及び自治体に対するヒアリング調査、認可保育所に関するデスクトップリサーチを実施した。

図表 2 調査の種類

調査の種類	調査概要
企業主導型保育施設長向けアンケート調査	企業主導型保育施設の運営状況や課題など実態を把握
従事者向けアンケート調査	企業主導型保育施設に従事している職員が捉える課題など実態を把握
保護者向けアンケート調査	施設を選んだ理由や利用している施設に関する満足度などを把握
自治体向けアンケート調査	自治体の定期立入調査における現状や課題などを把握
企業主導型保育施設・自治体に対するヒアリング調査	企業主導型保育施設の特色ある取組や利用者のニーズに応える工夫、各地域での企業主導型保育施設の位置づけなどを把握
認可保育所に関するデスクトップリサーチ	企業主導型保育施設は保育提供体制の一部ではないため、認可保育所のデータと比較することによって、企業主導型保育施設の課題等を正確に把握する

本調査研究は令和8年3月31日まで、図表3に示すと通りのスケジュールで事業を実施した。

図表3 スケジュール

	事業全体	検討委員会	事業実施状況	ヒアリング調査
令和7年 7月	↑ 説明会 ↓			
8月		↑ 委員 事前説明 ↓	↑ アンケート調 査 調査設計	↑
9月		★第1回 委員会		ヒアリング調 査 調査設計・ヒ アリング調査
10月			× アンケート調 査	
11月			↓ ↑ アンケート 調査結果集 計・分析/ デスクトッ プリサーチ	↓ ↑
12月		★第2回 委員会		ヒアリング調 査実施
令和6年 1月				
2月	↑ 報告書案 作成 ↓			↓ ↑
3月	↑ 報告書 案 修正 ↓	★第3回 委員会		↓ 事例集作成

### (3) 検討委員会

本事業では、委員から助言を得るための検討委員会を組織し、令和8年度の事業方針や各アンケート調査やヒアリング調査の調査設計、調査結果の分析などの検討について議論した。

#### ① 検討委員会・事務局体制

検討委員会委員、参考人、オブザーバー及び事務局体制は図表4から図表7のとおりである。なお、座長には指名により井上眞理子氏が就任した。

図表4 検討委員会委員

氏名	所属
◎井上 眞理子	洗足こども短期大学 幼児教育保育科 教授
岡野 一郎	倉敷市保健福祉局子ども未来部 次長
齋藤 淳一	横浜市こども青少年局保育・教育部 保育・教育運営課 担当課長
佐藤 大介	株式会社 Lateral Kids 専務取締役
田澤 里喜	玉川大学教育学部 教育学科 教授
野田 雄太郎	株式会社菜の花
樋渡 俊江	保育所を考える親の会

(五十音順、敬称略、◎は座長)

図表5 参考人

氏名	所属
村井 真人	公益財団法人児童育成協会 企業主導型保育事業本部 企画部 次長

検討委員会オブザーバーとして次の方が参画した。

図表6 検討委員会オブザーバー

氏名	所属
梅本 樹	こども家庭庁成育局保育政策課認可外保育施設担当室 課長補佐
宮本 里香	こども家庭庁成育局保育政策課認可外保育施設担当室 指導監査官
倉田 修一	こども家庭庁成育局保育政策課認可外保育施設担当室 係長

本調査研究を実施した事務局は下記のとおりである。

図表7 事務局

氏名	所属
東海林 崇	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 ディレクター
当新 卓也	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアマネージャー
中辻 瑛理香	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
西尾 桃香	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 アソシエイト

## ② 検討委員会開催概要

検討委員会の実施状況は図表 8 のとおりである。なお、全 3 回の検討委員会はすべてオンラインでの開催とした。

図表 8 委員会議題

開催日	主な議題
第 1 回 令和 7 年 9 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"><li>事業概要の説明</li><li>令和 5 年度子ども・子育て支援調査研究事業「企業主導型保育事業における地域の課題対応に関する調査研究」の振り返り</li><li>施設・従事者・保護者・自治体向けアンケート調査設計の検討<ul style="list-style-type: none"><li>ヒアリング調査設計</li><li>事例集構成の検討</li></ul></li></ul>
第 2 回 令和 7 年 12 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"><li>アンケート調査結果の説明</li><li>調査結果を踏まえた分析</li><li>ヒアリング調査結果の説明</li><li>デスクトップリサーチによる地域分析</li></ul>
第 3 回 令和 8 年 3 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"><li>ヒアリング調査結果の説明</li><li>報告書案の検討</li><li>事例集案の検討</li></ul>

## 2. 先行研究等の整理

令和5年度における「企業主導型保育事業における地域の課題対応に関する調査研究」事業では、全国の企業主導型保育施設（約4,500施設）に対するアンケート調査を実施し、577（回収率12.8%）から回答があった。また、認可外保育施設の指導監督権限のある自治体を対象とした調査においても114件（回収率75.0%）から回答があった。加えて、特色ある取り組みを実施している企業主導型保育施設6施設へのヒアリング調査を実施し、好事例集が作成された。その結果、以下のような考察が示された。

一方、令和5年度事業の検討委員会においては、「施設向け調査に回答した施設の数577施設であり、これは全体の一部である点に留意」、「定員充足率は、交通アクセスに左右される点もあるという意見もあった一方で、都市部と地方では選ばれる理由も異なることや、定量調査において地域性やアクセスを加味することは困難である」等の意見があった。

本調査研究では、令和5年度事業の結果も踏まえつつ、アンケート調査の設計の詳細化や回収率の向上の工夫などを行い、定員充足率の低い施設の要因をより詳細に分析した。

図表9 令和5年度調査結果 要約

要旨	概要
企業主導型保育施設が講じている工夫や抱えている課題	<p>アンケート調査結果から、多くの企業主導型保育施設は、保護者のニーズに寄り添った保育・サービスを提供する工夫を講じているということが明らかになった。具体的な実施施策として、「一時預かり保育」、「パートタイム勤務者の受け入れ」、「アプリやインターネットを用いた保育施設からの情報共有」を、70%以上の施設が実施していた。また、90%以上の施設が保育の質向上のために、「保育士の働き方改善」、「事故防止や事故発生時の対応について」及び「不適切な保育の実施防止について研修の実施やマニュアルの策定」を実施している。</p> <p>全国の企業主導型保育施設の70%以上が、定員充足率80%以上となっており、定員充足率の高い施設において、特に上記のような取組が行われていることがわかった。</p> <p>地域のニーズ把握や職員マネジメントについて、積極的に取組を実施している施設がある一方で、実施に課題を感じている施設もあった。</p>
企業主導型保育施設が多い自治体の特徴	<p>企業主導型保育施設の数が多い自治体の特徴を明らかにするため、調査対象全体と施設が多い自治体の回答を比較した。調査対象全体の回答と施設が多い自治体において、「自治体を感じている施設の課題」において差異が見られた。具体的には、自治体を感じる施設の課題として、「施設による保育の質の差が大きい」と回答した自治体は、調査対象全体で24.6%である一方、施設が多い自治体では42.1%であった。</p> <p>施設が多い自治体ほど、施設による保育の質の差を気にかけ、施設が多いほど保育の質に差が開く課題があることが改めてわかった。保育の質を向上させるため、施設による環境づくり、人材育成、職員マネジメントの仕組みづくり等が求められるとともに、自治体や</p>

要旨	概要
	<p>現在、こども家庭庁から企業主導型保育事業の実施を委託されている公益財団法人児童育成協会による指導監査の強化など、保育の質を担保する仕組みを検討する必要がある。</p>
<p>地域の求められる企業主導型保育施設の特徴</p>	<p>本調査研究において、地域に求められる企業主導型保育施設を、「保護者に利用されている施設」と定義し、定員充足率に着目した調査を実施したところ、定員充足率が80%以上の多くの企業主導型保育施設では、保護者とのコミュニケーション促進や手厚い職員配置による安全な保育を実施していることが明らかになった。具体的には、定員充足率が80%以上の施設の70%以上が、「アプリやインターネットを用いた保育施設からの情報共有」や「配置基準よりも多い保育士の配置」を実施している。また、保護者から選ばれる理由では「施設や保育士の雰囲気良く、コミュニケーションが取りやすい」が最も多く77.2%であった。</p> <p>普段からの施設から保護者への情報共有や保育士の配置が手厚く施設側も余裕のある保育を実践することにより、保護者から施設の雰囲気や職員とのコミュニケーションの取りやすさが評価され、利用者から選ばれる施設になったのではないかと考察する。</p>
<p>企業主導型保育施設が選ばれるための差別化</p>	<p>今後、企業主導型保育施設が差別化を図り、利用者には選ばれる施設となるための条件を検討するために、定員充足率80%以上の施設と40%以下の施設の取組、運営の課題及び職員マネジメントの実施状況の回答を比較した。</p> <p>比較の結果、定員充足率40%以下の施設に比べて、定員充足率80%以上の施設は以下の特徴があることが分かった。</p> <p>「配置基準よりも多い保育士の配置」、「職員間の仕事配分の見直し」、「人員の増加」等、保育士の業務負担が軽減するような取組がより積極的に実施されている。</p> <p>「病児保育」、「食育」、「リトミック」などの実施割合が高い。</p> <p>「管理職で、保育の方針や職員の育成等のすり合わせを行っている」、「職員と1対1のミーティングを実施している」等の職員マネジメント、すなわち施設や管理職の方針を職員と共有し、保護者が信頼できる組織的な保育の実現を、積極的に、具体的に実施している。</p> <p>今後、利用者には選ばれる企業主導型保育施設を目指すためには、上記取組を推進することは一定効果がある一方で、事業・活動の導入及び職員の新規採用や働き方改善による業務負担の軽減は施設の財政的負担が大きいため、定員充足率が低い施設は財政上の課題により実施が難しい可能性も考えられる。</p>

### 3. 実態把握調査・ヒアリング調査概要

検討委員会委員の助言等を踏まえ、（１）施設長向け調査、（２）従事者向け調査、（３）保護者向け調査、（４）自治体向け調査について、企業主導型保育施設及び自治体向けアンケート調査の結果及びヒアリング調査結果などについて詳細を記載する。

#### （１）施設長向け調査

全国の企業主導型保育施設へのアンケート調査により、施設の特色や課題等の実態を把握した。

##### ① 調査概要

調査概要は図表 10 のとおり。

図表 10 施設長向け調査の概要

分類	調査項目
調査目的	企業主導型保育施設の運営状況や課題など実態を把握するとともに、定員充足率が低い施設の運営課題などを抽出する。
調査対象	全国の企業主導型保育施設（約 4,500 施設）
調査方法	Microsoft Forms による Web 調査。令和 5 年度事業の調査を踏まえ、匿名回答など回答者の負担を減らし、回答しやすい工夫を実施 Microsoft Forms の二次元コードを記載した調査のお知らせについて、企業主導型保育事業実施主体（公益財団法人 児童育成協会）経由で各施設に周知、リマインドを実施。
調査期間	令和 7 年 10 月 14 日～令和 7 年 11 月 21 日

##### ② 調査項目

調査項目は図表 11 のとおりである（詳細は付録 1 に記載）。

図表 11 施設長向け調査項目

分類	調査項目
①施設の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人、設置法人の業種、設置法人の規模、施設設置市町村名、設置方式(単独設置、共同利用)、設置場所</li> <li>・定員、在籍児童数、運営方式、地域枠の有無、共同利用の有無</li> <li>・在籍児童の保護者(父親・母親)の勤務形態(常勤、パート等)・就労頻度(週〇回、週〇時間等)</li> </ul>
②施設の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足率、定員充足率の推移、地域枠利用率</li> <li>・在籍児童の属性割合</li> <li>・児童の居住地との近さ</li> </ul>
③保育施設所在地域の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育施設所在市町村の人口規模</li> <li>・保育施設所在地域の交通アクセス、周辺の商業施設</li> <li>・保育施設所在地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無</li> </ul>

分類	調査項目
④施設の運営課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足率による課題</li> <li>・保育士の人員確保・育成・業務負担・離職・職場環境・待遇面について</li> <li>・保育の質について</li> <li>・施設長のマネジメントについて</li> <li>・保護者との関わりについて</li> </ul>
⑤施設の運営課題に対する対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足率引き上げ方策</li> <li>・保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策</li> <li>・施設長のマネジメント向上</li> <li>・保護者との関わり改善</li> </ul>

### ③ 集計結果

有効回答数は1,192件であった（回収率26.5%）。以降、集計結果の概要を述べる。

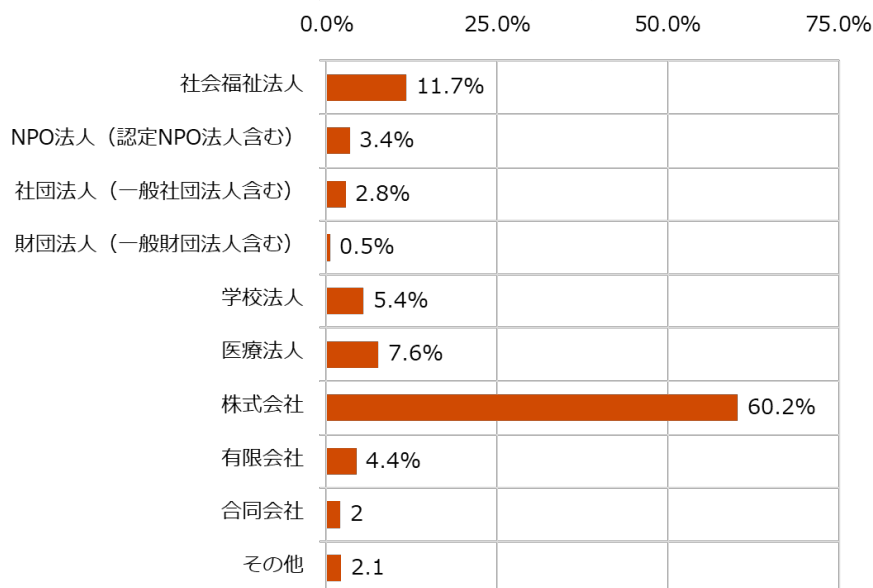
#### (i) 単純集計

以下に各設問に対する具体的な分析結果を示す。

##### (ア) 設置法人の種類

・施設の設置法人としては、「株式会社」の回答は60.2%と最も多く、次いで「社会福祉法人」が11.7%と多くなっている。

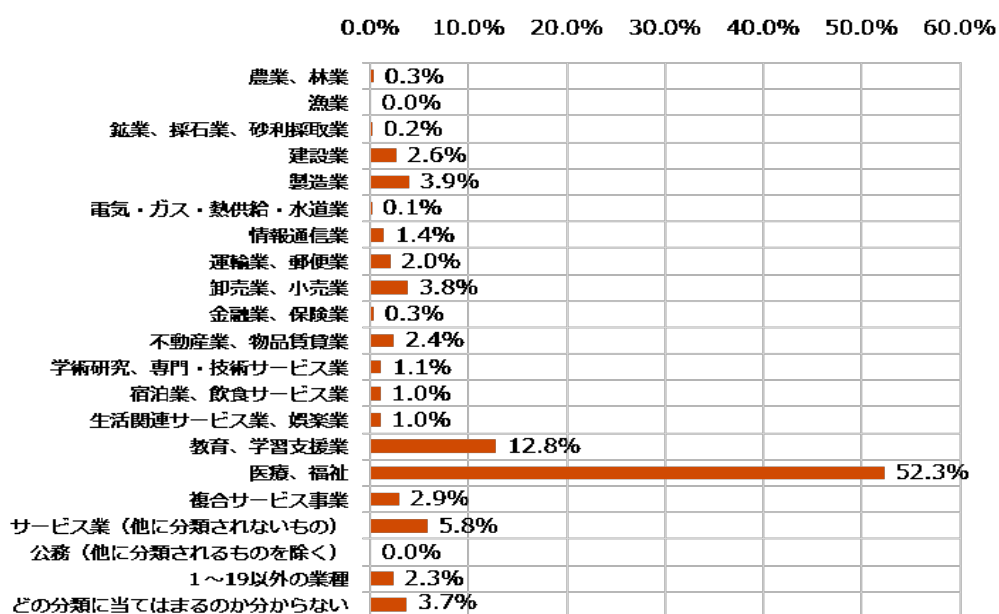
図表 12 設置法人の種類 (n=1,192)



##### (イ) 設置法人の業種

・施設の設置法人の業種としては、「医療・福祉」の回答は52.3%と最も多く、次いで「教育、学習支援業」が12.8%と多くなっている。

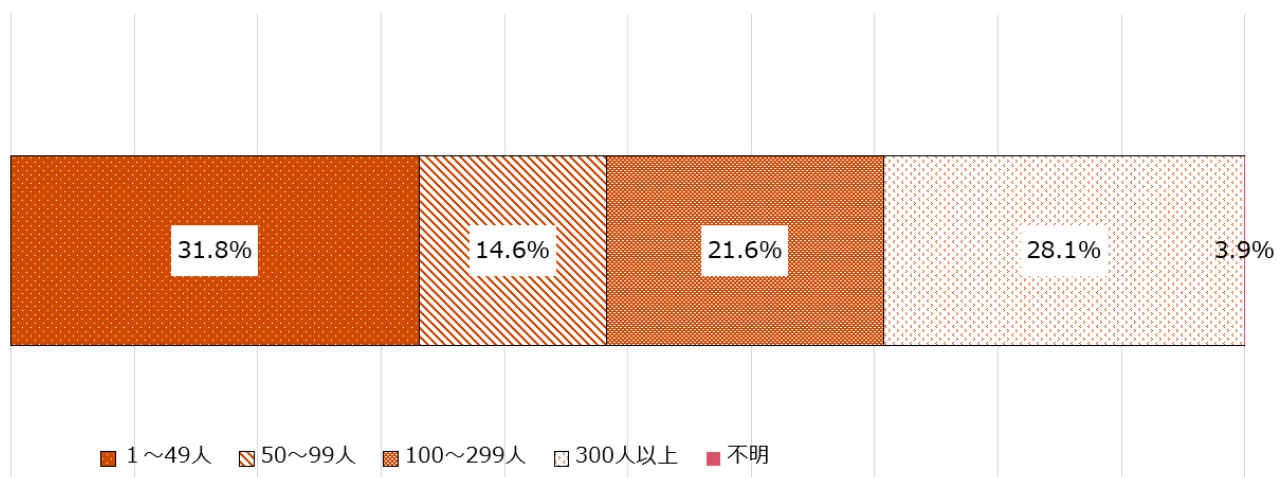
図表 13 設置法人の業種 (n=1,192)



### (ウ) 設置法人の規模

- ・施設の設置法人の規模としては、「1～49人」の回答は31.8%と最も多く、次いで「300人以上」が28.1%と多くなっている。

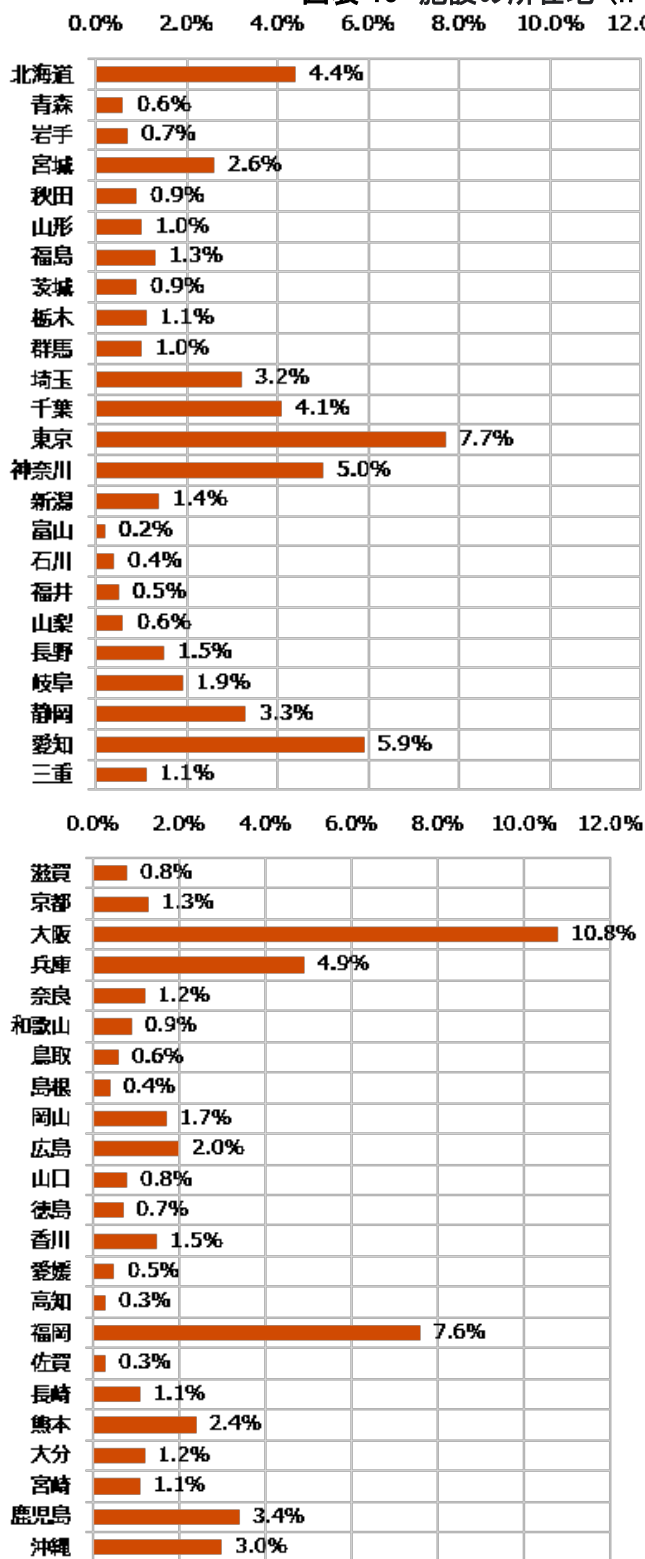
図表 14 設置法人の規模 (n=1,192)



### (エ) 施設の所在地

・施設の都道府県としては、「大阪」の回答は10.8%と最も多く、次いで「東京」が7.7%と多くなっている。

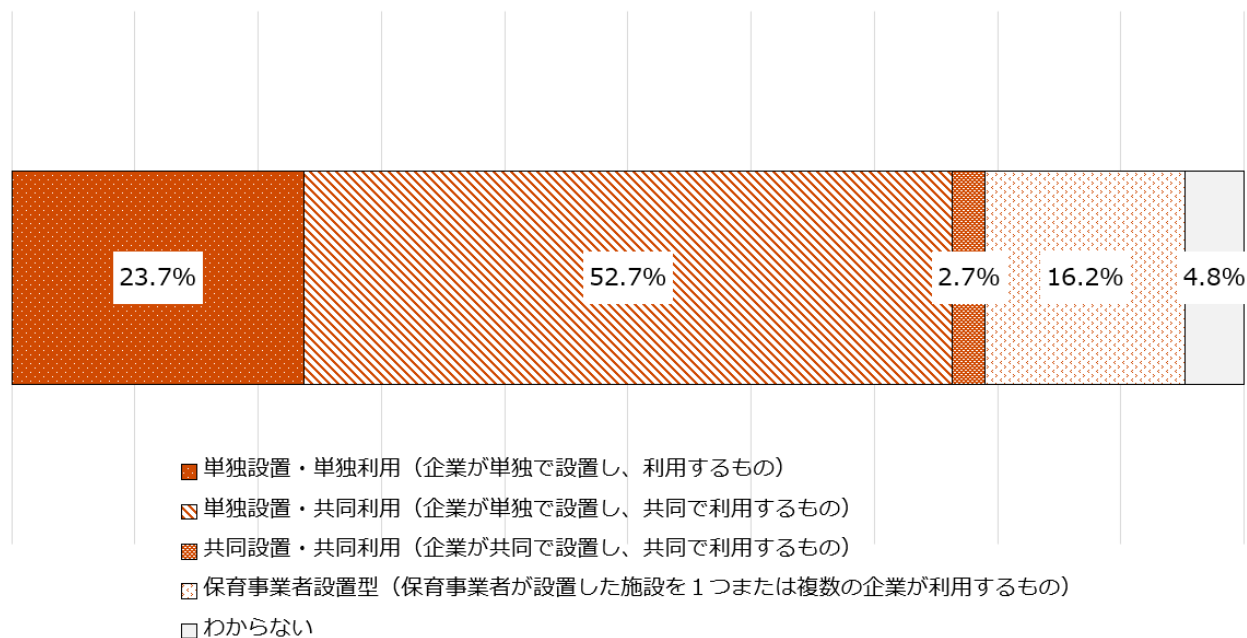
図表 15 施設の所在地 (n=1,192)



### (オ) 施設の設置方法

・施設の設置方法としては、「単独設置・共同利用(企業が単独で設置し、共同で利用するもの)」の回答は52.7%と最も多く、次いで「単独設置・単独利用(企業が単独で設置し、利用するもの)」が23.7%と多くなっている。

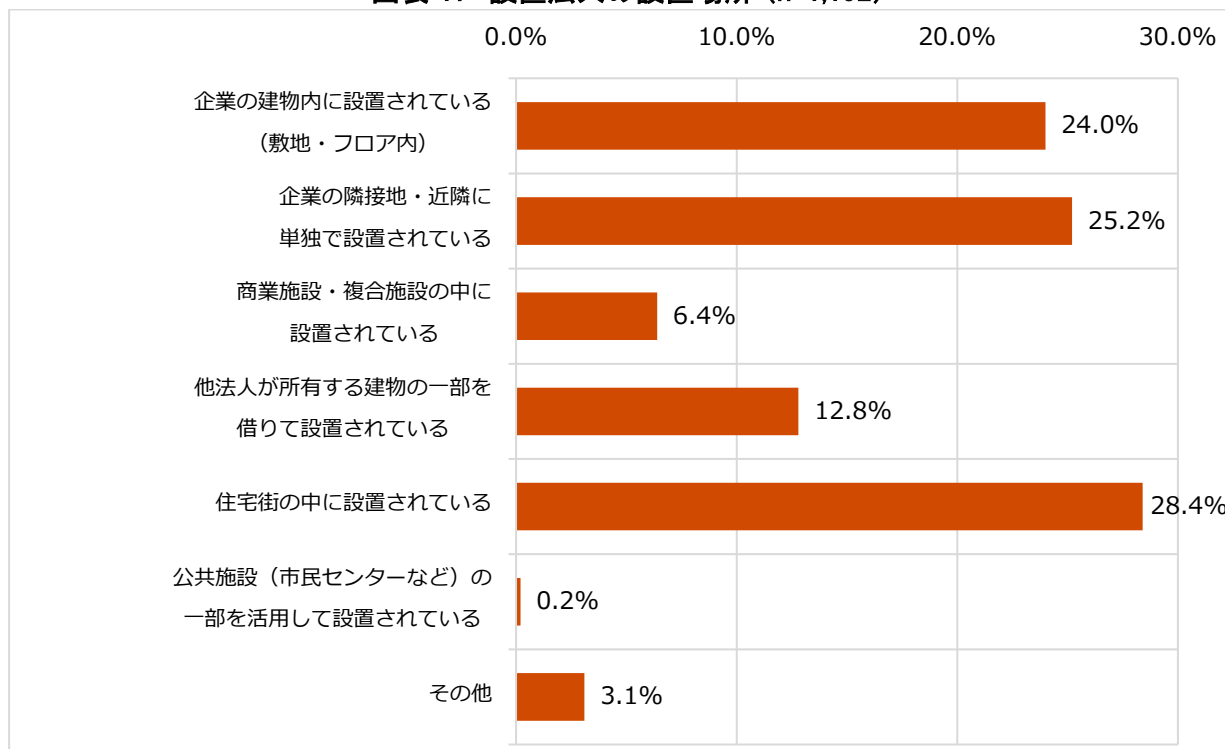
図表 16 施設の設置方法 (n=1,192)



### (カ) 設置法人の設置場所

・施設の設置場所としては、「住宅街の中に設置されている」の回答は28.4%と最も多く、次いで「企業の隣接地・近隣に単独で設置されている」が25.2%と多くなっている。

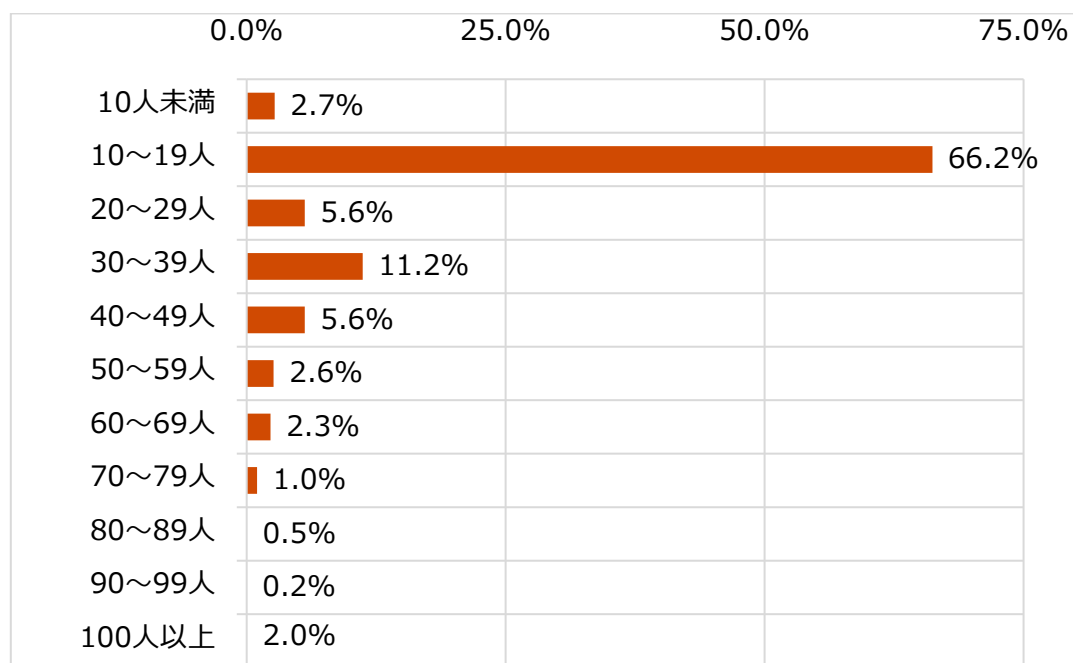
図表 17 設置法人の設置場所 (n=1,192)



### (キ) 施設の定員数

・回答された施設のうち、施設の定員数としては、「10～19人」の回答は66.2%と最も多く、次いで「30～39人」が11.2%と多くなっている。

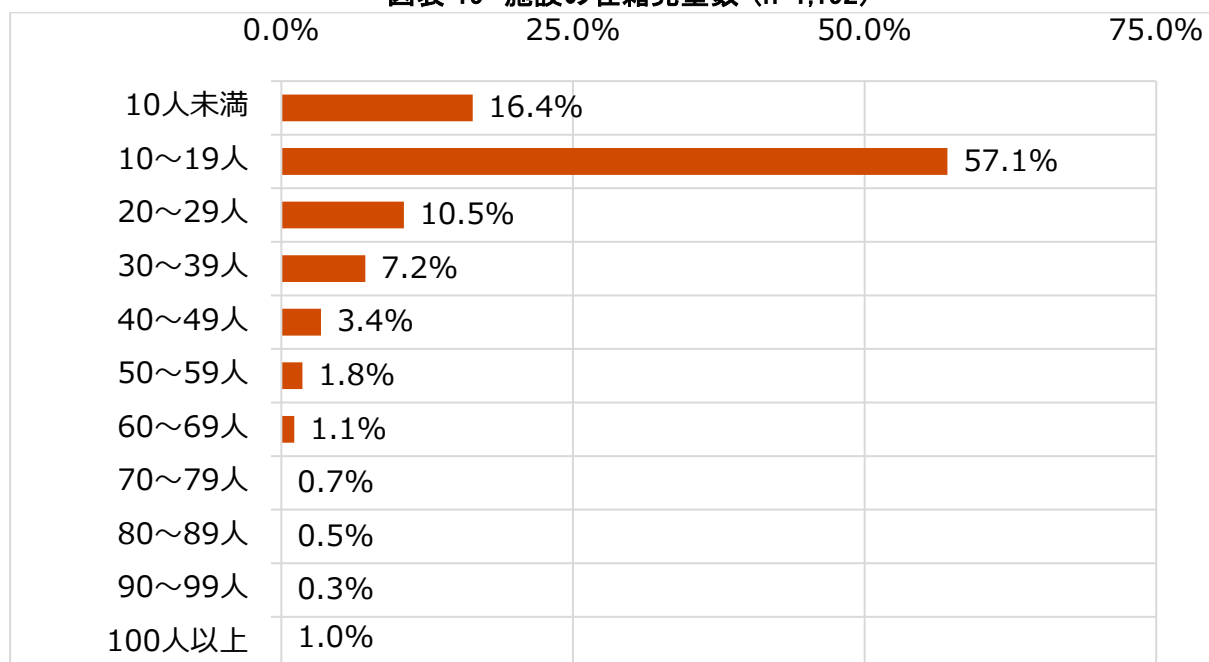
図表 18 施設の定員数 (n=1,192)



### (ク) 施設の在籍児童数

・施設の在籍児童数としては、「10～19人」の回答は57.1%と最も多く、次いで「10人未満」が16.4%と多くなっている。

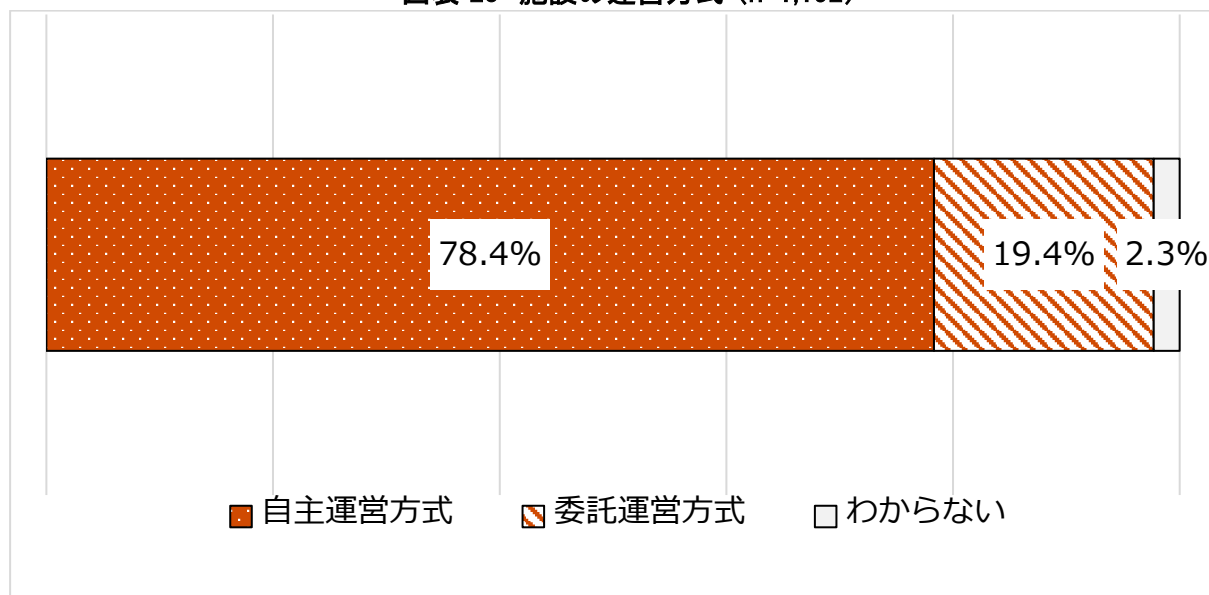
図表 19 施設の在籍児童数 (n=1,192)



### (ケ) 施設の運営方式

- ・施設の運営方式としては、「自主運営方式」の回答は78.4%と最も多く、次いで「委託運営方式」が19.4%と多くなっている。

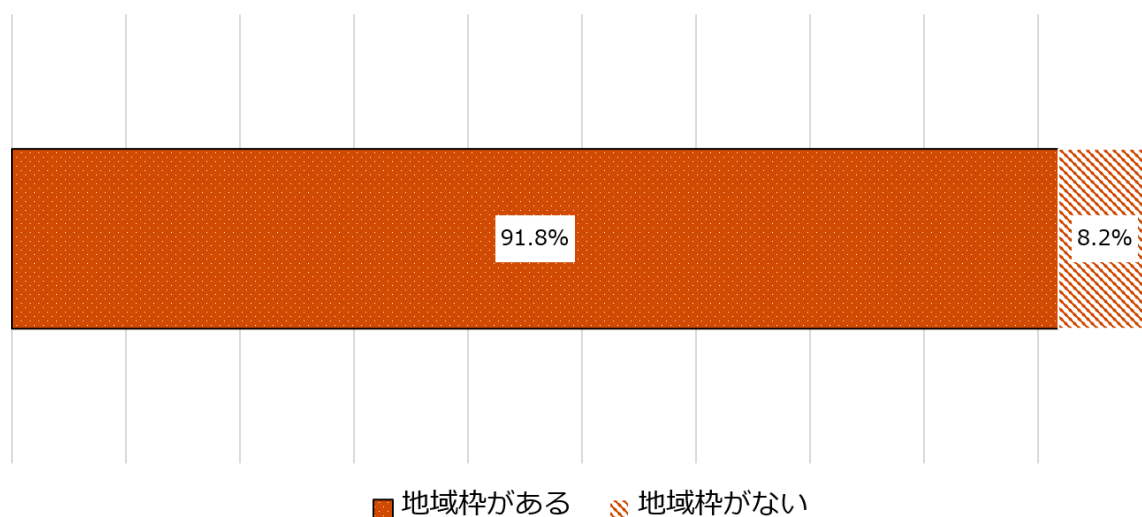
図表 20 施設の運営方式 (n=1,192)



### (コ) 施設の地域枠の有無

- ・回答された施設のうち、施設の運営方式としては、「地域枠がある」の回答は91.8%と最も多く、次いで「地域枠がない」が8.2%と多くなっている。

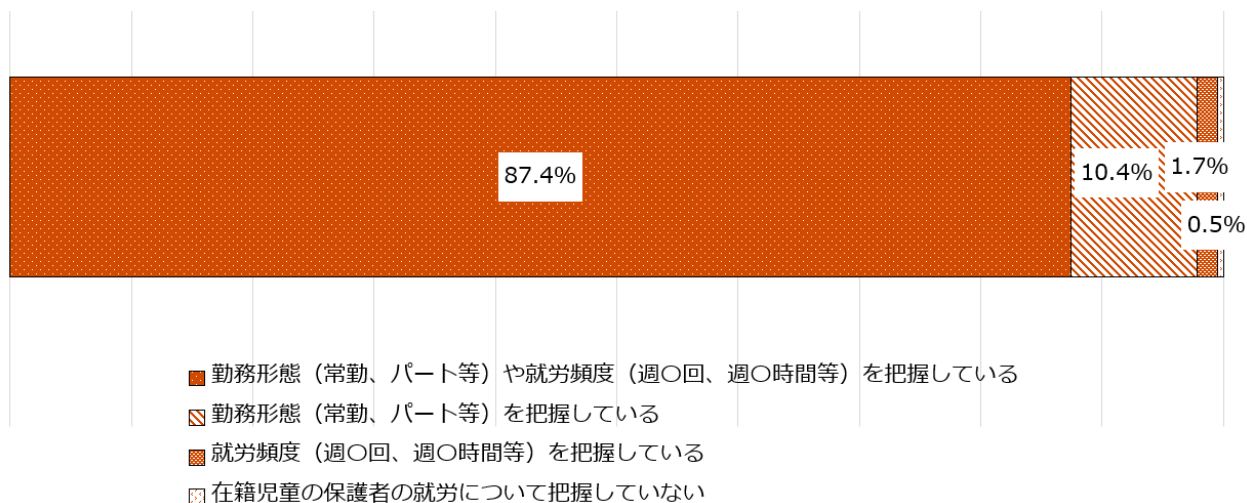
図表 21 施設の地域枠の有無 (n=1,192)



**(サ) 保護者の勤務形態や就労頻度を把握しているか**

・回答された施設のうち、施設の運営方式としては、「勤務形態(常勤、パート等)や就労頻度(週〇回、週〇時間等)を把握している」の回答は87.4%と最も多く、次いで「勤務形態(常勤、パート等)を把握している」が10.4%と多くなっている。

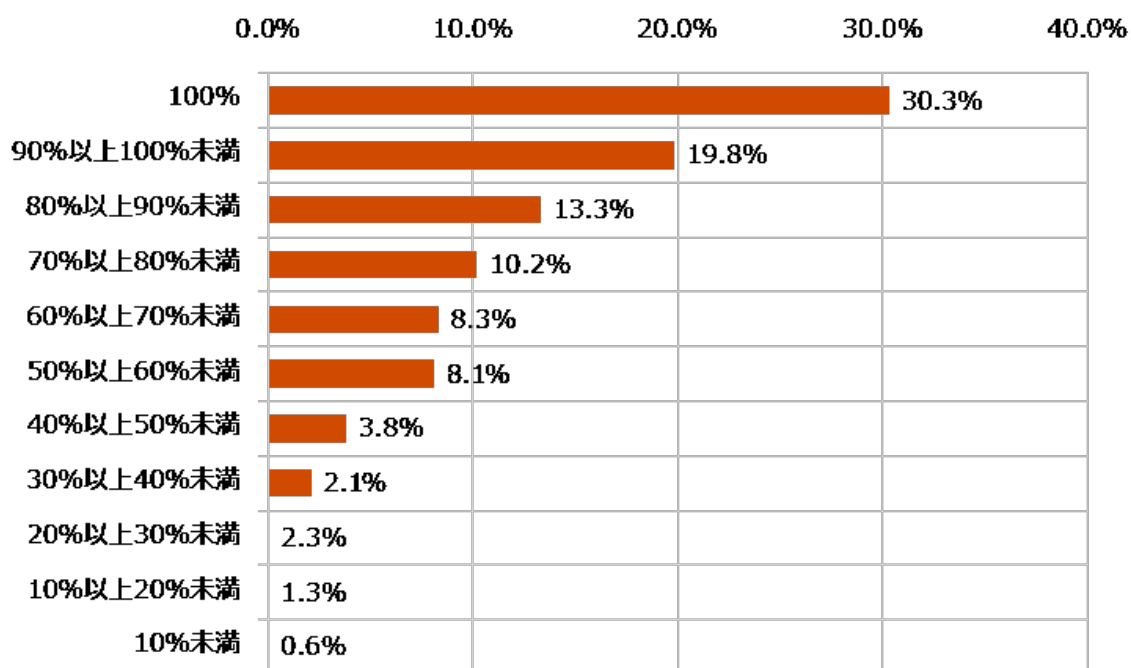
**図表 22 保護者の勤務形態や就労頻度を把握しているか (n=1,192)**



**(シ) 施設の定員充足率**

・回答された施設のうち、施設の定員充足率としては、「100%」の回答は30.3%と最も多く、次いで「90%以上100%未満」が19.8%と多くなっている。

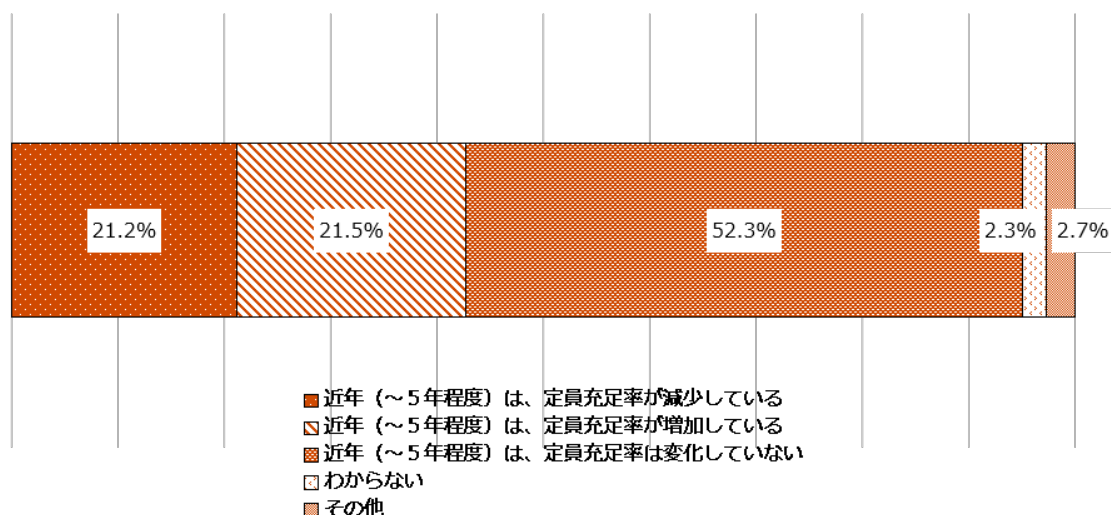
**図表 23 施設の定員充足率 (n=1,192)**



### (ス) 施設の定員充足率の推移

・回答された施設のうち、施設の定員充足率の推移としては、「近年(～5年程度)は、定員充足率は変化していない」の回答は52.3%と最も多く、次いで「近年(～5年程度)は、定員充足率が増加している」が21.5%と多くなっている。

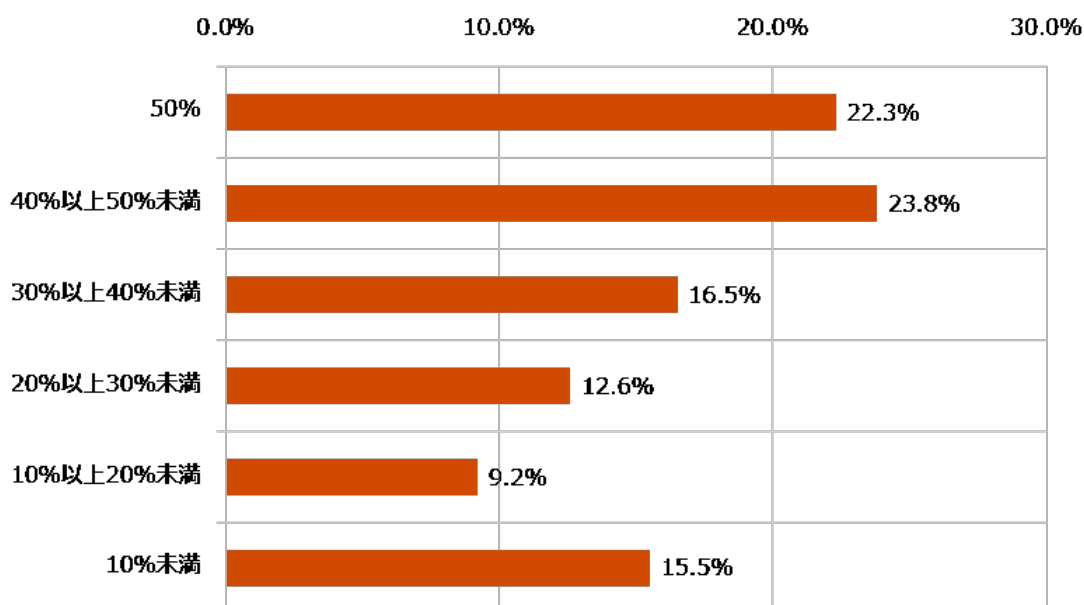
図表 24 施設の定員充足率の推移 (n=1,192)



### (セ) 施設の地域枠利用率

・回答された施設のうち、施設の地域枠利用率としては、「40%以上50%未満」の回答は23.8%と最も多く、次いで「50%」が22.3%と多くなっている。

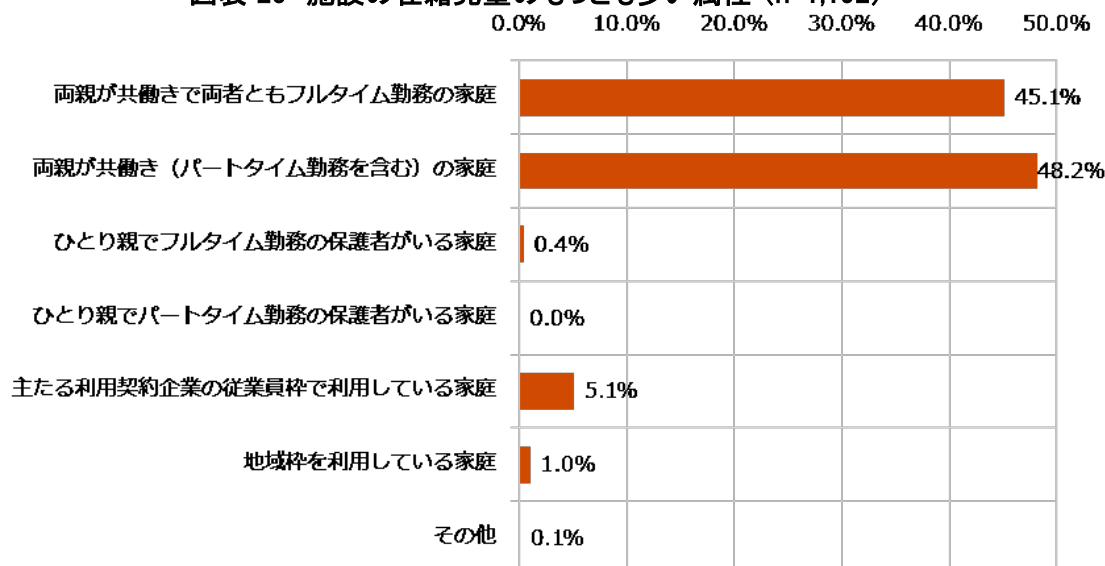
図表 25 施設の地域枠利用率 (n=1,192)



### (ソ) 施設の在籍児童のもっとも多い属性

・回答された施設のうち、施設の在籍児童のもっとも多い属性としては、「両親が共働き(パートタイム勤務を含む)の家庭」の回答は48.2%と最も多く、次いで「両親が共働きで両者ともフルタイム勤務の家庭」が45.1%と多くなっている。

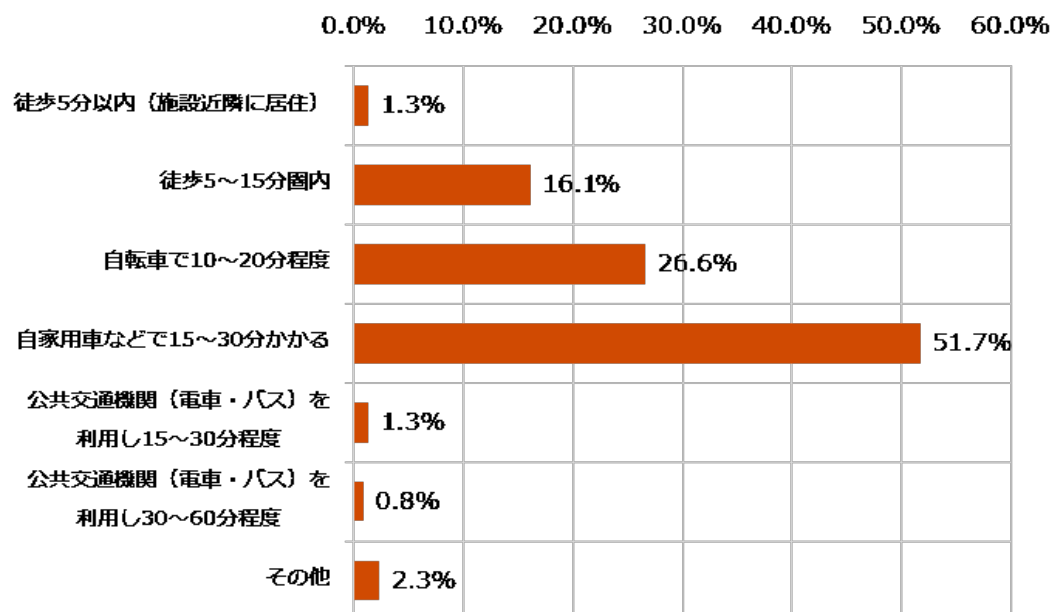
図表 26 施設の在籍児童のもっとも多い属性 (n=1,192)



### (タ) 児童の居住地から企業主導型保育施設へのアクセス

・回答された施設のうち、居住地から企業主導型保育施設へのアクセスとしては、「自家用車などで15~30分かかる」の回答は51.7%と最も多く、次いで「自転車で10~20分程度」が26.6%と多くなっている。

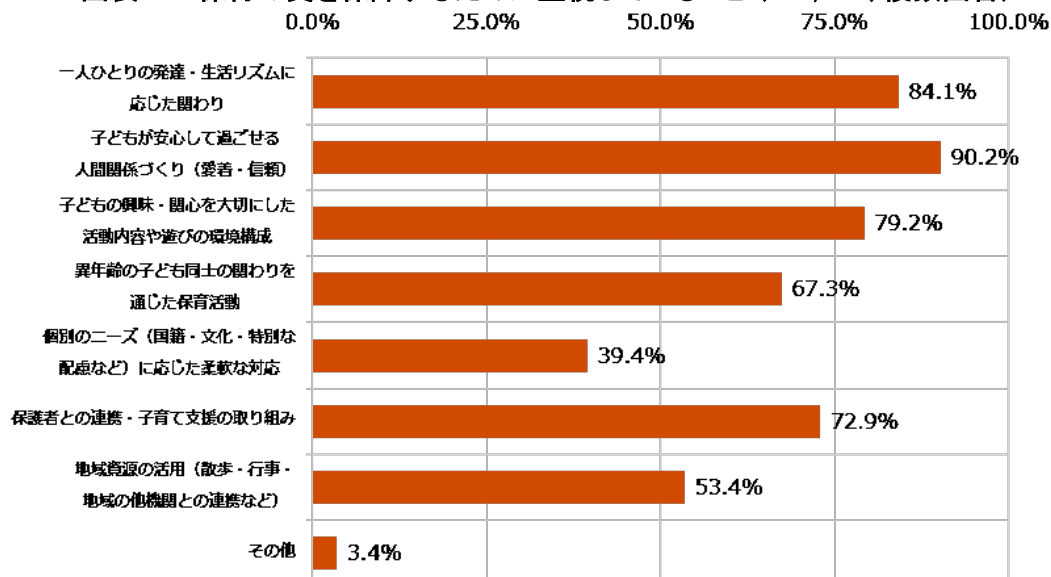
図表 27 児童の居住地から企業主導型保育施設へのアクセス (n=1,192)



### (チ) 保育の質を保障するために重視していること

・回答された施設のうち、保育の質を保障するために重視していることとしては、「子どもが安心して過ごせる人間関係づくり(愛着・信頼)」の回答は90.2%と最も多く、次いで「一人ひとりの発達・生活リズムに応じた関わり」が84.1%と多くなっている。

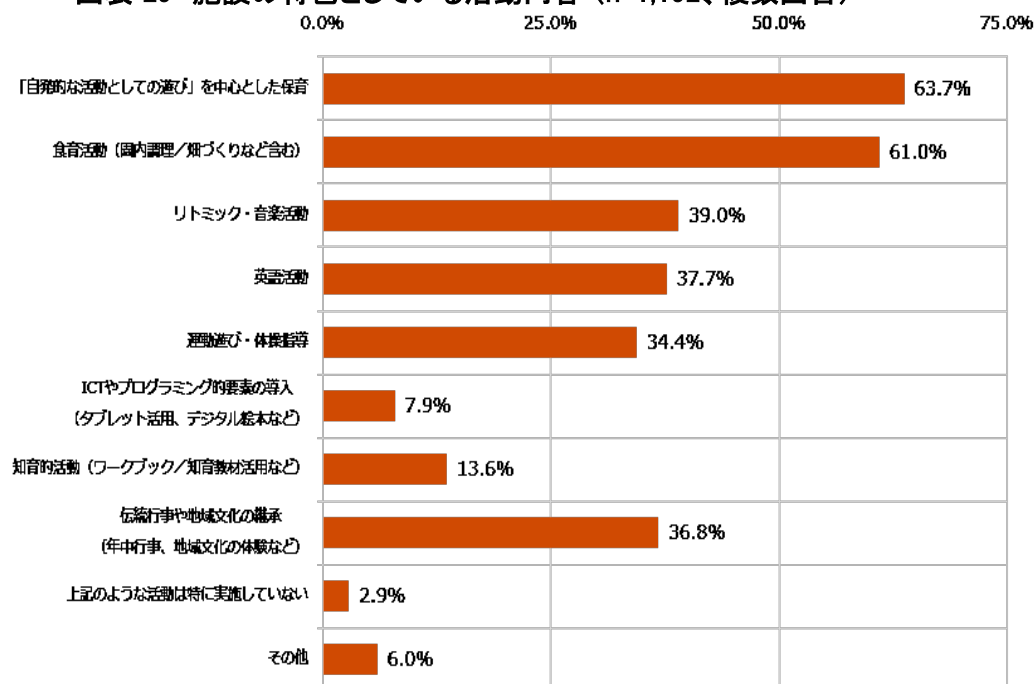
図表 28 保育の質を保障するために重視していること (n=1,192、複数回答)



### (ツ) 施設の特徴としている活動内容

・回答された施設のうち、施設の特徴としている活動内容としては、「『自発的な活動としての遊び』を中心とした保育」の回答は63.7%と最も多く、次いで「食育活動(園内調理/畑づくりなど含む)」が61.0%と多くなっている。

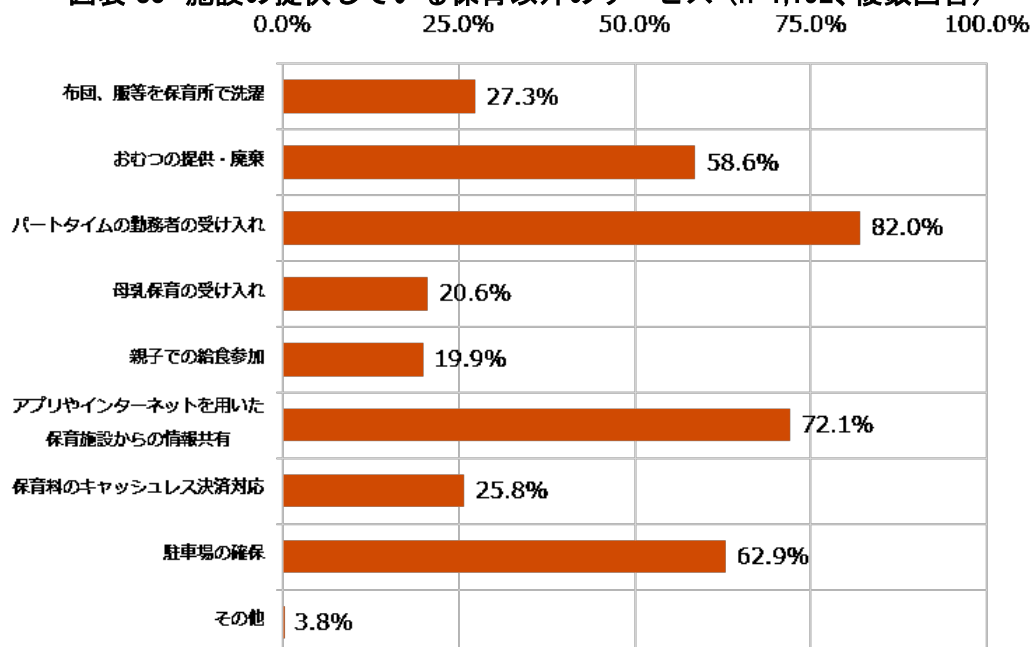
図表 29 施設の特徴としている活動内容 (n=1,192、複数回答)



### (テ) 施設の提供している保育以外のサービス

・回答された施設のうち、施設の提供している保育以外のサービスとしては、「パートタイムの勤務者の受け入れ」の回答は82.0%と最も多く、次いで「アプリやインターネットを用いた保育施設からの情報共有」が72.1%と多くなっている。

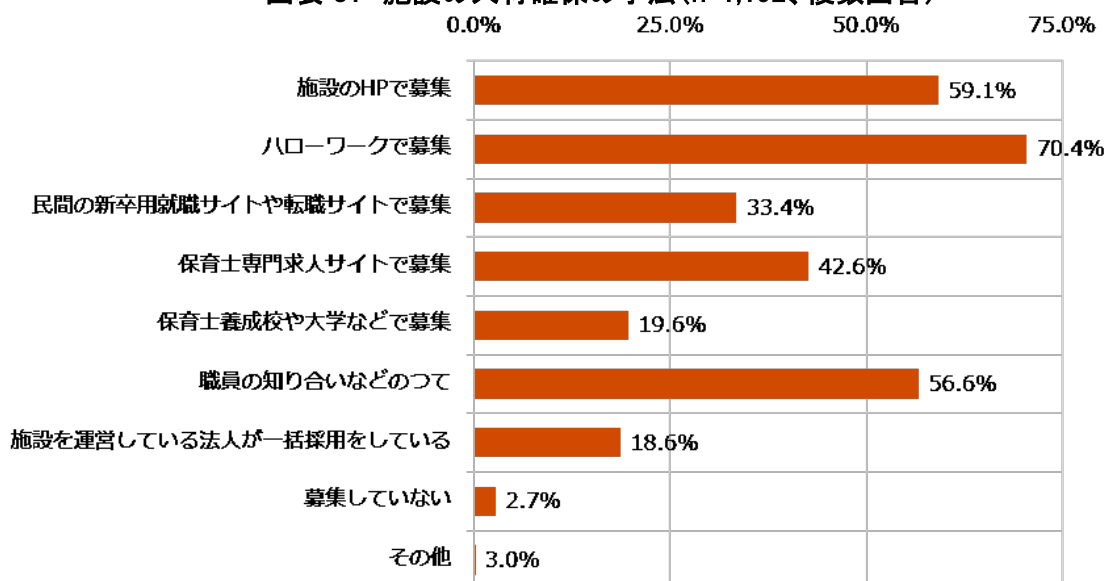
図表 30 施設の提供している保育以外のサービス (n=1,192、複数回答)



### (ト) 施設の人材確保の手法

・回答された施設のうち、施設の人材確保の手法としては、「ハローワークで募集」の回答は70.4%と最も多く、次いで「施設のHPで募集」が59.1%と多くなっている。

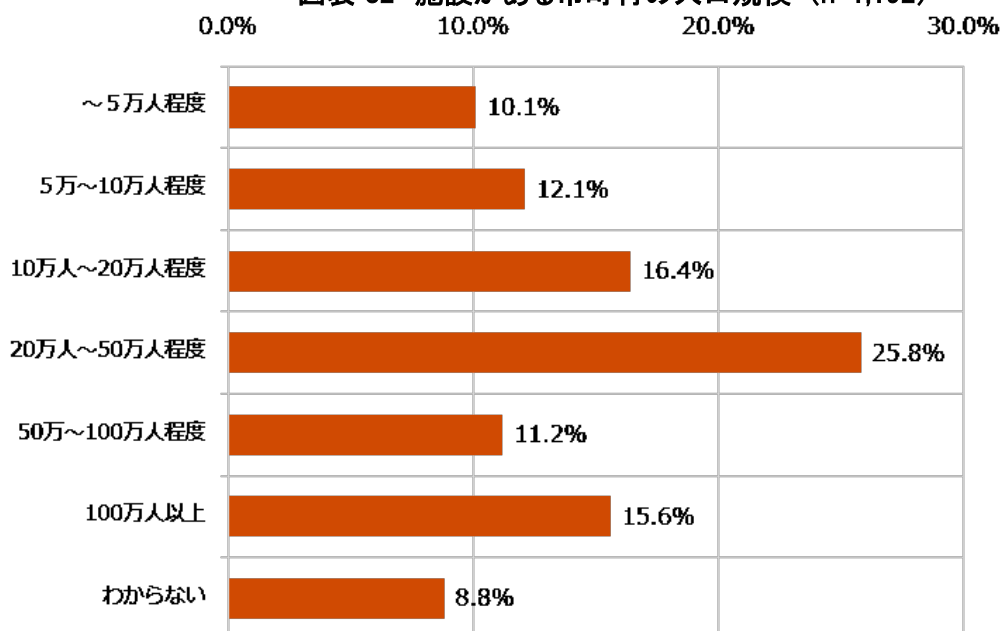
図表 31 施設の人材確保の手法 (n=1,192、複数回答)



### (ナ) 施設がある市町村の人口規模

・回答された施設のうち、施設がある市町村の人口規模としては、「20万人～50万人程度」の回答は25.8%と最も多く、次いで「10万人～20万人程度」が16.4%と多くなっている。

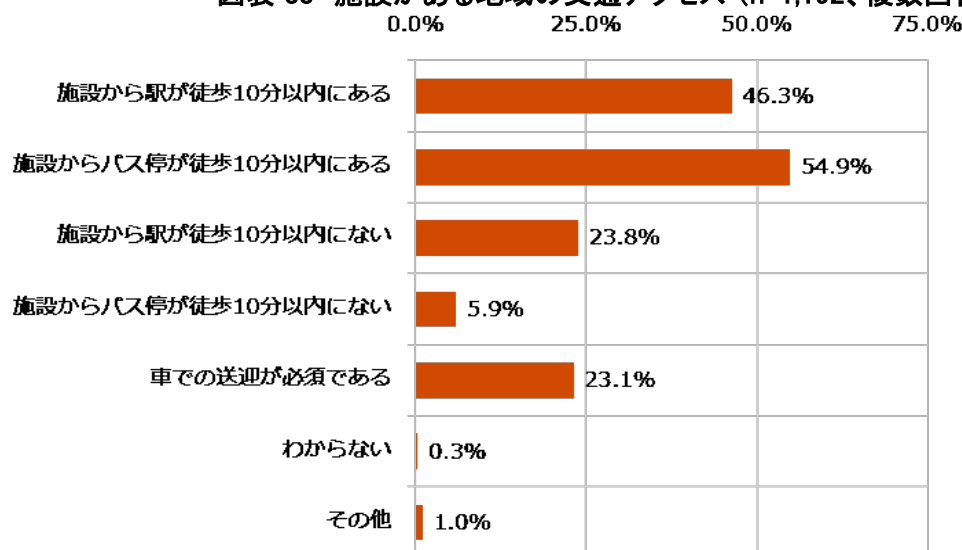
図表 32 施設がある市町村の人口規模 (n=1,192)



### (ニ) 施設がある地域の交通アクセス

・回答された施設のうち、施設がある地域の交通のアクセスとしては、「施設からバス停が徒歩10分以内にある」の回答は54.9%と最も多く、次いで「施設から駅が徒歩10分以内にある」が46.3%と多くなっている。

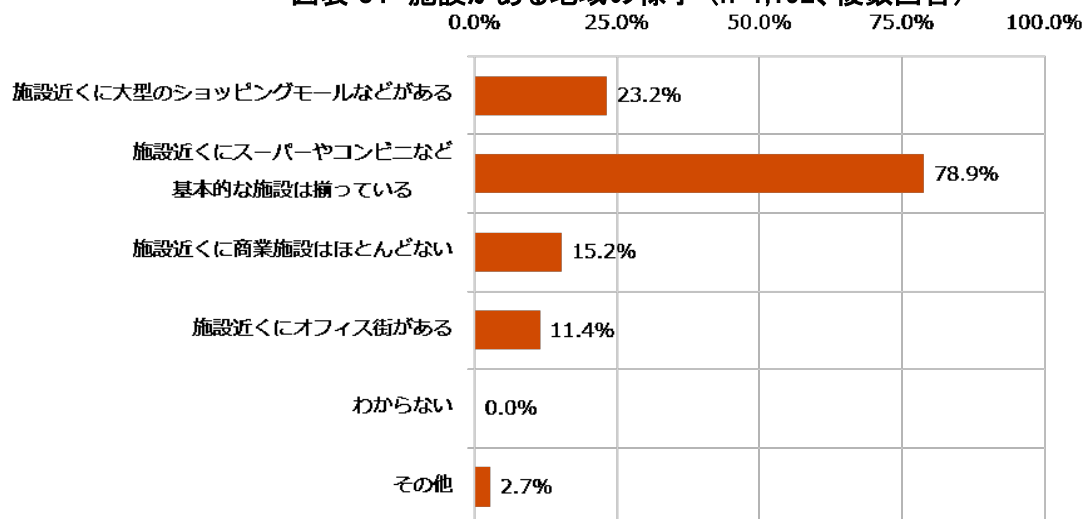
図表 33 施設がある地域の交通アクセス (n=1,192、複数回答)



### (ヌ) 施設がある地域の様子

・回答された施設のうち、施設がある地域の様子としては、「施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている」の回答は78.9%と最も多く、次いで「施設近くに大型のショッピングモールなどがある」が23.2%と多くなっている。

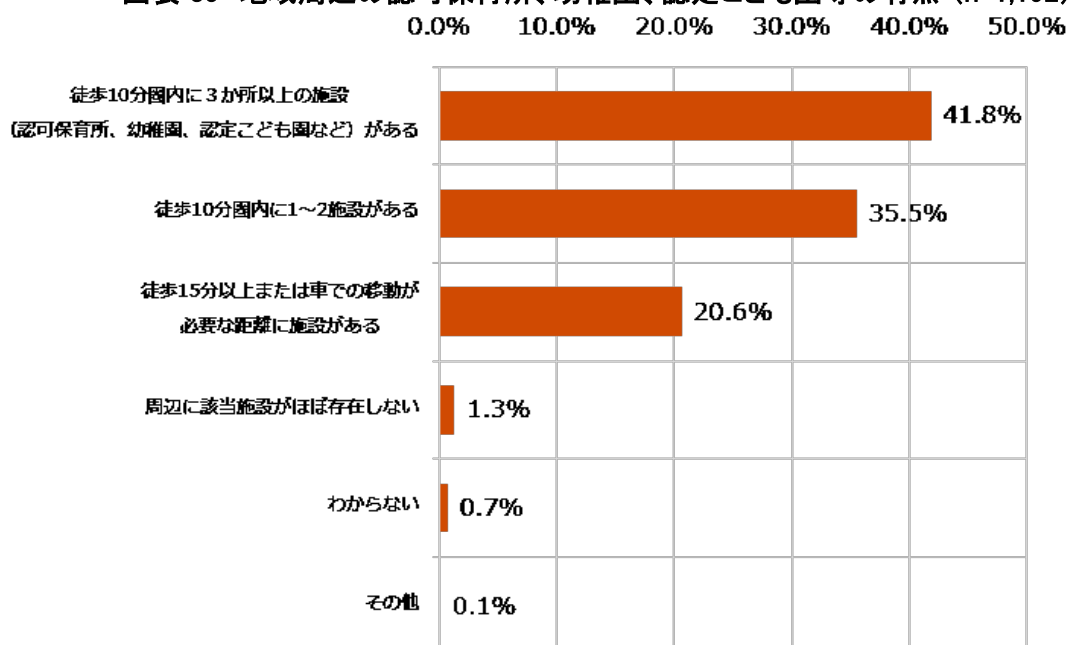
図表 34 施設がある地域の様子 (n=1,192、複数回答)



### (ネ) 地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無

・回答された施設のうち、地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無としては、「徒歩10分圏内に3か所以上の施設(認可保育所、幼稚園、認定こども園など)がある」の回答は41.8%と最も多く、次いで「徒歩10分圏内に1~2施設がある」が35.5%と多くなっている。

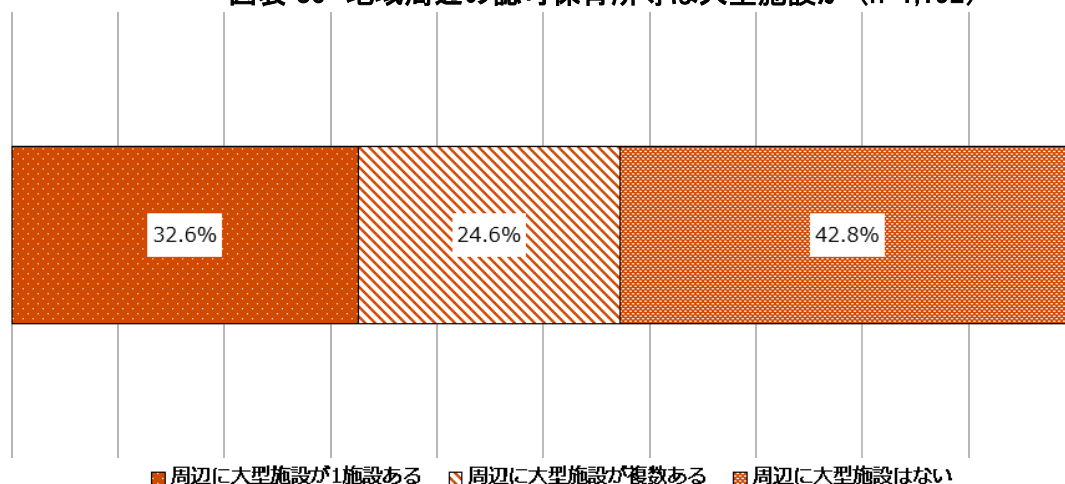
図表 35 地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無 (n=1,192)



### (ノ) 地域周辺の認可保育所等は大型施設か

・回答された施設のうち、施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等は大型施設かどうかとしては、「周辺に大型施設はない」の回答は42.8%と最も多く、次いで「周辺に大型施設が1施設ある」が32.6%と多くなっている。

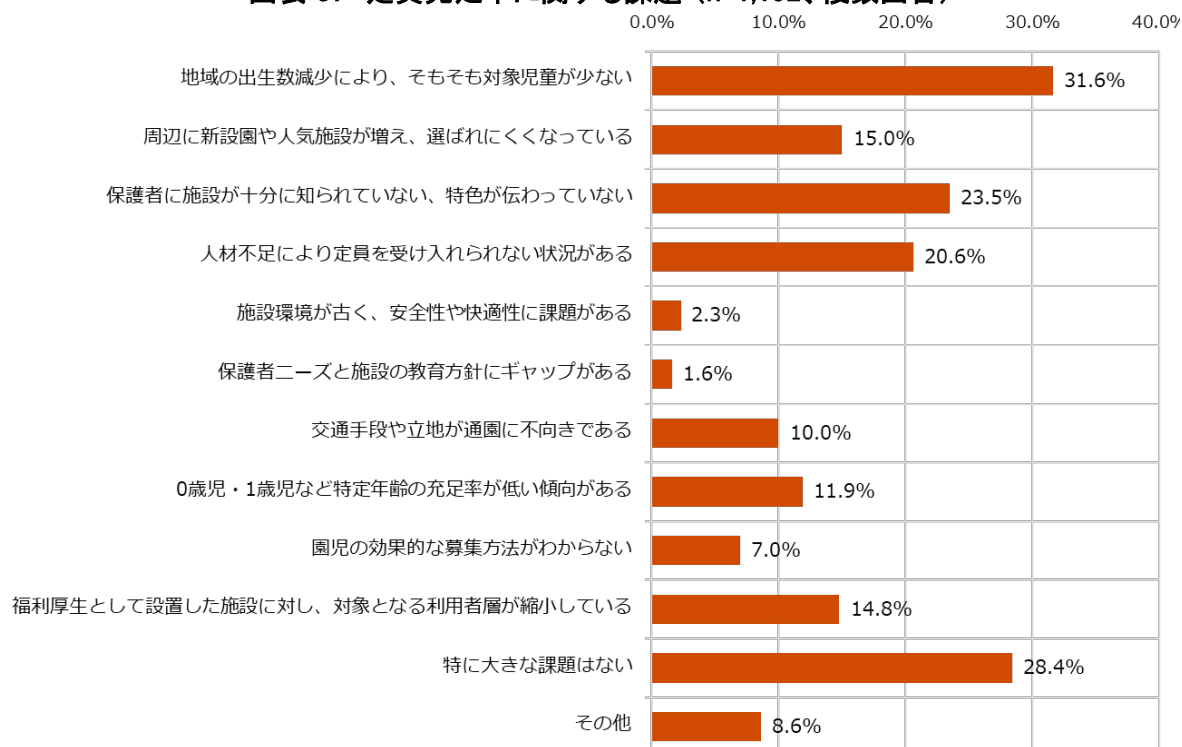
図表 36 地域周辺の認可保育所等は大型施設か (n=1,192)



### (ハ) 定員充足率に関する課題

・回答された施設のうち、定員充足率に関する課題としては、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」の回答は31.6%と最も多く、次いで「特に大きな課題はない」が28.4%と多くなっている。

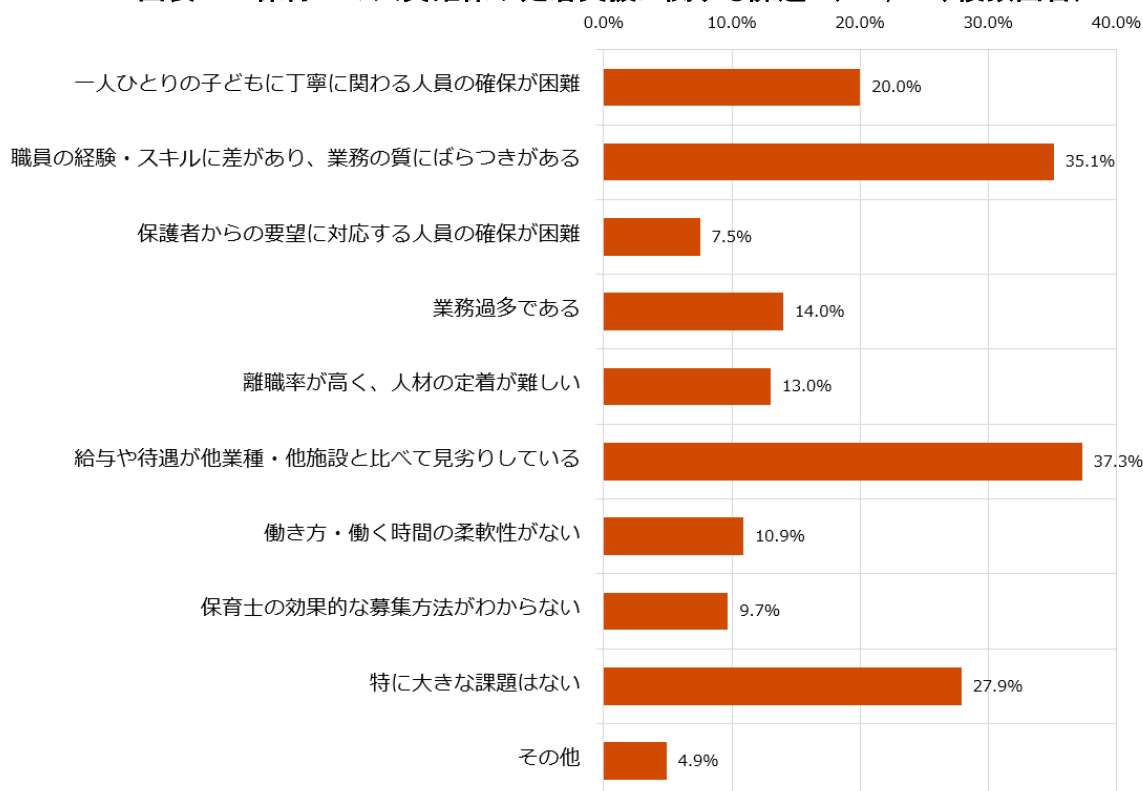
図表 37 定員充足率に関する課題 (n=1,192、複数回答)



### (ヒ) 保育士の人員確保や定着支援に関する課題

・回答された施設のうち、保育士の人員確保や定着支援に関する課題としては、「給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている」の回答は37.3%と最も多く、次いで「職員の経験・スキルに差があり、業務の質にばらつきがある」が35.1%と多くなっている。

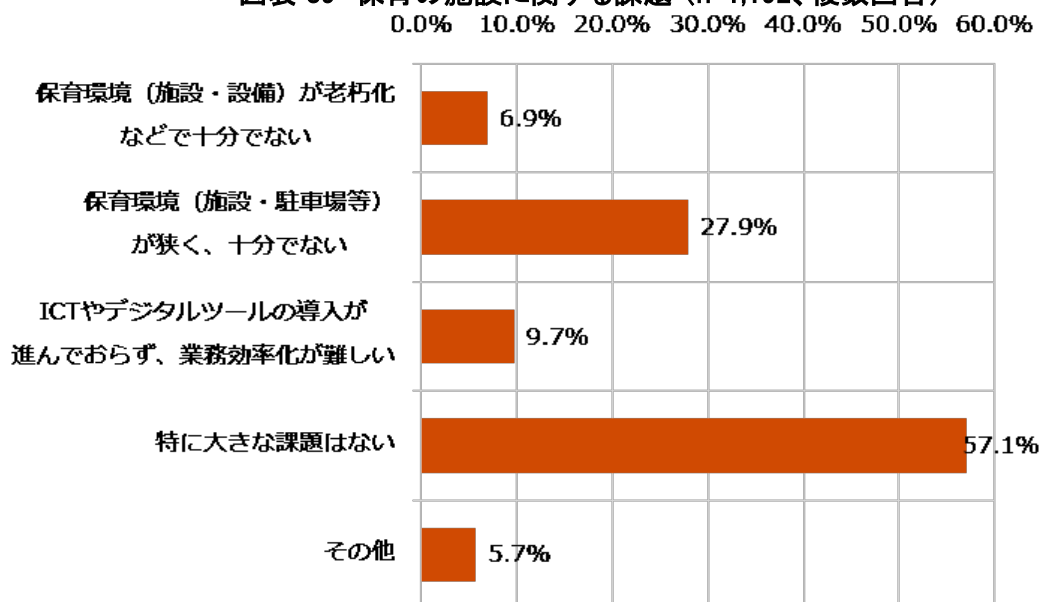
図表 38 保育士の人員確保や定着支援に関する課題 (n=1,192、複数回答)



## (フ) 保育の施設に関する課題

・回答された施設のうち、保育の施設に関する課題としては、「特に大きな課題はない」の回答は57.1%と最も多く、次いで「保育環境(施設・駐車場等)が狭く、十分でない」が27.9%と多くなっている。

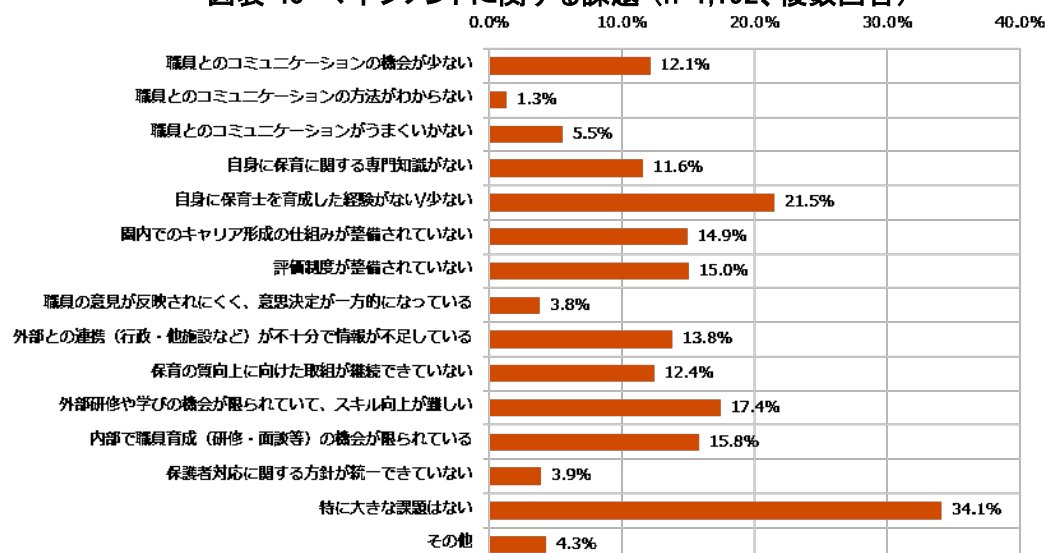
図表 39 保育の施設に関する課題 (n=1,192、複数回答)



## (ヘ) マネジメントに関する課題

・回答された施設のうち、マネジメントに関する課題としては、「特に大きな課題はない」の回答は34.1%と最も多く、次いで「自身に保育士を育成した経験がない/少ない」が21.5%と多くなっている。

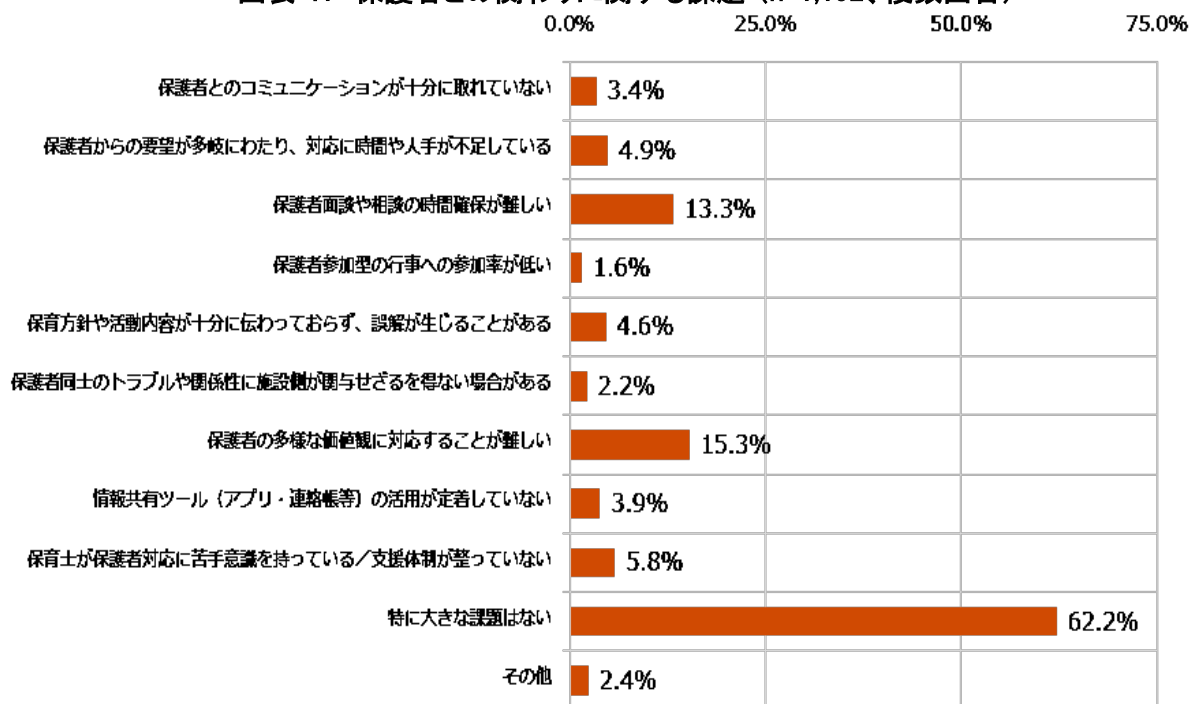
図表 40 マネジメントに関する課題 (n=1,192、複数回答)



### (ホ) 保護者との関わりに関する課題

・回答された施設のうち、保護者との関わりに関する課題としては、「特に大きな課題はない」の回答は62.2%と最も多く、次いで「保護者の多様な価値観に対応することが難しい」が15.3%と多くなっている。

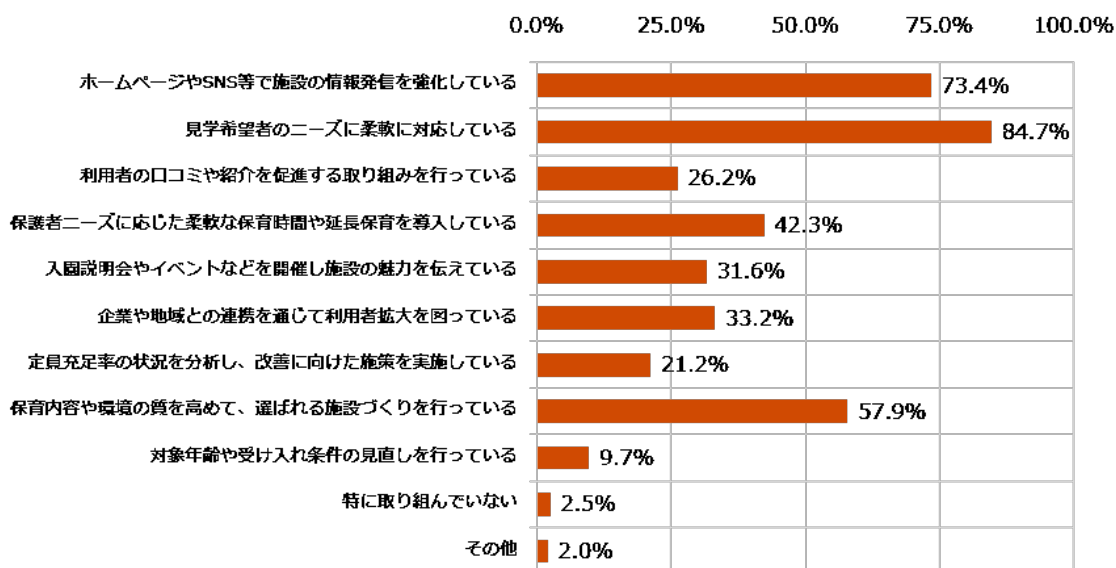
図表 41 保護者との関わりに関する課題 (n=1,192、複数回答)



### (マ) 定員充足率を向上させるための対応

・回答された施設のうち、定員充足率を向上させるための対応としては、「見学希望者のニーズに柔軟に対応している」の回答は84.7%と最も多く、次いで「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」が73.4%と多くなっている。

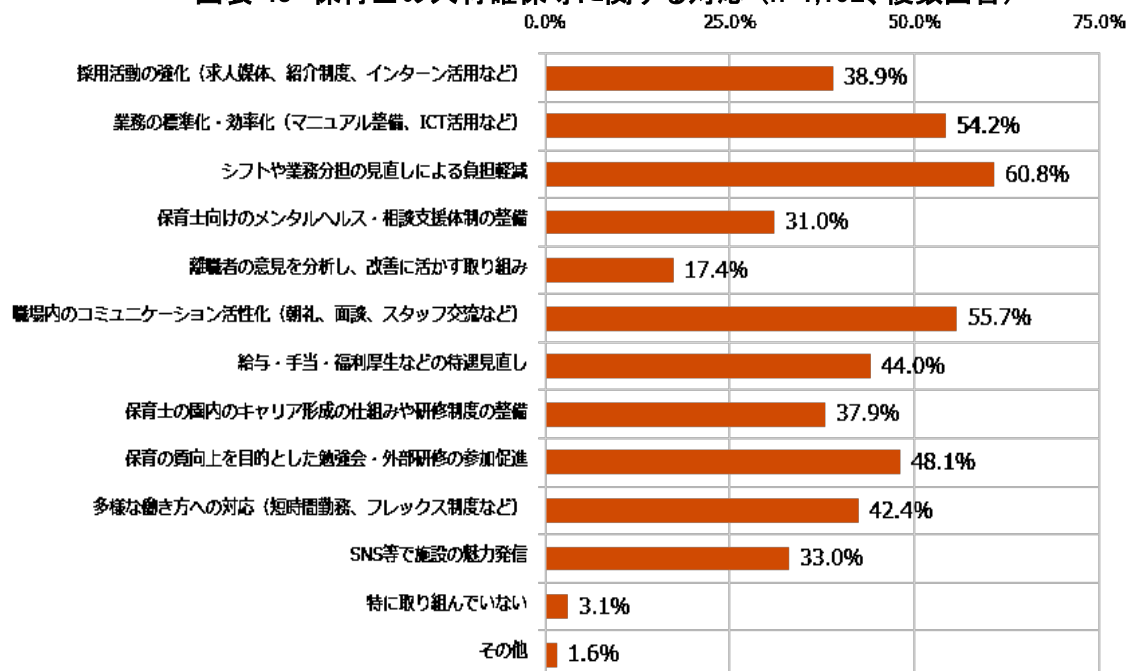
図表 42 定員充足率を向上させるための対応 (n=1,192、複数回答)



### (ミ) 保育士の人材確保等に関する対応

・回答された施設のうち、保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策に対する対応としては、「シフトや業務分担の見直しによる負担軽減」の回答は60.8%と最も多く、次いで「職場内のコミュニケーション活性化(朝礼、面談、スタッフ交流など)」が55.7%と多くなっている。

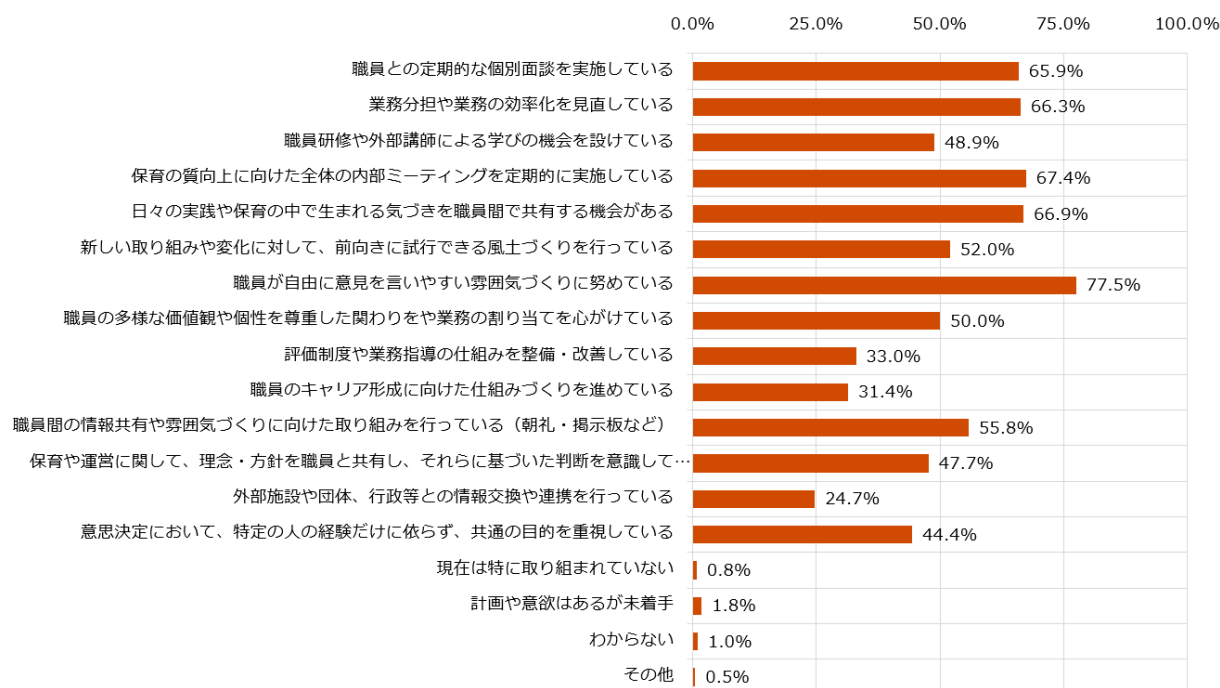
図表 43 保育士の人材確保等に関する対応 (n=1,192、複数回答)



### (ム) 職員との関係づくりや組織運営のための取組内容

・回答された施設のうち、職員との関係づくりや組織運営のために取り組んでいることとしては、「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」の回答は77.5%と最も多く、次いで「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」が67.4%と多くなっている。

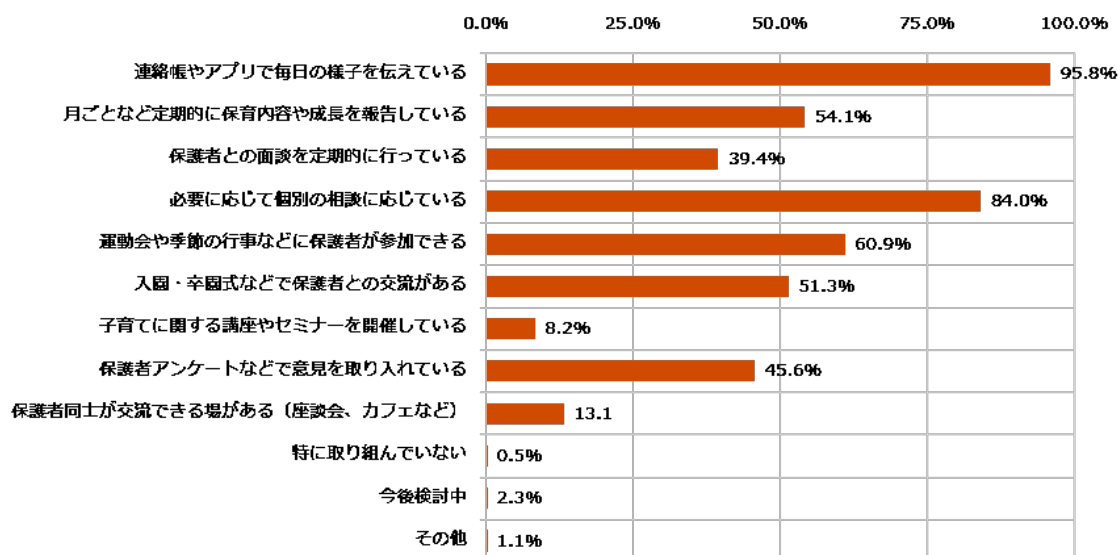
図表 44 職員との関係づくりや組織運営のための取組内容 (n=1,192、複数回答)



### (メ) 保護者との関わりについての取組

・回答された施設のうち、保護者との関わりについての取組としては、「連絡帳やアプリで毎日の様子を伝えている」の回答は95.8%と最も多く、次いで「必要に応じて個別の相談に応じている」が84.0%と多くなっている。

図表 45 保護者との関わりについての取組 (n=1,192、複数回答)



## (ii) クロス集計

より詳細に実態を把握するために、図表 46 のとおりクロス集計を実施した。

**図表 46 クロス集計の概要(施設長向け調査)**

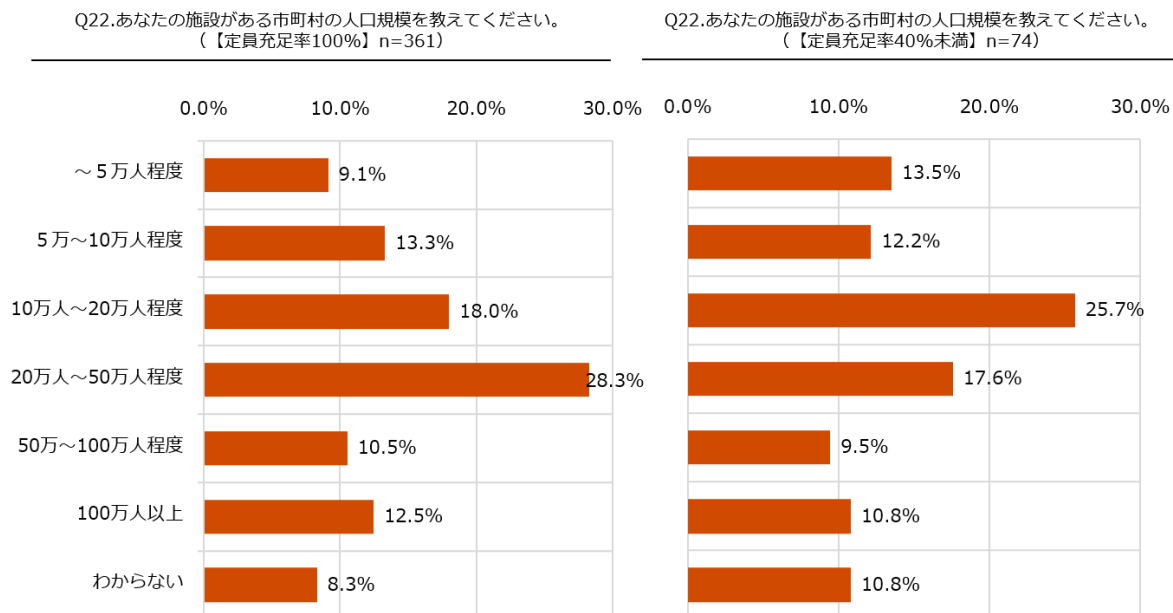
項目	クロス集計の軸	クロス集計実施の意図
定員充足率ごとの取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 13「定員充足率」(①100% ②40%未満)×問 22～26「施設周辺のアクセスや地域の様子」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員充足率ごとのアクセスのしやすさ等の地域の特徴を明らかにする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 13「定員充足率」(①100% ②40%未満)×問 18～21「施設の活動内容」</li> <li>問 27～31「課題」</li> <li>問 32～35「取組内容」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員充足率ごとに、施設の活動内容を明らかにし、それぞれの課題を抽出する</li> <li>定員充足率ごとに、各施設でどのような取り組みを実施しているかの差異を抽出する</li> </ul>
対象児童が少ない地域での工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 27「定員充足率に関する課題」における「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」×問 13「定員充足率」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象児童が少ないと回答した施設の定員充足率を明らかにする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 27「定員充足率に関する課題」における「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」×問 13「定員充足率」(①100%②40%未満)×問 32「定員充足率向上のために実施していること」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象児童が少ない施設のうち、定員充足率ごとの定員充足率を向上させるために実施していることを明らかにし、その差異を抽出する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 27「定員充足率に関する課題」における「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」×問 13「定員充足率」(①100%④40%未満)×問 22～26「施設周辺のアクセスや地域の様子」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象児童が少ない施設のうち、定員充足率ごとの地域の特徴を明らかにする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 27「定員充足率に関する課題」における「人材不足により定員を受け入れられない状況がある」×問 33「人材確保のためにやっていること」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象児童が少ない施設における、従事者など人材確保の方法を明らかにする</li> </ul>

以下に各設問に対する具体的なクロス集計結果を示す。

**(ア) 定員充足率ごとの施設がある市区町村の人口規模**

・定員充足率が100%の施設と40%未満の施設がある市町村の人口規模は、「10万人～20万人程度」と「20万人～50万人程度」が多くなっている。

**図表 47 定員充足率ごとの施設がある市区町村の人口規模**



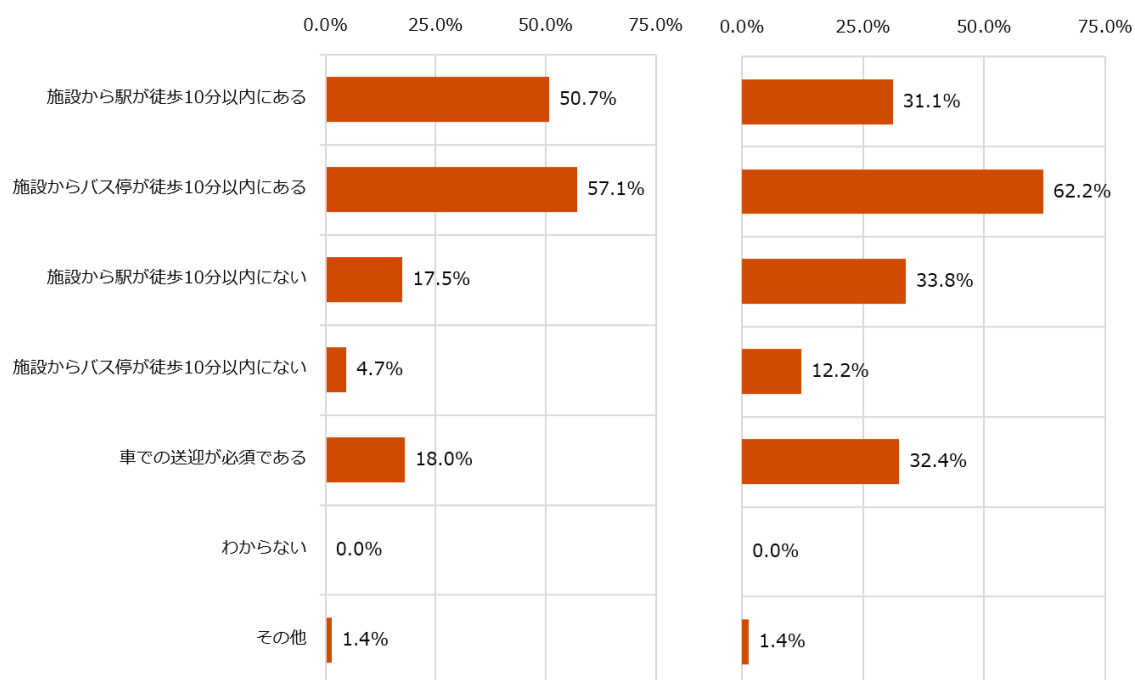
### (イ) 定員充足率ごとの施設がある地域の交通アクセス

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域の交通アクセスは、「施設からバス停が徒歩10分以内にある」が最も多くなっている。定員充足率が100%の施設では、次いで「施設から駅が徒歩10分以内にある」が多く、40%未満の場合は、次いで「施設からバス停が徒歩10分以内にある」が多くなっている。

**図表 48 定員充足率ごとの施設がある地域の交通アクセス**

Q23.あなたの施設がある地域の交通アクセスについて教えてください。  
 (【定員充足率100%】 n=361)

Q23.あなたの施設がある地域の交通アクセスについて教えてください。  
 (【定員充足率40%未満】 n=74)



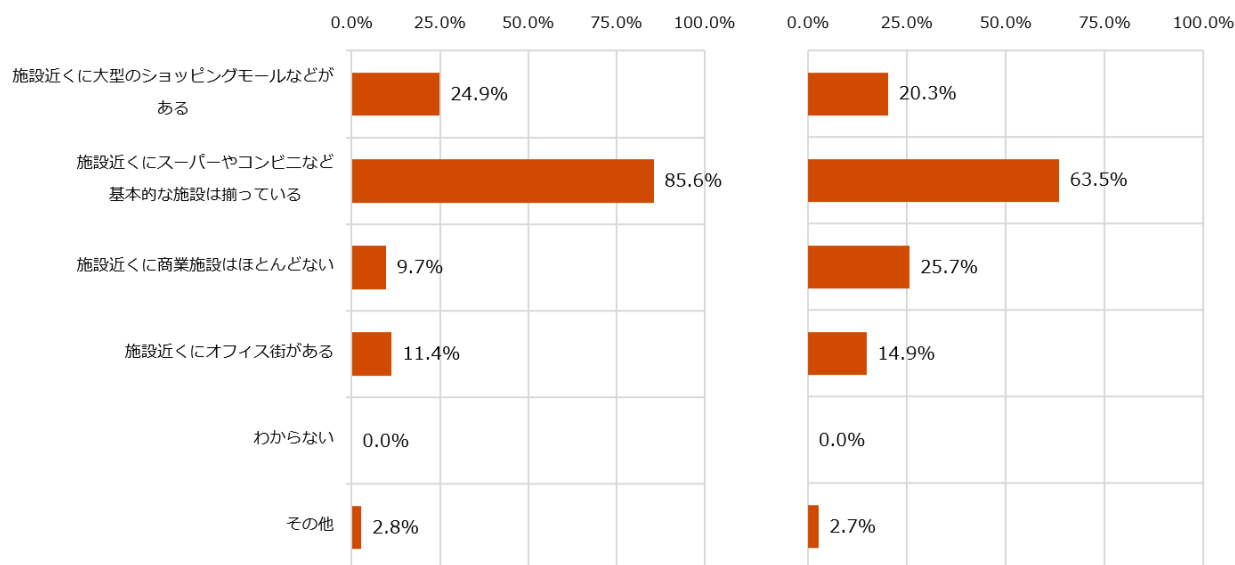
### (ウ) 定員充足率ごとの施設がある地域の様子

・定員充足率が100%と40%の施設がある地域の様子は、「施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている」が最も多くなっている。定員充足率が100%の施設では、次いで「施設近くに大型のショッピングモールなどがある」が多く、40%未満の場合は、次いで「施設近くに商業施設がほとんどない」が多くなっている。

**図表 49 定員充足率ごとの施設がある地域の様子（複数回答）**

Q24.あなたの施設がある地域の様子について教えてください。  
 (【定員充足率100%】n=361)

Q24.あなたの施設がある地域の様子について教えてください。  
 (【定員充足率40%未満】n=74)



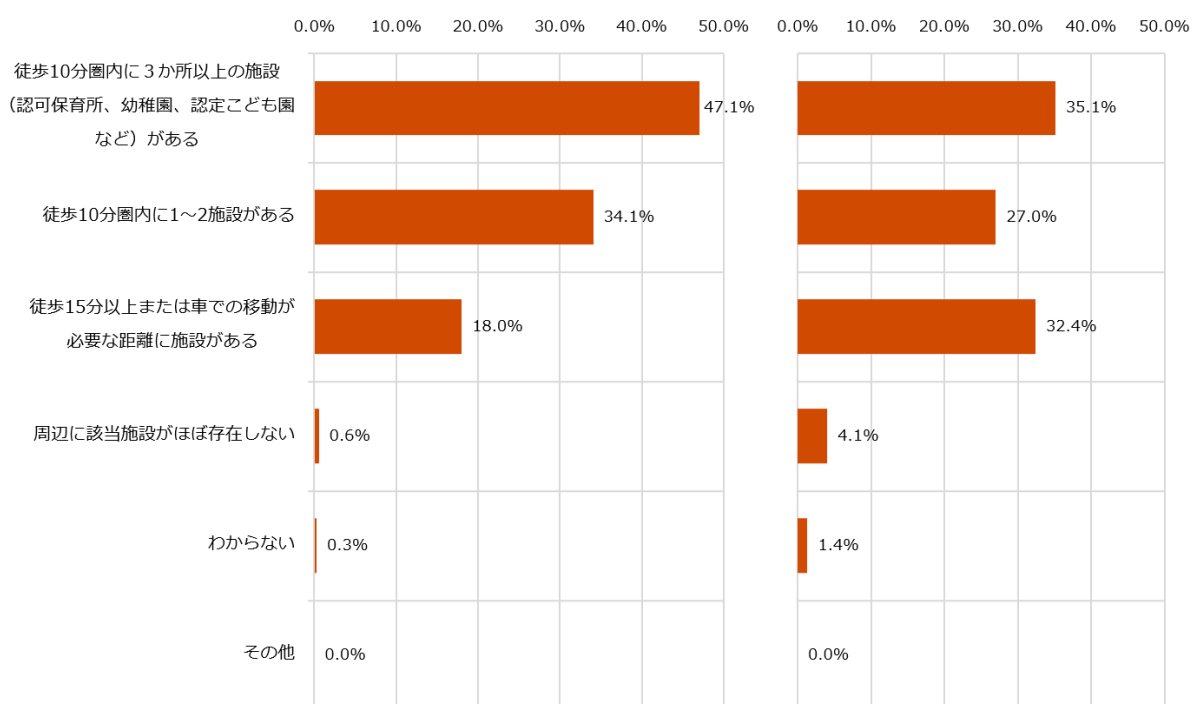
### (エ) 定員充足率ごとの施設がある地域の認可保育所等の有無

・定員充足率が100%と40%未満の施設周辺の認可保育所等について、「徒歩10分圏内に3か所以上の施設(認可保育所、幼稚園、認定こども園など)がある」が最も多くなっている。定員充足率が100%の場合、次いで「徒歩10分圏内に1~2施設がある」が多く、40%未満の場合は、次いで「徒歩15分以上または車での移動が必要な距離に施設がある」が多くなっている。

図表 50 定員充足率ごとの施設がある地域の認可保育所等の有無

Q25.あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無を教えてください。(【定員充足率100%】n=361)

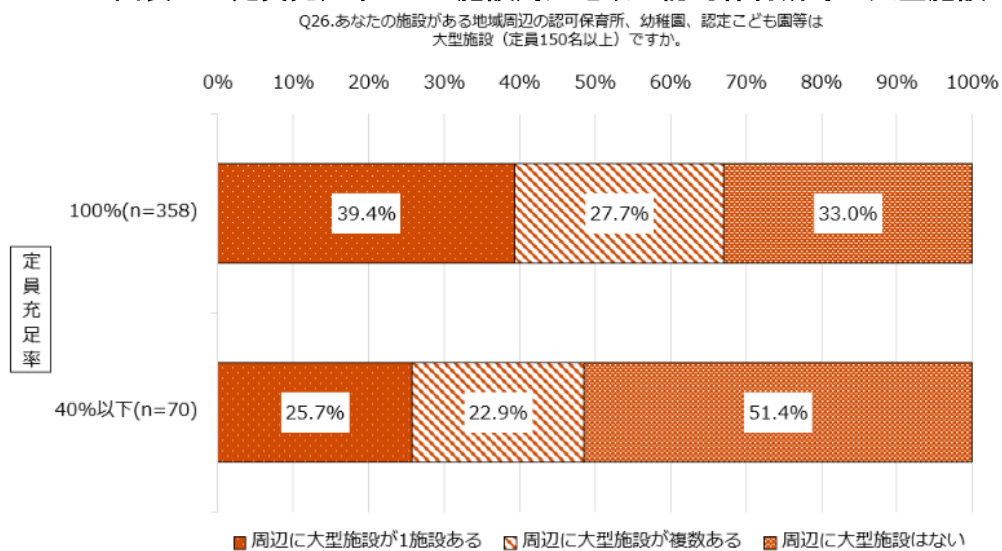
Q25.あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無を教えてください。(【定員充足率40%未満】n=74)



### (オ) 定員充足率ごとの施設周辺地域の認可保育所等の大型施設

・定員充足率が100%と40%未満の施設周辺の大型認可保育所等の有無について、「周辺に大型施設が1施設ある」「周辺に大型施設はない」が多くなっている。

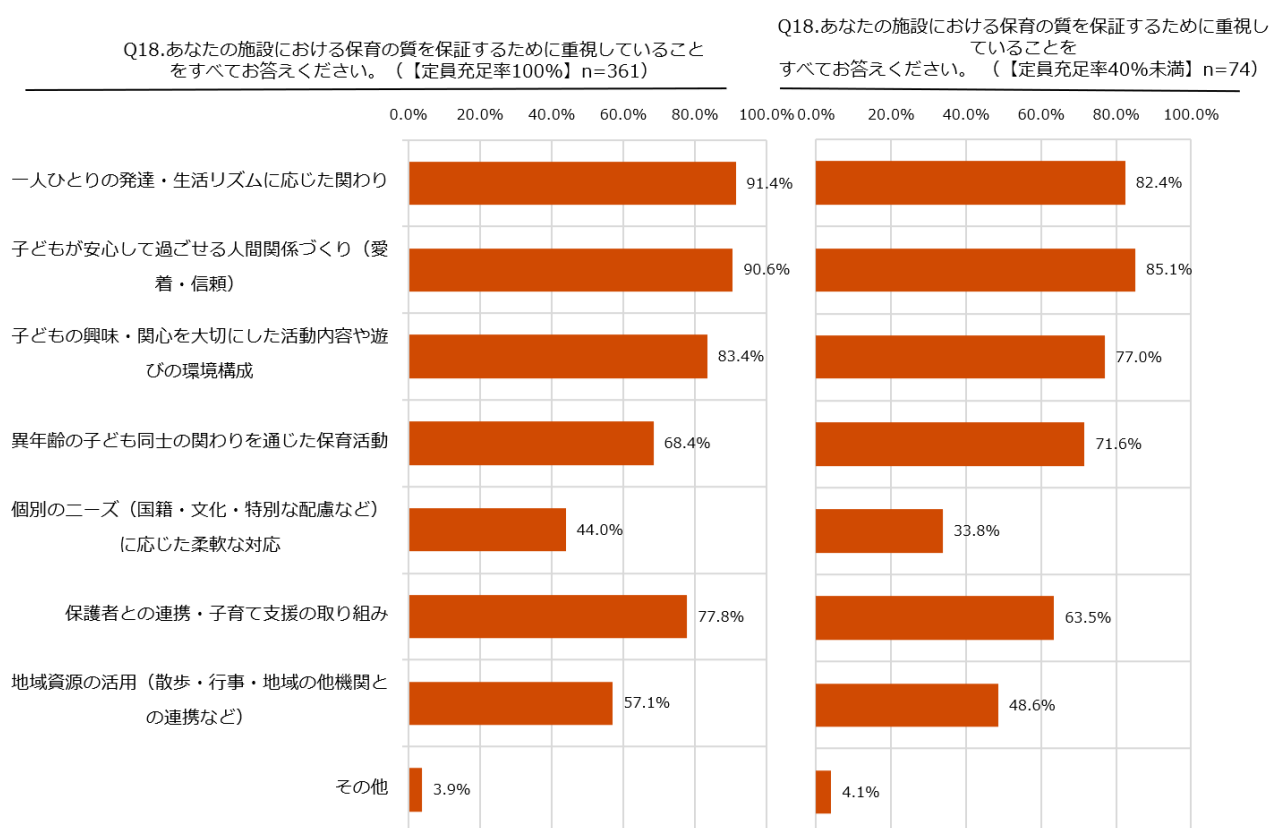
図表 51 定員充足率ごとの施設周辺地域の認可保育所等の大型施設



### (カ) 定員充足率ごとの保育の質の保証のために重視していること

・定員充足率が100%と40%未満の施設で提供している保育の質を保証するために重視していることについて、「一人ひとりの発達・生活リズムに応じた関わり」「子どもが安心して過ごせる人間関係づくり(愛着・信頼)」が多くなっている。

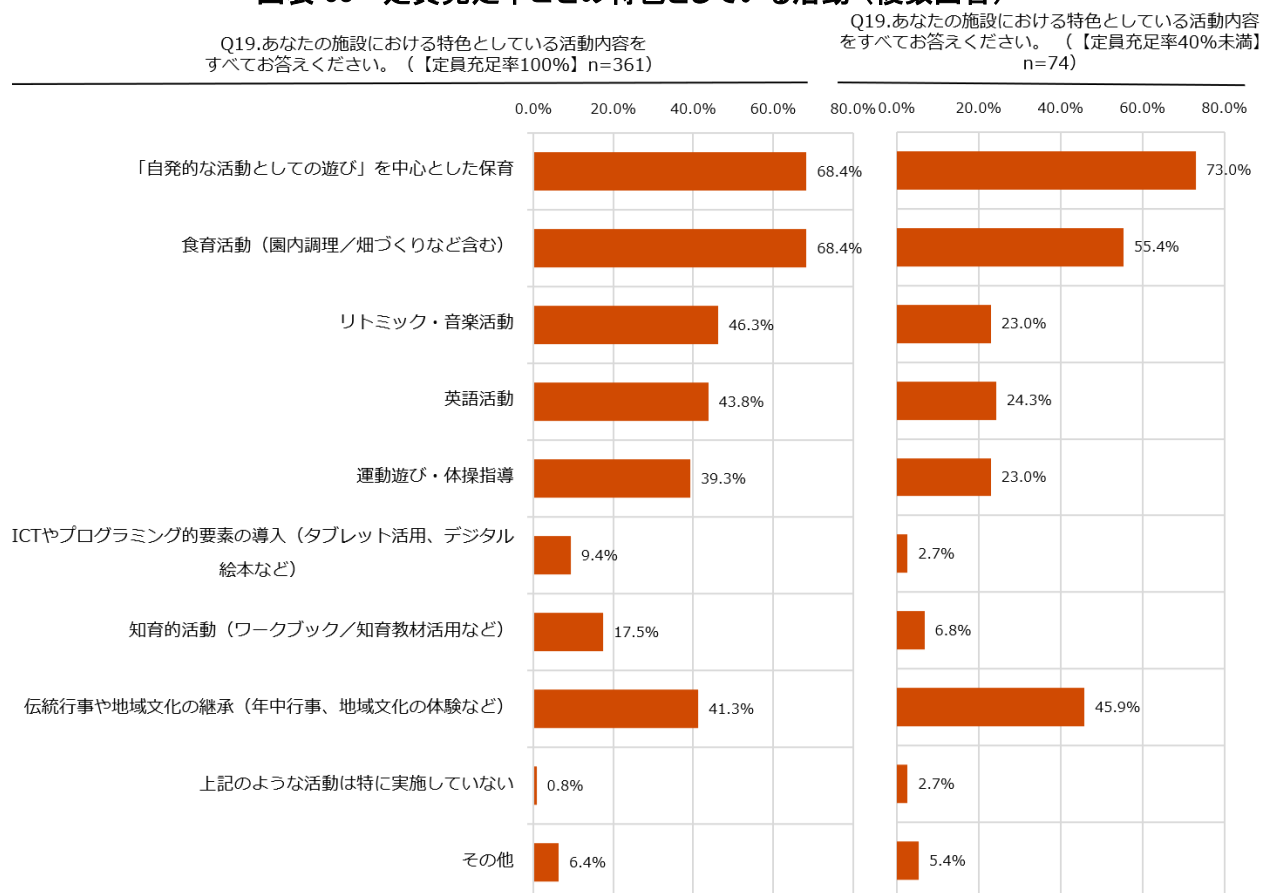
図表 52 定員充足率ごとの保育の質の保証のために重視していること (複数回答)



### (キ) 定員充足率ごとの特色としている活動

・定員充足率が100%と40%未満の施設における特色としている活動内容について、「『自発的な活動としての遊び』を中心とした保育」「食育活動(園内調理/畑づくりなど含む)」が多くなっている。定員充足率が100%の場合、「リトミック・音楽活動」も多くなっている。

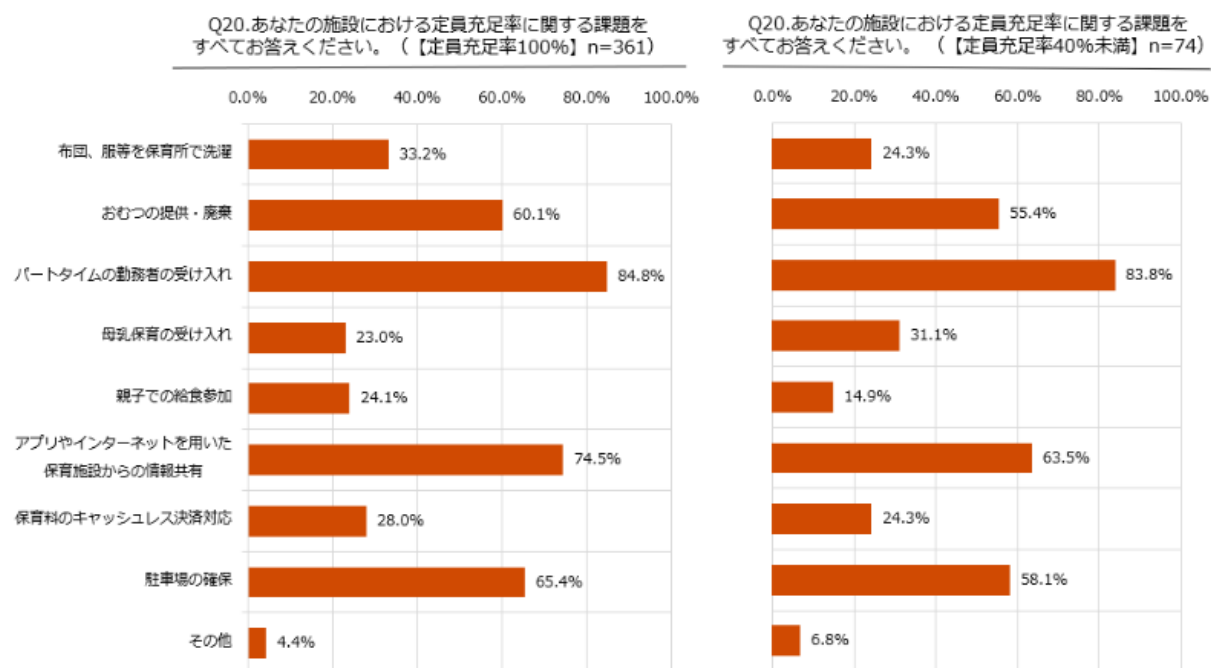
**図表 53 定員充足率ごとの特色としている活動（複数回答）**



### (ク) 定員充足率ごとの保育以外に関するサービス

・定員充足率が100%と40%未満の施設で提供している保育以外のサービスについて、「パートタイムの勤務者の受け入れ」「アプリやインターネットを用いた保育施設からの情報共有」が多くなっている。

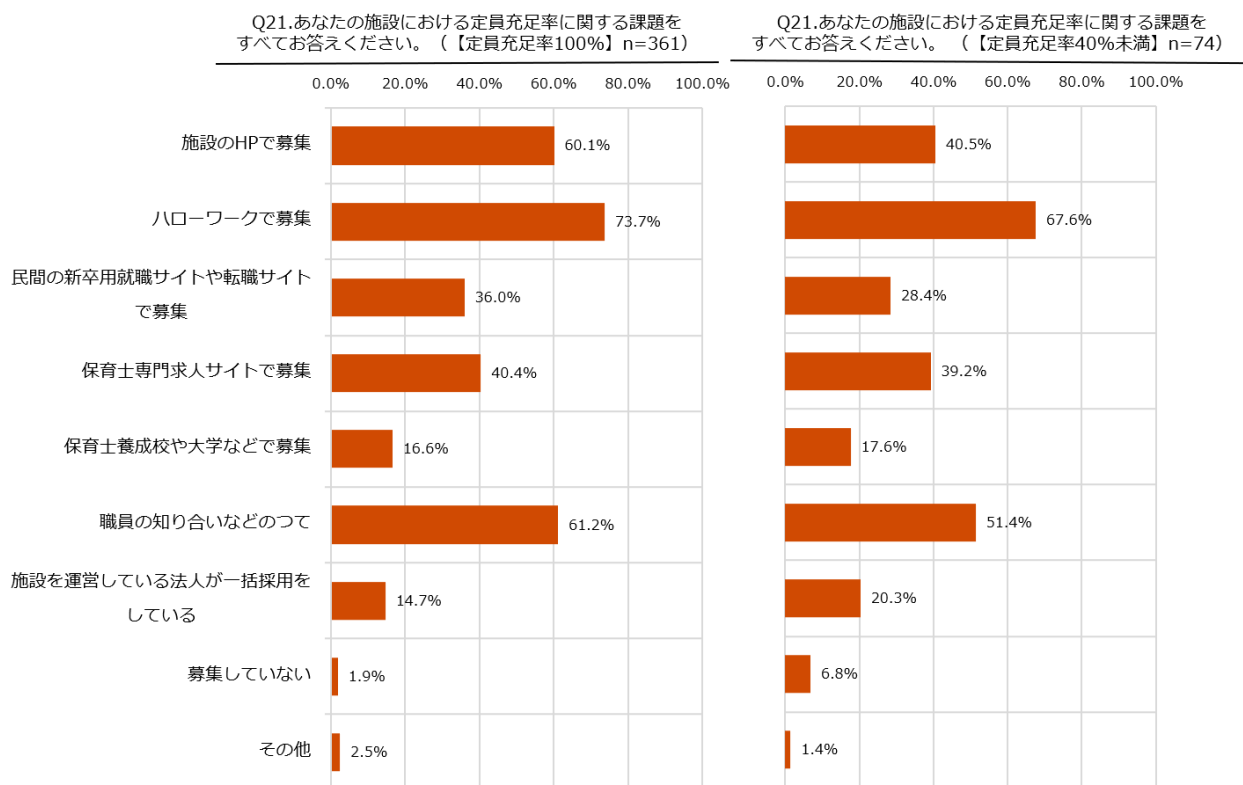
図表 54 定員充足率ごとの保育以外に関するサービス（複数回答）



### (ケ) 定員充足率ごとの人材確保手法

・定員充足率が100%と40%未満の施設の人材確保の手法について、「ハローワークで募集」「職員の知り合いなどのつて」が多くなっている。

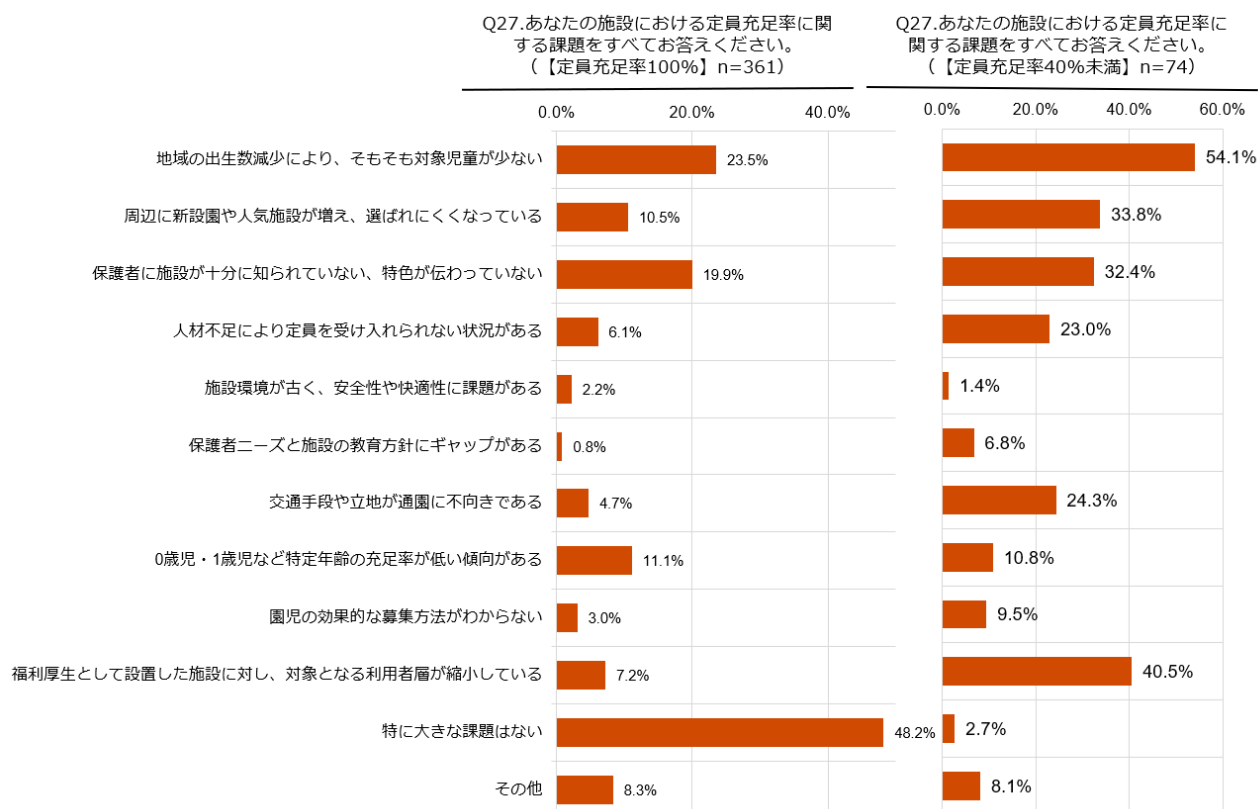
図表 55 定員充足率ごとの人材確保手法（複数回答）



## (コ) 定員充足率ごとの定員充足率に関する課題

・定員充足率が100%と40%未満の施設における定員充足率に関する課題について、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」の回答が多くなっている。定員充足率が100%の場合、「特に大きな課題はない」の回答も多く、40%未満の場合は「福利厚生として設置した施設に対し、対象となる利用者層が縮小している」も多くなっている。

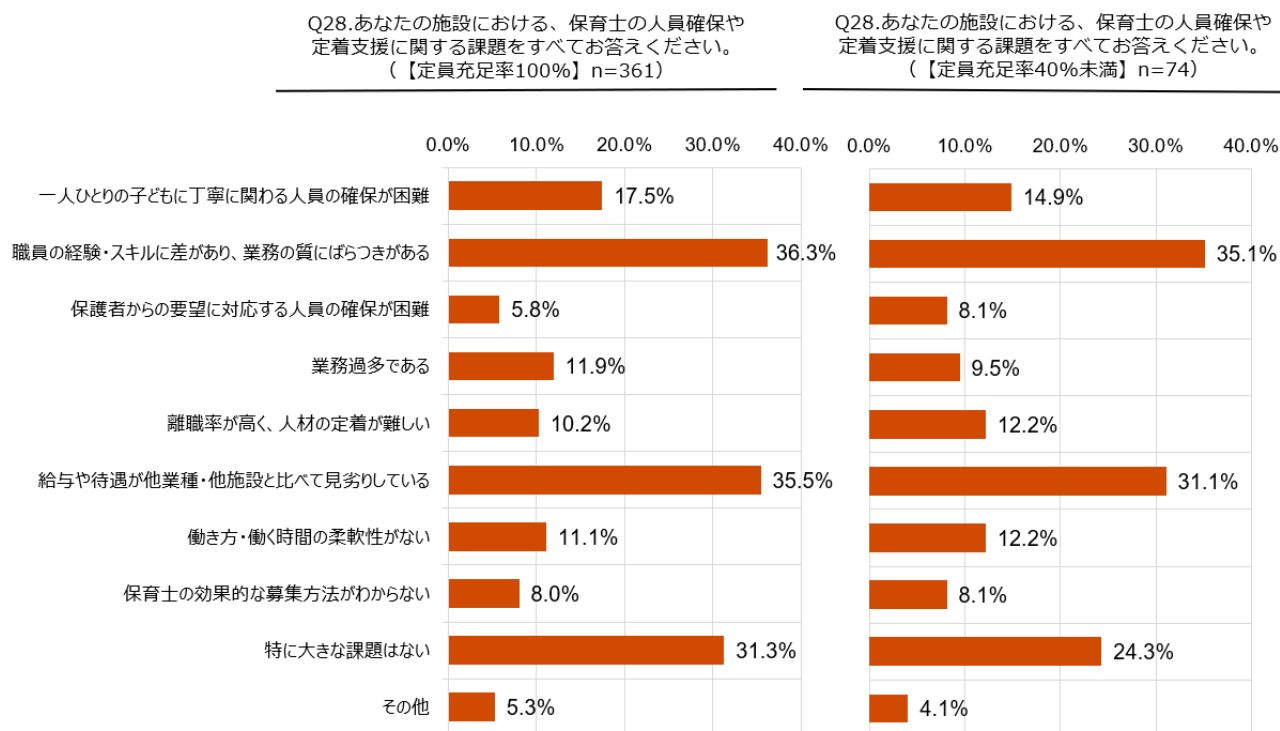
図表 56 定員充足率ごとの定員充足率に関する課題（複数回答）



### (サ) 定員充足率ごとの保育士の人材確保等に関する課題

・定員充足率が100%と40%未満の施設における保育士の人材確保や定着支援に関する課題について、「職員の経験・スキルに差があり、業務の質にばらつきがある」「給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている」が多くなっている。

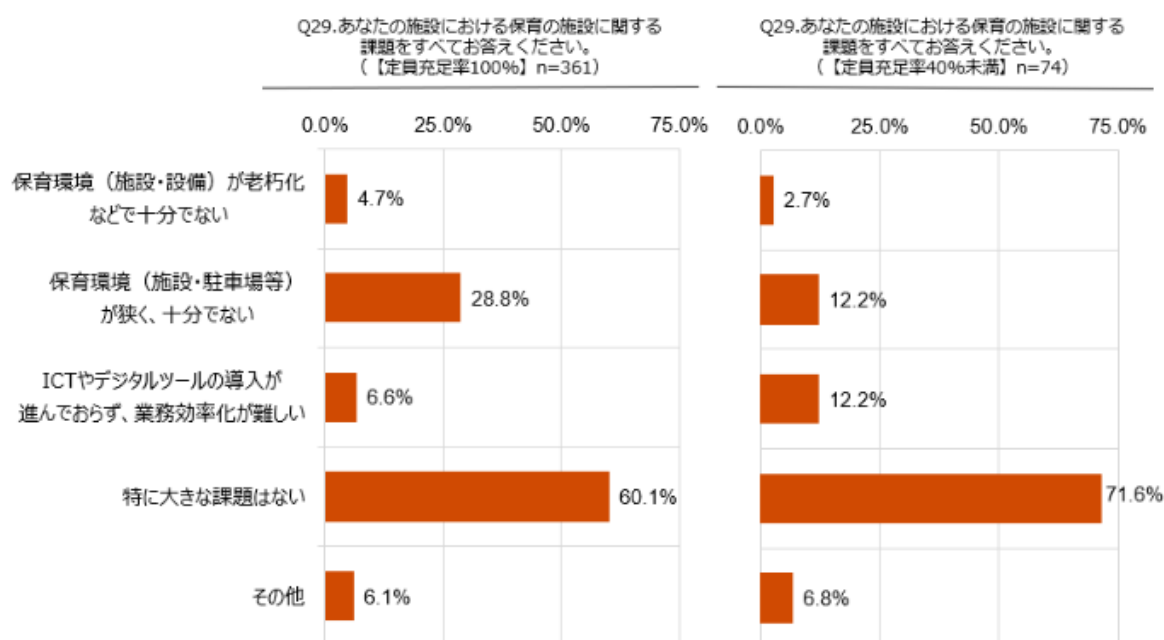
図表 57 定員充足率ごとの保育士の人材確保等に関する課題（複数回答）



**(シ) 定員充足率ごとの施設に関する課題**

・定員充足率が100%と40%未満の施設における保育の施設に関する課題について、「特に大きな課題はない」「保育環境(施設・駐車場等)が狭く、十分でない」の回答が多くなっている。定員充足率が40%未満の場合、「ICTやデジタルツールの導入が進んでおらず、業務効率化が難しい」も多くなっている。

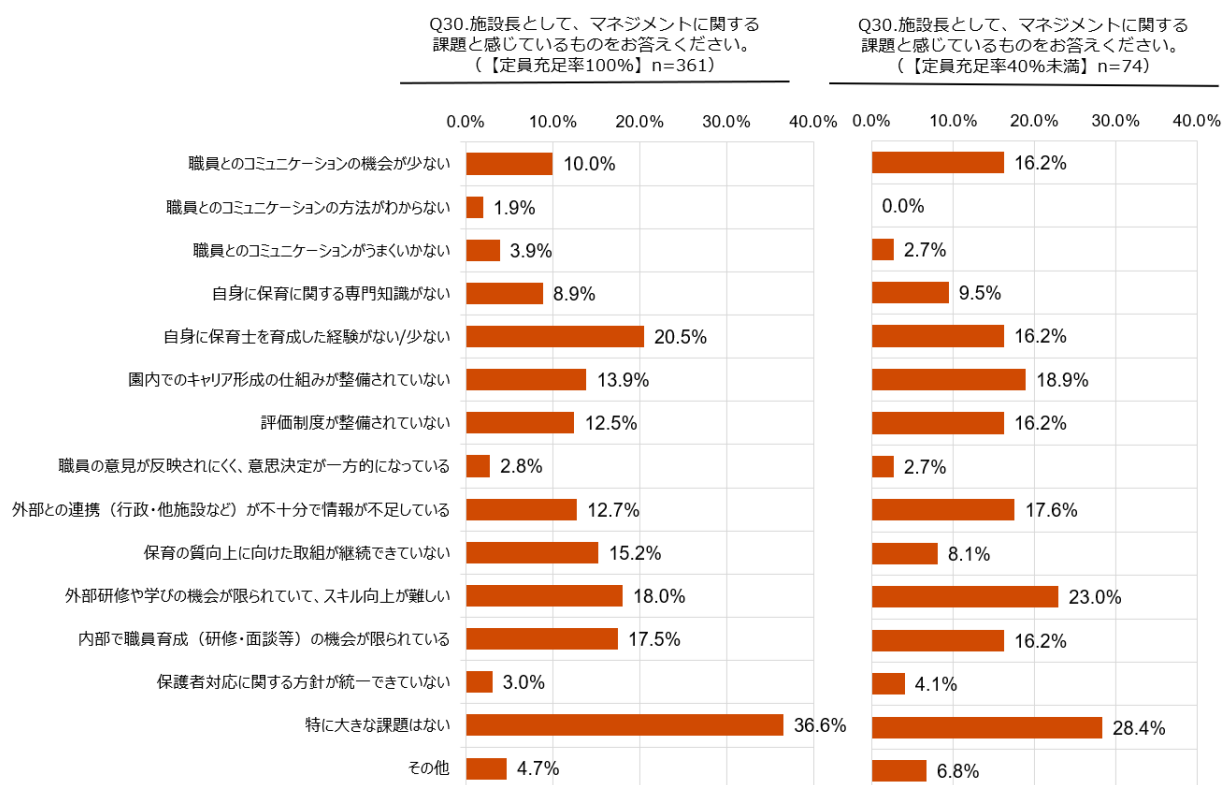
**図表 58 定員充足率ごとの施設に関する課題(複数回答)**



## (ス) 定員充足率ごとのマネジメントに関する課題

・定員充足率が100%と40%未満の施設におけるマネジメントに関する課題について、「特に大きな課題はない」が最も多くなっている。定員充足率が100%の場合、次いで「自身に保育士を育成した経験がない/少ない」が多く、40%未満の場合、次いで「外部研修や学びの機会が限られていて、スキル向上が難しい」が多くなっている。

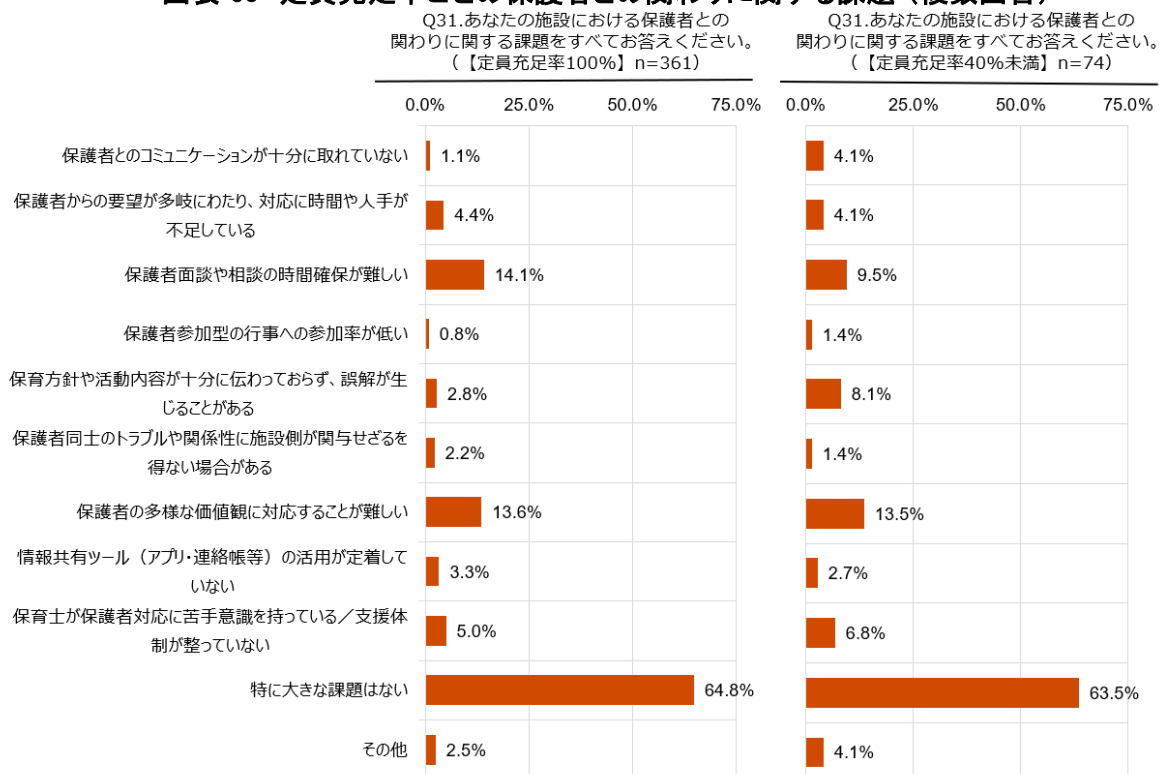
図表 59 定員充足率ごとのマネジメントに関する課題（複数回答）



### (セ) 定員充足率ごとの保護者との関わりに関する課題

・定員充足率が100%と40%未満の施設における保護者との関わりに関する課題について、「特に大きな課題はない」の回答が最も多くなっている。定員充足率が100%の場合、次いで「保護者面談や相談の時間確保が難しい」が多く、40%未満の場合、次いで「保護者の多様な価値観に対応することが難しい」が多くなっている。

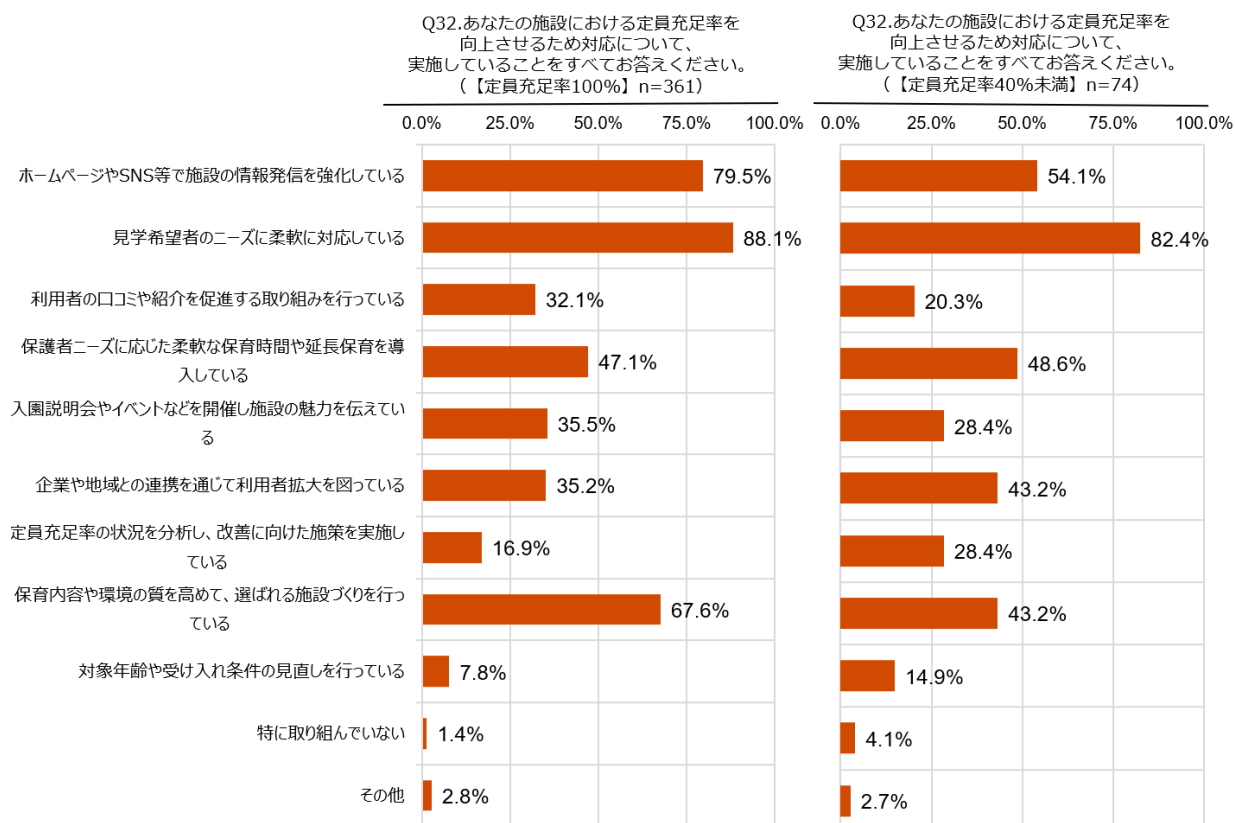
**図表 60 定員充足率ごとの保護者との関わりに関する課題（複数回答）**



(ソ) 定員充足率ごとの定員充足率の向上のための実施内容

・定員充足率が100%と40%未満の施設における定員充足率を向上させる対応について、「見学希望者のニーズに柔軟に対応している」「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」が多くなっている。

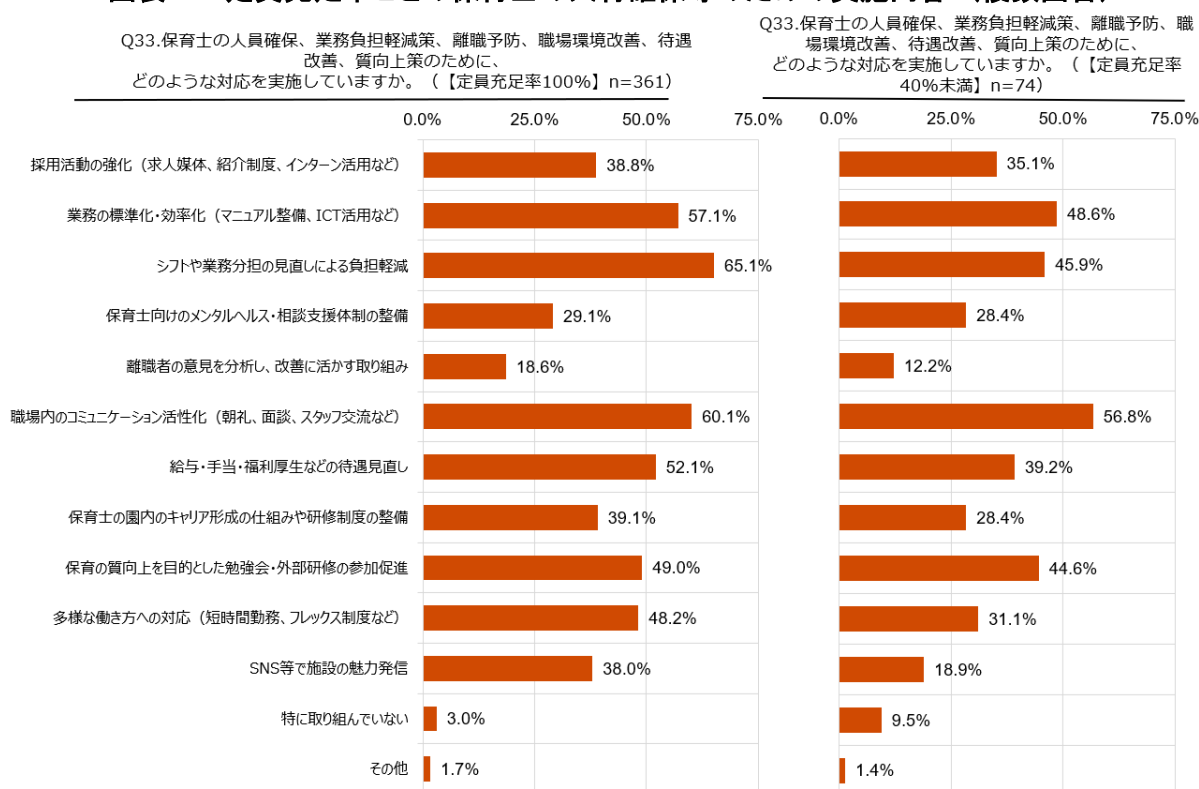
図表 61 定員充足率ごとの定員充足率の向上のための実施内容（複数回答）



### (タ) 定員充足率ごとの保育士の人材確保等のための実施内容

・定員充足率が100%と40%未満の施設における保育士の人員確保等に対する対応について、「職場内のコミュニケーション活性化(朝礼、面談、スタッフ交流など)」が多くなっている。定員充足率が100%の場合、「シフトや業務分担の見直しによる負担軽減」、40%未満の場合は、「業務の標準化・効率化(マニュアル整備、ICT活用など)」も多くなっている。

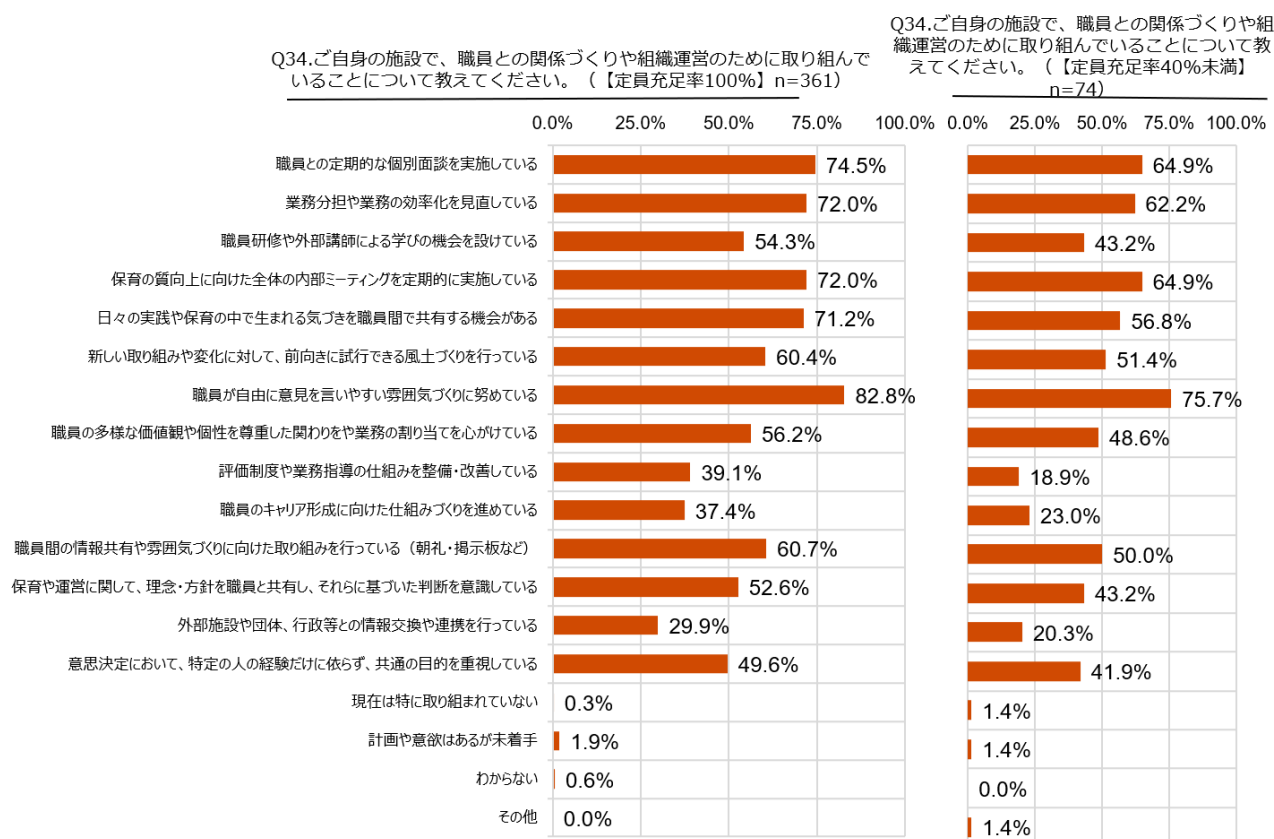
図表 62 定員充足率ごとの保育士の人材確保等のための実施内容（複数回答）



### (チ) 定員充足率ごとの組織運営のための実施内容

・定員充足率が100%と40%未満の施設の職員との関係づくりや組織運営のために取り組んでいることについて、「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」「職員との定期的な個別面談を実施している」が多くなっている。40%未満の場合、「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」も多くなっている。

図表 63 定員充足率ごとの組織運営のための実施内容（複数回答）



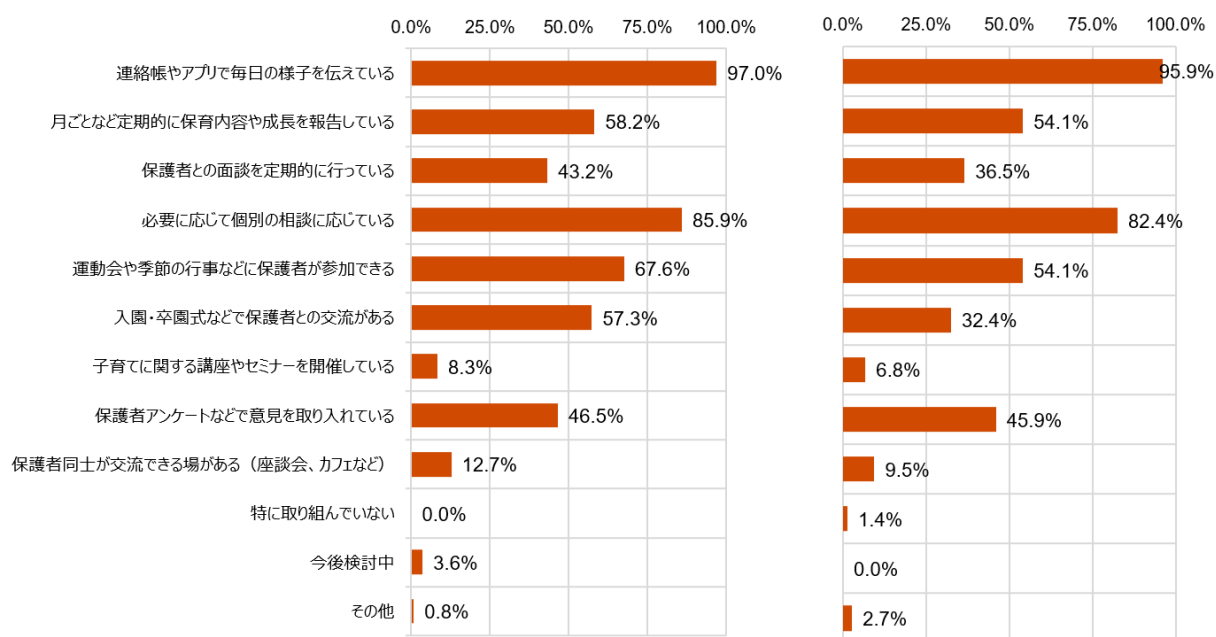
### (ツ) 定員充足率ごとの保育士の人材確保等のための実施内容

・定員充足率が100%と40%未満の施設における保護者との関わりに関する取組について、「連絡帳やアプリで毎日の様子を伝えている」「必要に応じて個別の相談に応じている」が多くなっている。

**図表 64 定員充足率ごとの保育士の人材確保等のための実施内容（複数回答）**

Q35.あなたの施設において、保護者との関わりについて、どのような取組を行っていますか。（【定員充足率100%】n=361）

Q35.あなたの施設において、保護者との関わりについて、どのような取組を行っていますか。（【定員充足率40%未満】n=74）

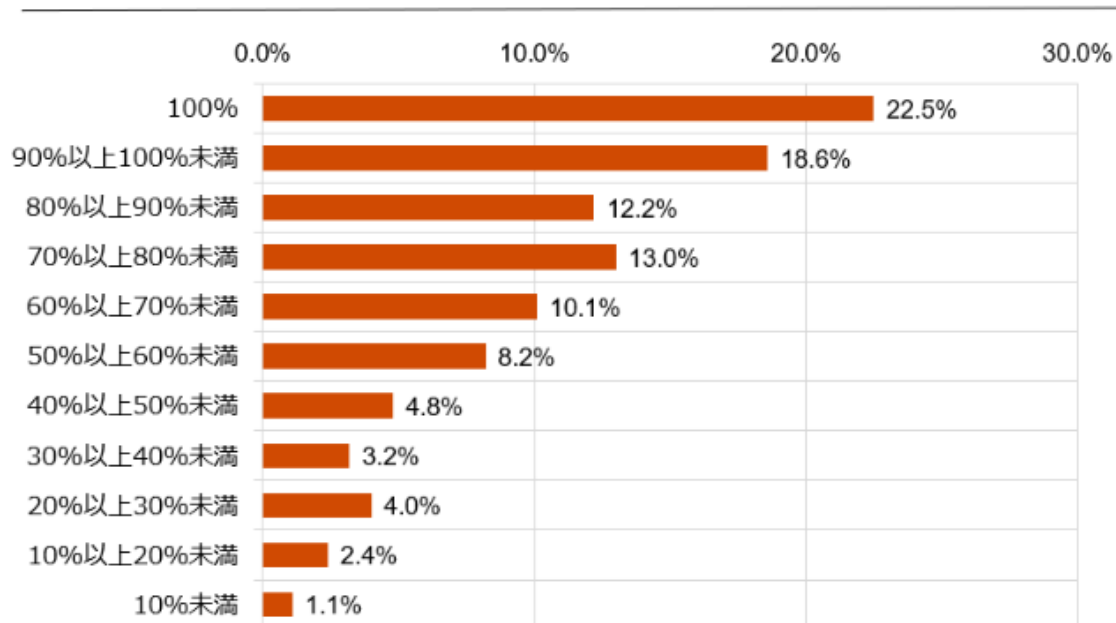


### (テ) 対象児童が少ない地域の定員充足率

・定員充足率に関する課題として「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」と回答した施設の定員充足率として、「100%」の回答が22.5%と最も多く、次いで「90%以上100%未満」が18.6%と多くなっている。

図表 65 対象児童が少ない地域の定員充足率

Q13.令和7年9月1日時点での、あなたの施設の定員充足率を教えてください。  
(【地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない】n=377)



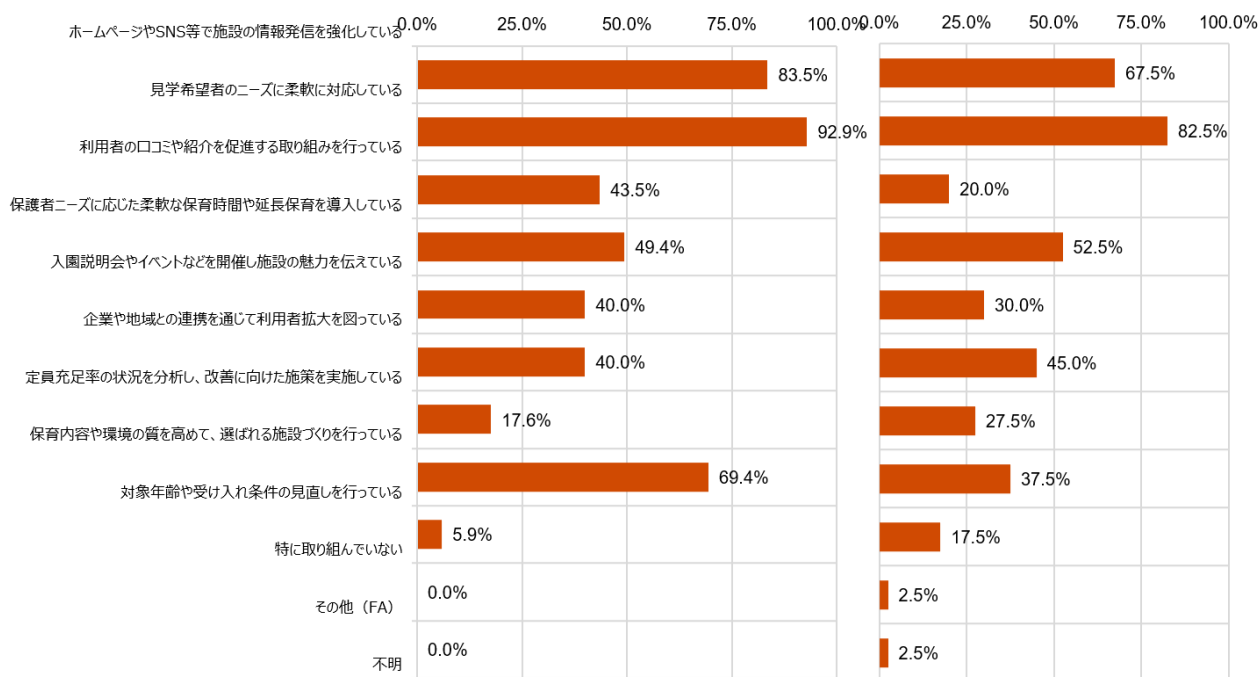
**(ト) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の定員充足率向上のための実施内容**

・定員充足率が100%と40%未満の施設における定員充足率を向上するための施策について、「見学希望者のニーズに柔軟に対応している」「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」が多くなっている。

**図表 66 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の定員充足率向上のための実施内容 (複数回答)**

Q32.あなたの施設における定員充足率を向上させるため対応について、実施していることをすべてお答えください。(【定員充足率100%×地域の出生数減少により対象児童が少ない】n=85)

Q32.あなたの施設における定員充足率を向上させるため対応について、実施していることをすべてお答えください。(【定員充足率40%未満×地域の出生数減少により対象児童が少ない】n=40)



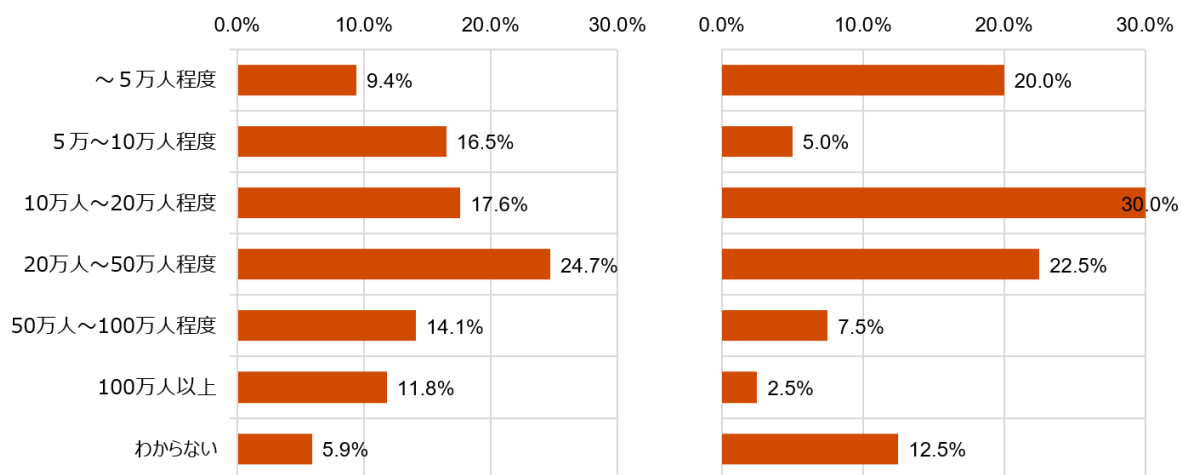
**(ナ) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の人口規模**

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域の人口規模は、「10万人～20万人程度」「20万人～50万人程度」が多くなっている。

**図表 67 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の人口規模**

Q22.あなたの施設がある市町村の人口規模を教えてください。  
 (【定員充足率100%×地域の出生数減少により対象児童が少ない】  
 n=85)

Q22.あなたの施設がある市町村の人口規模を教えてください。  
 (【定員充足率40%未満×地域の出生数減少により対象児童が少ない】  
 n=40)



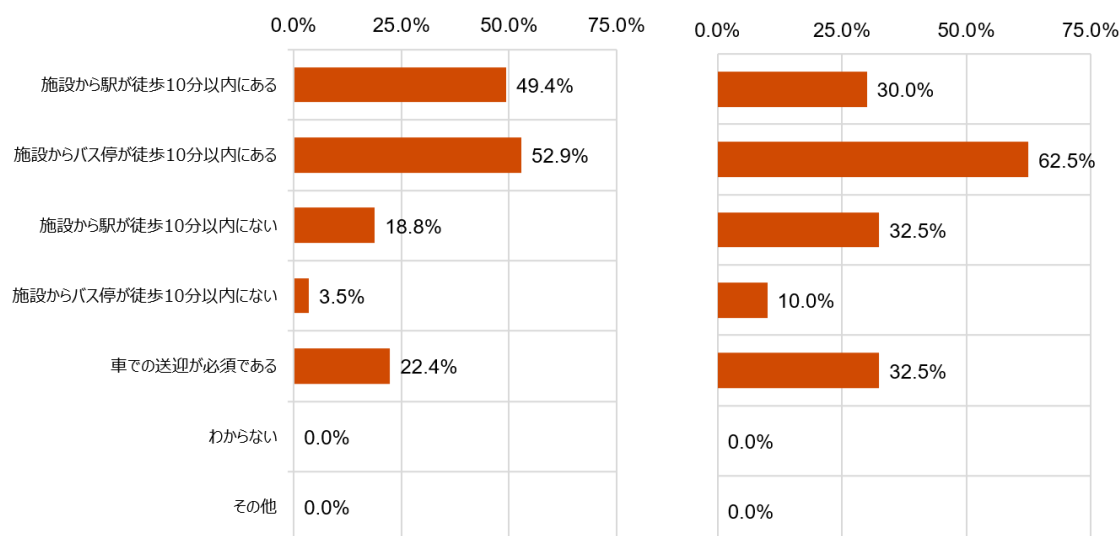
## (二) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の交通アクセス

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域の交通アクセスは、「施設からバス停が徒歩10分以内にある」が最も多くなっている。定員充足率が100%の場合、「施設から駅が徒歩10分以内にある」が多く、40%未満の場合、「施設から駅が徒歩10分以内でない」、「車での送迎が必須である」が多くなっている。

図表 68 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の交通アクセス（複数回答）

Q23. あなたの施設がある地域の交通アクセスについて教えてください。 (【定員充足率100%×地域の出生数減少により対象児童が少ない】 n=85)

Q23. あなたの施設がある地域の交通アクセスについて教えてください。 (【定員充足率40%未満×地域の出生数減少により対象児童が少ない】 n=40)



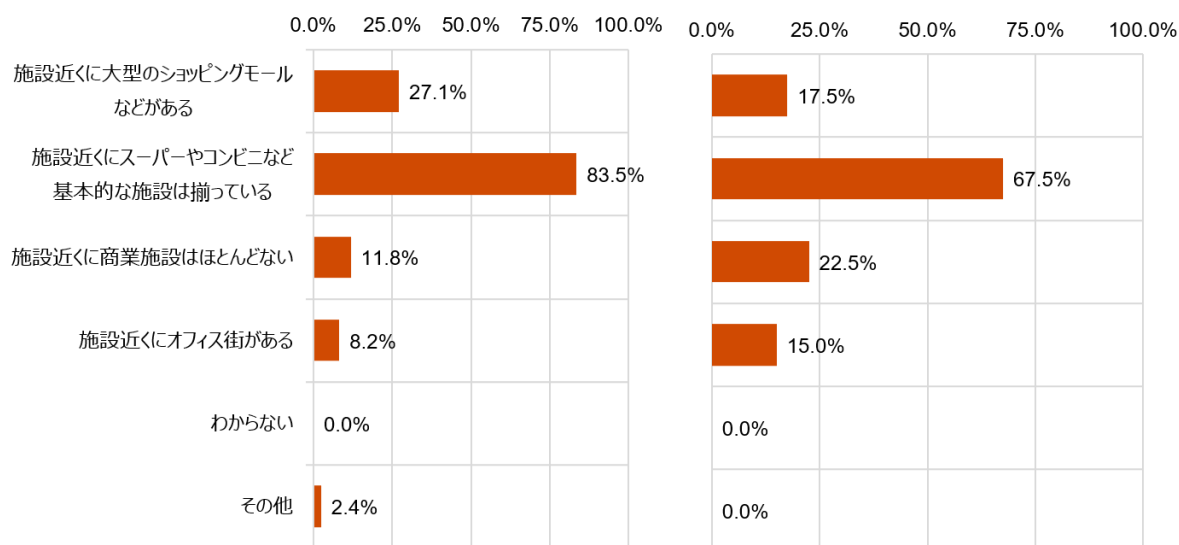
**(ヌ) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域周辺の様子**

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域の様子は、「施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている」が最も多くなっている。定員充足率が100%の場合、次いで「施設近くに大型のショッピングモールなどがある」が多く、40%未満の場合、次いで「施設近くに商業施設はほとんどない」が多くなっている。

**図表 69 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域周辺の様子（複数回答）**

Q24.あなたの施設がある地域の様子について教えてください。  
 (【定員充足率100%×地域の出生数減少により対象児童が少ない】  
 n=85)

Q24.あなたの施設がある地域の様子について教えてください。  
 (【定員充足率40%未満×地域の出生数減少により  
 対象児童が少ない】 n=40)



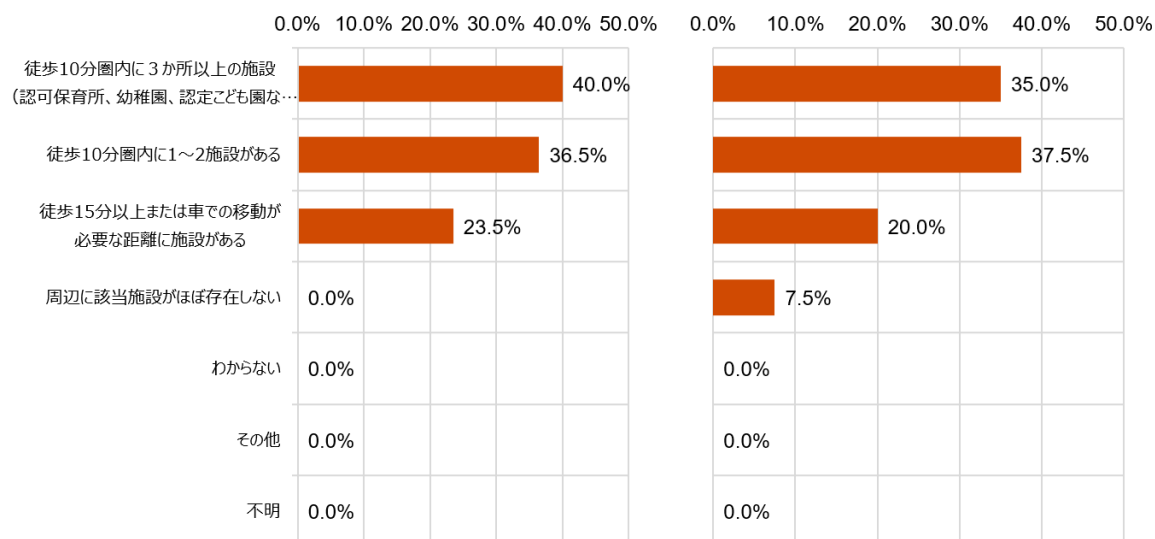
**(ネ) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の認可保育所等の有無**

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域周辺の認可保育所等について、「徒歩10分圏内に3か所以上の施設(認可保育所、幼稚園、認定こども園など)がある」「徒歩10分圏内に1~2施設がある」が多くなっている。

**図表 70 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の認可保育所等の有無**

Q25.あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無を教えてください。(【定員充足率100%×地域の出生数減少により対象児童が少ない】n=85)

Q25.あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無を教えてください。(【定員充足率40%未満×地域の出生数減少により対象児童が少ない】n=40)

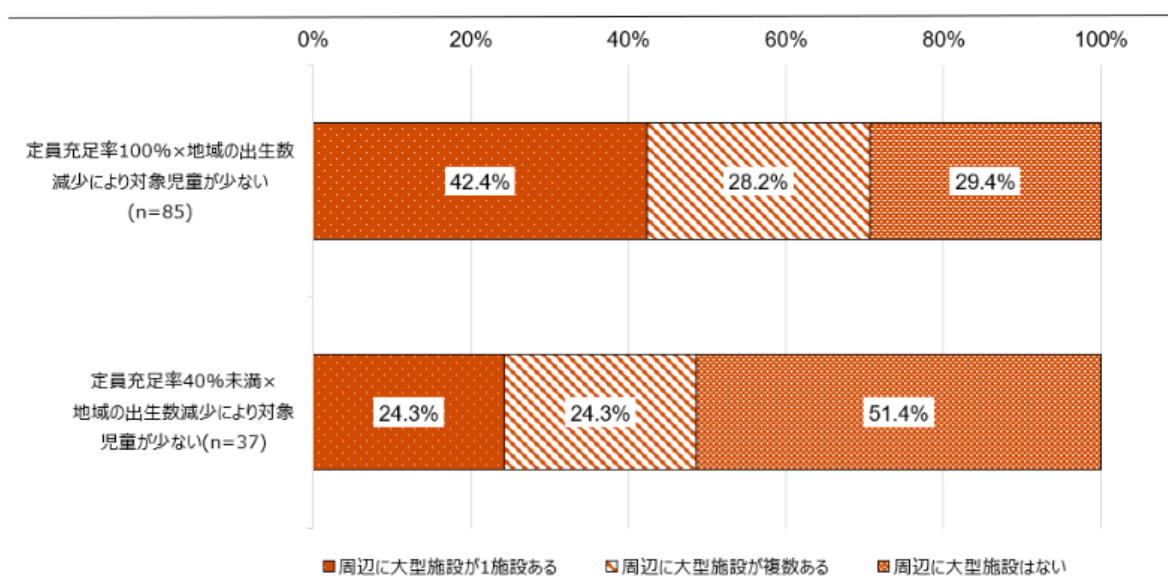


**(ノ) 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の大型施設有無**

・定員充足率が100%と40%未満の施設がある地域周辺の大型認可保育所等の有無について、「周辺に大型施設が1施設ある」「周辺に大型施設はない」が多くなっている。40%未満の場合、「周辺に大型施設が複数ある」も多くなっている。

**図表 71 定員充足率ごとの対象児童が少ない地域の大型施設有無**

Q26.あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等は大型施設（定員150名以上）ですか。

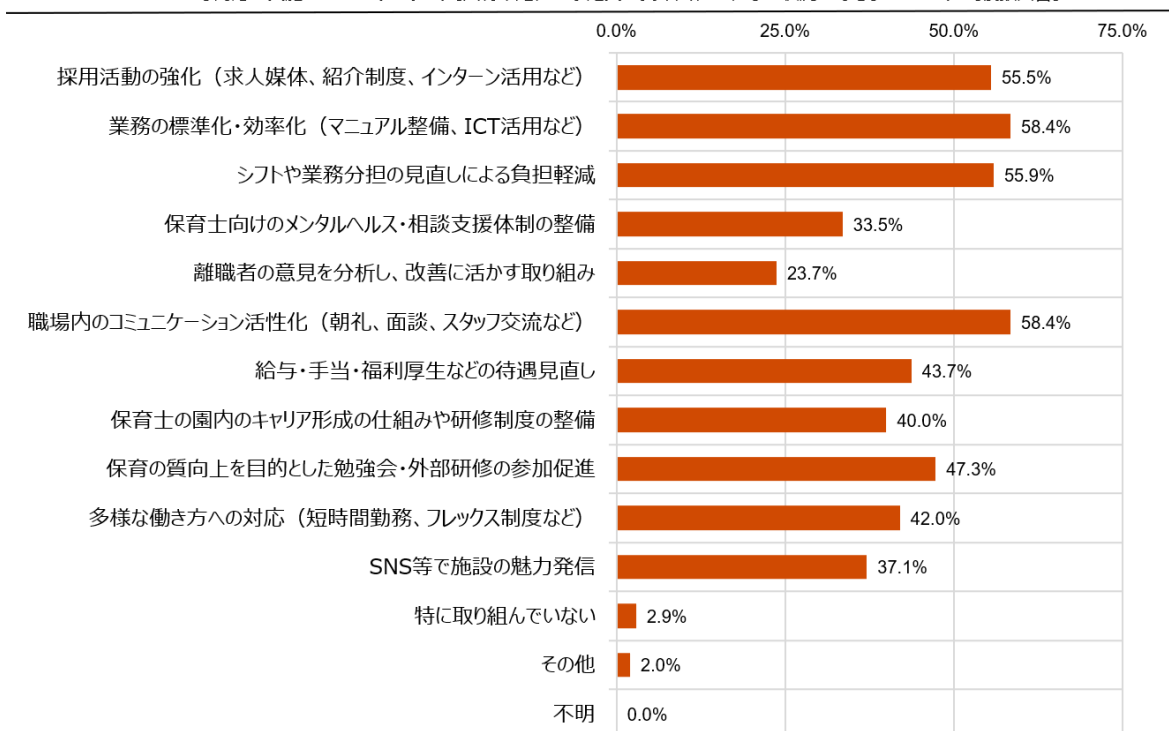


### (ハ) 人材不足により定員を受け入れられない地域の人材確保等

・人材不足の地域において、人員確保等の対応として、「業務の標準化・効率化(マニュアル整備、ICT活用など)」「職場内のコミュニケーション活性化(朝礼、面談、スタッフ交流など)」の回答が58.4%と最も多く、次いで「シフトや業務分担の見直しによる負担軽減」が55.9%と多くなっている。

**図表 72 人材不足により定員を受け入れられない地域の人材確保等（複数回答）**

Q33.保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のために、どのような対応を実施していますか。（【人材不足により定員を受け入れられない状況がある】n=245）【複数回答】



### (iii) 調査結果から抽出される課題・示唆

単純集計・クロス集計をふまえ、定員充足率 100% (定員を満たしている) と定員充足率 40% 未満 (定員を満たしていない) の施設の結果について、傾向に差がある項目と差がない項目を抽出した。

なお、差が「ある」「ない」の定義は以下のとおり。

- ・差が「ある」の定義：定員充足率が 100% と 40% 未満の回答間で回答の多かった上位 2 位の選択肢が 1 つ以上異なる
- ・差が「ない」の定義：回答の多かった上位 2 位の選択肢が同じ

**図表 73 各項目における定員充足率 100% の施設と 40% 未満の施設の差の有無**

項目	傾向に差がある項目	傾向に差がない項目
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通アクセス</li> <li>・ 地域の様子</li> <li>・ 周辺の認可保育所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口規模</li> <li>・ 周辺の大型認可保育所</li> </ul>
保育や保育以外のサービス	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特色のある活動・保育以外のサービス</li> <li>・ 人材確保の手法</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員充足率に関する課題</li> <li>・ 施設の環境に関する課題</li> <li>・ マネジメントに関する課題</li> <li>・ 保護者との関わりに関する課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士の人材確保等に関する課題</li> </ul>
課題に対する実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策に対する対応</li> <li>・ 職員との関係づくりや組織運営のために取り組んでいること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員充足率の向上のための実施内容</li> <li>・ 保護者との関わり</li> </ul>

差が「ある」項目について、その傾向や最も差があった回答を整理した。

- ・ 地域の特徴
  - 定員充足率が 100% の施設と 40% 未満の施設における【施設周辺の環境】は、「施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている」の回答が最も多く共通であった。次いで多い回答として、定員充足率が 100% の場合「施設近くに大型のショッピングモールなどがある」、定員充足率が 40% 未満の場合は、「施設近くに商業施設はほとんどない」であり、差が見られた。
  - ◇ 定員充足率が 100% の施設と 40% 未満の施設における回答で最も差があったのは「施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている」であり、22.1 ポイントの差(100% > 40% 未満)があった。



- ・ マネジメントに関する課題
  - ▶ 定員充足率が100%の施設と定員充足率が40%未満の施設における【マネジメントに関する課題】は、「特に大きな課題はない」の回答が最も多かった。次いで多い回答として、定員充足率が100%の場合「自身に保育士を育成した経験がない/少ない」、定員充足率が40%未満の場合は「外部研修や学びの機会が限られていて、スキル向上が難しい」であった。
    - ☆ 定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における回答で最も差があったのは「特に大きな課題はない」であり、8.2ポイントの差(100%>40%未満)があった。
  
- ・ 保護者との関わりに関する課題
  - ▶ 定員充足率が100%の施設と定員充足率が40%未満の施設における【保護者との関わりに関する課題】は、「特に大きな課題はない」の回答が最も多かった。次いで多い回答として、定員充足率が100%の場合「保護者面談や相談の時間確保が難しい」、定員充足率が40%未満の場合は「保護者の多様な価値観に対応することが難しい」であった。
    - ☆ 定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における回答で最も差があったのは「保護者面談や相談の時間確保が難しい」であり、5.6ポイントの差(100%>40%未満)があった。
  
- ・ 人材確保・業務負担軽減等に関する実施内容
  - ▶ 定員充足率が100%の施設と定員充足率が40%未満の施設における【保護者との関わりに関する課題】は、「特に大きな課題はない」の回答が最も多かった。次いで多い回答として、定員充足率が100%の場合「保護者面談や相談の時間確保が難しい」、定員充足率が40%未満の場合は「保護者の多様な価値観に対応することが難しい」であった。
    - ☆ 定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における回答で最も差があったのは「保護者面談や相談の時間確保が難しい」であり、5.6ポイントの差(100%>40%未満)があった。
  
- ・ 職員との関係づくりや組織運営のための実施内容
  - ▶ 定員充足率が100%・40%未満の施設では、【職場との関係づくりや組織運営に関する施策】として、「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」や「職員との定期的な個別面談を実施している」が多かった。他にも定員充足率が40%未満の施設では、「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」の回答も多く、差が見られた。
    - ☆ 定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における回答で最も差があったの

は「評価制度や業務指導の仕組みを整備・改善している」であり、20.1ポイントの差(100%>40%未満)があった。

- ・ 出生数減少によって対象児童が少ない地域における交通アクセス
  - 【交通アクセス】については、「施設からバス停が徒歩 10 分以内にある」の回答が最も多く、定員充足率が 100%の場合「施設から駅が徒歩 10 分以内にある」、定員充足率が 40%未満の場合は、「施設から駅が徒歩 10 分以内でない」であり、差が見られたという点は、全体のクロス集計と同様の結果であった。しかし、出生数減少によって対象児童が少ない地域では、定員充足率が 40%未満の場合は「車での送迎が必須である」の回答が多く、全体のクロス集計と異なる結果であった。

## (2) 従事者向け調査

全国の企業主導型保育施設に従事する職員へのアンケート調査により、施設の特色や課題等の実態を把握した。

### ① 調査概要

調査概要は図表 74 のとおり。

図表 74 従事者向け調査の概要

分類	調査項目
調査目的	企業主導型保育施設従事者に対して、施設の利用状況や運営課題等の実態を把握するとともに、定員充足率が低い施設の運営課題などを抽出する。
調査対象	全国の企業主導型保育施設（約 4,500 施設）の従事者
調査方法	Microsoft Forms による Web 調査。令和 5 年度事業の調査を踏まえ、匿名回答など回答者の負担を減らし、回答しやすい工夫を実施。Microsoft Forms の二次元コードを記載した調査のお知らせについて、企業主導型保育事業実施主体(公益財団法人 児童育成協会)経由で各施設に周知し、各施設から従事者周知、リマインドを実施。
調査期間	令和 7 年 10 月 14 日～令和 7 年 11 月 21 日

### ② 調査項目

調査項目は図表 75 のとおりである（詳細は付録 2 に記載）。

図表 75 従事者向け調査項目

分類	調査項目
①基本情報	<ul style="list-style-type: none"><li>回答者の職種</li><li>施設の定員数、在籍児童数</li></ul>
②施設の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>定員充足率による課題</li><li>保育士の人員確保・育成について</li><li>施設における状況</li><li>保護者との関わりについて</li></ul>
③施設の課題に対する対策	<ul style="list-style-type: none"><li>定員充足率引き上げ方策</li><li>保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策</li><li>保護者との関わり改善</li></ul>

### ③ 集計結果

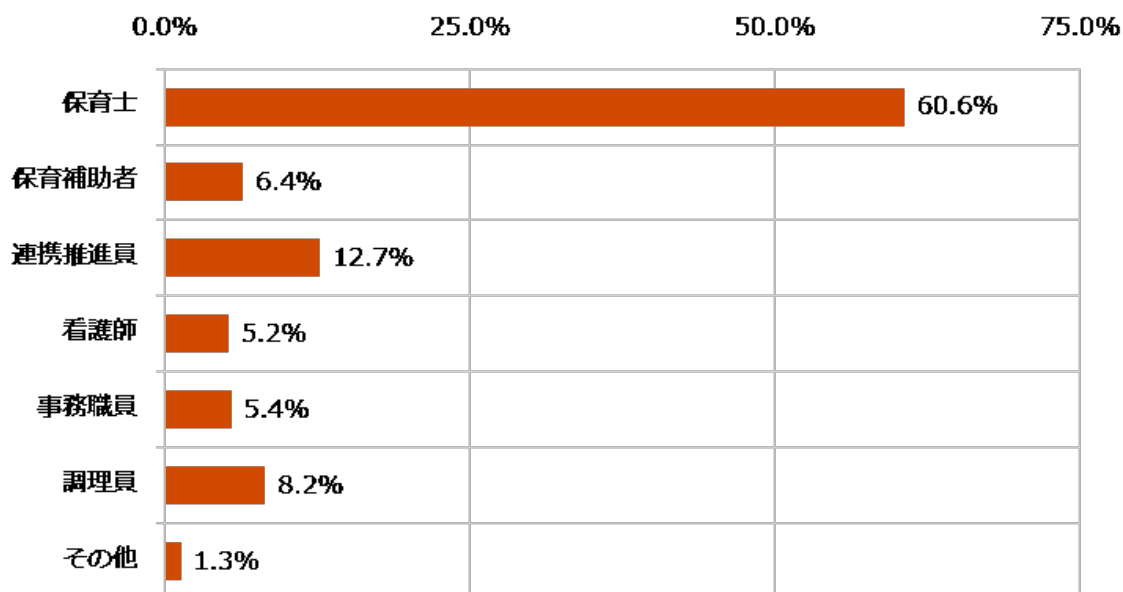
有効回答数は3,490件であった。以降、集計結果の概要を述べる。

#### (i) 単純集計

##### (ア) 回答者の職種

・回答された従事者の職種としては、「保育士」が60.6%と最も多く、次いで「連携推進員」が12.7%と多くなっている。

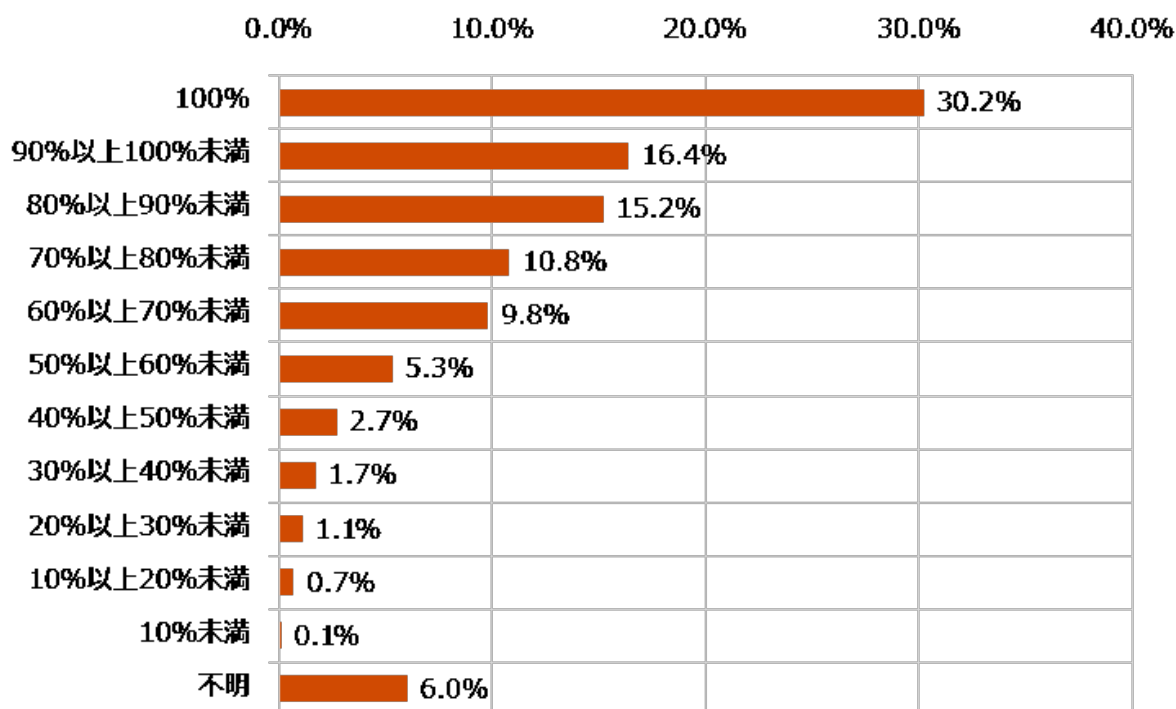
図表 76 回答者の職種 (n=3,490)



### (イ) 定員充足率

・回答された従事者が所属する施設の定員充足率としては、「100%」が30.2%と最も多く、次いで「90%以上100%未満」が16.4%と多くなっている。

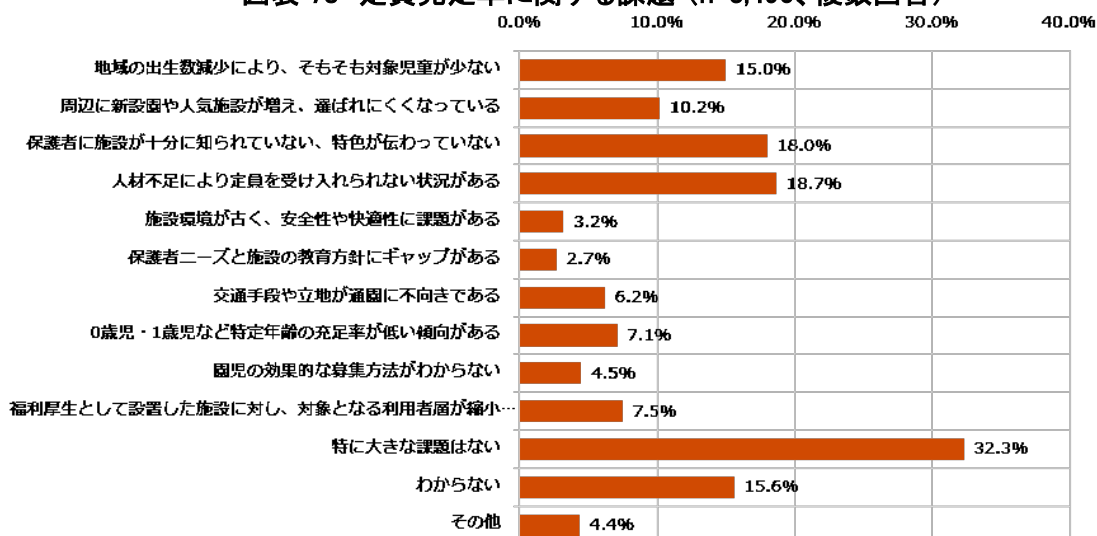
図表 77 定員充足率 (n=3,490)



### (ウ) 定員充足率に関する課題

・定員充足率に関する課題としては、「特に大きな課題はない」が32.3%と最も多く、次いで「人材不足により定員を受け入れられない状況がある」が18.7%と多くなっている。

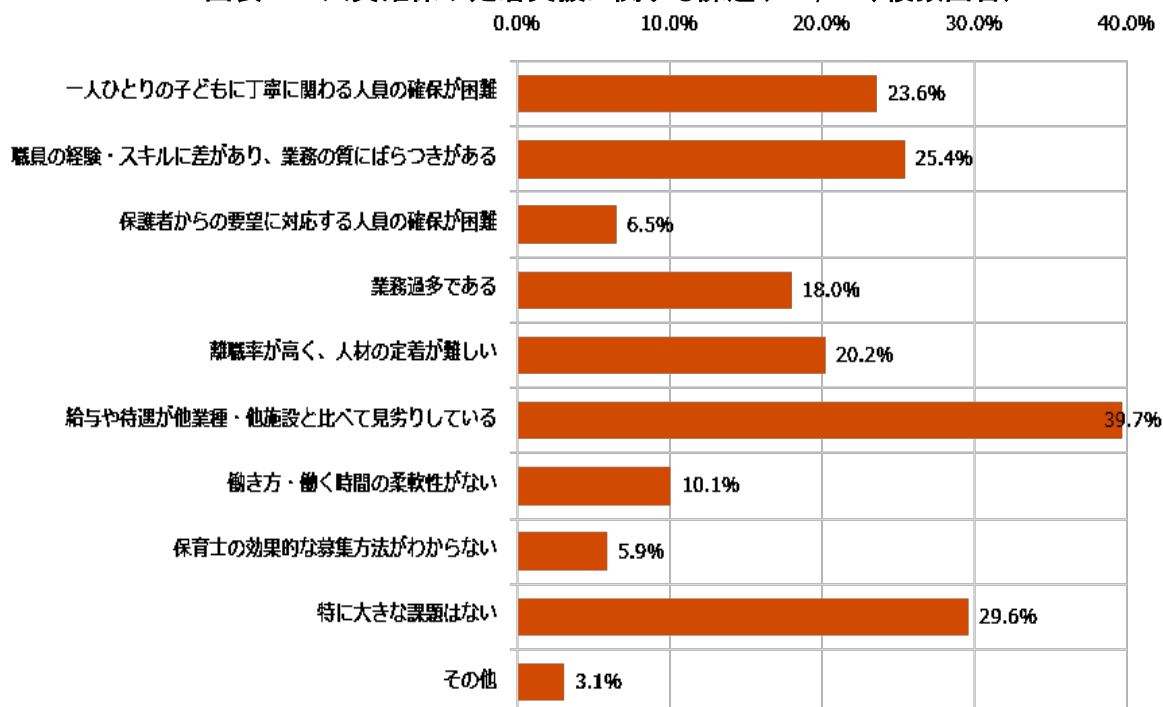
図表 78 定員充足率に関する課題 (n=3,490、複数回答)



### (エ) 人員確保や定着支援に関する課題

・人員確保や定着支援に関する課題としては、「給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている」が39.7%と最も多く、次いで「特に大きな課題はない」が29.6%と多くなっている。

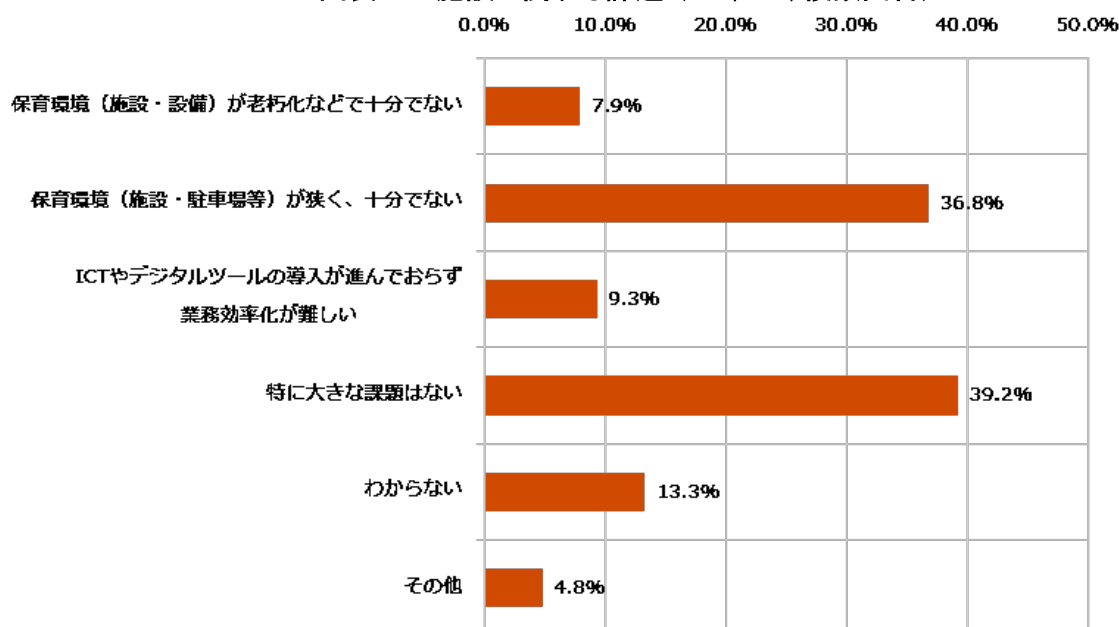
図表 79 人員確保や定着支援に関する課題(n=3,490、複数回答)



### (オ) 施設に関する課題

・施設に関する課題としては、「特に大きな課題はない」が39.2%と最も多く、次いで「保育環境(施設・駐車場等)が狭く、十分でない」が36.8%と多くなっている。

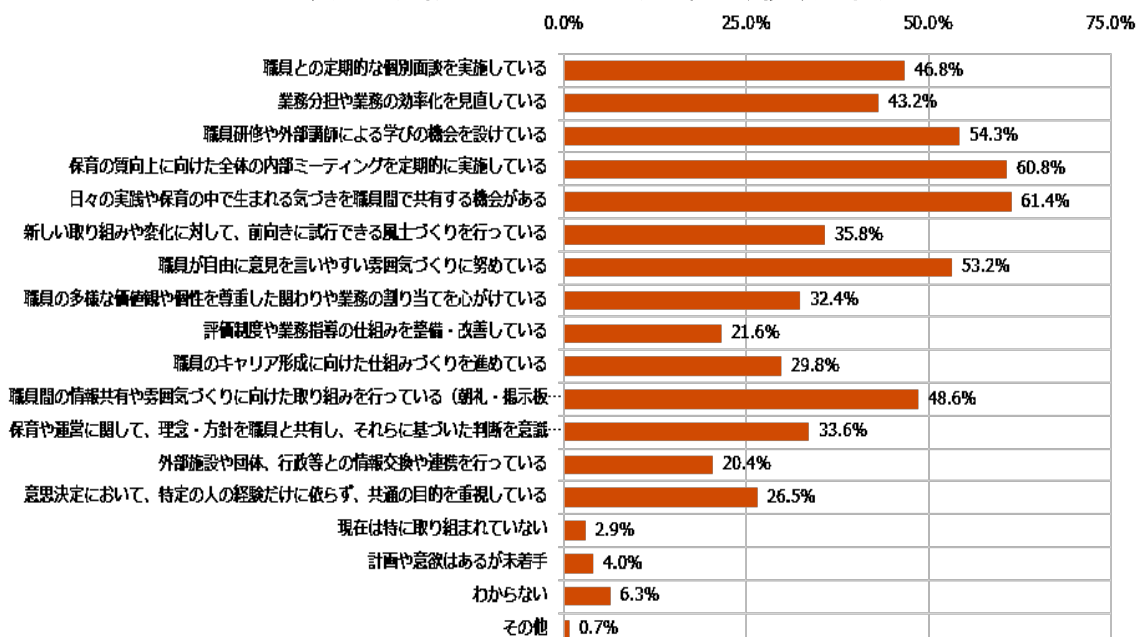
図表 80 施設に関する課題 (n=3,490、複数回答)



### (カ) 施設における状況

・施設における状況としては、「日々の実践や保育の中で生まれる気づきを職員間で共有する機会がある」が61.4%と最も多く、次いで「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」が60.8%と多くなっている。

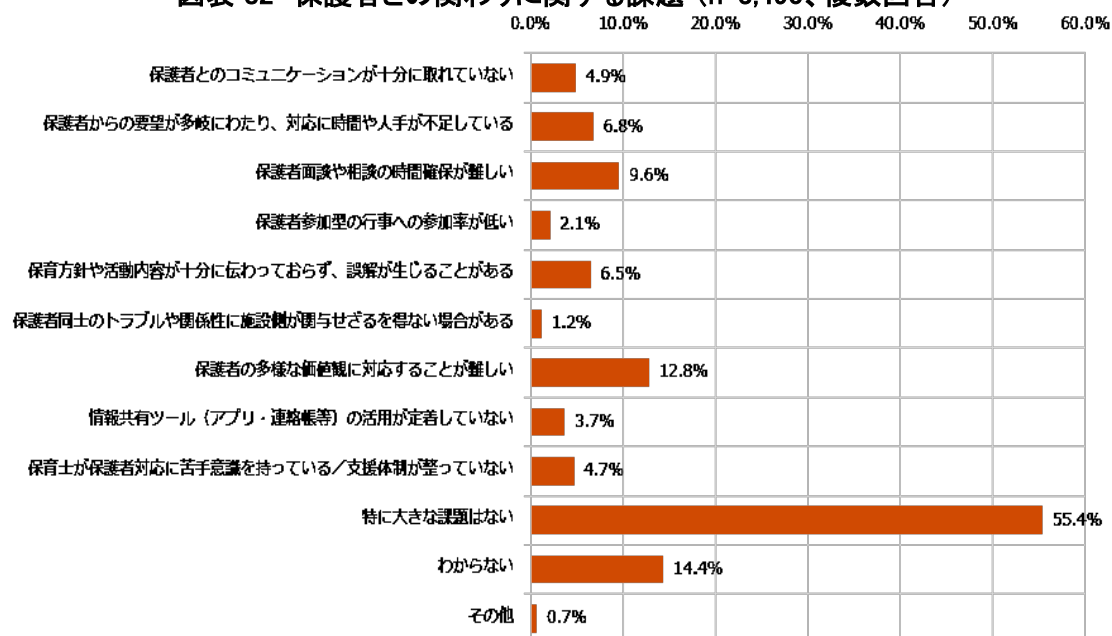
図表 81 施設における状況 (n=3,490、複数回答)



### (キ) 保護者との関わりに関する課題

・保護者との関わりに関する課題としては、「特に大きな課題はない」が55.4%と最も多く、次いで「わからない」が14.4%と多くなっている。

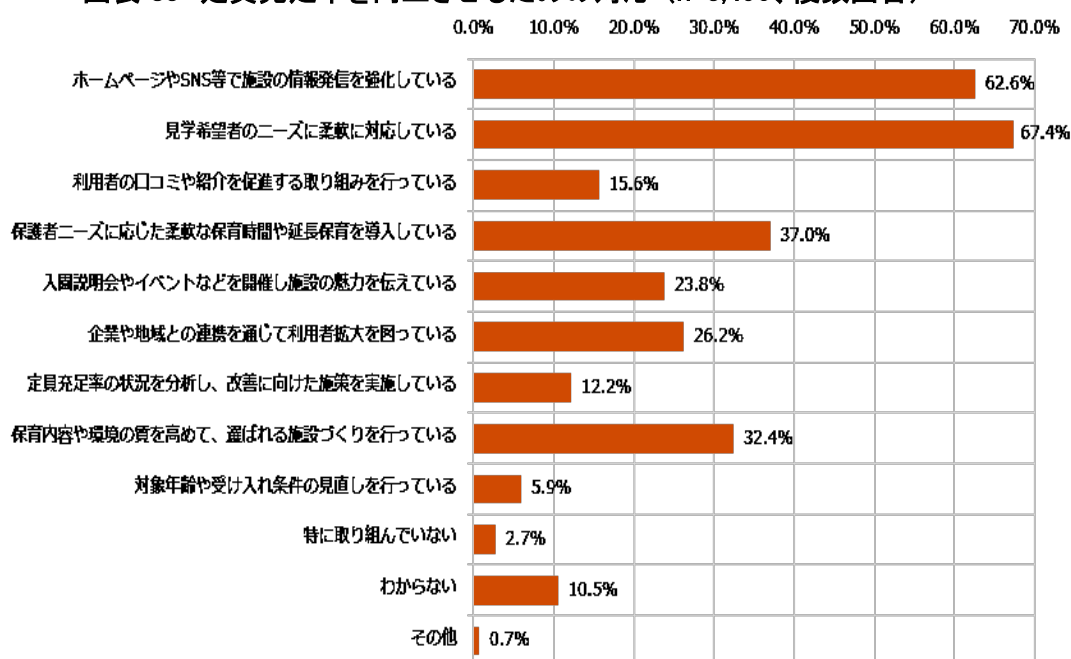
図表 82 保護者との関わりに関する課題 (n=3,490、複数回答)



### (ク) 定員充足率を向上させるための対応

・定員充足率を向上させるための対応としては、「見学希望者のニーズに柔軟に対応している」が67.4%と最も多く、次いで「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」が62.6%と多くなっている。

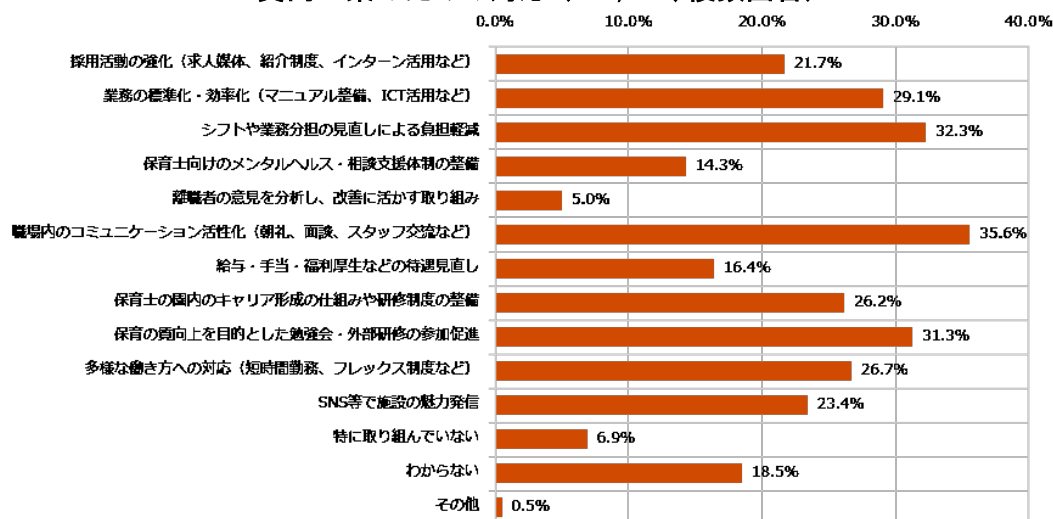
図表 83 定員充足率を向上させるための対応 (n=3,490、複数回答)



**(ケ) 保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のための対応**

・保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のための対応としては、「職場内のコミュニケーション活性化(朝礼、面談、スタッフ交流など)」が35.6%と最も多く、次いで「シフトや業務分担の見直しによる負担軽減」が32.3%と多くなっている。

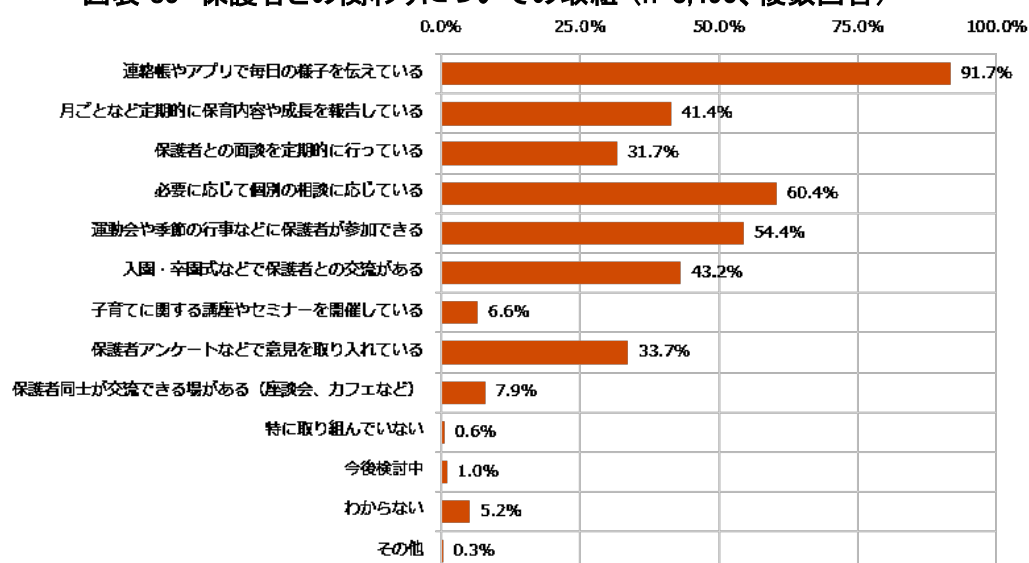
**図表 84 保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のための対応 (n=3,490、複数回答)**



**(コ) 保護者との関わりについての取組**

・保護者との関わりについての取組としては、「連絡帳やアプリで毎日の様子を伝えている」が91.7%と最も多く、次いで「必要に応じて個別の相談に応じている」が60.4%と多くなっている。

**図表 85 保護者との関わりについての取組 (n=3,490、複数回答)**



## (ii) クロス集計

より詳細に実態を把握するために、**図表 86** のとおりクロス集計を実施。

**図表 86 クロス集計の概要(従事者向け調査)**

項目	クロス集計の軸	クロス集計実施の意図
定員充足率ごとの取り組み状況・課題	・「定員充足率」(問3「在籍児童数」/問2「定員数」)(①100% ②40%未満)×問4～8「施設における課題」・「実施内容」	・定員充足率ごとに、施設の活動内容を明らかにし、それぞれの課題の差を抽出する ・定員充足率ごとに、各施設でどのような取り組みを実施しているかの差異を抽出する

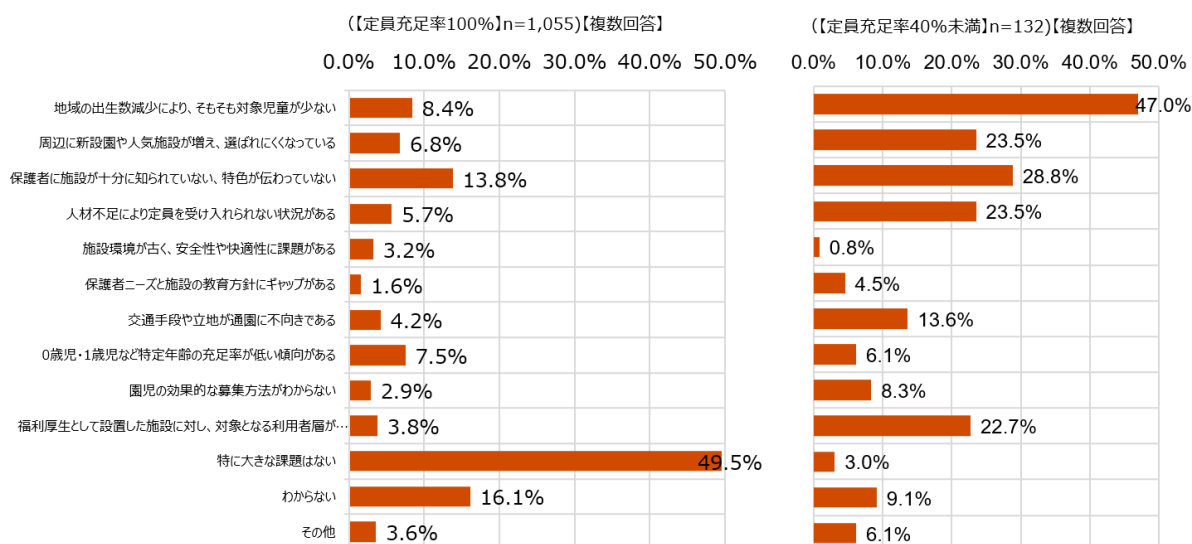
以下に各設問に対する具体的なクロス集計結果を示す。

### (ア) 定員充足率ごとの定員充足率に関する課題

・定員充足率が100%の施設における定員充足率に関する課題は、「特に大きな課題はない」と「わからない」が多く、定員充足率が40%未満の施設における定員充足率に関する課題は、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」と「保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない」が多くなっている。

**図表 87 定員充足率ごとの定員充足率に関する課題(複数回答)**

Q3.在籍児童数を教えてください。/Q2.定員数を教えてください×Q4.あなたの勤務している施設における、定員充足率に関する課題をすべてお答えください。

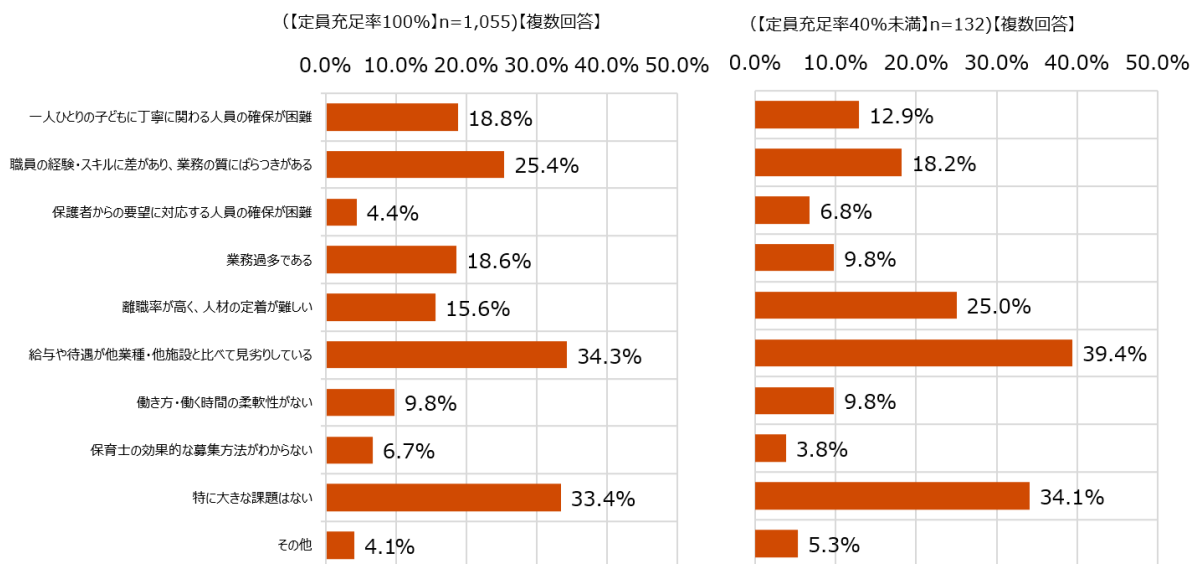


### (イ) 定員充足率ごとの人員確保に関する課題

・定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における人員確保や定着支援に関する課題は、「給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている」と「特に大きな課題はない」が多くなっている。

**図表 88 定員充足率ごとの人員確保に関する課題（複数回答）**

Q3. 在籍児童数を教えてください。/Q2. 定員数を教えてください× Q5. あなたの勤務している施設における、保育士の人員確保や定着支援に関する課題をすべてお答えください

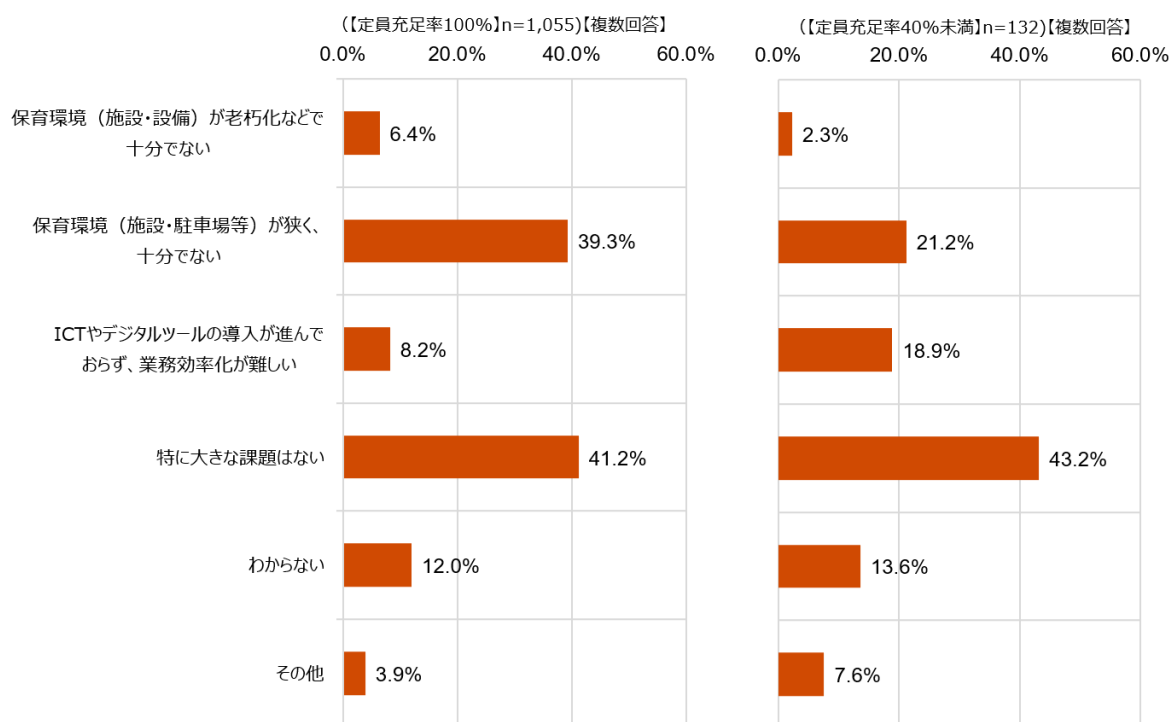


### (ウ) 定員充足率ごとの施設に関する課題

・定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における施設に関する課題は、「特に大きな課題はない」と「保育環境(施設・駐車場等)が狭く、十分でない」が多くなっている。

**図表 89 定員充足率ごとの施設に関する課題（複数回答）**

Q3.在籍児童数を教えてください。/Q2.定員数を教えてください× Q6.あなたの勤務している施設における、施設に関する課題をすべてお答えください。

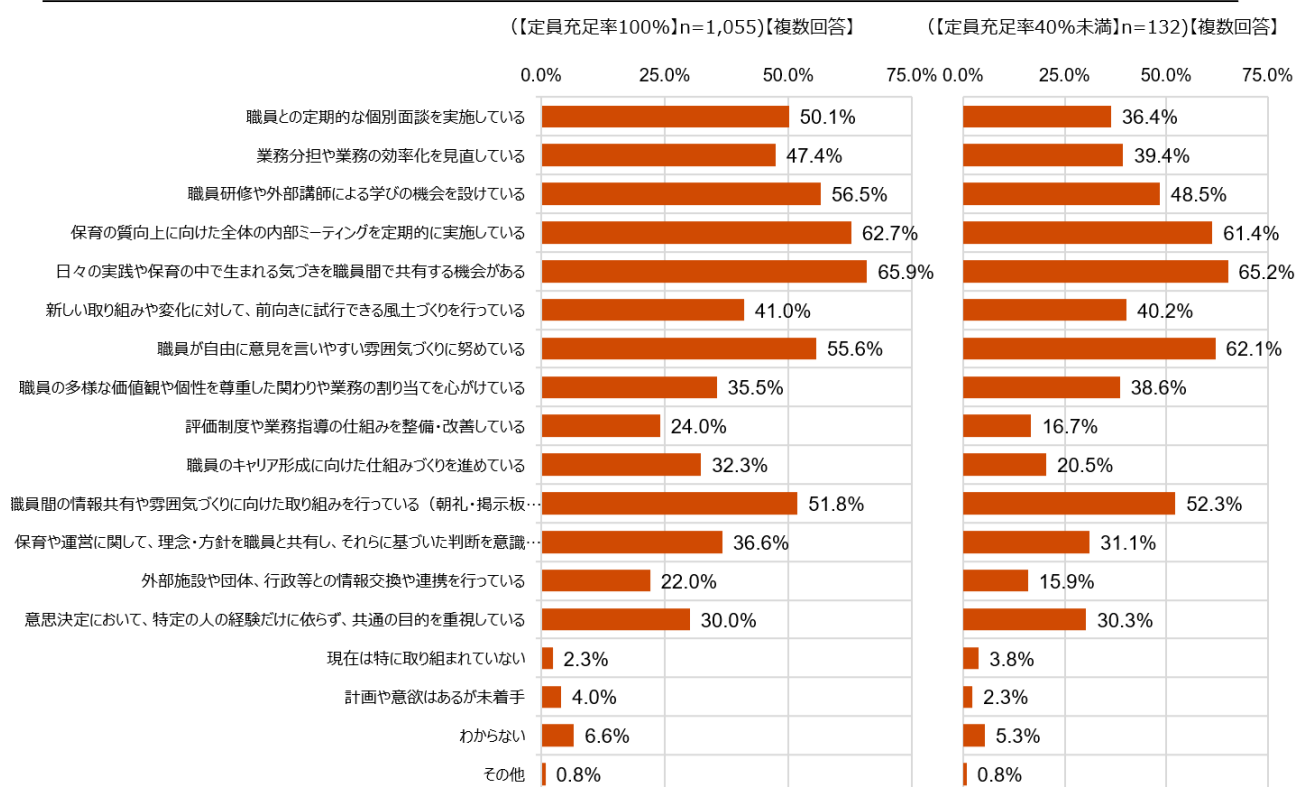


## (エ) 職員間の関わりに関する実施内容

・定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における職員間の関わりに関する実施内容は、「日々の実践や保育の中で生まれる気づきを職員間で共有する機会がある」が最も多くなっている。

図表 90 職員間の関わりに関する実施内容（複数回答）

Q3.在籍児童数を教えてください。/Q2.定員数を教えてください× Q7.あなたの施設における状況として当てはまるものを以下の項目から全て選んでください

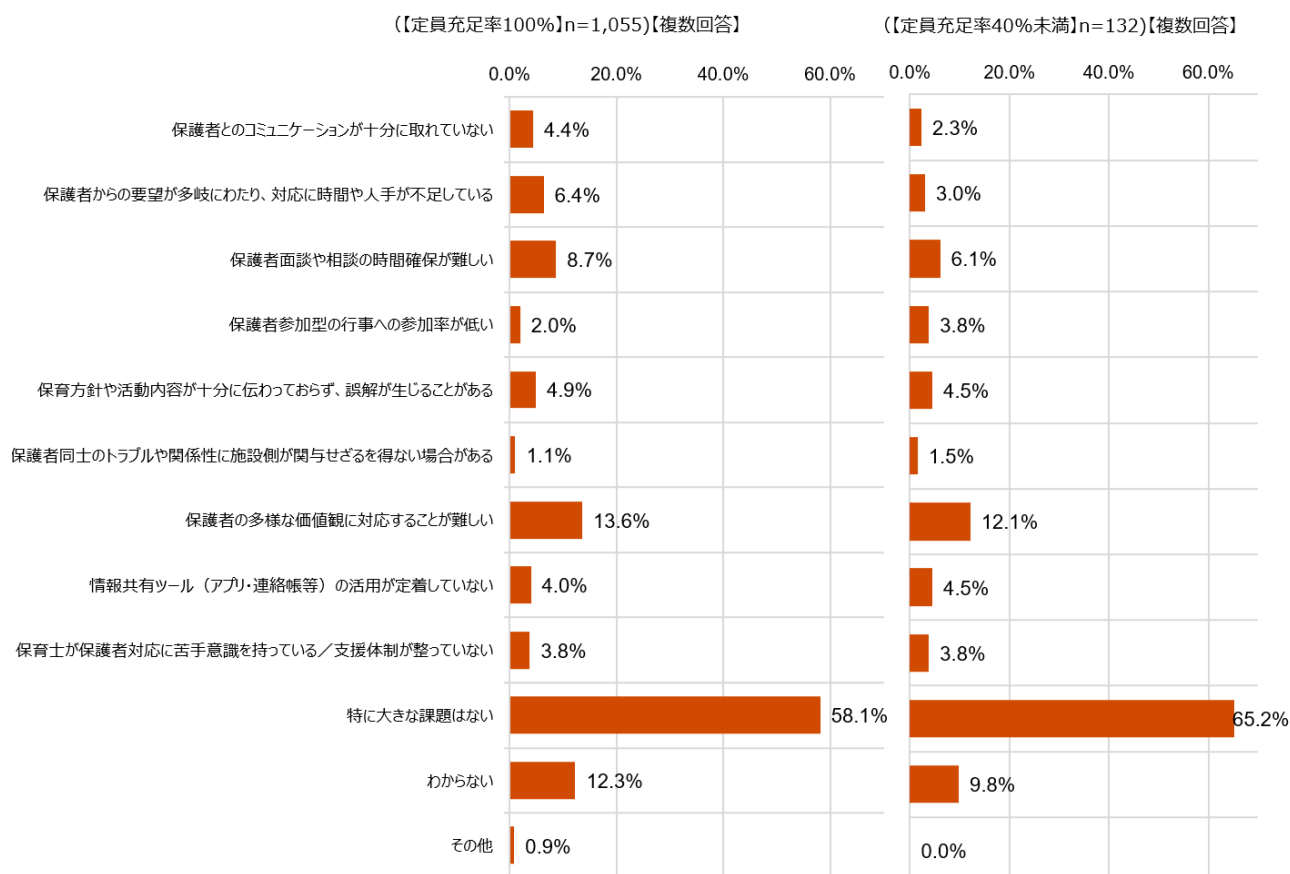


### (オ) 保護者の関わりに関する実施内容

・定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における保護者との関わりに関する課題は、「特に大きな課題はない」と「保護者の多様な価値観に対応することが難しい」が多くなっている。

図表 91 保護者の関わりに関する実施内容（複数回答）

Q3.在籍児童数を教えてください。/Q2.定員数を教えてください× Q7.あなたの施設における状況として当てはまるものを以下の項目から全て選んでください



### (iii) 調査結果から抽出される課題・示唆

単純集計・クロス集計をふまえ、定員充足率 100% (定員を満たしている) と定員充足率 40% 未満 (定員を満たしていない) の施設の結果について、施設長向け調査と同様に、傾向に差がある項目と差がない項目を抽出した。

図表 92 各項目における定員充足率 100% の施設と 40% 未満の施設の差の有無

項目	傾向に差がある項目	傾向に差がない項目
課題	・定員充足率に関する課題	・人員確保等に関する課題 ・施設の環境に関する課題
実施内容	・職員間の関わり	・保護者との関わり

差が「ある」項目について、その傾向や最も差があった回答を整理した。

- ・ 定員充足率に関する課題
  - 定員充足率が 100% の施設における【定員充足率に関する課題】は、「特に大きな課題はない」の回答が最も多く、次いで「わからない」が多かった。一方で、定員充足率が 40% 未満は、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」の回答が最も多く、次いで「保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない」が多く、違いが見られた。
    - ◇ 定員充足率が 100% の施設と 40% 未満の施設における回答で最も差があったのは「特に大きな課題はない」であり、46.4 ポイントの差(100% > 40% 未満)があった。
    - ◇ 施設長向けの調査との違いは、定員充足率が 100% の施設における定員充足率に関する課題として 2 番目に多い回答は、施設長向けでは「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」であるのに対し、従事者向けでは「わからない」であった。定員充足率が 40% 未満における 2 番目に多い回答は、施設長向けでは「福利厚生として設置した施設に対し、対象となる利用者層が縮小している」であるのに対し、従事者向けでは「保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない」であった。
- ・ 職員間の関わり
  - 定員充足率が 100% の施設と 40% 未満の施設における【職員間の関わり】は、「日々の実践や保育の中で生まれる気づきを職員間で共有する機会がある」の回答が最も多く共通であった。次いで多い回答として、定員充足率が 100% の場合「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」、定員充足率が 40% 未満の場合は「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」であり差が見られた。
    - ◇ 定員充足率が 100% の施設と 40% 未満の施設における回答で最も差があったのは「職員との定期的な個別面談を実施している」であり、10.5 ポイントの差(100% > 40% 未満)があった。
    - ◇ 施設長向けの調査との違いは、定員充足率が 100% の施設における定員充足率

に関する課題は、施設長向けでは「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」や「職員との定期的な個別面談を実施している」が多く、差があった。定員充足率が40%未満の場合は、施設長向けも従事者向けも「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」は共通しているが、施設長向けでは「職員との定期的な個別面談を実施している」「保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している」の回答があった。

### (3) 保護者向け調査

全国の企業主導型保育施設を利用する保護者へのアンケート調査により、施設の特色や課題、満足度等の実態を把握した。

#### ① 調査概要

調査概要は図表 93 のとおり。

図表 93 保護者向け調査の概要

分類	調査項目
調査目的	企業主導型保育施設に通う保護者に対して、当該保育施設を選んだ理由や保育施設を利用している現在の満足度等の意向を把握する。
調査対象	全国の企業主導型保育施設（約 4,500 施設）に通う保護者
調査方法	Microsoft Forms による Web 調査。令和 5 年度事業の調査を踏まえ、匿名回答など回答者の負担を減らし、回答しやすい工夫を実施。Microsoft Forms の二次元コードを記載した調査のお知らせについて、企業主導型保育事業実施主体(公益財団法人 児童育成協会)経由で各施設に周知し、各施設から保護者にアンケートに関するチラシ（付録 3 に記載）とともに周知、リマインドを実施。
調査期間	令和 7 年 10 月 14 日～令和 7 年 11 月 21 日

#### ② 調査項目

調査項目は図表 94 のとおりである（詳細は付録 3 に記載）。

図表 94 保護者向け調査項目

分類	調査項目
①保護者の基本情報	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者の属性(運営法人、地域枠)</li><li>・施設から居住地までの送迎手法</li><li>・施設から居住地までの距離</li></ul>
②施設の選定	<ul style="list-style-type: none"><li>・企業主導型保育施設のイメージ</li><li>・認可保育所との差異を知っているか</li><li>・保育施設を選定する際に重要視していること</li><li>・現在利用している企業主導型保育施設を選定した理由</li><li>・当該施設はどのような保育に取り組んでいるか</li></ul>
③施設の満足度	<ul style="list-style-type: none"><li>・お子さまの園での様子</li><li>・施設の保育の質に満足しているかとその理由</li><li>・施設の保育士に満足しているかとその理由</li><li>・施設の環境に満足しているかとその理由</li><li>・施設に改善してほしいことは何か</li></ul>

#### ③ 集計結果

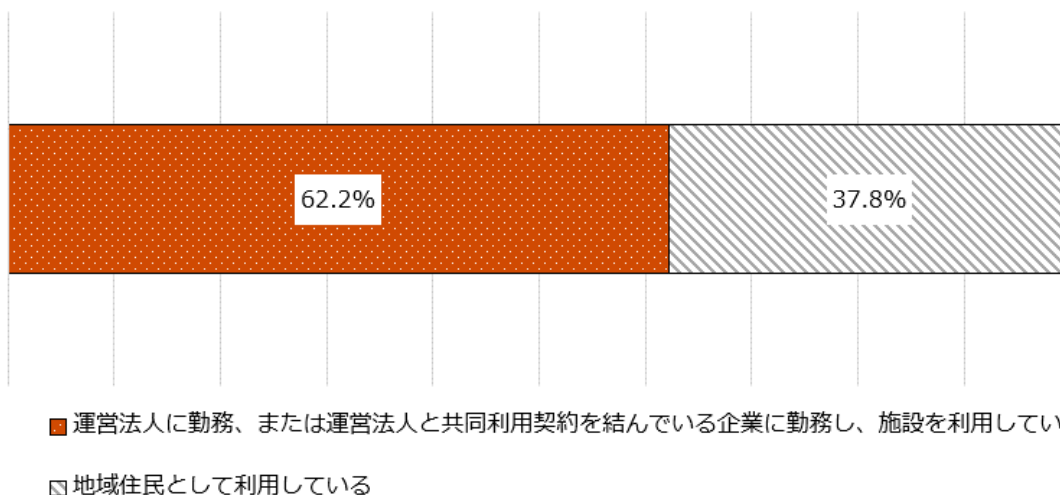
有効回答数は 6,517 件であった。以降、集計結果の概要を述べる。

(i) 単純集計

(ア) 施設利用の枠

・施設利用の枠については、「運営法人に勤務、または運営法人と共同利用契約を結んでいる企業に勤務し、施設を利用している」と回答した割合が62.2%、「地域住民として利用している」が37.8%となっている。

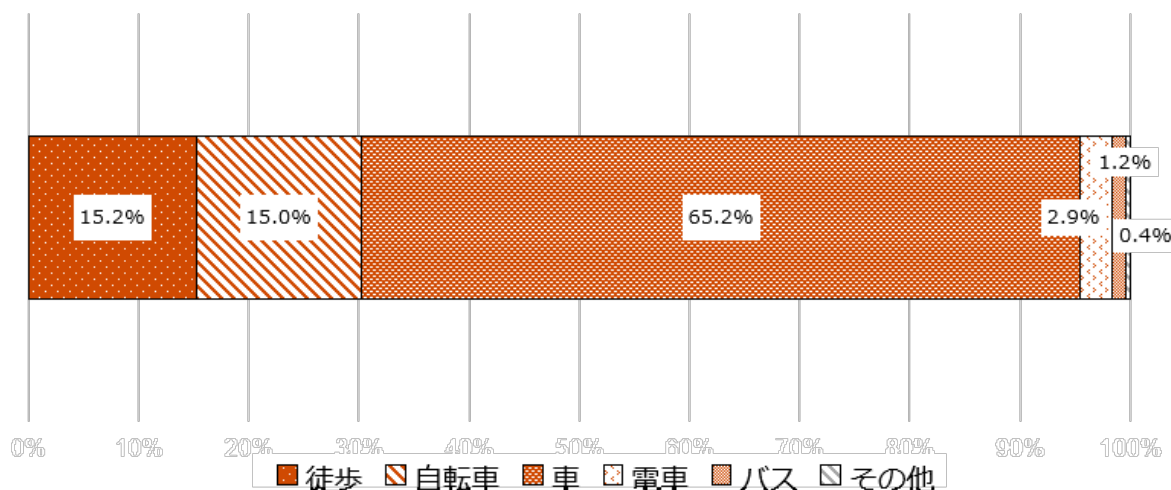
図表 95 施設利用の枠 (n=6,517)



(イ) 主な送迎手段

・主な送迎手段は、「車」と回答した割合が65.2%と最も多く、次いで「徒歩」が15.2%と多くなっている。

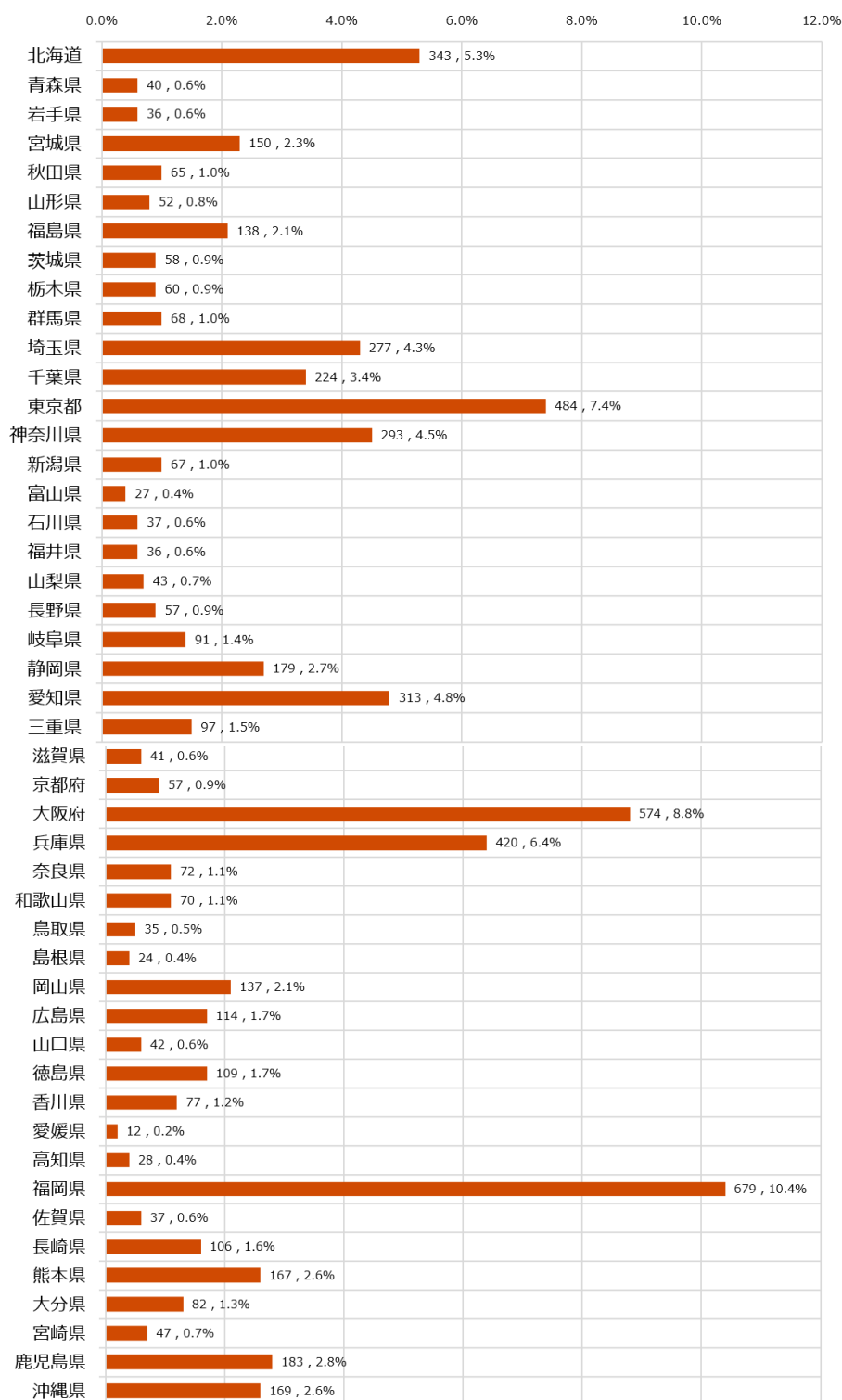
図表 96 主な送迎手段 (n=6,517)



### (ウ) 施設のある都道府県

- ・施設のある都道府県は、「福岡県」と回答した割合が10.4%と最も多く、次いで「大阪府」が8.8%と多くなっている。

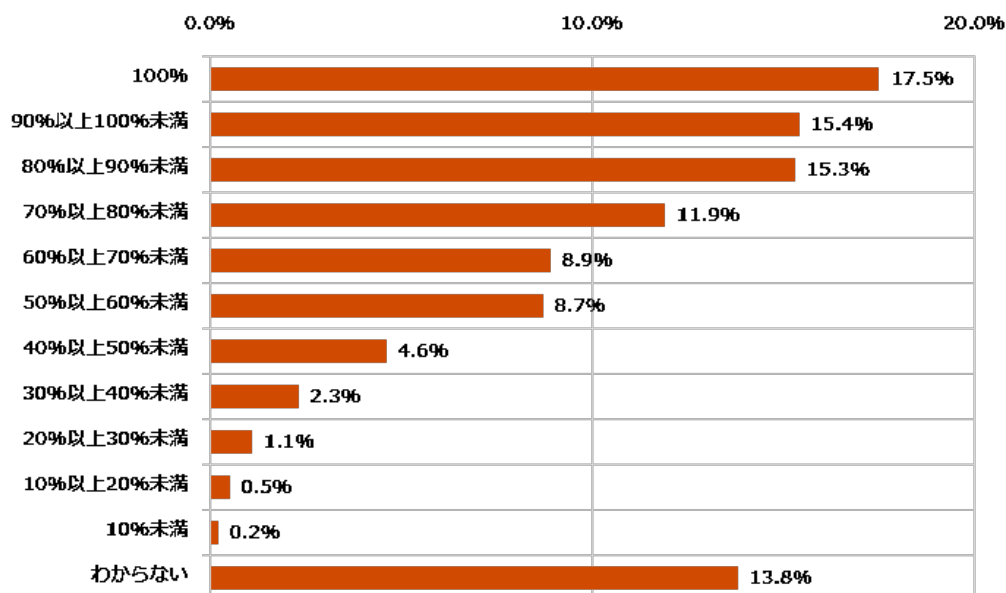
図表 97 施設のある都道府県 (n=6,517)



### (エ) 施設の定員充足率

・施設の定員充足率については、「100%」と回答した割合が17.5%と最も多く、次いで「90%以上100%未満」が15.4%と多くなっている。

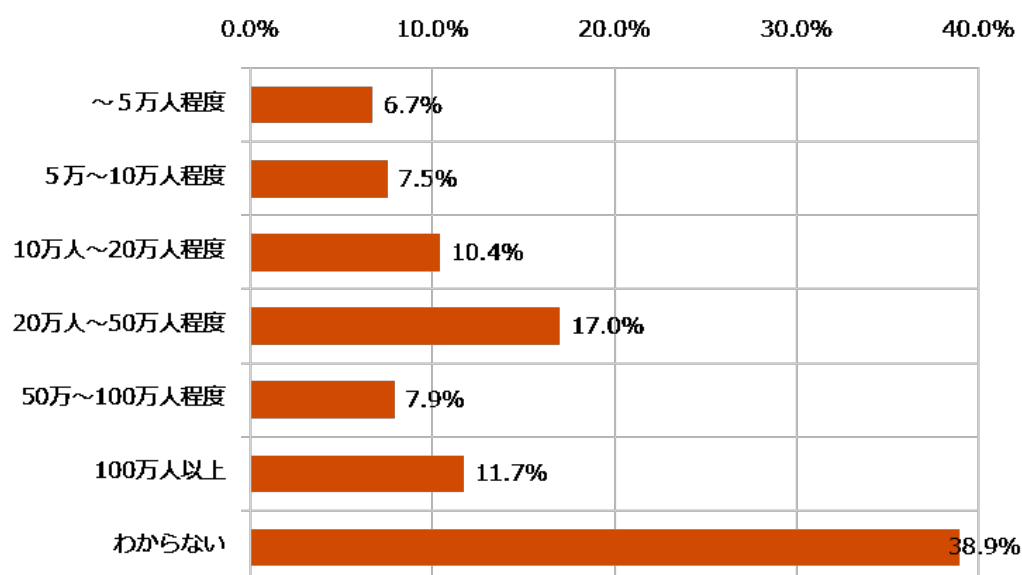
図表 98 施設の定員充足率 (n=6,517)



### (オ) 施設がある市町村の人口規模

・施設がある市町村の人口規模については、「わからない」を除き、「20万人～50万人程度」と回答した割合が17.0%と最も多く、次いで「100万人以上」が11.7%と多くなっている。

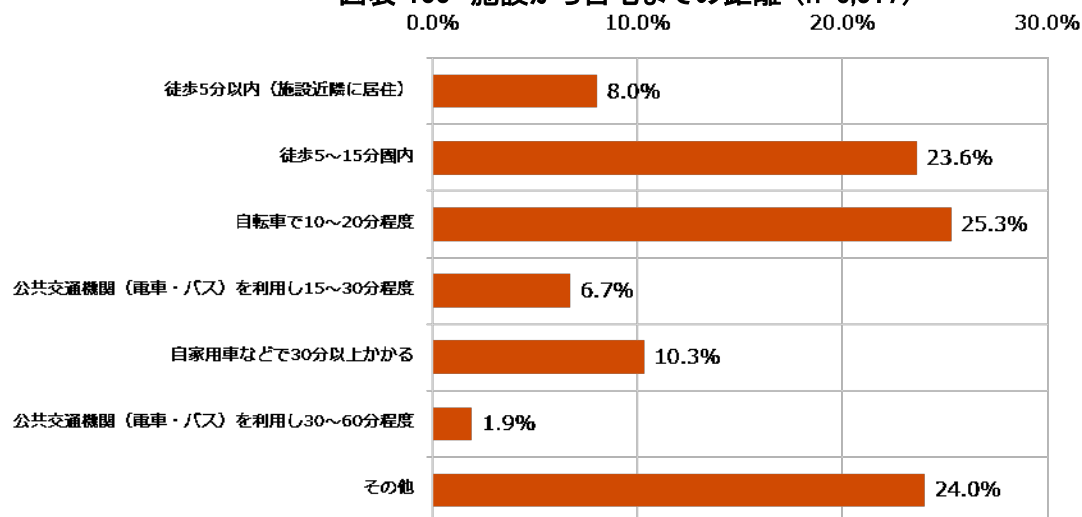
図表 99 施設がある市町村の人口規模 (n=6,517)



### (カ) 施設から自宅までの距離

・施設から自宅までの距離については、「その他」を除き、「自転車で10～20分程度」と回答した割合が25.3%と最も多く、次いで「徒歩5～15分圏内」が23.6%と多くなっている。

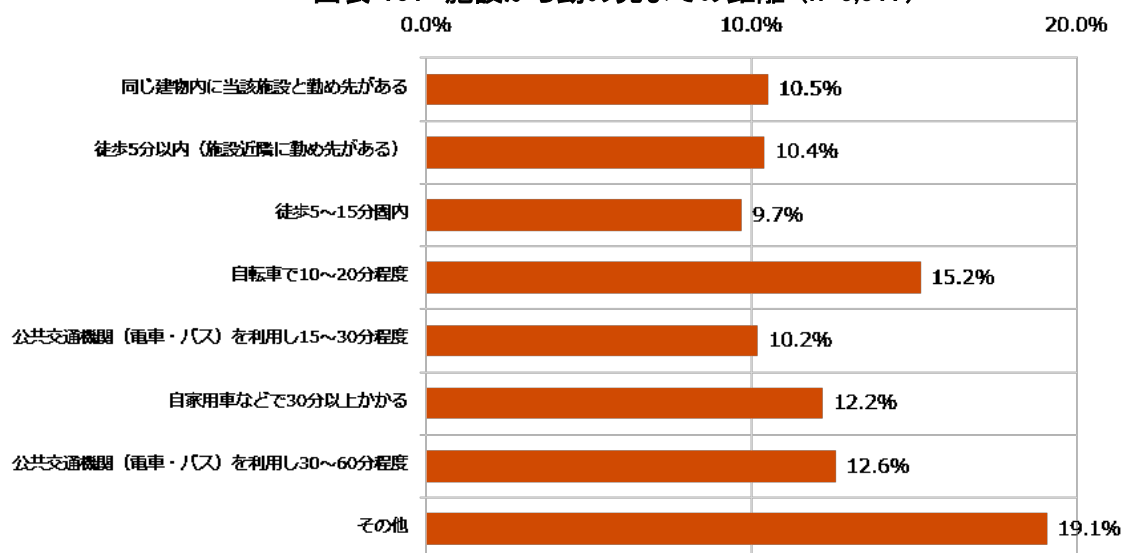
図表 100 施設から自宅までの距離 (n=6,517)



### (キ) 施設から勤め先までの距離

・施設から勤め先までの距離については、「その他」を除き、「自転車で10～20分程度」と回答した割合が15.2%と最も多く、次いで「公共交通機関（電車・バス）を利用し30～60分程度」が12.6%と多くなっている。

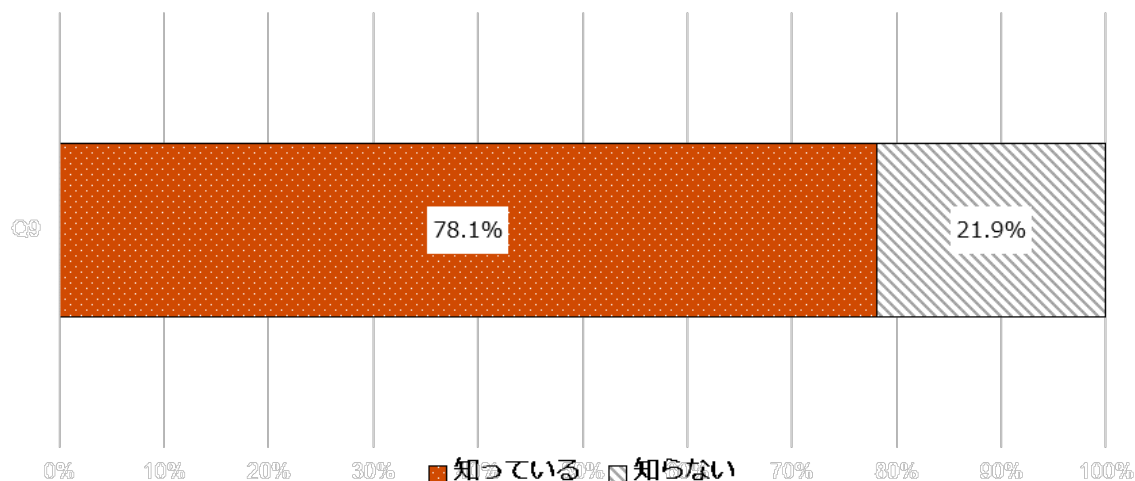
図表 101 施設から勤め先までの距離 (n=6,517)



**(ク) 企業主導型保育施設と認可保育所との違いについて**

・企業主導型保育施設と認可保育所との違いについては、「知っている」と回答した割合が78.1%、「知らない」が21.9%となっている。

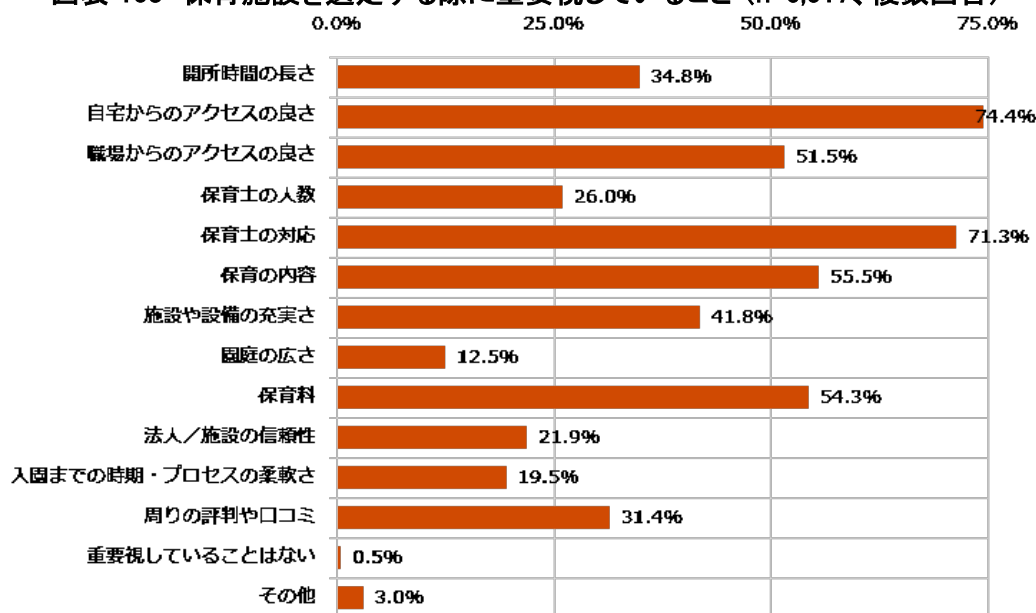
**図表 102 企業主導型保育施設と認可保育所との違いについて (n=6,517)**



**(ケ) 保育施設を選定する際に重要視していること**

・保育施設を選定する際に重要視していることについては、「自宅からのアクセスの良さ」が74.4%と最も多く、次いで「保育士の対応」が71.3%と多くなっている。

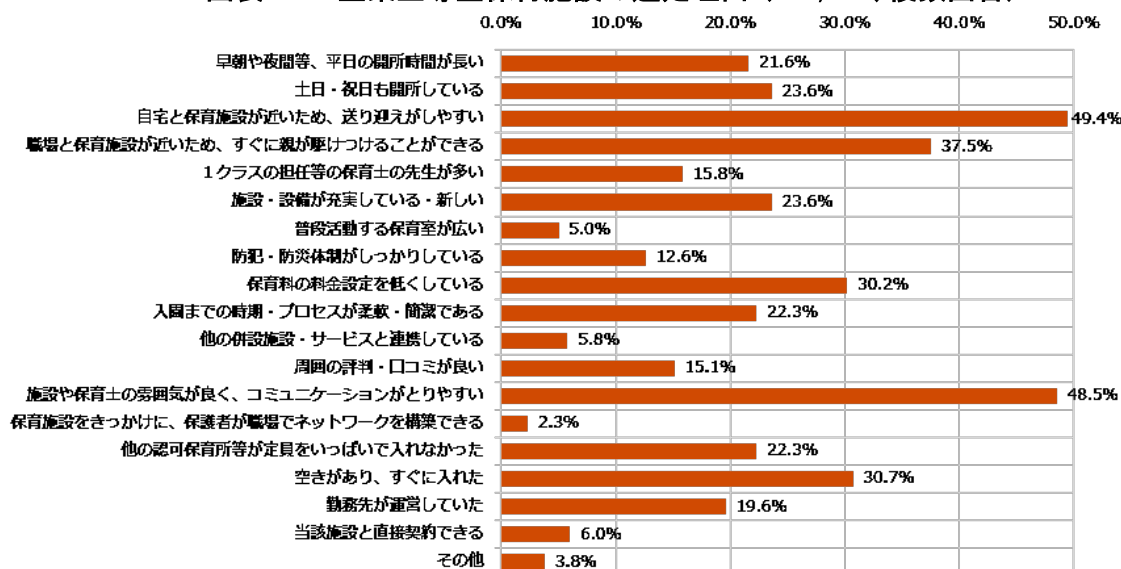
**図表 103 保育施設を選定する際に重要視していること (n=6,517、複数回答)**



## (コ) 企業主導型保育施設の選定理由

・現在利用している企業主導型保育施設を選定した理由については、「自宅と保育施設が近いため、送り迎えがしやすい」が49.4%と最も多く、次いで「施設や保育士の雰囲気良く、コミュニケーションがとりやすい」が48.5%と多くなっている。

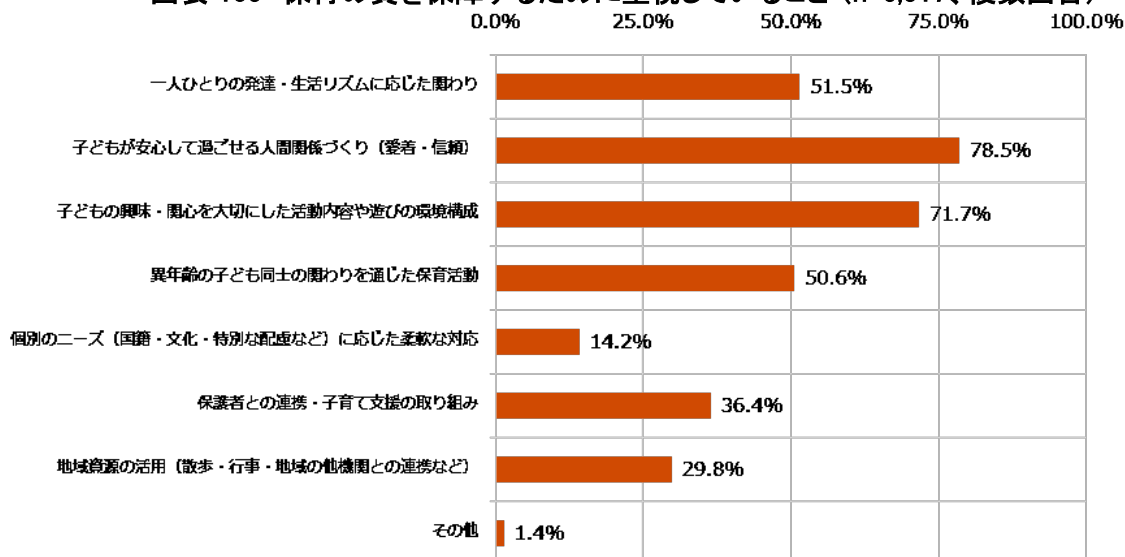
図表 104 企業主導型保育施設の選定理由 (n=6,517、複数回答)



## (サ) 保育の質を保障するために重視していること

・当該施設で取り組まれている保育の質を保障するために重視されていることについては、「子どもが安心して過ごせる人間関係づくり(愛着・信頼)」が78.5%と最も多く、次いで「子どもの興味・関心を大切に活動内容や遊びの環境構成」が71.7%と多くなっている。

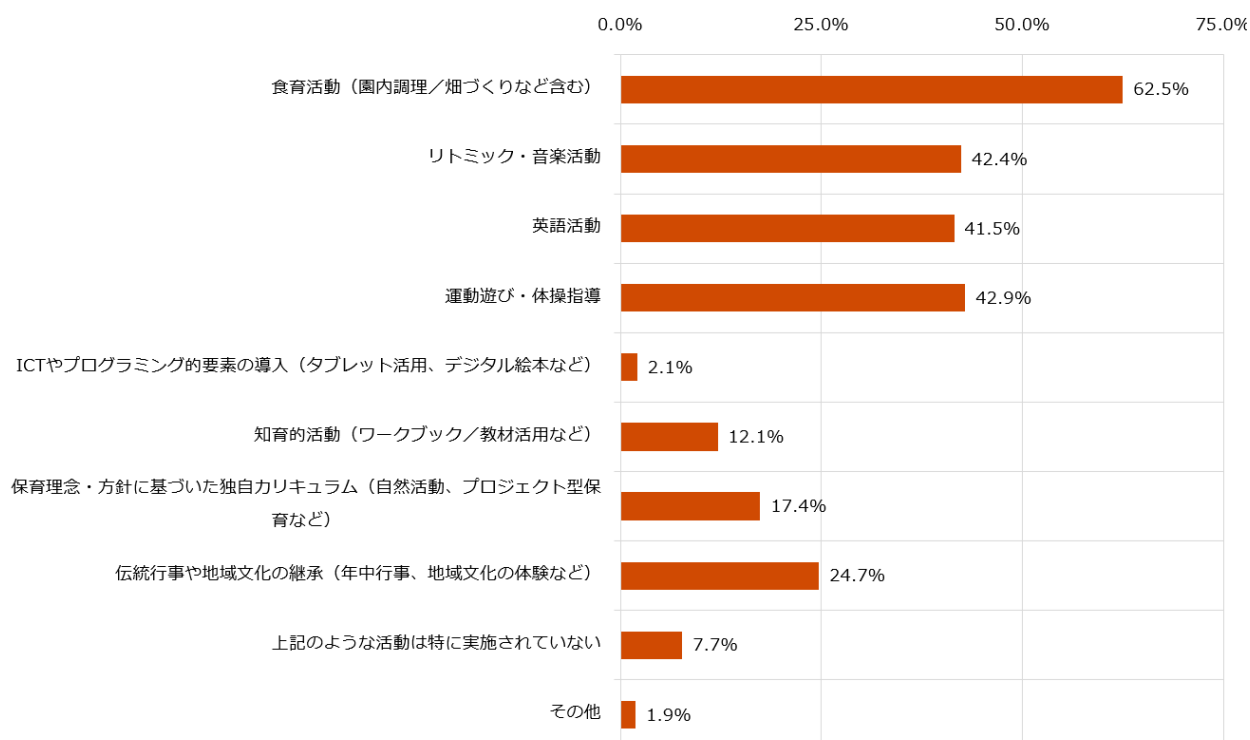
図表 105 保育の質を保障するために重視していること (n=6,517、複数回答)



### (シ) 特色ある活動内容

・当該施設で取り組まれている特色ある活動内容については、「食育活動(園内調理／畑づくりなど含む)」が62.5%と最も多く、次いで「運動遊び・体操指導」が42.9%と多くなっている。

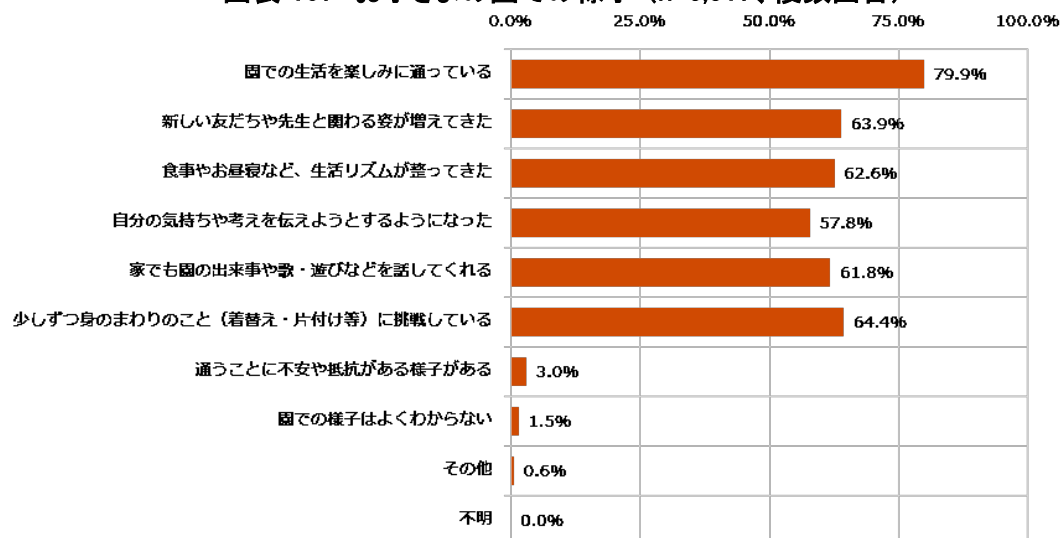
図表 106 特色ある活動内容 (n=6,517、複数回答)



### (ス) お子さまの園での様子

・お子さまの園での様子については、「園での生活を楽しみに通っている」が79.9%と最も多く、次いで「少しずつ身のまわりのこと(着替え・片付け等)に挑戦している」が64.4%と多くなっている。

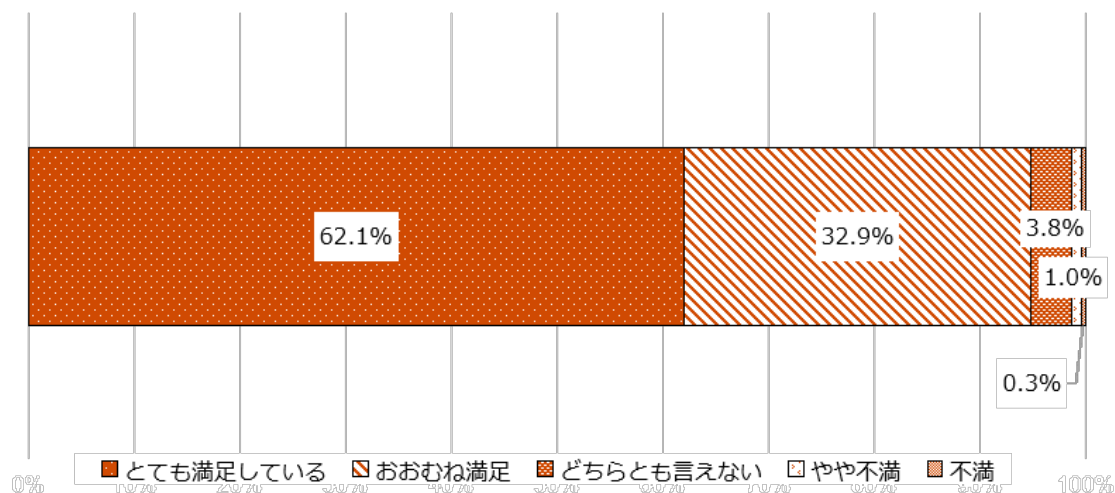
図表 107 お子さまの園での様子 (n=6,517、複数回答)



### (セ) 保育の質に満足しているか

・当該施設の保育の質に満足しているかについては、「とても満足している」と回答した割合が62.1%と最も多く、次いで「おおむね満足」が32.9%と多くなっている。

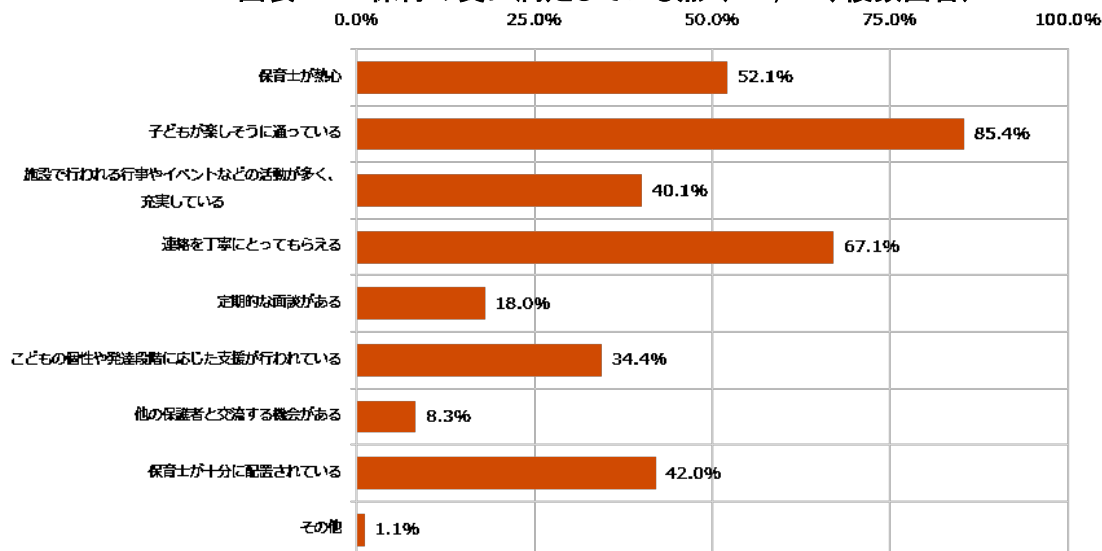
図表 108 保育の質に満足しているか (n=6,517)



### (ソ) 保育の質に満足している点

・当該施設の保育の質に満足している点については、「子どもが楽しそうに通っている」が85.4%と最も多く、次いで「連絡を丁寧にとってもらえる」が67.1%と多くなっている。

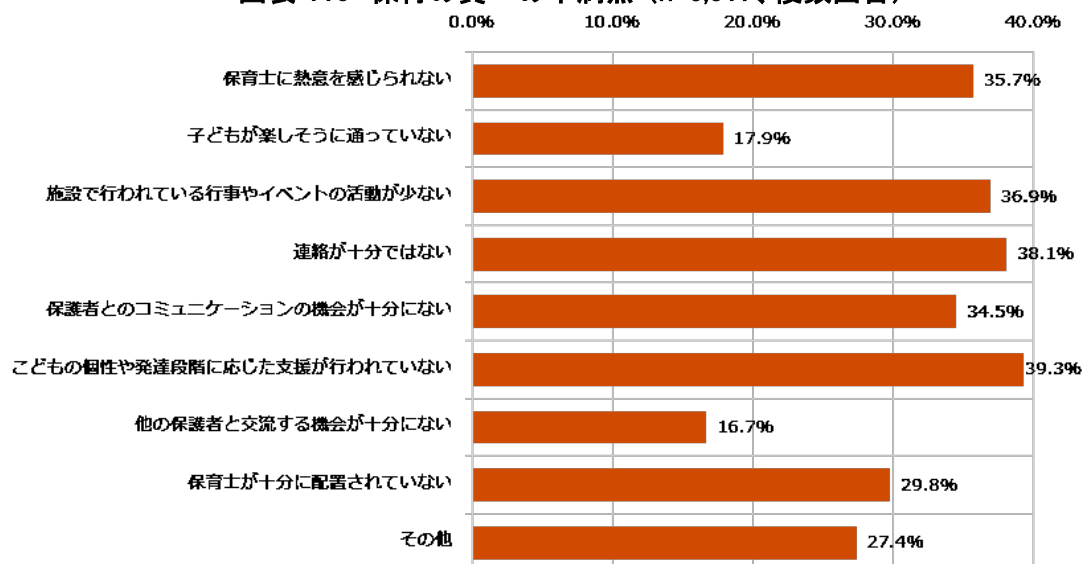
図表 109 保育の質に満足している点 (n=6,517、複数回答)



### (タ) 保育の質への不満点

・当該施設の保育の質への不満点については、「こどもの個性や発達段階に応じた支援が行われていない」が39.3%と最も多く、次いで「連絡が十分ではない」が38.1%と多くなっている。

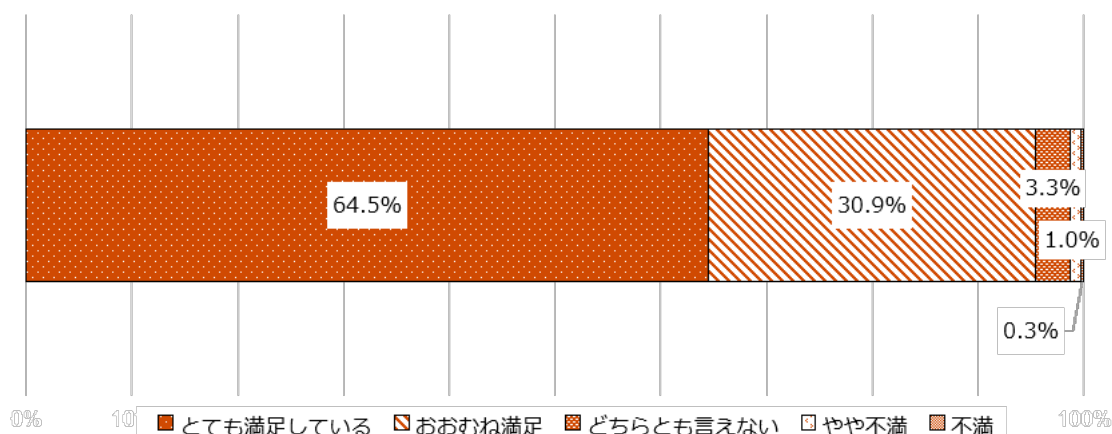
図表 110 保育の質への不満点 (n=6,517、複数回答)



### (チ) 保育士の対応に満足しているか

・当該施設の保育士の対応に満足しているかについては、「とても満足している」と回答した割合が64.5%と最も多く、次いで「おおむね満足」が30.9%と多くなっている。

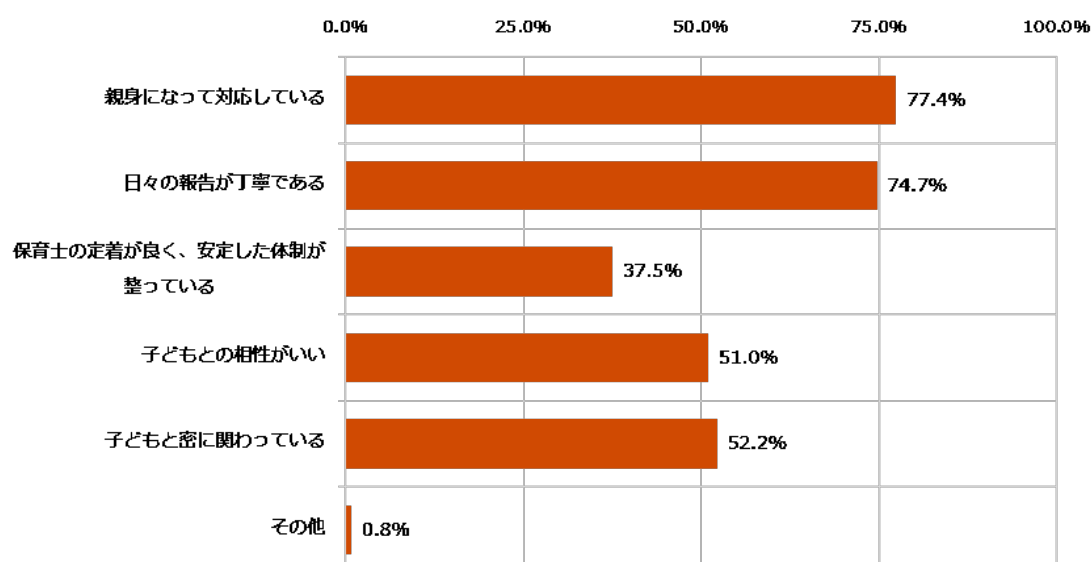
図表 111 保育士の対応に満足しているか (n=6,517)



### (ツ) 保育士の対応に満足している点

・当該施設の保育士の対応に満足している点については、「親身になって対応している」が77.4%と最も多く、次いで「日々の報告が丁寧である」が74.7%と多くなっている。

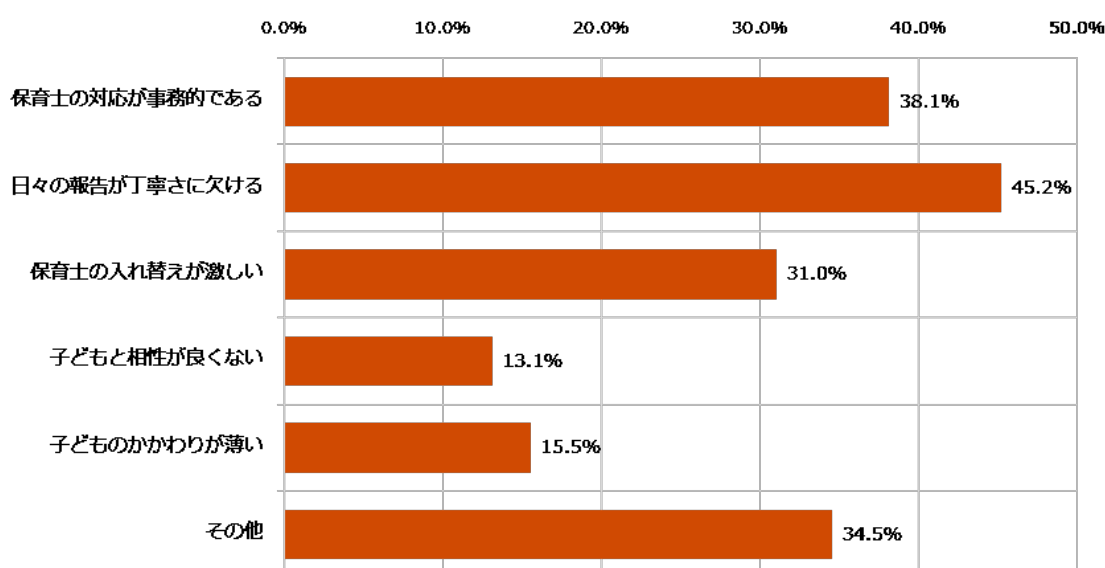
図表 112 保育士の対応に満足している点 (n=6,517、複数回答)



### (テ) 保育士の対応への不満点

・当該施設の保育士の対応への不満点については、「日々の報告が丁寧さに欠ける」が45.2%と最も多く、次いで「保育士の対応が事務的である」が38.1%と多くなっている。

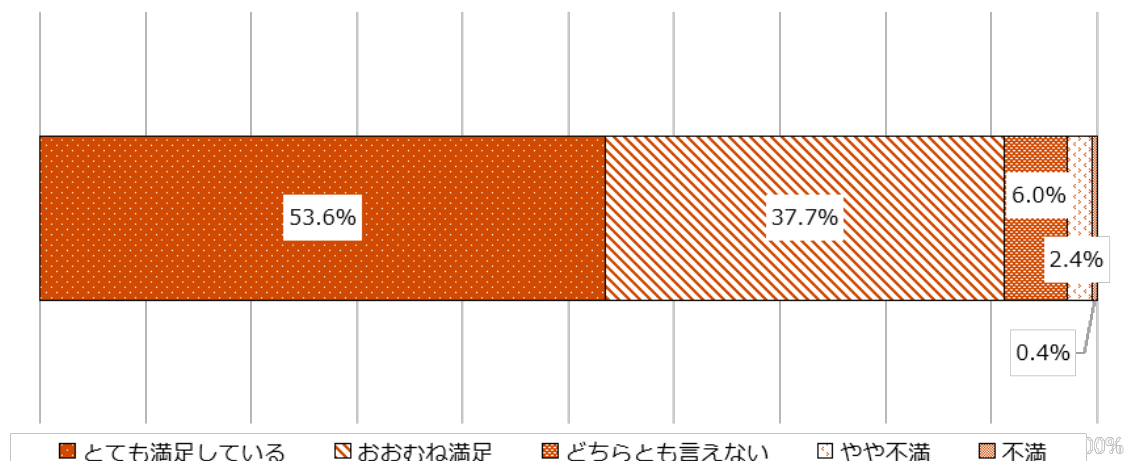
図表 113 保育士の対応への不満点 (n=6,517、複数回答)



### (ト) 施設的环境に満足しているか

・当該施設的环境について満足しているかについては、「とても満足している」と回答した割合が53.6%と最も多く、次いで「おおむね満足」が37.7%と多くなっている。

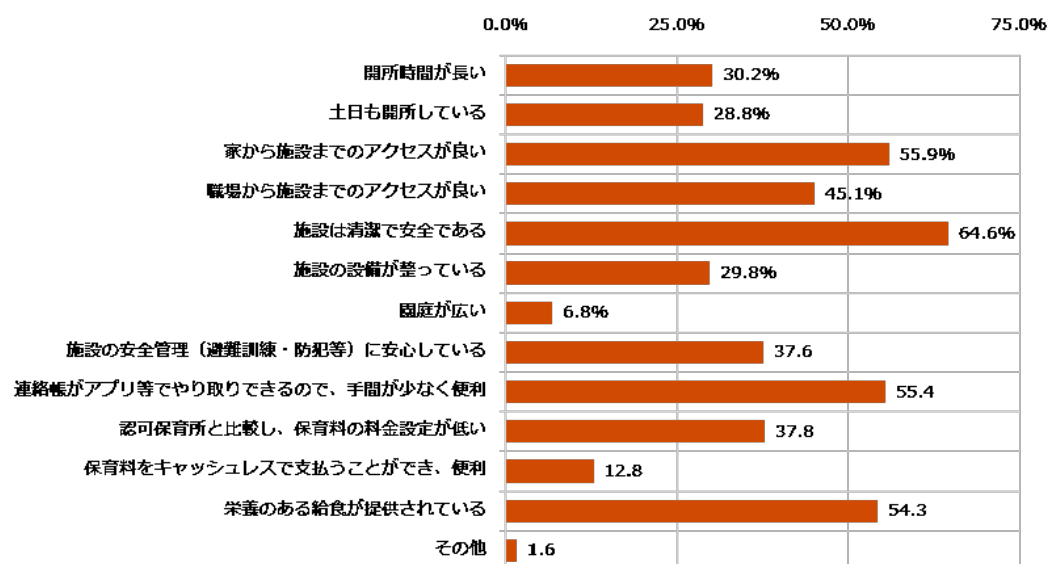
図表 114 施設的环境に満足しているか (n=6,517)



### (ナ) 施設的环境に満足している点

・当該施設的环境に満足している点については、「施設は清潔で安全である」が64.6%と最も多く、次いで「家から施設までのアクセスが良い」が55.9%と多くなっている。

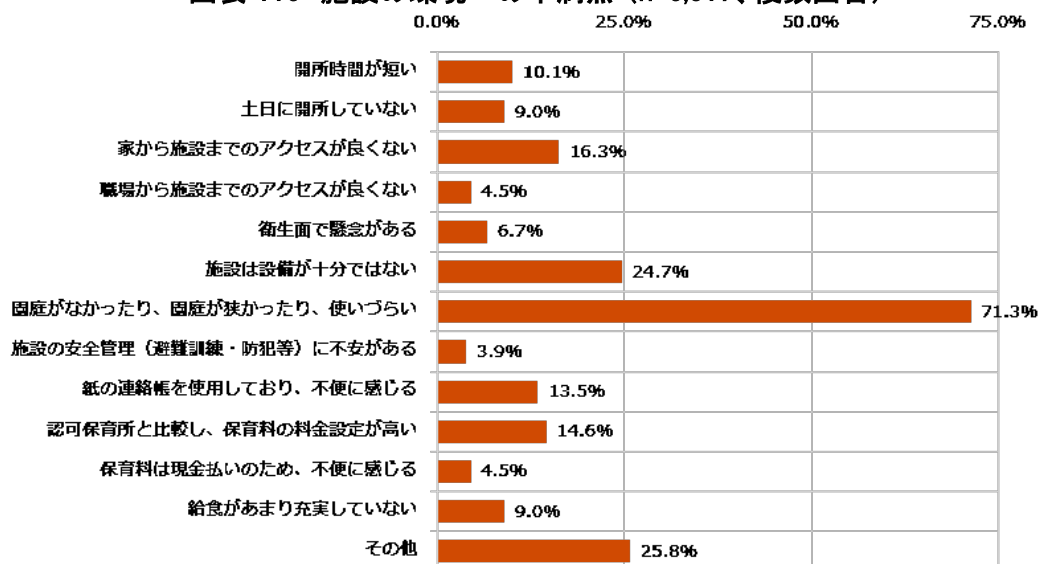
図表 115 施設的环境に満足している点 (n=6,517、複数回答)



## (二) 施設的环境への不満点

・当該施設的环境への不満点については、「園庭がなかったり、園庭が狭かったり、使いづらい」が71.3%と最も多く、次いで「施設は設備が十分ではない」が24.7%と多くなっている。

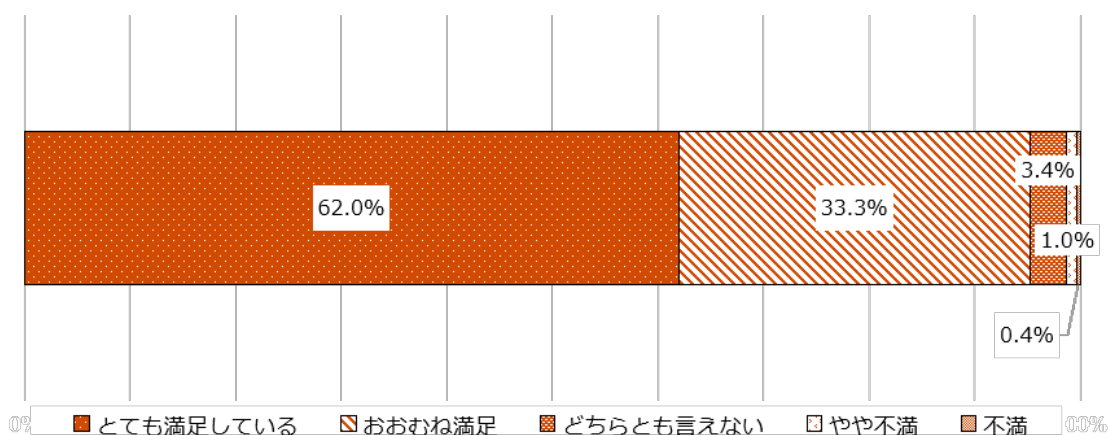
図表 116 施設的环境への不満点 (n=6,517、複数回答)



## (又) 総合的な施設の満足度

・保育の質・保育士の対応・施設的环境を踏まえた総合的な施設の満足度については、「とても満足している」と回答した割合が62.0%と最も多く、次いで「おおむね満足」が33.3%と多くなっている。

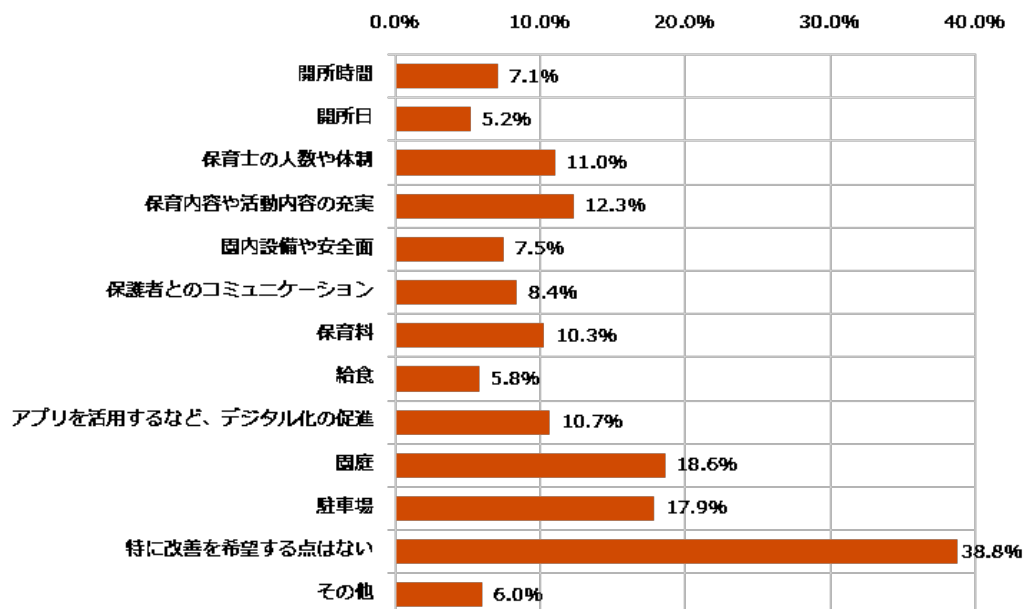
図表 117 総合的な施設の満足度 (n=6,517)



### (ネ) 施設に対して改善を希望する点

・施設に対して改善を希望する点については、「特に改善を希望する点はない」が38.8%と最も多く、次いで「園庭」が18.6%と多くなっている。

図表 118 施設に対して改善を希望する点 (n=6,517、複数回答)



**(ii) クロス集計**

より詳細に実態を把握するために、図表 118 のとおりクロス集計を実施。

**図表 119 クロス集計の概要(保護者向け調査)**

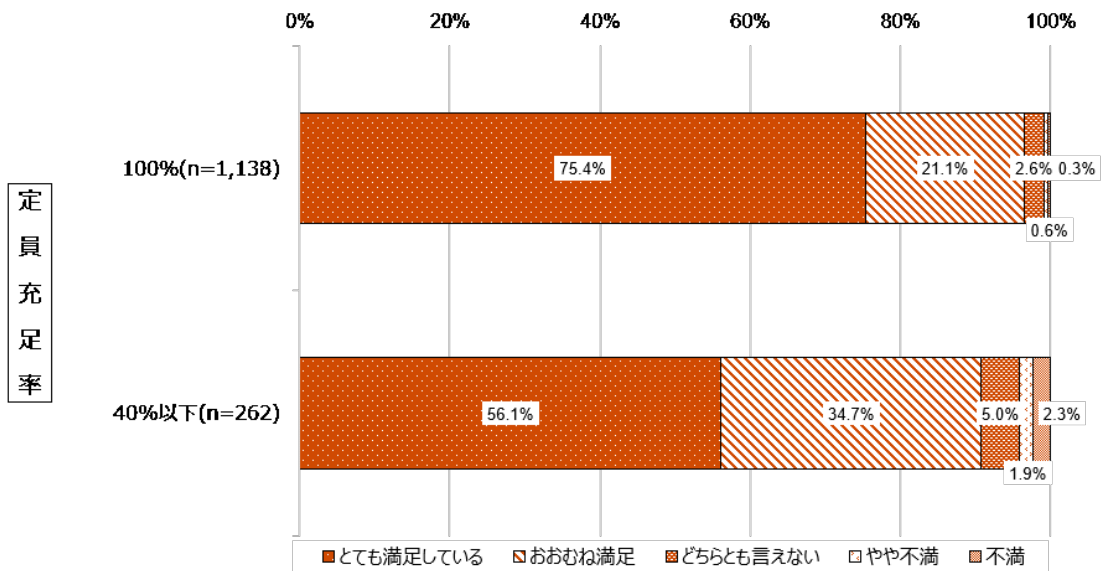
項目	クロス集計の軸	クロス集計実施の意図
定員充足率ごとの満足度	・ 問 5「定員充足率」(①100% ②40%未満)×問 24「施設の総合的な満足度」	・ 定員充足率ごとの利用者の満足度を明らかにする

以下に各設問に対する具体的なクロス集計結果を示す。

**(ア) 定員充足率ごとの総合的な施設の満足度**

・ 各定員充足率において、「とても満足している」「おおむね満足」の回答が全体の9割以上となっている。

**図表 120 定員充足率ごとの総合的な施設の満足度**



### (iii) 調査結果から抽出される課題・示唆

単純集計・クロス集計をふまえ、保護者の現在の満足・不満がある点や施設の選定理由について整理した。

- ・ 満足している点
  - 【総合的な施設の満足度】として、定員充足率が100%の施設を利用する回答者は、「とても満足している」「おおむね満足」の回答が全体の96.5%、40%未満の施設を利用する回答者の場合は全体の90.8%を占めている
  - 【保育の質】に「とても満足している」「おおむね満足」と答えた方(n=6,187)のうち、満足している点については、「子どもが楽しそうに通っている」が85.4%と最も多く、次いで「連絡を丁寧にとってもらえる」が67.1%と多かった
  - 【保育士の対応】に「とても満足している」「おおむね満足」と答えた方(n=6,219)のうち、満足している点については、「親身になって対応している」が77.4%と最も多く、次いで「日々の報告が丁寧である」が74.7%と多かった
  - 【施設的环境】に「とても満足している」「おおむね満足」と答えた方(n=5,951)のうち、満足している点については、「施設が清潔で安全である」が64.6%と最も多く、次いで「家から施設までのアクセスが良い」が55.9%と多かった
  - 改善を希望する点については、「特に改善を希望する点はない」が最も多かった
  
- ・ 不満がある点
  - 【保育の質】に「やや不満」「不満」があると答えた方(n=84)のうち、不満としては「こどもの個性や発達段階に応じた支援が行われていない」が39.3%と最も多く、次いで「連絡が十分ではない」が38.1%と多かった
  - 【保育士の対応】に「やや不満」「不満」があると答えた方(n=84)のうち、不満としては「日々の報告が丁寧さに欠ける」が45.2%と最も多く、次いで「保育士の対応が事務的である」が38.1%と多かった
  - 【施設的环境】に「やや不満」「不満」があると答えた方(n=178)のうち、不満としては「園庭がなかったり、園庭が狭かったり、使いづらい」が71.3%と最も多く、次いで「施設は設備が十分ではない」が24.7%と多かった
  
- ・ 企業主導型保育施設の選定理由
  - 企業主導型保育施設と認可保育所の違いを、「知っている」の回答が78.1%と、「知らない」が21.9%であった
  - 保育施設を選定する際に重要視していることは、「自宅からのアクセスの良さ」が74.4%と最も多く、次いで「保育の内容」が55.5%と多かった
  - 主な送迎手段は、「車」が65.2%と最も多く、次いで「徒歩」が15.2%と多かった
  - 施設における保育の質を保証するために重視していることは、「子どもが安心して過ごせる人間関係づくり(愛着・信頼)」が78.5%と最も多く、次いで「子どもの興

味・関心を大切にした活動内容や遊びの環境構成」が71.7%と多かった。

- 企業主導型保育施設を選定した理由は、「自宅と保育施設が近いため、送り迎えがしやすい」が49.4%と最も多く、次いで「施設や保育士の雰囲気良く、コミュニケーションがとりやすい」が48.5%と多かった

#### (4) 自治体向け調査

企業主導型保育施設に対する指導監督権を有する都道府県、政令指定都市、中核市、児童相談所設置市へのアンケート調査により、定期立入調査の実態や施設について感じる課題などを把握した。

##### ① 調査概要

調査概要は図表 121 のとおり。

図表 121 自治体向け調査の概要

分類	調査項目
調査目的	自治体(都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市)に対し、定期立入調査から抽出される課題を把握する。
調査対象	全都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市：想定対象数 139 自治体
調査方法	オンライン上で回答いただけるよう調査。調査のお知らせについて、こども家庭庁から都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市に依頼状(付録4に記載)とともに周知、リマインドを実施。
調査期間	令和7年10月14日～令和7年11月21日

##### ② 調査項目

調査項目は図表 122 のとおりである(詳細は付録4に記載)。

図表 122 自治体向け調査項目

分類	調査項目
①基本情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体名</li> <li>企業主導型保育施設への監査の有無</li> <li>監査における企業主導型保育事業実施主体(児童育成協会)との連携</li> </ul>
②定期立入調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>認可保育所と企業主導型保育施設の監査における指摘内容に差異を感じるか</li> <li>差異がある場合その内容</li> <li>企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の指摘内容に差異を感じるか</li> <li>差異がある場合その内容</li> <li>企業主導型保育の監査において多い指摘内容</li> <li>児童育成協会が行っている監査との連携について</li> </ul>
③企業主導型保育施設における課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期立入調査を通じた企業主導型保育施設の課題</li> </ul>

### ③ 集計結果

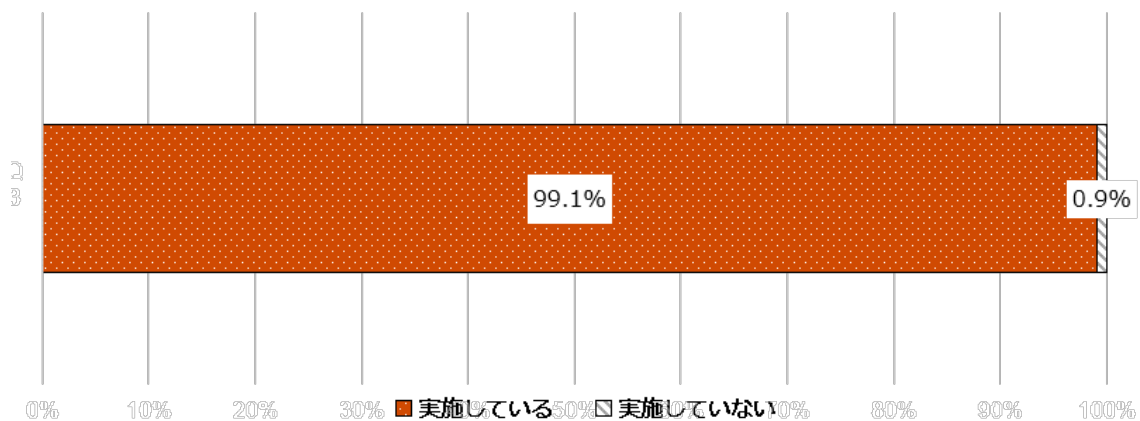
有効回答数は116件（回答率83.5%）であった。以降、集計結果の概要を述べる。

#### (i) 単純集計

##### (ア) 定期立入調査、実地指導等の実施

・企業主導型保育施設への定期立入調査、実地指導等の実施については、「実施している」と回答した割合が99.1%、「実施していない」が0.9%となっている。

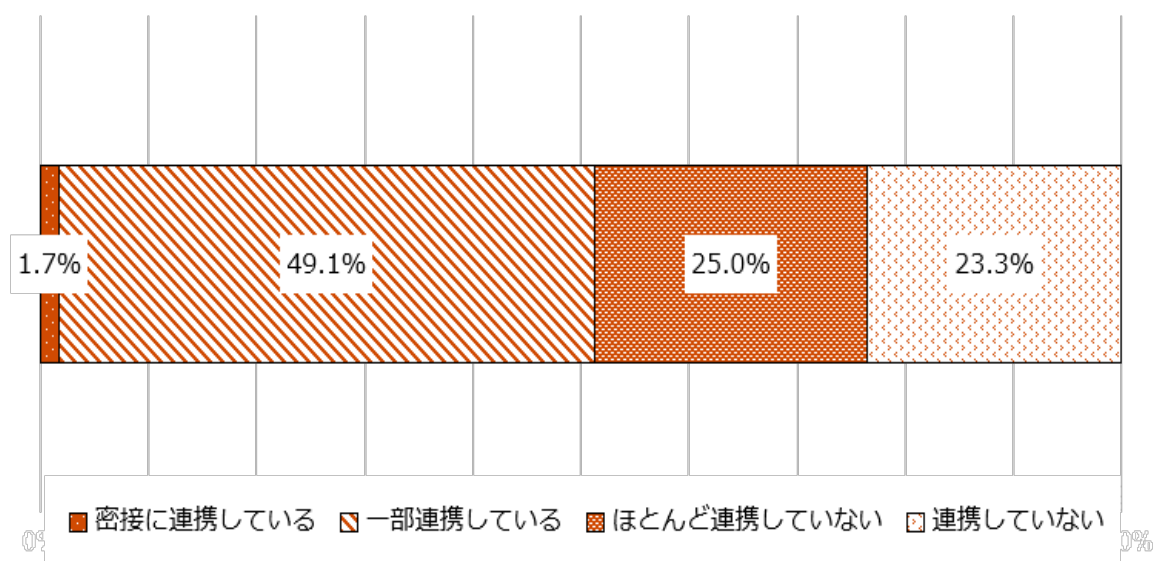
図表 123 定期立入調査、実地指導等の実施 (n=116)



##### (イ) 企業主導型保育事業実施主体との連携

・定期立入調査、実地指導等における、企業主導型保育事業実施主体(児童育成協会)との連携については、「一部連携している(必要時のみ、情報共有や相談等を実施)」と回答した割合が49.1%と最も多く、次いで「ほとんど連携していない」が25.0%と多くなっている。

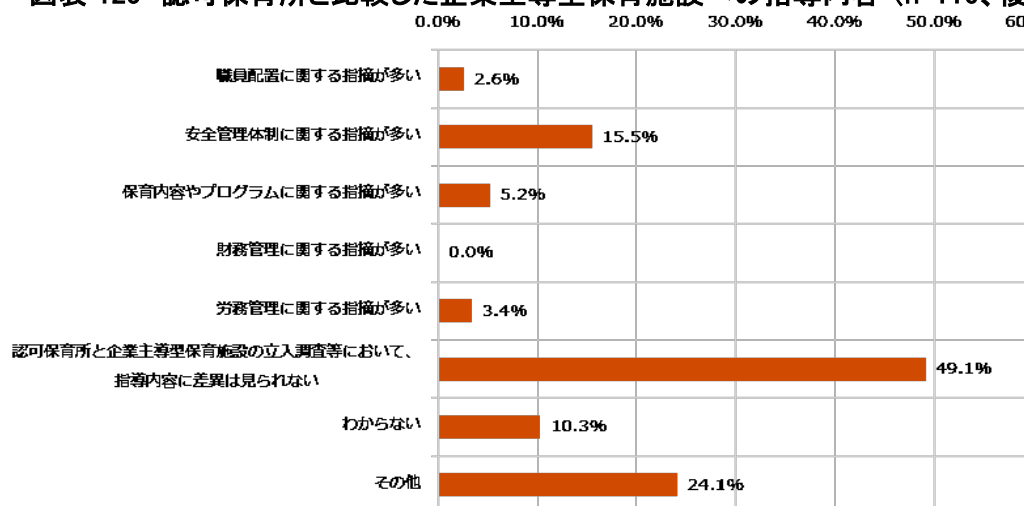
図表 124 企業主導型保育事業実施主体との連携 (n=116)



### (ウ) 認可保育所と比較した企業主導型保育施設への指導内容

- ・認可保育所への監査や運営指導と、企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向に関して、企業主導型保育施設に対する指導の内容については、「認可保育所と企業主導型保育施設の立入調査等において、指導内容に差異は見られない」が49.1%と最も多く、次いで「安全管理体制に関する指摘が多い」が15.5%と多くなっている。
- ・「その他」では「企業主導型保育施設に指摘事項はない」の回答が多かった。

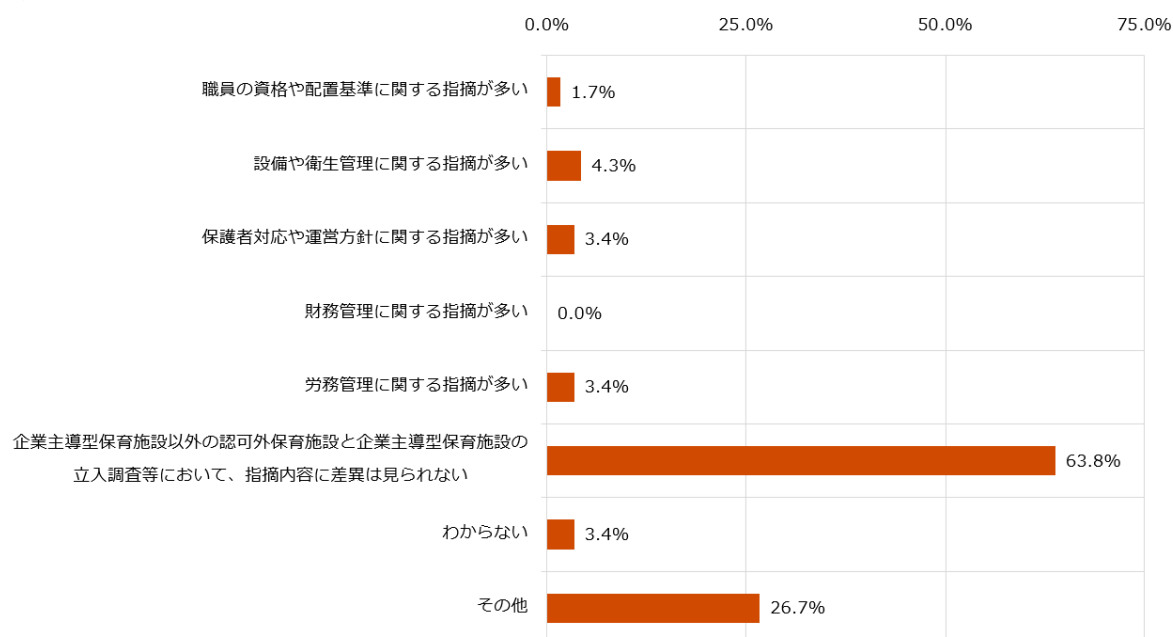
図表 125 認可保育所と比較した企業主導型保育施設への指導内容 (n=116、複数回答)



### (エ) 認可外保育施設と比較した企業主導型保育施設への指導内容

- ・企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向に関して、企業主導型保育施設に対する指導の内容については、「企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の立入調査等において、指摘内容に差異は見られない」が63.8%と最も多く、次いで「設備や衛生管理に関する指摘が多い」が4.3%と多くなっている。
- ・「その他」は「企業主導型保育施設に対する指摘はほとんどない」が多かった。

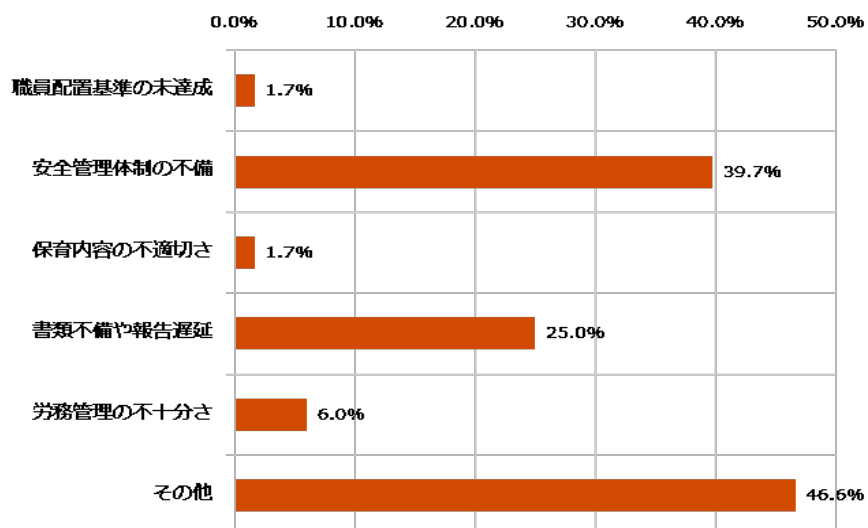
図表 126 認可外保育施設と比較した企業主導型保育施設への指導内容 (n=116、複数回答)



### (オ) 定期立入調査で指摘の多い内容

- ・企業主導型保育施設の定期立入調査等において、特に多い指摘内容としては、「安全管理体制の不備」が39.7%と最も多く、次いで「書類不備や報告遅延」が25.0%と多くなっている。
- ・「その他」では「企業主導型保育施設に指摘事項はない」の回答が多かった。

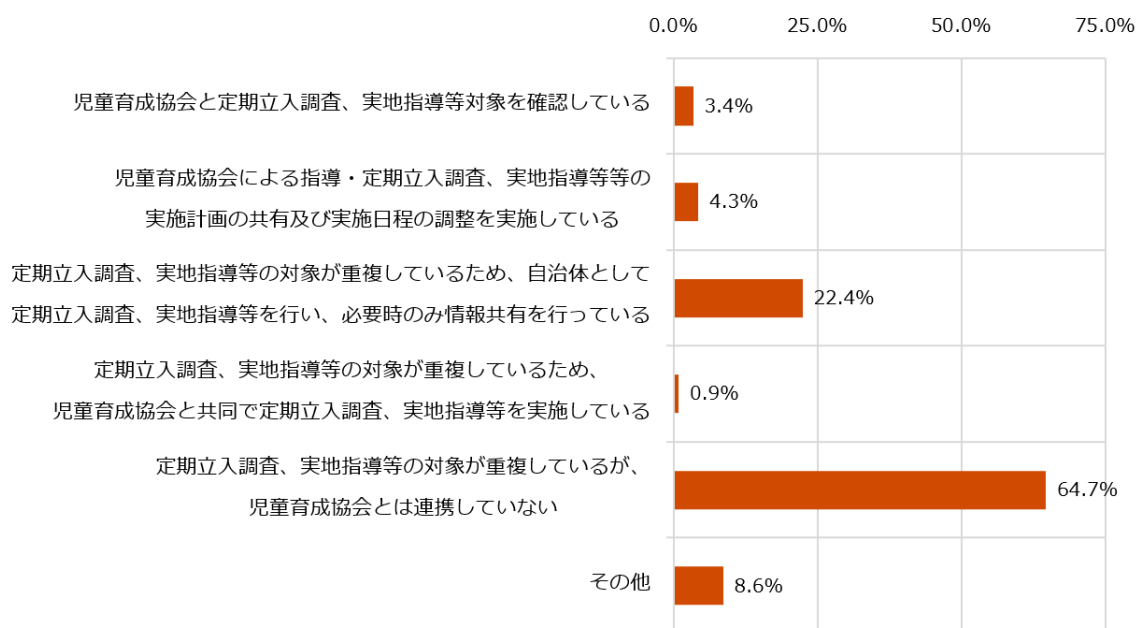
図表 127 定期立入調査で指摘の多い内容 (n=116、複数回答)



**(カ) 児童育成協会による監査と定期立入調査との連携状況**

・児童育成協会が行う監査と自治体の定期立入調査等との連携状況については、「定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているが、児童育成協会とは連携していない」が64.7%と最も多く、次いで「定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているため、自治体として定期立入調査、実地指導等を行い、必要時のみ情報共有を行っている」が22.4%と多くなっている。

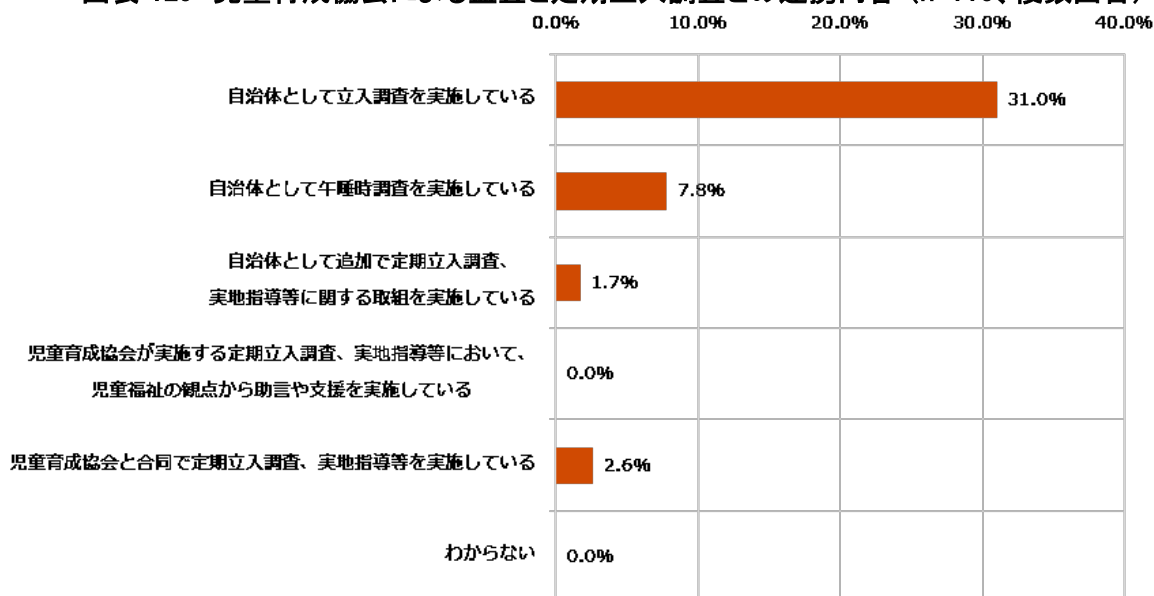
**図表 128 児童育成協会による監査と定期立入調査との連携状況 (n=116、複数回答)**



**(キ) 児童育成協会による監査と定期立入調査との連携内容**

・児童育成協会が行う監査と自治体の定期立入調査等との連携内容については、「自治体として立入調査を実施している」が31.0%と最も多く、次いで「自治体として午睡時調査を実施している」が7.8%と多くなっている。

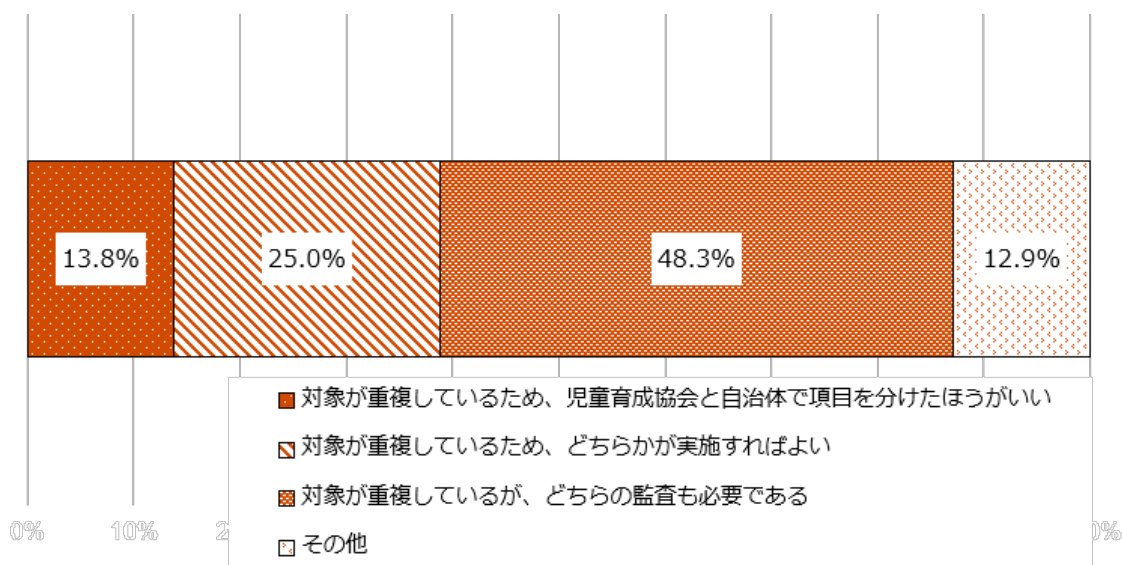
**図表 129 児童育成協会による監査と定期立入調査との連携内容 (n=116、複数回答)**



**(ク) 定期立入調査、実地指導等における児童育成協会との連携**

・定期立入調査、実地指導等における、企業主導型保育事業実施主体(児童育成協会)との連携については、「対象が重複しているが、どちらの監査も必要である」が48.3%と最も多く、次いで「対象が重複しているため、どちらかが実施すればよい」が25.0%と多くなっている。

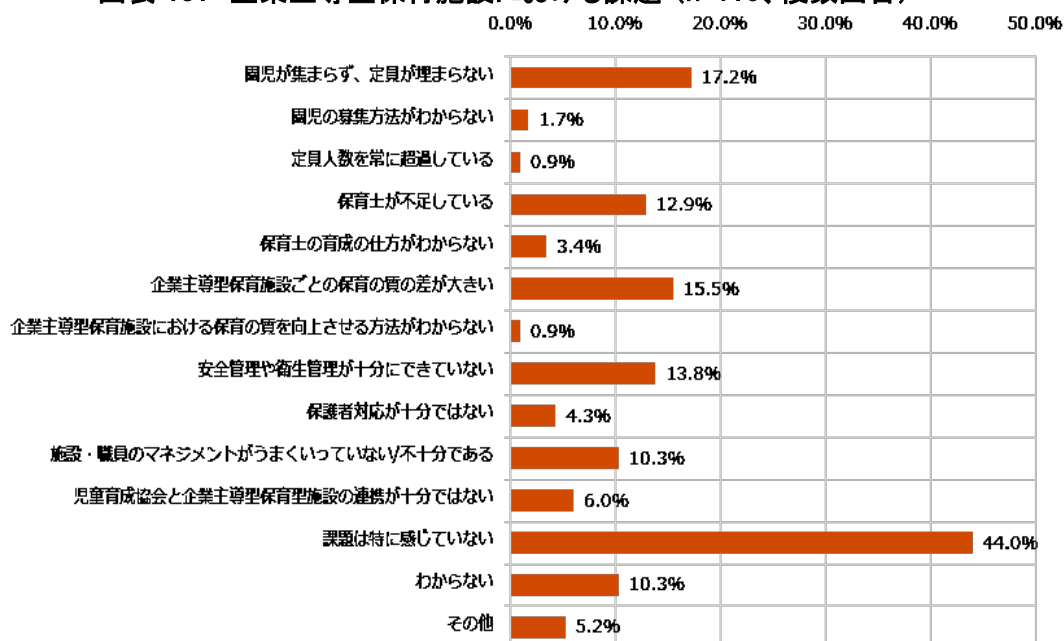
**図表 130 定期立入調査、実地指導等における児童育成協会との連携 (n=116)**



### (ケ) 企業主導型保育施設における課題

・認可外保育施設に対する指導監督基準等を踏まえた企業主導型保育施設における課題については、「課題は特に感じていない」が44.0%と最も多く、次いで「園児が集まらず、定員が埋まらない」が17.2%と多くなっている。

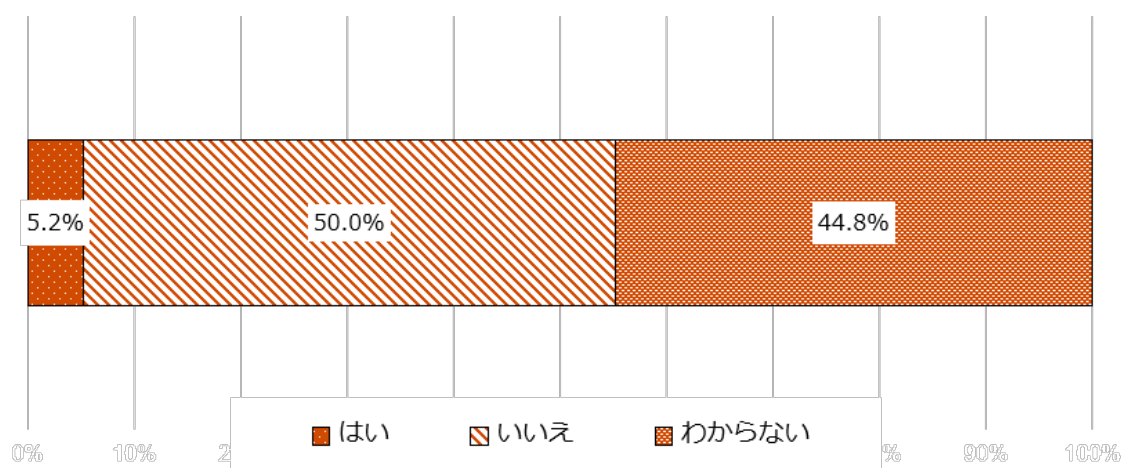
図表 131 企業主導型保育施設における課題 (n=116、複数回答)



### (コ) 定員充足率が低い施設に特有の課題を感じているか

・定員充足率が低い施設(定員充足率が40%未満)に特有の課題を感じているかについては、「いいえ」と回答した割合が50.0%と最も多く、次いで「わからない」が44.8%と多くなっている。

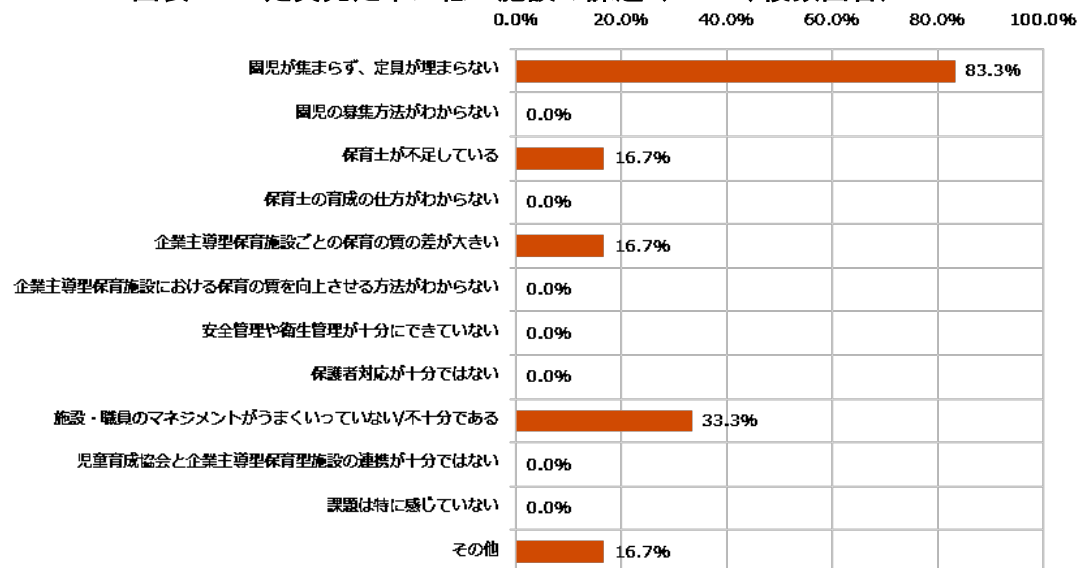
図表 132 定員充足率が低い施設に特有の課題を感じているか (n=116)



### (サ) 定員充足率が低い施設の課題

・Q12にて、定員充足率が低い施設にて特有の課題を「感じている」と回答した方のうち、定員充足率が低い施設の課題については、「園児が集まらず、定員が埋まらない」が83.3%と最も多く、次いで「施設・職員のマネジメントがうまくいっていない/不十分である」が33.3%と多くなっている。

図表 133 定員充足率が低い施設の課題 (n=116、複数回答)



## (ii) 調査結果から抽出される課題・示唆

定期立入調査、実地指導等を行うという観点から、その指摘内容の傾向や調査対象の重複による考えを整理した。

- ・ 施設に対する指摘内容
  - 定期立入調査で指摘の多い内容として、「その他」を除き、「安全管理体制の不備」が39.7%と最も多く、次いで「書類不備や報告遅延」が25.0%と多かった
    - ◇ 「その他」では「企業主導型保育施設に指摘事項はない」の回答が多かった。
  - 【認可保育所】への監査や運営指導と企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向について、企業主導型保育施設に対する具体的な内容は、「その他」を除き、「認可保育所と企業主導型保育施設の立入調査等において、指摘内容に差異は見られない」が49.1%と最も多く、次いで「安全管理体制に関する指摘が多い」が15.5%と多かった。
    - ◇ 「その他」では「企業主導型保育施設に指摘事項はない」の回答が多かった。
  - 【企業主導型保育施設以外の認可外保育施設】と企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向について、企業主導型保育施設に対する具体的な内容は、「その他」を除き、「企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の立入調査等において、指摘内容に差異は見られない」が63.8%と最も多く、次いで「設備や衛生管理に関する指摘が多い」が4.3%と多かった。
    - ◇ 「その他」では「企業主導型保育施設に対する指摘はほとんどない」の回答が多かった。
  - 全体として、他保育施設と指摘内容に差異はなく、安全管理体制に関する指摘があるという傾向が明らかになった。
- ・ 定期立入調査、実地指導等における対象の重複
  - 監査と定期立入調査との連携状況としては、「定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているが、児童育成協会とは連携していない」が64.7%、「定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているため、自治体として定期立入調査、実地指導等を行い、必要時のみ情報共有を行っている」が22.4%となっており、対象が重複しているものの、児童育成協会と連携していない自治体が過半数以上であった。
  - 定期立入調査と実地指導の考えとして、「対象が重複しているが、どちらの監査も必要である」が48.3%、「対象が重複しているため、どちらかが実施すればよい」が25.0%、「対象が重複しているため、児童育成協会と自治体で項目を分けたほうがよい」が13.8%であり、現状の監査を望む声は全体の48.4%、重複を避ける改善を希望する声は全体の38.8%であった。
  - 一方、施設長向け調査における自由記述回答では、「児童育成協会と自治体それぞれで調査を行われることは負担」の回答が複数見られた。

## (5) 認可保育所関連のデスクトップリサーチ

認可保育所における定員充足率や待機児童数等についてデスクトップリサーチを行い、企業主導型保育施設における地域分析に活用した。

### ① デスクトップリサーチの目的

企業主導型保育施設は保育提供体制の一部でしかないため、認可保育所のデータと比較することによって、企業主導型保育施設の課題等を正確に把握する。

### ② デスクトップリサーチ対象・内容

図表 133 の市町村を対象に、「認可保育所の定員充足率」「待機児童数」「認可保育所の利用者数の増減」「他認可保育所(保育所、認定こども園、地域型保育事業等)の数」「未就学児の数」「地域の特徴(都市部への距離や、地理的特徴等)」を比較・分析した。リサーチの結果は図表 135～図表 137 のとおりである。

(i) 企業主導型保育施設において、定員充足率の上位5市町村・下位5市町村

※市町村における企業主導型保育施設数は5施設以上の市町村を対象とする

(ii) 企業主導型保育施設において、施設数が上位5市町村デスクトップリサーチ

図表 134 デスクトップリサーチ対象市町村

市町村名	#	定員充足率の高い 上位5市町村	定員充足率の低い 下位5市町村	施設数の多さ 上位5市町村
	1	愛知県清須市	東京都千代田区	大阪府大阪市
	2	大阪市寝屋川市	千葉県流山市	福岡県福岡市
	3	熊本県合志市	北海道函館市	北海道札幌市
	4	山口県下松市	福井県福井市	神奈川県横浜市
	5	大阪府大東市	東京都港区	鹿児島県鹿児島市

図表 135 デスクトップリサーチ内容(1/3)

	#	リサーチ地域	施設数	企業主 定員充 足率	認可保育所の定員充足率(令和6年度)			地域分析の対象市町村における待機児童数		
					保育所	幼保連携型 認定こども園	地域型保育事 業	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定員充足率の高い 上位5市町村	1	愛知県清須市	6	98.6%	70.4%	97.2%	85.1%	0	0	0
	2	大阪市寝屋川市	6	96.6%	95.1%	100.1%	71.8%	0	0	0
	3	熊本県合志市	6	91.7%	94.3%	100.6%	93.1%	4	2	0
	4	山口県下松市	6	89.7%	99.8%	-	88.4%	8	10	9
	5	大阪府大東市	5	88.5%	98.1%	98.3%	77.5%	-	-	-
定員充足率の低い 下位5市町村	1	東京都千代田区	6	21.6%	82.8%	-	13.4%	-	-	0
	2	千葉県流山市	6	30.8%	94.6%	101.0%	78.1%	0	0	0
	3	北海道函館市	9	42.4%	92.7%	93.4%	77.0%	3	0	0
	4	福井県福井市	7	44.7%	79.2%	82.8%	-	0	0	0
	5	東京都港区	16	44.7%	80.3%	-	67.2%	0	-	0
施設数の多さ 上位5市町村	1	大阪府大阪市	238	67.8%	90.9%	85.9%	81.3%	4	4	2
	2	福岡県福岡市	176	73.1%	96.0%	96.8%	77.1%	1	0	0
	3	北海道札幌市	151	66.0%	88.7%	105.9%	81.4%	0	0	0
	4	神奈川県横浜市	98	74.4%	96.8%	95.8%	91.1%	11	10	5
	5	鹿児島県鹿児島市	97	70.6%	90.9%	97.1%	70.6%	136	21	0

図表 136 デスクトップリサーチ内容(2/3)

	#	リサーチ地域	認可保育所の利用者数の増減			他認可保育所の数 (令和7年度の実績値)	未就学児数 (令和6年度)
			令和3~4 年	令和4~5 年	令和5~6 年		
定員充足率の高い 上位5市町村	1	愛知県清須市	▲169	▲17	▲84	19(保育所12,認定こども園3,小規模保育4)	3,678
	2	大阪市寝屋川市	▲33	▲43	77	48(保育所15,認定こども園31,事業所内保育事業所2)	8,667
	3	熊本県合志市	▲11	▲29	-	32(保育所24,認定こども園3,地域型保育事業所5)	-
	4	山口県下松市	-	-	-	18(保育所10,認定こども園3,地域型保育事業所5)	-
	5	大阪府大東市	▲74	▲21	18	30(保育所5,認定こども園22,地域型保育事業所3)	4,542
定員充足率の低い 下位5市町村	1	東京都千代田区	-	-	-	38(保育所22,こども園2,認定こども園1,幼保一体施設4,地域型保 育事業8)	3,274
	2	千葉県流山市	466	483	270	112(保育所82,私立認定こども園9,私立小規模保育事業21)	14,188
	3	北海道函館市	▲131	▲63	▲143	65(保育所5,認定こども園48,事業所内保育12)※ <sup>2</sup>	6,802
	4	福井県福井市	▲131	▲63	▲143	91(保育所22,認定こども園69)	11,582
	5	東京都港区	▲126	▲17	167	104(保育所90,認定こども園1,地域型保育事業所13)	14,756
施設数の多さ 上位5市町村	1	大阪府大阪市	189	▲96	296	874(保育所533,認定こども園111,地域型保育事業所230)	-
	2	福岡県福岡市	▲1	174	410	299(保育所8,認可保育所226,認定こども園65)	75,448※ <sup>3</sup>
	3	北海道札幌市	713	▲68	▲62	684(保育所 158,認定こども園 268,地域型保育事業258)	77,167※ <sup>4</sup>
	4	神奈川県横浜市	916	635	142	1,207	149,601
	5	鹿児島県鹿児島市	▲375	▲243	186	201(保育所125,地域型保育事業所76)	27,840※ <sup>5</sup>

※<sup>2</sup>令和6年度の実績値 ※<sup>3</sup>令和5年度の実績値 ※<sup>4</sup>令和4年度の実績値 ※<sup>5</sup>令和2年度の実績値

図表 137 デスクトップリサーチ内容(3/3)

#	リサーチ地域	地域の特徴(都市部への距離や、地理的特徴等)
定員充足率の高い 上位5市町村	1 愛知県清須市	愛知県西部、南部は名古屋市に隣接。比較的平坦で、庄内川の下流域にあり、ほとんどの地域が海拔10m未満。
	2 大阪市寝屋川市	大阪府北東部に位置するベッドタウンで、大阪市への通勤圏内にあり、交通の便が良い。
	3 熊本県合志市	熊本市の北東部に位置し、比較的新しい市として、住宅地や工業団地が発展。熊本市へのアクセスが良い。
	4 山口県下松市	穏やかな瀬戸内海に面し、中国山地から連なる山々から瀬戸内海に流れている。
	5 大阪府大東市	大阪府の東部に位置。東は奈良県生駒市に、西は工場地帯で大阪市に接し、南は東大阪市の市街地に接する。
定員充足率の低い 下位5市町村	1 東京都千代田区	23区のほぼ中央に位置し、日本の政治・経済の中心地で、多くの政府機関の他、東京駅や皇居がある。
	2 千葉県流山市	千葉県の北西部に位置し、東は柏市、西は江戸川を隔てて埼玉県三郷市と吉川市、南は松戸市、北は野田市に接している。
	3 北海道函館市	北海道新幹線、航空路、港湾など交通網が充実。北海道の南端部に位置する観光都市。
	4 福井県福井市	福井県の県庁所在地。北陸新幹線の開業により首都圏との結びも強化された。
	5 東京都港区	羽田空港へのアクセスが良く、リニア中央新幹線（予定）の始発駅となるなど、国内外へのアクセスに優れた立地が魅力。
施設数の多さ 上位5市町村	1 大阪府大阪市	大阪市の東隣に位置し、産業都市として発展。中小企業の集積地であり、大阪市への交通利便性が高い。
	2 福岡県福岡市	福岡県の西部に位置。朝鮮半島とは対馬海峡を挟み、約 500km 程であり、日本の中でも大陸のアジア諸国と近い。
	3 北海道札幌市	北海道の道庁所在地で、自然と都市機能が融合する。雪まつりなどのイベントが有名で、観光と行政の中心地。
	4 神奈川県横浜市	関東平野の南西部、神奈川県東部に位置し、市東は東京湾に面している。
	5 鹿児島県鹿児島市	九州南端、鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し、北は始良市、西は日置市、南は指宿市と接している。

## (6) 施設・自治体ヒアリング調査

企業主導型保育施設の事例集を作成し全国に展開するため、定員充足率が高い施設や企業主導型保育施設数が多い自治体にヒアリングを実施した。

### ① 調査目的

企業主導型保育施設の定員充足率の向上を実施している施設の事例について、定員が充足しないなどの課題を抱えている企業主導型保育施設や連携する自治体が、今後の参考としたり、利用者のニーズに応じている施設をもとに、施設運営の参考としたりするために実施した。

### ② 調査対象

対象施設の概要は図表 138～図表 139 のとおり。

図表 138 ヒアリング対象施設

施設	所在地	定員数	定員充足率	施設の特徴
戸塚おもいやり保育園	神奈川県横浜市	19名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の手厚い配置</li> <li>・常勤看護師を設置</li> <li>・職員に対して企業の行動指針を理解するための機会を設ける</li> </ul>
ぺんぎん保育園豊田	静岡県静岡市	19名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面談を通じてニーズを把握し、それらに対して柔軟に対応している</li> <li>・運動・絵本プログラムを導入</li> <li>・病児保育を実施</li> </ul>
さんこうじ保育園	岩手県盛岡市	19名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の企業によるワークショップの実施やお祭りへの参加など、地域と関わる機会を設ける</li> <li>・外部講師による英語教室・体操教室を実施</li> <li>・保護者アンケートを基に保育内容に反映</li> </ul>
こどもカンパニー東札幌園	北海道札幌市	93名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人ホームとの関わりや、地域のお祭りへの参加など、地域と関わる機会を設ける</li> <li>・保護者向けのおしゃべりの機会を設け、日ごろの不安や悩みを解消</li> <li>・アプリを活用し、職員の心理状態を確認</li> </ul>

角盤にじいろ保育園	鳥取県米子市	19名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向けアンケートを保育内容に反映し、各意見に回答し、ホームページに公開</li> <li>移行食を導入し、こどもの胃腸の負担を減らす</li> <li>職員の家庭状況を把握し、職員の協力体制を築く</li> </ul>
伊勢けいゆう塾保育園	三重県伊勢市	119名	87.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営元が医療法人であることを活かした病児保育の実施</li> <li>手ぶら保育を実施</li> <li>人材確保のための新卒採用に向けて、大学と連携を実施</li> </ul>
ごしょがだに保育園	福岡県福岡市	30名	96.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接する公園管理から始まり、公園を利用する方との交流を実施</li> <li>こどもの権利を重視し、こどもたち起案の遊びを組み立てる</li> <li>専門職に定期的に来園してもらい、職場環境や保育内容について助言してもらう</li> </ul>

図表 139 ヒアリング対象自治体

自治体	基本情報
政令指定都市 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業主導型保育施設数：151</li> <li>平均定員充足率：66.0%</li> <li>企業主導型保育施設数が全国で3番目に多い</li> </ul>
中核市 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業主導型保育施設数：41</li> <li>平均定員充足率：81.2%</li> </ul>

### ③ 調査結果

ヒアリング結果概要は図表 140～図表 148 のとおり。

図表 140 戸塚おもいやり保育園のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>所在地：神奈川県横浜市</li> <li>定員：19人</li> <li>充足率：100%</li> <li>職員数：18人</li> <li>開園時間：7:00 から 18:00</li> <li>開園日：月曜日～土曜日</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所の施設数不足を実感し、参入を検討した。認可保育所の創設に対するハードルは高く、新規参入が難しかったため、その当時、新規開設の募集を行っていた企業主導型</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>保育施設を設置することに至り、開園した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は知見がなかったため、姉妹保育園とコンサルティング契約を交わし、立ち上げに尽力いただいた。</li> </ul>
<p>こども・保護者に対して実施していること</p>	<p>&lt;保護者とのコミュニケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのコミュニケーションはアプリを使用し、家庭での様子を入力していただいている。また、アプリを通じて、保護者に対して保育の満足度に関するアンケートを実施している。</li> </ul> <p>&lt;施設の魅力を伝えるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSでの広報に力を入れており、2日に1回更新している。保護者の見学も随時受けており、説明もマンツーマンで対応するなど、見学者への細かいケアを意識している。</li> <li>・また、園児獲得のためにブログを開設しており、保育園での取り組み内容が伝わりやすい工夫をしている。</li> </ul>
<p>職員に対して実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士の意見交換の場として、打合せを毎日実施している。施設長と保育責任者との打ち合わせは週1回、全体会議は月2回、職員の個人面談は年に3～4回、その他クラス会議や給食会議なども実施し、それぞれ立場の意見を聞いている。特に、保育責任者との打ち合わせを通して、運営側と現場責任者の意見を統一することが最も重要である。</li> <li>・職員会議では、保育責任者も含め職員間で何でも言える雰囲気づくりを重視しており、お互いの保育に関して良い点も改善が必要な点もフィードバックする機会を設けている。全体会議では、企業の行動指針を示したカードに、心理的安全性の向上のための取り組みを書き、職員同士での読み合わせを実施している。個別面談では、カードに記載した行動指針と照らし合わせ、対応に困った際の判断材料としている。</li> <li>・施設設立から3～4年頃は退職者が多かったが、設立5年目以降から手厚い職員数の配置による休暇の取りやすさ、個別面談の実施、職員同士での保育方針の読み合わせ等により、職員全体のマインドが一致し、退職者は減少している。小規模保育では面談スペースの確保が難しいが、別室を設けて経営者と職員の意見のすり合わせや環境づくりが重要である。</li> </ul>
<p>保護者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児クラスでは、1クラス6人に対して職員が3名配置されているなど、手厚い職員配置がされており、非常に安心して子どもを預けることができるという声を聞いている。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、既に当園に通われた方の口コミを通じて、認可保育所より企業主導型保施設を希望する方をさらに増やしたい。そのために、職員も保育の方針を理解し、こどもが喜</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	ぶことや保護者の立場を考え、保護者への声掛けや保育の仕方を継続して模索し、パフォーマンスを最大限発揮していく。

図表 141 ペんぎん保育園豊田のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地：静岡県静岡市</li> <li>・定員：19人</li> <li>・充足率：100%</li> <li>・職員数：19人</li> <li>・開園時間：8：00から19：00</li> <li>・開園日：月曜日～土曜日</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業を行っている企業の福利厚生の一環として、企業主導型保育施設を立ち上げた。</li> <li>・弊社は企業理念に『人間の生きがいを追究し、日本の社会課題を解決する』を掲げており、昨今の社会課題である女性の社会進出や教育課題について、子育ての面からアプローチできればと考え、当園の設立に至り、同一市内で2つの園を運営している。</li> </ul>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保護者とのコミュニケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園時に、保育士と保護者間で会話することを心掛けており、その日にあったことなどについて ICT システムを活用して情報共有を行う。</li> <li>・今年度より新たに、保護者と30分程度の面談を実施し、転居や第二子出産など、家庭の変化に関する聞き取りを実施。一方、面談は保護者の時間確保が難しいなどの問題もあり、保護者の負担軽減のためにも、なるべく、普段のコミュニケーションで家庭の変化を拾い上げる方針とし、来年度は、面談頻度を減らす。</li> </ul> <p>&lt;保育内容における工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士をアドバイザーとして、発達段階に合わせた運動遊びを提供する運動プログラムを実施。また、絵本の読み聞かせから始め、絵本から発展した現実世界とのつながりを知る活動まで広げる絵本プログラムも実施し、遊びの様子を保護者に共有するため、活動内容をまとめた『育ちのファイル』を配布。</li> <li>・共働きで定時まで働きたい方が多いなど、地域における病児保育のニーズがあったことを踏まえ、病児保育を実施。</li> <li>・連携企業等で妊娠された方や出産された方がいる場合は、広報活動による認知向上を図る。</li> </ul>
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員との定期的な面談の実施や、日々、積極的に細かいコミュニケーションをとる。</li> <li>・シフトに協力してくれた職員や、理念に沿った保育ができ</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>ている等、日々の細かい努力が評価する表彰制度を活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他にも、チーム対抗でポイントを競い合う社内イベントの実施によって職員のつながりを深めたり、職員一人ひとりが自身のライフスタイルに合わせられるように多様な就業制度を設けたりと工夫している。</li> </ul>
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携企業枠によって、安価な保育料で利用できるなど、出産後の職場復帰までの支えになっているという声を聞いている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動プログラムや絵本プログラムを、他の園にはない特徴的なものにしていくために、保育にどのような有効的か、根拠を用いて体系化していきたい。</li> <li>今後は、病児保育の広報にも力を入れていきたい。</li> </ul>

**図表 142 さんこうじ保育園のヒアリング概要**

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>所在地：岩手県盛岡市</li> <li>定員：19人</li> <li>充足率：100%</li> <li>職員数：14人</li> <li>開園時間：7：30 から 18：30（延長保育：18：30 から 19：00）</li> <li>開園日：月曜日～土曜日</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時、弊法人が経営していた医療クリニック近くの幼稚園が閉園してしまい、地域の方々から保育施設がなくて困るという声があった。閉園した幼稚園を運営していたグループから経営引継ぎの打診を受け、企業主導型でさんこうじ保育園を開園することになった。</li> <li>市内に弊法人が経営する0～2歳までの小規模な事業所内保育施設があり、3歳以降も継続してこども預けたいという保護者の声があった。それを受けて、企業主導型保育施設を設立することによって、小規模な事業所内保育施設からさんこうじ保育園に転園することが可能になった。</li> </ul>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保育内容の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3歳～5歳向けに、外部講師に依頼して、英語教室を実施している。遊びの中で海外の文化や言語を体験できる貴重な機会になっていると、保護者からも高く評価いただいている。他にも、こどもの発達に合わせ、楽しみながら身体づくりのサポートをするよう、外部講師による体操教室を実施している。</li> <li>また、地域に根差すことも意識しており、地域のお花屋さんに来園いただき、花瓶に花を生けるワークショップなども実施している。地域のお祭りでは、こどもがダンスを披露する場を設け、ダンス発表後に屋台のチケットをご褒美</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>として渡し、出店している地域のお店で買い物をするなど、地域内での関わりが生まれるイベントも継続して実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、こどもや保護者の個別のニーズに対しては、可能な範囲で柔軟に対応している。例えば、外国にルーツがあるこどもをお預りしている際に、こどもに英語で話しかけてほしいという保護者の依頼があり、対応した。他にも、食事の際にハラル食（イスラム教の戒律により、食べてよいと認められた食品）を希望する保護者もあり、保護者の要望にはできる限り応える姿勢を示している。</li> </ul> <p>&lt;定員充足率向上のために苦労したこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開園当初は、園児の募集に対して応募が少なかったが、保育内容を工夫し、地域との関わりを増やすことで認知度が上がり、応募が増えた。保育やニーズへの取組内容を様々工夫していることが園の魅力であることを発信している。</li> <li>・保育内容の工夫などは、いずれ利用者による口コミとして波及されることが期待できるため、効果の即効性はなくとも、日々様々な施策に取り組むことに意味があると考えている。現在は、利用しているこどもの兄弟の入園や、利用者から紹介されて入園するケースが増えている。</li> <li>・定期的に保護者にアンケートを実施し、アンケート結果を保育内容に反映することで、PDCAを回している。</li> </ul>
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質を向上させるためには、職員への研修を重視している。施設全体で施設の目標や課題などの共通認識を定着させるために、各保育士の意見を集約して冊子にし、職員同士で読み合う場を半年に1回設けている。保育士は日々の保育業務が多忙なため、事前に意見を集約することによって、話し合いの時間を短縮し、効率化を図っている。</li> <li>・保護者に対するアンケート結果を踏まえ、会議にて職員が議論を行い、その結果を保護者に文面で共有している。この取り組みにより、園全体の士気が高まり、職員間の協力体制が向上した。</li> <li>・配置基準より1名多く職員を配置しているが、職員から休みを取得できない等の不満が出ないように、いつでも休める環境づくりを行っている。大規模保育園に在籍経験がある職員は、以前の職場では施設の規模が大きいと、目の前の業務に追われて理想の保育が実現できなかったが、今はやりたい保育を実現できていると聞いた。</li> </ul>
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一子がさんこうじ保育園に在籍しており、0歳児の第二子も同じ保育園で受け入れてもらっており、兄弟の送り迎えがしやすく便利という声を聞いている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在実施している保育内容や職員のマネジメントを継続し</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>ながら、新たな取り組みも実施していきたい。そして保護者のニーズに応じて、業務改善をしていく姿勢が必要であると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者による口コミはとても重要なため、1つ1つ丁寧な対応の積み重ねによって効果が生まれると考えている。実際に口コミによって来ていただいた利用者もいるため、目の前にいるこども・保護者に向き合っていく。</li> </ul>

図表 143 こどもカンパニー東札幌園のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地：北海道札幌市</li> <li>・定員：93人</li> <li>・充足率：100%</li> <li>・職員数：46人</li> <li>・開園時間：7：00 から 20：00</li> <li>・開園日：365日開園</li> </ul>
設置背景	<p>・弊社では、4つの企業主導型保育施設を運営している。当時、札幌市は待機児童数が多く、女性の職場復帰が難しいという課題を解消するために、2017年に「こどもカンパニー大通園」を開園しました。その後、3園目として、「こどもカンパニー東札幌園」が開園された。</p>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保育内容の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園が所在している「まち」や「地域」と関わる活動をしており、「まちで遊ぶ まちで学ぶ」をコンセプトに、地域資源を活用した保育を実施している。特に、こどもの興味・関心があることについて、保育士がアプローチを行い、興味を広げるようにしている。例えば、地域の老人ホームで行われた書初めに参加したり、「東札幌マルシェ」という地元のお祭りを開催したり、地域と関わる機会を設けている。今年度の「東札幌マルシェ」での実施内容は、アイドルになりたいというこどもたちの思いから、アイドルとこどもと一緒にアイドルステージを披露するなど、マルシェを開催している。こどもたちが地域の方々と関わりながら多様な経験を積む機会や、地域の一員としてのつながりを育む大切な機会になっている。</li> <li>・日祝専用の保育士を配置し、土日・祝日を含む365日お預かりができるようにするなど、多様な働き方を応援するための工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;広報・周知の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東札幌マルシェ」への参加を通して、認知度が向上するという効果があった。マルシェの開催場所は、マンションが多いエリアなため、住んでいる方の目に付きやすく、マルシェ自体も知っていただける機会が多い。マルシェは秋</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>ごろに開催しているため、保護者が保育園を検討する時期と重なることも意識している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提携企業が、施設のあるビル内に多くあり、勤務先との近くさもメリットになっている。</li> <li>・広報・周知のために SNS を活用しており、施設の取組を知ってもらうため、地域との関わりなどを幅広く発信している。</li> </ul> <p>&lt;保護者とのコミュニケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や日々の保育の様子を写真やコメントを付けて共有するなど、保護者が施設でのこどもの様子を把握できるように工夫している。</li> <li>・「ほんわかカフェ」という、施設の中で保護者向けのおしゃべりの機会を設けている。保護者は職員が忙しそうだと思えば遠慮してしまうため、日ごろの小さな不安や悩みなどを解消したり、保護者同士が交流できたりする場として、月1回の頻度で開催している。</li> </ul>
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員向けに、振り返り・目標の設定面談を定期的に行っている。コミュニケーションにおいては、職員を褒めることを意識している。</li> <li>・ストレスや仕事への満足度など、職員の心理状態を把握できるアプリを導入している。アプリで、職員に心理状態を問う質問に回答いただき、回答結果から心理状態を数値で表し、グラフ化して職員の状況を把握している。数値の結果を随時把握し、結果次第で面談をするのではなく、日ごろから職員に目をかけて、何に困っているかを考えるようにしている。</li> </ul>
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・365日開所しているので、仕事の都合に応じて預けることができたり、20時まで開園していたりと、開園日時が幅広いことが有難いという声を聞いている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も出生数は減少していくため、保育需要も減っていくことを想定しており、地域にとって必要な施設になっていきたいと考えている。特に、保育の質を向上させるための取組を実施し、こどもが安心して保育を受けられるようにしていきたい。</li> <li>・企業主導型保育施設は、保護者と直接契約が出来るため、保育方針などに共感した保護者が来てくださるといったメリットがある。このメリットを最大限活かし、当園を地域から求められる施設にしていきたい。</li> </ul>

図表 144 角盤にじいる保育園のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日 時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地：鳥取県米子市</li> <li>・定員：19人</li> <li>・充足率：100%</li> <li>・職員数：15人</li> <li>・開園時間：8：00から19：00</li> <li>・開園日：月曜日～土曜日</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児中の保護者の多様な働き方に対応するため、当園を開園した。特に、年度途中の育休明けに認可保育所へ入園できず、仕事復帰が困難となるケースが多いことを背景に、年度途中からでも安心してこどもを預けられる受け皿としての役割を担っている。</li> </ul>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保育内容の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当園はビル内に立地しており園庭はないが、その環境を前提に「できない」ではなく「できること」を重視した保育を行っている。例えば、保育士が起案して、立体駐車場の屋上を活用した野菜づくりを行い、食育活動を実施している。</li> <li>・給食は自園調理にこだわり、手作りの給食やおやつを提供している。認可保育所の場合、1歳から完了食が提供されるが、当園では一部の年齢のこどもには移行食の導入をしており、こどもの発達段階に応じて胃腸の負担を減らすよう工夫している。</li> </ul> <p>&lt;保護者とのコミュニケーションの工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20年以上の経験を持つ保育士が多く在籍しており、保育士も仕事と子育てを両立してきたことから、保護者が安心して相談できる体制が整っている。</li> <li>・年2回の懇談会に加え、当日は園内に「のぞき窓」を設置し、こどもに気づかれない形で、保護者が日中の様子を見学できる工夫をしている。</li> <li>・参観日にはアンケートを実施し、設問回答や自由記述の感想も含めた回答結果をホームページで公開している。特に、アンケート結果を保育内容に反映するだけでなく、寄せられた意見一つひとつに丁寧に回答するなど、双方向のコミュニケーションを重視している。</li> </ul> <p>&lt;定員充足率を向上させるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事復帰前の保護者が多く利用する子育て支援センターに、当園のポスターやパンフレットを設置したり、子育て支援センターの職員と関係性を築いたりしている。他にも、自治体による立ち入り調査の際に、認可保育所に入園できなかった家庭への紹介につなげてもらうなど、行政とも関係性を築いている。このような取り組みの結果、最近では、利用者からの紹介による入園も増えている。</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長として、職員一人ひとりの家庭を知ることが大事だと考えている。特に、女性職員が多いため、職員の家事や子育てに対する配慮を行い、無理なく働けるように、職員全体で協力体制を築いている。また、年に2～3回のストレスチェックを行っており、面談で詳細に状況を把握している。</li> </ul>
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数が長い保育士が多く、相談にも真摯に対応してもらえ、アットホームな雰囲気があるという声を聞いている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開園当初より職員の入れ替えが少なく、保育士の年齢構成に一定の偏りが見られることから、持続可能な保育体制を確保するため、将来を見据えた人材確保および人材育成が課題となっている。若手保育士の場合、結婚・出産などのライフイベントがあるため、若年層を含む新たな人材の確保に努めるとともに、経験の浅い保育士が安心して成長できる育成体制の整備を推進していきたいと考えている。</li> <li>・また、小規模保育による保護者ニーズに応じた柔軟な保育対応ができているため、引き続き、企業主導型保育施設の特性を活かし、質の高い保育サービスの提供を目指したい。</li> </ul>

図表 145 伊勢けいゆう塾保育園のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地：三重県伊勢市</li> <li>・定員：119人</li> <li>・充足率：87.4%</li> <li>・職員数：55人</li> <li>・開園時間：7：00から20：00</li> <li>・開園日：365日開園</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く保護者が安心して仕事と子育てを両立できる環境を整えることを目的に開園した。当園は医療法人が運営しているため、法人が運営する病院が隣接しており、職員に占める看護師の割合が高く、現在は7名の看護師が在籍している。看護師は、こどもの体調や感染状況など、専門的な視点から直接保護者に連携するようにしている。</li> </ul>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保育内容の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が常駐しており、病児保育を実施している。隣接する病院やかかりつけ医と連携をしながら、こどもの体調変化に対応できる体制を整えている。</li> <li>・保育園で必要なものを全て園で用意する「手ぶら保育」を実施している。荷物の準備が不要となることで、祖父母による送迎もしやすくなるため、職員は日頃から祖父母とも顔なじみの関係を築いている。</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>&lt;広報・周知の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を通じて、写真や短時間で閲覧可能なコンテンツを用いた、タイムリーな情報発信を行っている。当初は、写真を投稿していた、写真を選ぶことが大変なため、タイムリーに更新できていなかった。現在は、パート職員に日々クラスを回って撮影を行い、その日のうちに投稿する体制を築いたことで、リアルタイムにこどもの様子が分かるようになった。具体的には、畑づくりから収穫、園内調理までを行う食育活動など、他園ではあまり見られない特色ある取組を発信することで、特に若い子育て世代への訴求効果を感じている。</li> </ul> <p>&lt;保護者とのコミュニケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当園では、保護者とのコミュニケーションツールとしてアプリを導入しており、出欠等のやり取りを行っている。保護者の隙間時間でも連絡が取りやすく、気になることがあれば、気軽にアプリ経由で連絡いただいている。特に、気になることがある場合には、面談や立ち話の機会を設けており、担当が対応できないときは伝言を預かるなど、職員間でも連携を実施している。</li> <li>・ 保護者向けアンケートを年に2回実施しており、園の良い点や改善点、ニーズなどを把握している。</li> </ul> <p>&lt;定員充足率向上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に地域の提携企業を回り、保育内容の説明や見学を実施しており、現在は29社と提携している。当初は、企業の「認可外保育施設」に対する反応は良くなかったが、医療法人に勤める人は土日祝も勤務がある方が多いので、365日稼働や長時間保育といった特徴が、働き方に合致したことも利用拡大につながった。</li> <li>・ 提携企業の求人票にも掲載いただき、年に4回広報誌を作成し、連携企業や保護者に配布をしている。このように、病院や介護施設などの提携企業の職員にも周知していただいている。その結果、保護者の口コミによって利用者が増えたと感じており、認可保育所に入れなくて当園に入園されるのではなく、当園のホームページをみて直接来ていただくことも多い。</li> </ul>
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員との面談を年に2回実施しており、悩みなどについて定期的にフォローしている。入社から5～6年目までは、法人にてフォロー研修を実施しており、同じ職種間で交流できる機会も設けている。他にも、研修やキャリアアップのための支援など、福利厚生を充実させるよう意識しており、離職防止につなげている。</li> <li>・ 人材確保の一環として、大学との連携を実施して自主実習・保育技術研修の参加など新卒職員の採用にも取り組ん</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	でいます。大学教授から生徒を推薦いただくこともあり、職員のうち1割程度を新卒が占めている。
保護者の声	・365日開所されているので仕事の都合に応じて預けられることや少ない準備で預けられることに感謝する声を聞いている。
今後の展望	・今後も、保護者が安心してこどもを預けられる場所であり続けることを目指している。提携企業が増えているため、より多くの家庭に園の取組を理解してもらえるよう、現在の提携企業に対して丁寧に情報共有を実施していきたい。

**図表 146 ごしよがだに保育園のヒアリング概要**

項目	ヒアリング内容概要
施設の基礎情報 (ヒアリング実施日時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所在地：福岡県福岡市</li> <li>・定員：30人</li> <li>・充足率：96.7%</li> <li>・開園時間：7：30から18：30（延長保育：18：30から19：30）</li> <li>・開園日：月曜日～土曜日</li> </ul>
設置背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育施設をつくる」という発想ではなく、「まちに開かれた居場所をつくりたい」という思いから出発した。弊法人では写真館事業を実施しており、写真を通して人の記憶や人生に関わる中で、こども時代の日常の積み重ねこそが、その人の土台になると実感する一方、既存の子育てや保育環境にどこか閉じられた違和感も抱いていた。</li> <li>・開園1年前から隣接する公園の管理を行っており、その中でこども・保護者・地域の人が自然に関わり合い、育ち合う風景が生まれた。これを踏まえ、保育園を地域との関係を編み直していく居場所として捉えて運営している。</li> </ul>
こども・保護者に対して実施していること	<p>&lt;保育内容の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当園では、こどもと保護者の双方に関わる保育を実施している。こどもに対しては、あらかじめ設定された保育内容に当てはめるのではなく、こどもたちのやりたいことを出発点に遊びや活動を組み立てている。例えば「お祭りをしたい」という声があがった際には、「お祭りってどんなことをするのか？」と対話を重ねながら具体化し、実際に衣装を草木で染めたり、みこしを作って神社まで担ぎ、公園でまちのみなさんと盆踊りを行うなどの活動へと展開したりしてきた。このように、こどもの声を丁寧に聞き、その時々に必要な経験や環境を見極めながら保育内容を編成している。</li> <li>・また、公園に隣接する立地を活かし、日常的にまちへと開かれた保育を実践している。公園愛護会を担い管理を行い、現在もバザーや水遊びなど地域が参加できる機会を公</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
	<p>園で実施している。地域の人が自然に保育園に携わることができる環境をつくり、保育園を「閉じた施設」にしない在り方を意図している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食についても、日常の重要な営みとして位置づけている。無農薬の食材を中心とした給食や手作りのおやつを提供し、こどもが調理や食事の過程に関わることで、生きることに直結した感覚を育んでいる。</li> </ul> <p>&lt;保護者とのコミュニケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との関係においては、「支援する・される」「預ける・預かる」という構図ではなく、ともにこどもを育てる当事者として関わることを重視している。送迎時には保育士だけでなく、給食担当や事務、園長など複数の職員が自然に関わる環境をつくり、日常的な対話が生まれる関係性を大切にしている。保護者の状況に応じて、短い言葉でこどもの姿を伝えたり、アプリを通じて写真を共有したりしている。特に、こども一人ひとりの育ちを尊重する観点から、個別にエピソード記録のファイルを作成し、ティファリキ（こども一人ひとりの育ちを尊重する考え方）の視点で「熱中している」「困難を乗り越えている」など、園独自の視点も交えた肯定的な見方でエピソードを記録している。これにより、その子自身の成長過程や変化を可視化し、保護者と共有している。</li> <li>・また、社会福祉士、心理士、作業療法士が関わり、専門的な視点を日常の保育に取り入れている。こども一人ひとりの状況に応じた関わりや環境づくりを検討するとともに、必要に応じて社会資源につなぐ視点や、保護者への伝え方についても学び、実践に還元している。</li> </ul>

項目	ヒアリング内容概要
職員に対して実施していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を、こども・保護者・地域とともに場をつくる共同の担い手として位置づけている。そのため、職員が安心して意見を出し合い、自分の専門性を発揮できる環境づくりを重視している。職員との面談やオンラインフォームで職員のアイデアを募集するなど、自身の得意なところや個性を発揮する機会をつくることで、職員自身の「やりたい」も尊重する組織づくりを進めている。</li> <li>・日々の保育では、こどもの姿をもとにした振り返りを職員同士で行い、「何を大切にしている保育であるか」という根本から共有する機会を設けている。現場で起きた事象を根拠にしながら、保育の組み立て方や関わり方を検討し、改善を続ける文化をつくっている。特に、専門職が定期的に関わり、発達・福祉・環境調整など多様な視点から職員が学ぶ体制を整えている。専門職とのカンファレンスを通じて、こどもの理解を深めるだけでなく、保護者への言葉の届け方や、社会資源との連携の仕方も学び、日々の実践に生かしている。</li> <li>・職場環境改善のため、社会保険労務士とともに就業規則を見直している。また、園が狭いので、休憩する場所を確保するために、地域のカフェと連携して発行するチケットを持参すると、スタッフは無料（弊社の福利厚生）で利用できる制度も作っている。</li> </ul>
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもが自分で考え、選び、挑戦する姿を見て、家庭でもこどもの変化を感じられるという声がある。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで築いてきた環境と経験をさらに発展させ、こどもにとっての遊びと学び、保護者や地域にとっての交流と相談の場、専門職が支える支援の場が一体となる拠点づくりを次のフェーズとして構想している。特に、地域支援の機能を体系的に強化し、発達支援や子育て相談、専門職連携をより広く地域へと開いていく。</li> <li>・保育園の内側で見えている「こどもの育ち」「家庭での姿」「地域とつながる価値」などを、社会がこども・家庭・保育をどう捉えるべきかという問いかけとして発信していくことを重要な使命と位置づけている。現場で得られる確かな実感を社会に共有し、こどもを中心に据えたより良い環境づくりに寄与していくことを果たすべき役割であると考えている。</li> </ul>

図表 147 政令指定都市 A のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
企業主導型保育施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育施設の利用を検討している保護者に対して、企業主導型施設に特化して紹介を行っていない。市内の保育施設一覧表に、企業主導型保育施設を掲載している。</li> </ul>
企業主導型保育施設の関与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認可外保育施設としての立入調査の実施。児童処遇や運営に関して相談を受けることがある。</li> <li>・ 児童育成協会とは適宜情報共有を実施している、</li> </ul>
立入調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童育成協会が実施する監査と自治体が発行する立入調査があるため、施設からは続けて調査が行われることがあり、準備が大変との話を聞くことはある。</li> <li>・ 自治体による立入調査は、施設に出向いて行うため、当市では施設数が多く、負担が大きい。</li> </ul>
今後の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当市においても少子化の傾向はあるが、保育に対するニーズ自体が減っているわけではない。令和8年度に保育ニーズのピークを迎えるが、しばらくは高い水準で推移する見通し。今後さらに働きたい人が増えるとニーズも増えてくるため、今後の保育ニーズについては慎重に見極めていく必要があると考えている。</li> <li>・ 当市は行政区域が広く、こどもの数が減少しても、単純に施設を減らすと通いづらい地域もあるため、施設数を減らすことが良いとは限らない。</li> <li>・ 企業主導型保育施設だけに特化せず、当市における保育全体のニーズに対してどのように対応していくかという観点から今後の在り方を考えている。</li> </ul>

図表 148 中核市 B のヒアリング概要

項目	ヒアリング内容概要
企業主導型保育施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年に「子ども・子育て支援事業」にて保育のニーズ調査を実施したところ、企業主導型保育施設を利用したい方は全体のうち6%弱を占めていた。令和6年時点での利用数は1,000名弱、定員充足率は8割程度あり、保育の選択肢としては定着している。</li> <li>・一方認可保育所は人気が高く、認可保育所に決まらなかった方が、自身で企業主導型保育施設について調べたり、他施設としてご提示したりしているケースがある。</li> <li>・企業主導型保育施設は、職場の近くにある点や、認可保育所と異なり、申込ではなく直接契約できる点に安心感がある。当市の企業主導型保育施設は少人数規模なため、認可並みの基準の質の手厚い保育が実施されている</li> <li>・当市における企業主導型保育施設が多い理由としては、平成10年から27年までの「子ども・子育て支援新制度」開始以前は、株式会社の参入を認めておらず新たな認可保育施設を増やさなかったため、認可外保育施設が多く、企業主導型へ移行していった背景がある。</li> </ul>
企業主導型保育施設の関与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設と頻繁に連絡はしていないが、在籍児童数を報告してもらうなどの関与はある。</li> </ul>
立入調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3年に1回の頻度で、認可外保育施設として自治体による立ち入り調査を実施している。また、年1回の頻度で集合指導を実施している。</li> <li>・利用者などから通報があった場合は、児童育成協会と協力して、監査を実施することはある。</li> </ul>
今後の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当市は、北部は人口が少ないなど地域的にニーズが偏在しており、地域によっては定員数の減少することもある。施設によっては保育士不足による、受け入れの抑制があるため、保育施設の新設については慎重に対応している。今後企業主導型保育施設が増えるということはないと考える。</li> </ul>

#### ④ 事例集の作成

企業主導型保育施設の事例を全国に展開するため、収集した事例を基に事例集を作成した。

図表 149 事例集の構成

章	構成
第1章	はじめに
	• 事例集のねらい・対象
第2章	事例紹介
	• 企業主導型保育事業について
	• アンケート調査結果について
第3章	事例紹介
	• 7施設の事例紹介
	• 2自治体コラム
第4章	おわりに
	• コラム
	• あとがき

## 4. まとめ

### (1) 本調査研究の成果と考察

アンケート調査及びヒアリング調査の結果を基に、本調査研究で設定したリサーチクエスション①～③の解と考察及び本調査研究全体に係る「④企業主導型保育施設の今後」を記述する。

(再掲)図表 1 リサーチクエスション

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| ① | 定員充足率が低い施設の運営課題とその改善策は何か  |
| ② | 企業主導型保育施設が選ばれている理由は何か     |
| ③ | 定員充足率や施設が選ばれている理由に地域差はあるか |

#### ① 定員充足率が低い施設の運営課題とその改善策は何か

施設長向け調査の結果から、定員充足率が低い施設では、「(i) 地域条件」「(ii) 対象児童数や企業枠による利用者数の減少」「(iii) 発信力」「(iv) マネジメント内容」「(v) 保育士等の確保」が複合的に影響していることが明らかとなった。以下では、これらの要素について、それぞれの課題や対応方針について整理する。

##### (i) 地域条件

施設長向け調査によると、定員充足率が40%未満の施設では、交通アクセスについて「施設から駅が徒歩10分以内でない」と回答した割合が33.8%で、2番目に多かった。また、「施設から駅が徒歩10分以内にある」と回答した割合が、定員充足率が100%の施設は50.7%、定員充足率40%未満の施設は31.1%と、定員充足率100%の方が19.6ポイント多かった。

さらに、「施設近くに商業施設はほとんどない」と回答した割合が、定員充足率100%の施設は9.7%、定員充足率が40%未満の施設は25.7%と、定員充足率が40%未満の方が16ポイント多かった。

既存の施設立地を変更することは容易ではないものの、これらの結果から、施設の立地や駅や商業施設からのアクセスなどの地域条件の違いが、施設の利用状況に一定の影響を与えている可能性が示唆された。

##### (ii) 対象児童数や企業枠による利用者数の減少

施設長向け調査では、定員充足率に関する課題として、定員充足率が100%の施設は、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」が23.5%と最も多かった。

(「特に大きな課題はない」を除く)また、定員充足率が40%未満の施設では、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」の回答が54.1%と最も多く、次いで「福利厚生として設置した施設に対し、対象となる利用者層が縮小している」が40.5%と多かった。特に、両方で回答が多かった「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」と回答した割合は、定員充足率が100%の場合は23.5%、定員充足率が40%未満の場合は54.1%と、定員充足率が40%未満の方が30.6ポイント多かった。

検討委員会においては、「一般事業主設置型施設では、自社従業員数の変動が利用者確保に影響するため、定員充足率は保育事業型・一般事業主設置型事業という運営形態によって異なる。」との意見があった。

これらを踏まえると、対象児童数の減少は定員充足率にかかわらず共通する課題である一方、定員充足率が低い施設では、対象児童数の減少に加え、福利厚生として利用する企業枠による利用者数の減少を課題として認識している割合が高い。今後は、一般事業主設置型施設が一定期間の運営実績を踏まえ、保育事業型へ転換できるなどの運営形態を再設計することも一案ではないか。

### (iii) 発信力

施設長向け調査では、定員充足率向上のための取組として、定員充足率100%の施設では「見学希望者のニーズに柔軟に対応している」の回答が88.1%と最も多く、次いで「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」の回答が79.5%と多かった。定員充足率が40%未満の施設でも同様の取組は行われているものの、「ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している」と回答した割合は54.1%であり、定員充足率が100%の方が25.4ポイント高かった。また、人材確保・業務負担軽減等に関する施策として、「SNS等での施設の魅力発信」と回答した割合は、定員充足率が100%の場合は38.0%、定員充足率が40%未満の場合は18.9%と、定員充足率が100%の方が19.0ポイント多かった。

従事者向け調査では、定員充足率が40%未満の施設において、定員充足率に関する課題として「保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない」の回答が28.8%と多かった。検討委員会においても、「見学で園の雰囲気を知ってもらうことが重要だが、見学のための発信は企業規模によって差異があり、今後さらに差が生まれるのではないか。」との意見があった。

これらを踏まえ、定員充足率が低い施設でも情報発信を実施しているが、従事者としては施設や施設の特色が十分に知られていないと感じており、情報発信が十分でない可能性がある。今後は、本事業で作成した事例集に記載の情報発信方法（SNSやブログの更新、地域のイベントへの参加等）を参考に、施設の特色や保育内容を分かりやすく伝える工夫を行うことが有効ではないか。

### (iv) マネジメント内容

職場との関係づくりや組織運営に関する施策として、定員充足率が100%の施設と40%未満の施設における回答で最も差があったのは「評価制度や業務指導の仕組みを整備・改善している」であり、定員充足率が100%の場合は39.1%、定員充足率が40%未満の場合は18.9%と定員充足率が100%の回答割合が20.1ポイント多かった。

また、職場との関係づくりや組織運営に関する施策として「職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている」の回答は、定員充足率が100%の場合は82.8%、定員充足率が40%未満の場合は75.7%と、定員充足率に限らず回答割合が多かった。検討委員会において、「意見を言いやすい雰囲気づくりが重要である一方、施設の方針が不明確であると、単に意見を聞いているだけに過ぎない。マネジメントで陥りやすい課題である。」「保育施設では多様な職員が活躍しており、園の保育方針について共通した認識を持つことが重要である。従業員と施設長が日ごろから対話やコミュニケーションを行い、保育内容に対する共通理解を図ることで、保護者や見学者が受ける、施設長や保育士から聞く話の印象と実際の保育内容の認識の相違が防げるのではないか。」との意見があった。

ヒアリングにおいては、職員を評価する機会を設けたり、対応が難しい事例については施設の方針を踏まえて意見交換を行ったりする工夫が見られた。

これらの結果から、定員充足率が低い施設には、職員を適切に評価する仕組みや施設の方針を共有した上で意見交換を行う場を設けることが有効ではないか。

#### (v) 保育士等の確保

3章(5)におけるデスクトップリサーチによる地域分析(定員充足率上位・下位市町村、施設数上位市町村の比較分析)を踏まえ、検討委員会において、「保育士等の採用が難しいことが定員充足率に影響しているのではないか」との意見があった。

施設長向け調査では、定員充足率に関する課題として、定員充足率100%の場合は「人材不足により定員を受け入れられない状況がある」の回答が6.1%であったのに対し、定員充足率が40%未満の場合の同設問の回答は、23.0%であり、16.9ポイントの差があった。定員を充足させるためには、利用者への呼びかけの前に保育士の確保も重要な課題である。

しかし、施設長向け調査において、「一人ひとりのこどもに丁寧に関わる人材の確保が困難」という、保育の質を担保するための人材確保に関する課題の回答は、定員充足率に関わらず1~2割程度に留まっている。これに対し、「職員の経験・スキルに差があり、業務の質にばらつきがある」という保育士等の専門性の課題や、「給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている」といった処遇に関する回答が3割程度と最も多かった。

これを踏まえ、定員充足率の低さが人材不足に起因している施設も一定数あるが、多くの保育施設は、人材確保の困難さよりも、保育士等の専門性や人材育成により課題を感じている傾向が見られた。

#### ② 企業主導型保育施設が選ばれている理由は何か

保護者向け調査、施設長向け調査、ヒアリング及び検討委員会における意見を踏まえ、企業主導型保育施設が選ばれている背景には、「(i) アクセスの利便性」「(ii) 保育士の対応・施設の雰囲気」「(iii) 保育内容・保育の質」「(iv) 『認可』との比較からの脱却」の要素が重なっていることが示唆される。以下では、選定理由に関わる要素を(i)~(iv)に整理する。

##### (i) アクセスの利便性

保護者向け調査では、保育施設を選定する際に重要視していることとして「自宅からのアクセスの良さ」が74.4%と最も多かった。実際に現在利用している企業主導型保育施設を選定した理由としても、「自宅と保育施設が近く、送り迎えがしやすい」が49.4%と最も多く、通いやすさが施設選定に影響している。

##### (ii) 保育士の対応・施設の雰囲気

保護者向け調査では、保育施設を選定する際に「保育士の対応」を重要視している割合は71.3%で、2番目に多かった。実際に利用している企業主導型保育施設を選定した理由としても、「施設や保育士の雰囲気が良く、コミュニケーションがとりやすい」は48.5%で2番目に多かった。また、企業主導型保育施設における「保育士の対応」への満足度は95.4%であり、丁寧な対応やコミュニケーションに対する評価が多く見られた。これらから、保護者との関係性や日常的なやり取りの質が、施設選定の要素となっている。

検討委員会においても、「施設を運営する立場として、施設の雰囲気の良さを評価されることが多いと感じる。雰囲気の良さは選ばれるための重要な要素だと感じる」との意見があった。保護者との信頼関係を構築し、安心してこどもを預けることができる施設として選ばれるためには、職員間の関係性や職場の雰囲気が重要であると考えられる。そのため、日常的に保育士等が良好な職員関係のもとで働くことができるよう、管理職は職場環境を整えるマネジメントに心を配る必要がある。

### (iii) 保育内容・保育の質

保護者向け調査では、保育施設を選定する際に重要視していることとして、「保育の内容」が55.5%であり、「保育の質」への保護者の満足度は95.0%であった。施設長向け調査では、特色としている活動内容として「『自発的な活動としての遊び』を中心とした保育」が63.7%と最も多く、次いで「食育活動（園内調理・畑づくり等）」が61.0%と多かった。検討委員会においては、「保育の質を訴求する上で、『自発的な活動としての遊び』を通じた育ちの意義を、保護者にどのように伝えるかが課題である」との意見があった。

これらを踏まえると、現在実施している保育内容の工夫に加え、その意義が保護者に理解される形で伝わるのが、選定理由の形成に関係していると考えられる。今後は、保育の質を分かりやすく発信していくことが、企業主導型保育施設が選ばれる理由の一つとなるのではないかと考えられる。

### (iv) 「認可」との比較からの脱却

従事者向け調査の自由記述では、「認可保育所と同等の基準を満たして運営しているにもかかわらず、『認可外』という表現により保護者に実態が十分に伝わらず、不利に働く場合がある」との回答があった。これは、「認可外」という表現が施設への理解や選定にネガティブなイメージを与えている可能性が考えられる。しかし、保育所として行政から求められることは、認可保育所や企業主導型保育施設であっても同様であることから、「認可」と「認可外」を比較するという行為から脱却する必要があるのではないかと考えられる。

保護者向け調査では、現在利用している企業主導型保育施設を選定した理由として、「他の認可保育所等の定員がいっぱいで入れなかった」の回答は22.3%にとどまり、企業主導型保育施設と認可保育所との違いを知りながら入園している保護者は、全体の78.1%となっている。企業主導型保育施設が認可保育所に入所できなかった場合の代替的な選択肢としてのみ利用されているわけではないことがうかがえる。また、検討委員会においても、「調査結果より、開所時間よりも保育士や園の方針を見て施設を選ぶ保護者が多い傾向にある。」との意見があった。ヒアリングにおいても、「保護者が施設の実施内容に共感した上で直接契約できる点が強みだと実感している。」との意見があった。このように保護者は「認可」と「認可外」を比べて選定しているとは限らず、各施設の保育内容等を考慮して選定している層も一定数いるのではないかと考えられる。

今後は、独自の工夫を行っている企業主導型保育施設の取組を、保護者に分かりやすく伝えることが重要となる。具体的には、本事業で作成した事例集を活用することが理解促進に資する一助となるのではないかと考えられる。

### ③ 定員充足率や施設が選ばれている理由に地域差はあるか

本調査研究より、定員充足率や施設の選ばれ方には一定の地域差が見られるものの、その差は人口規模の大小よりも、交通手段や生活圏の特性といった地域条件に起因する影響が大きいことが明らかとなった。

一方、交通アクセスに関しては、定員充足率 100%の施設では「施設から駅が徒歩 10 分以内にある」が 50.7%と多いのに対し、40%未満の施設では 31.1%にとどまっており、「施設から駅が徒歩 10 分以内でない」「車での送迎が必須である」といった回答が多かった。また、施設周辺の環境について回答割合に最も差があったのは「スーパーやコンビニなど基本的な施設が揃っている」で、定員充足率 100%の施設では 85.6%、40%未満の施設では 63.5%と定員充足率が 100%の方が 22.1 ポイント多かった。

出生数減少を課題として挙げた施設においても、見学対応や情報発信、保育内容の工夫を行っている施設では定員充足率が高いことが確認されており、施設運営の工夫によって一定の利用確保が可能であることが示唆された。

これらの結果から、地域差は存在するものの、それは一律に都市部・地方部といった区分で説明できるものではなく、施設の立地条件や情報発信、保育内容の工夫等が影響している可能性が示唆される。

### ④ 企業主導型保育施設の今後

本調査及びヒアリング結果を踏まえると、企業主導型保育施設は、少子化や就労形態の多様化といった社会構造の変化の中で、地域や保護者のニーズに応じた柔軟な役割を果たしていることが示唆される。以下では、企業主導型保育施設の現状及び今後の方針として、

「(i) 企業主導型保育施設のニーズ」「(ii) 企業主導型保育施設の強み」「(iii) 地域枠の活用」「(iv) 定期立入調査の効率化」に整理する。

#### (i) 企業主導型保育施設のニーズ

施設長向け調査では、定員充足率に関する課題として、「地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない」の回答が 31.6%と一定数見られた一方、園児確保に関して保育施設間で過度な競争が生じている状況は確認されなかった。また、ヒアリングにおいては、施設から「今後は、企業主導型保育施設という形態に留まらず、地域に求められる保育を提供し続ける方針である。」との意見があり、自治体からも「保育全体で利用者の需要を捉えており、たとえ保育の需要が減少し、企業主導型保育施設を減らすとしても、地域によってはアクセスが悪くなる場合もあるので、一概に施設を減らすことが有効とも限らない。」との意見があった。

また、3章(5)におけるデスクトップリサーチによる地域分析(定員充足率上位・下位市町村、施設数上位市町村の比較分析)では、企業主導型保育施設の定員充足率が、認可保育所の定員充足率より高い地域が存在することが確認された。

これらより、企業主導型保育施設は、少子化や就労形態の多様化といった社会構造の変化の中で、地域や保護者のニーズに応じた柔軟な役割を果たしていると考えられる。

## (ii) 企業主導型保育施設の特性と可能性

施設長向け調査では、定員充足率が100%の施設が全体の30.3%を占めており、定員充足率の推移についても「近年（～5年程度）は変化していない」または「増加している」と回答した施設が全体の73.8%を占めており、比較的安定した運営が行われている状況が伺える。

② (iii) 「保育内容・保育の質」で先述したとおり、今後の保育においては、特色ある活動プログラムの提供等による表面的な差別化に依存するのではなく、保育の質の基盤となるこどもの主体性・自発性を尊重し、一人ひとりの育ちの過程を支える日常の保育の価値を社会に伝えていくことが重要となる。

保育施設を選ぶ主体は保護者であるが、単に保護者のニーズに応えることに偏るのではなく、一人ひとりのこどもにとってより最善の生活・学びの場となるよう、成果としての育ちだけでなく、遊びの中での学びや育ちといった「過程」の価値を保護者と共有していくことが求められる。

また、企業主導型保育施設は、直接契約が可能であり、年度途中での復職・入園ニーズに対応できること、さらに複数の市町村から受け入れが可能という強みがある。こうした制度上の特徴により、利用形態や入園時期などにおいて比較的柔軟な対応が可能である。

また、検討委員会においては、直接契約であることにより、保護者が施設に対して信頼を抱きやすく、保護者と施設が協力的な関係を築きやすい側面があるのではないかとの意見もあった。このような関係性の構築は、保護者と施設が協働的にこどもの育ちを支える基盤となり得るものであり、企業主導型保育施設の特徴の一つとして捉えることができる。

近年、子育て家庭において、子育てや保育に対する価値観の多様化が進んでいることを踏まえると、こうした社会変化において、企業主導型保育施設は、保護者とともにこどもにとって最善の生活・遊びの場を対話的に模索していくことのできる柔軟な施設特性を有していると考えられる。今後はこのような柔軟性を生かし、好事例の横展開や、企業主導型保育施設の運営形態・運営方式を再検討していくことが、今後の企業主導型保育事業の方向性の一つとなるのではないか。そして、就労と子育ての両立を支える拠点としての役割を一層高めていくことが期待される。

## (iii) 地域枠の活用

施設長向け調査の自由記述では、「連携企業においてこどもの数が減少し、企業枠を埋めることが難しくなっている」との回答が見られた。地域枠の利用率は、「40%以上50%未満」および「50%」の割合が全体の46.1%を占めており、今後は、地域枠の活用が施設運営を支えるより重要な要素となっていくのではないか。

## (iv) 定期立入調査の効率化

自治体向け調査では、定期立入調査・実地指導等の考えとして、「対象が重複しているが、どちらの監査も必要である」が48.3%、「対象が重複しているため、どちらかが実施すればよい」が25.0%、「対象が重複しているため、児童育成協会と自治体で項目を分けたほうがよい」が13.8%であり、現状の監査を望む声は全体の48.3%、重複を避ける改善を希望する声は全体の38.8%であった。また、施設長向け調査における自由記述回答でも、「児童育成協会と自治体それぞれで調査を行われることは負担」の回答が複数見られた。

これらより、保育の質を担保するという前提を維持しつつ、調査項目の整理・重点化、様式の標準化、電子化、立ち入り調査の手法の検討等により、自治体・施設双方の負担軽減を図る余地があると考えられる。このような運営の効率化が、保育の質向上に向けた資源配分

を促す一助となる可能性がある。

# 付録

## 付録 1 施設長向け調査

### ① 調査依頼状

令和 7 年 10 月吉日

企業主導型保育施設 施設長様  
企業主導型保育施設従事者の皆様

PwC コンサルティング合同会社

#### こども家庭庁 令和 7 年度子ども・子育て支援調査研究事業： 企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究

#### 企業主導型保育施設向け実態把握調査へのご協力をお願い

このたび、PwC コンサルティングでは、こども家庭庁から補助を受け、「企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究」事業を実施しております。本事業では、企業主導型保育施設の施設長様、従事者様、保護者様を対象に、企業主導型保育施設の実態や課題等を把握するアンケート調査を実施いたします。

調査票は「施設長様向けの調査：A」、「企業主導型保育施設に勤める従事者様向けの調査：B」及び「保護者様向けの調査：C」の 3 種類ございます。「保護者様向けの調査：C」については、大変お手数ですが保護者様への配布にご協力賜りますようお願いいたします。

保護者様への周知方法については、各施設で柔軟にご対応いただければと考えておりますが、別添の保護者様向けアンケートの依頼を作成いたしましたので、施設の保護者が御覧いただきやすい場所への掲示や連絡帳アプリでのご周知等を想定しております。

ご回答いただきました内容は、こども家庭庁にお届けし、企業主導型保育施設の今後の在り方について検討するための基礎情報として活用されます。

皆様におかれましては、ご多忙の折大変恐縮ですが、下記調査への回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1. 調査目的

企業主導型保育施設における実態や現場の声を把握し、今後の企業主導型保育施設の在り方を検討するための基礎資料を作成する

#### 2. 調査対象

調査は以下の調査対象ごとに実施し、A、B 及び C の計 3 種類ございます。

- ・ 調査 A：企業主導型保育施設の施設長様  
※運営を委託されている場合は、委託先と連携し、ご回答のほどよろしく願います
- ・ 調査 B：企業主導型保育施設の従事者様
- ・ 調査 C：企業主導型保育施設を利用する保護者様

#### 3. 調査内容

各調査の設問内容は下記の構成となっており、選択式の設問となっております。

<調査 A：企業主導型保育施設の施設長様>※回答目安時間：5 分程度

- ・ 企業主導型保育施設の利用状況
- ・ 企業主導型保育施設における運営課題

- ・ 企業主導型保育施設における課題に対する対策

<調査B：企業主導型保育施設の従事者様>※回答目安時間：5分程度

- ・ 企業主導型保育施設における課題
- ・ 企業主導型保育施設における課題に対する対策

<調査C：企業主導型保育施設を利用する保護者様>※回答目安時間：5分程度

- ・ 企業主導型保育施設の利用状況
- ・ 企業主導型保育施設の選定
- ・ 企業主導型保育施設の満足度

#### 4. 回答方法

下記の調査票リンク（web 調査票）に回答を入力の上、送信ボタンを押下してください。

#### 5. 回答期日

2025年11月21日（金）までにご回答をお願いいたします。

#### 6. 回答先

以下の URL または二次元コードから回答フォームにお入りください。

<調査A：企業主導型保育施設の施設長>

URL：<https://forms.office.com/r/9Py2gWmhfk>



二次元コード：

<調査B：企業主導型保育施設の従事者>

URL：<https://forms.office.com/r/6lrdrfFuim>



二次元コード：

<調査C：企業主導型保育施設を利用する保護者>

別添の調査依頼用紙を、施設を利用される保護者様に周知いただけますと幸いです。

## 7. 調査結果の活用方法

- ・ 調査結果は事業報告書に取りまとめ、国において、企業主導型保育施設の実態や課題等を把握するための基礎情報として活用されます。
- ・ 事業報告書は、令和8年4月以降に弊社のウェブサイトに掲載いたします。また、こども家庭庁のホームページにも掲載される予定です。
- ・ 今回ご協力いただいたご回答からは、施設を判別できる情報や個人情報を収集いたしません。また、ご協力いただいたご回答については個人が特定されないよう集計、分析いたします。

皆様におかれましては、通常業務でご多忙を極めるところ更なるお手数をおかけしますこと大変恐縮でございますが、調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

以上

### 【問合せ先】

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究 回収事務局(株式会社  
リサーチワークス)

<https://jp-cons-corporate-nursery-school.researchworks.co.jp/contact/>

### 【調査実施主体】

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究事業事務局  
担当者：当新、中辻

## ② 調査項目

分類	対象	問番号	調査項目	選択肢	回答方式
企業主導型保育施設向け調査	全て				
1. 施設の基本情報		1	あなたの施設の設置法人をお答えください	1 社会福祉法人 2 NPO法人（認定NPO法人含む） 3 社団法人（一般社団法人含む） 4 財団法人（一般財団法人含む） 5 学校法人 6 医療法人 7 株式会社 8 有限会社 9 合同会社 10 その他（FA）	SA
		2	設置法人の業種を教えてください。 （参考）日本標準産業分類（令和5年7月改定） <a href="https://www.soumu.go.jp/main_content/000890407.pdf">https://www.soumu.go.jp/main_content/000890407.pdf</a>	1 農業、林業 2 漁業 3 鉱業、採石業、砂利採取業 4 建設業 5 製造業 6 電気・ガス・熱供給・水道業 7 情報通信業 8 運輸業、郵便業 9 卸売業、小売業 10 金融業、保険業 11 不動産業、物品賃貸業 12 学術研究、専門・技術サービス業 13 宿泊業、飲食サービス業 14 生活関連サービス業、娯楽業 15 教育、学習支援業 16 医療、福祉 17 複合サービス事業 18 サービス業（他に分類されないもの） 19 公務（他に分類されるものを除く） 20 1～19以外の業種 21 どの分類に当てはまるのか分からない	SA
		3	設置法人の規模を教えてください。	1 1～49人 2 50～99人 3 100～299人 4 300人以上 5 不明	SA
		4	あなたの施設がある都道府県を選択してください。	47都道府県	SA
		5	施設が設置されている市町村名をお答えください。	-	FA
		6	あなたの施設の設置方法をお答えください。	1 単独設置・単独利用（企業が単独で設置し、利用するもの） 2 単独設置・共同利用（企業が単独で設置し、共同で利用するもの） 3 共同設置・共同利用（企業が共同で設置し、共同で利用するもの） 4 保育事業者設置型（保育事業者が設置した施設を1つまたは複数の企業が利用するもの） 5 わからない	SA
		7	あなたの施設の設置場所を教えてください。	1 企業の建物内に設置されている（敷地・フロア内） 2 企業の隣接地・近隣に単独で設置されている 3 商業施設・複合施設の中に設置されている 4 他法人が所有する建物の一部を借りて設置されている 5 住宅街の中に設置されている 6 公共施設（市民センターなど）の一部を活用して設置されている 7 その他（FA）	SA

		8 定員数を教えてください	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 10人未満</li> <li>2 10～19人</li> <li>3 20～29人</li> <li>4 30～39人</li> <li>5 40～49人</li> <li>6 50～59人</li> <li>7 60～69人</li> <li>8 70～79人</li> <li>9 80～89人</li> <li>10 90～99人</li> <li>11 100人以上</li> </ul>	SA
		9 在籍児童数を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 10人未満</li> <li>2 10～19人</li> <li>3 20～29人</li> <li>4 30～39人</li> <li>5 40～49人</li> <li>6 50～59人</li> <li>7 60～69人</li> <li>8 70～79人</li> <li>9 80～89人</li> <li>10 90～99人</li> <li>11 100人以上</li> </ul>	SA
		10 あなたの施設の運営方を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 自主運営方式</li> <li>2 委託運営方式</li> <li>3 わからない</li> </ul>	SA
		11 地域枠の有無を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域枠がある</li> <li>2 地域枠がない</li> </ul>	SA
		12 在籍児童の保護者（父親・母親）の勤務形態（常勤、パート等）や就労頻度（週〇回、週〇時間等）を把握していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 勤務形態（常勤、パート等）や就労頻度（週〇回、週〇時間等）を把握している</li> <li>2 勤務形態（常勤、パート等）を把握している</li> <li>3 就労頻度（週〇回、週〇時間等）を把握している</li> <li>4 在籍児童の保護者の就労について把握していない</li> </ul>	SA
2. 施設の利用状況	全て	13 令和7年9月1日時点での、あなたの施設の定員充足率を教えてください。 ※定員充足率 = 在籍児童 ÷ 定員 × 100 (在籍児童に月途中入退所児童、定型的な利用のない児童を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 100%</li> <li>2 90%以上100%未満</li> <li>3 80%以上90%未満</li> <li>4 70%以上80%未満</li> <li>5 60%以上70%未満</li> <li>6 50%以上60%未満</li> <li>7 40%以上50%未満</li> <li>8 30%以上40%未満</li> <li>9 20%以上30%未満</li> <li>10 10%以上20%未満</li> <li>11 10%未満</li> </ul>	SA
		14 あなたの施設の定員充足率の推移について、教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 近年（～5年程度）は、定員充足率が減少している</li> <li>2 近年（～5年程度）は、定員充足率が増加している</li> <li>3 近年（～5年程度）は、定員充足率は変化していない</li> <li>4 わからない</li> <li>5 その他（FA）</li> </ul>	SA

15	令和7年9月1日時点での、あなたの施設の地域枠利用率を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 50%</li> <li>2 40%以上50%未満</li> <li>3 30%以上40%未満</li> <li>4 20%以上30%未満</li> <li>5 10%以上20%未満</li> <li>6 10%未満</li> </ul>	SA
16	あなたの施設に在籍している児童のうち、もっとも多い属性を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 両親が共働きで両者ともフルタイム勤務の家庭</li> <li>2 両親が共働き（パートタイム勤務を含む）の家庭</li> <li>3 ひとり親でフルタイム勤務の保護者がいる家庭</li> <li>4 ひとり親でパートタイム勤務の保護者がいる家庭</li> <li>5 主たる利用契約企業の従業員枠で利用している家庭</li> <li>6 地域枠を利用している家庭</li> <li>7 その他（FA）</li> </ul>	SA
17	あなたの施設に在籍している児童の居住地から企業主導型保育施設へのアクセスについて、最も多いものを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 徒歩5分以内（施設近隣に居住）</li> <li>2 徒歩5～15分圏内</li> <li>3 自転車で10～20分程度</li> <li>4 自家用車などで15～30分かかる</li> <li>5 公共交通機関（電車・バス）を利用し15～30分程度</li> <li>6 公共交通機関（電車・バス）を利用し30～60分程度</li> <li>7 その他（FA）</li> </ul>	SA
18	あなたの施設で取り組んでいる保育の質を保障するために重視していることを全てお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 一人ひとりの発達・生活リズムに応じた関わり</li> <li>2 子どもが安心して過ごせる人間関係づくり（愛着・信頼）</li> <li>3 子どもに興味・関心を大切にした活動内容や遊びの環境構成</li> <li>4 異年齢の子ども同士の関わりを通じた保育活動</li> <li>5 個別のニーズ（国籍・文化・特別な配慮など）に応じた柔軟な対応</li> <li>6 保護者との連携・子育て支援の取り組み</li> <li>7 地域資源の活用（散歩・行事・地域他機関との連携など）</li> <li>8 その他（FA）</li> </ul>	MA
19	あなたの施設において特色としている活動内容はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 「自発的な活動としての遊び」を中心とした保育</li> <li>2 食育活動（園内調理／畑づくりなど含む）</li> <li>3 リトミック・音楽活動</li> <li>4 英語活動</li> <li>5 運動遊び・体操指導</li> <li>6 ICTやプログラミング的要素の導入（タブレット活用、デジタル絵本など）</li> <li>7 知育的活動（ワークブック／知育教材活用など）</li> <li>8 伝統行事や地域文化の継承（年中行事、地域文化の体験など）</li> <li>9 上記のような活動は特に実施していない</li> <li>10 その他（FA）</li> </ul>	MA
20	あなたの施設が提供している保育以外のサービスを実施している場合、当てはまるものを全てお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 布団、服等を保育所で洗濯</li> <li>2 おむつの提供・廃棄</li> <li>3 パートタイムの勤務者の受け入れ</li> <li>4 母乳保育の受け入れ</li> <li>5 親子での給食参加</li> <li>6 アプリやインターネットを用いた保育施設からの情報共有</li> <li>7 保育料のキャッシュレス決済対応</li> <li>8 駐車場の確保</li> <li>9 その他（FA）</li> </ul>	MA
21	人材確保の手法についてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 施設のHPで募集</li> <li>2 ハローワークで募集</li> <li>3 民間の新卒用就職サイトや転職サイトで募集</li> <li>4 保育士専門求人サイトで募集</li> <li>5 保育士養成校や大学などで募集</li> <li>6 職員との知り合いなどにつて</li> <li>7 施設を運営している法人が一括採用をしている</li> <li>8 募集していない</li> <li>9 その他（FA）</li> </ul>	MA

3. 保育施設所在地域の現状	全て	22	あなたの施設がある市町村の人口規模を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ～5万人程度</li> <li>2 5万～10万人程度</li> <li>3 10万人～20万人程度</li> <li>4 20万人～50万人程度</li> <li>5 50万～100万人程度</li> <li>6 100万人以上</li> <li>7 わからない</li> </ul>	SA
		23	あなたの施設がある地域の交通アクセスについて教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 施設から駅が徒歩10分以内にある</li> <li>2 施設からバス停が徒歩10分以内にある</li> <li>3 施設から駅が徒歩10分以内でない</li> <li>4 施設からバス停が徒歩10分以内でない</li> <li>5 車での送迎が必須である</li> <li>6 その他 (FA)</li> <li>7 わからない</li> </ul>	MA
		24	あなたの施設がある地域の様子について教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 施設近くに大型のショッピングモールなどがある</li> <li>2 施設近くにスーパーやコンビニなど基本的な施設は揃っている</li> <li>3 施設近くに商業施設はほとんどない</li> <li>4 施設近くにオフィス街がある</li> <li>5 その他 (FA)</li> <li>6 わからない</li> </ul>	MA
		25	あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等の有無を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 徒歩10分圏内に3か所以上の施設（認可保育所、幼稚園、認定こども園など）がある</li> <li>2 徒歩10分圏内に1～2施設がある</li> <li>3 徒歩15分以上または車での移動が必要な距離に施設がある</li> <li>4 周辺に該当施設がほぼ存在しない</li> <li>5 その他 (FA)</li> <li>6 わからない</li> </ul>	SA
	問25＝1～3と回答した場合	26	あなたの施設がある地域周辺の認可保育所、幼稚園、認定こども園等は大型施設（定員150名以上）ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 周辺に大型施設が1施設ある</li> <li>2 周辺に大型施設が複数ある</li> <li>3 周辺に大型施設はない</li> </ul>	SA
4. 施設の運営課題	全て	27	あなたの施設における定員充足率に関する課題をすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない</li> <li>2 周辺に新設園や人気施設が増え、選ばれにくくなっている</li> <li>3 保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない</li> <li>4 人材不足により定員を受け入れられない状況がある</li> <li>5 施設環境が古く、安全性や快適性に課題がある</li> <li>6 保護者ニーズと施設の教育方針にギャップがある</li> <li>7 交通手段や立地が通園に不向きである</li> <li>8 0歳児、1歳児など特定年齢の充足率が低い傾向がある</li> <li>9 園児の効果的な募集方法がわからない</li> <li>10 福利厚生として設置した施設に対し、対象となる利用者が縮小している</li> <li>11 特に大きな課題はない</li> <li>12 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		28	あなたの施設における、保育士の人員確保や定着支援に関する課題をすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 一人ひとりの子どもに丁寧に関わる人員の確保が困難</li> <li>2 職員の経験・スキルに差があり、業務の質にばらつきがある</li> <li>3 保護者からの要望に対応する人員の確保が困難</li> <li>4 業務過多である</li> <li>5 離職率が高く、人材の定着が難しい</li> <li>6 給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている</li> <li>7 働き方・働く時間の柔軟性がない</li> <li>8 保育士の効果的な募集方法がわからない</li> <li>9 特に大きな課題はない</li> <li>10 その他 (FA)</li> </ul>	MA

		29	あなたの施設における保育の施設に関する課題をすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 保育環境（施設・設備）が老朽化などで十分でない</li> <li>2 保育環境（施設・駐車場等）が狭く、十分でない</li> <li>3 ICTやデジタルツールの導入が進んでおらず、業務効率化が難しい</li> <li>4 特に大きな課題はない</li> <li>5 その他（FA）</li> </ul>	MA
		30	施設長として、マネジメントに関する課題と感じているものをお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 職員とのコミュニケーションの機会が少ない</li> <li>2 職員とのコミュニケーションの方法がわからない</li> <li>3 職員とのコミュニケーションがうまくいかない</li> <li>4 自身に保育に関する専門知識がない</li> <li>5 自身に保育士を育成した経験がない/少ない</li> <li>6 園内でのキャリア形成の仕組みが整備されていない</li> <li>7 評価制度が整備されていない</li> <li>8 職員の見解が反映されにくく、意思決定が一方的になっている</li> <li>9 外部との連携（行政・他施設など）が不十分で情報が不足している</li> <li>10 保育の質向上に向けた取組が継続できていない</li> <li>11 外部研修や学びの機会が限られていて、スキル向上が難しい</li> <li>12 内部で職員育成（研修・面談等）の機会が限られている</li> <li>13 保護者対応に関する方針が統一できていない</li> <li>14 特に大きな課題はない</li> <li>15 その他（FA）</li> </ul>	MA
		31	あなたの施設における保護者との関わりに関する課題をすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 保護者とのコミュニケーションが十分に取れていない</li> <li>2 保護者からの要望が多岐にわたり、対応に時間や人手が不足している</li> <li>3 保護者面談や相談の時間確保が難しい</li> <li>4 保護者参加型の行事への参加率が低い</li> <li>5 保育方針や活動内容が十分に伝わっておらず、誤解が生じることがある</li> <li>6 保護者同士のトラブルや関係性に施設側が関与せざるを得ない場合がある</li> <li>7 保護者の多様な価値観に対応することが難しい</li> <li>8 情報共有ツール（アプリ・連絡帳等）の活用が定着していない</li> <li>9 保育士が保護者対応に苦手意識を持っている/支援体制が整っていない</li> <li>10 特に大きな課題はない</li> <li>11 その他（FA）</li> </ul>	MA
5. 施設の運営課題に対する対策	全て	32	あなたの施設における定員充足率を向上させるため対応について、実施していることをすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している</li> <li>2 見学希望者のニーズに柔軟に対応している</li> <li>3 利用者の口コミや紹介を促進する取組を行っている</li> <li>4 保護者ニーズに応じた柔軟な保育時間や延長保育を導入している</li> <li>5 入園説明会やイベントなどを開催し施設の魅力を伝えている</li> <li>6 企業や地域との連携を通じて利用者拡大を図っている</li> <li>7 定員充足率の状況を分析し、改善に向けた施策を実施している</li> <li>8 保育内容や環境の質を高めて、選ばれる施設づくりを行っている</li> <li>9 対象年齢や受け入れ条件の見直しを行っている</li> <li>10 特に取り組んでいない</li> <li>11 その他（FA）</li> </ul>	MA
		33	保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のために、どのような対応を実施していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 採用活動の強化（求人確保、紹介制度、インクーン活用など）</li> <li>2 業務の標準化・効率化（マニュアル整備、ICT活用など）</li> <li>3 シフトや業務分担の見直しによる負担軽減</li> <li>4 保育士向けのメンタルヘルス・相談支援体制の整備</li> <li>5 離職者の意見を分析し、改善に活かす取組</li> <li>6 職場内のコミュニケーション活性化（朝礼、面談、スタッフ交流など）</li> <li>7 給与・手当・福利厚生などの待遇見直し</li> <li>8 保育士の園内のキャリア形成の仕組みや研修制度の整備</li> <li>9 保育の質向上を目的とした勉強会・外部研修の参加促進</li> <li>10 多様な働き方への対応（短時間勤務、フレックス制度など）</li> <li>11 SNS等で施設の魅力発信</li> <li>12 特に取り組んでいない</li> <li>13 その他（FA）</li> </ul>	MA

	34	ご自身の施設で、職員との関係づくりや組織運営のために取り組んでいることについて教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 職員との定期的な個別面談を実施している</li> <li>2 業務分組や業務の効率化を見直している</li> <li>3 職員研修や外部講師による学びの機会を設けている</li> <li>4 保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的実施している</li> <li>5 日々の実践や保育の中で生まれる気づきを職員間で共有する機会がある</li> <li>6 新しい取り組みや変化に対して、前向きに試行できる風土づくりを行っている</li> <li>7 職員が自由に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている</li> <li>8 職員の多様な価値観や個性を尊重した関わりや業務の割り当てを心がけている</li> <li>9 評価制度や業務指導の仕組みを整備・改善している</li> <li>10 職員のキャリア形成に向けた仕組みづくりを進めている</li> <li>11 職員間の情報共有や雰囲気づくりに向けた取り組みを行っている（朝礼・掲示板など）</li> <li>12 保育や運営に関して、理念・方針を職員と共有し、それらに基づいた判断を意図している</li> <li>13 外部施設や団体、行政等との情報交換や連携を行っている</li> <li>14 意思決定において、特定の人経験だけに依らず、共通の目的を重視している</li> <li>15 現在は特に取り組まれていない</li> <li>16 計画や意欲はあるが未着手</li> <li>17 わからない</li> <li>18 その他（FA）</li> </ul>	MA
	35	あなたの施設において、保護者との関わりについて、どのような取組を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 連絡帳やアプリで毎日の様子を伝えている</li> <li>2 月ごとなど定期的に保育内容や成長を報告している</li> <li>3 保護者との面談を定期的に行っている</li> <li>4 必要に応じて個別の相談に応じている</li> <li>5 運動会や季節の行事などに保護者が参加できる</li> <li>6 入園・卒園式などで保護者との交流がある</li> <li>7 子育てに関する講座やセミナーを開催している</li> <li>8 保護者アンケートなどで意見を取り入れている</li> <li>9 保護者同士が交流できる場がある（座談会、カフェなど）</li> <li>10 特に取り組んでいない</li> <li>11 今後検討中</li> <li>12 その他（FA）</li> </ul>	MA
	36	企業主導型保育施設の制度、運営に関するご意見がありましたら記載をお願いします。	-	FA

## 付録2 従事者向け調査

### ① 調査項目

分類	対象	問番号	調査項目	選択肢	回答方式		
企業主導型保育施設向け調査	全て	1	回答者の職種をお答えください。	1 保育士 2 保育補助者 3 連携推進員 4 看護師 5 事務職員 6 調理員 7 その他 (FA)	SA		
			2	定員数を教えてください	-	Num	
			3	在籍児童数を教えてください。	-	Num	
2. 施設の課題	全て	4	あなたの勤務している施設における、定員充足率に関する課題をすべてお答えください。	1 地域の出生数減少により、そもそも対象児童が少ない 2 周辺に新設園や人気施設が増え、選ばれにくくなっている 3 保護者に施設が十分に知られていない、特色が伝わっていない 4 人材不足により定員を受け入れられない状況がある 5 施設環境が古く、安全性や快適性に課題がある 6 保護者ニーズと施設の教育方針にギャップがある 7 交通手段や立地が通園に不向きである 8 0歳児・1歳児など特定年齢の充足率が低い傾向がある 9 園児の効果的な募集方法がわからない 10 福利厚生として設置した施設に対し、対象となる利用者層が縮小している 11 特に大きな課題はない 12 わからない 13 その他 (FA)	MA		
			5	あなたの勤務している施設における、保育士の人員確保や定着支援に関する課題をすべてお答えください。	1 一人ひとりの子どもに丁寧に接する人員の確保が困難 2 職員の経験・スキルに差があり、業務の質にばらつきがある 3 保護者からの要望に対応する人員の確保が困難 4 業務過多である 5 離職率が高く、人材の定着が難しい 6 給与や待遇が他業種・他施設と比べて見劣りしている 7 働き方・働く時間の柔軟性がない 8 保育士の効果的な募集方法がわからない 9 特に大きな課題はない 10 その他 (FA)	MA	
				6	あなたの勤務している施設における、施設に関する課題をすべてお答えください。	1 保育環境 (施設・設備) が老朽化などで十分でない 2 保育環境 (施設・駐車場等) が狭く、十分でない 3 ICTやデジタルツールの導入が進んでおらず、業務効率化が難しい 4 特に大きな課題はない 5 わからない 6 その他 (FA)	MA
		7	あなたの施設における状況として当てはまるものを以下の項目から全て選択してください	1 職員との定期的な個別面談を実施している 2 業務分担や業務の効率化を見直している 3 職員研修や外部講師による学びの機会を設けている 4 保育の質向上に向けた全体の内部ミーティングを定期的に実施している 5 日々の実践や保育の中で生まれる気づきを職員間で共有する機会がある 6 新しい取り組みや変化に対して、前向きに試行できる風土づくりを行っている 7 職員が自由に意見を言しやすい雰囲気づくりに努めている 8 職員の多様な価値観や個性を尊重した関わりや業務の割り当てを心がけている 9 評価制度や業務指導の仕組みを整備・改善している 10 職員のキャリア形成に向けた仕組みづくりに進んでいる 11 職員間の情報共有や雰囲気づくりに向けた取り組みを行っている (朝礼・掲示板など) 12 保育や運営に関して、理念・方針を職員と共有し、それらに基づいた判断を意思している 13 外部施設や団体、行政等との情報交換や連携を行っている 14 意思決定において、特定の人の経験だけに依らず、共通の目的を重視している 15 現在は特に取り組まれていない 16 計画や意欲はあるが未着手 17 わからない 18 その他 (FA)	MA		
				8	あなたの勤務している施設における、保護者との関わりに関する課題をすべてお答えください。	1 保護者とのコミュニケーションが十分に取れていない 2 保護者からの要望が多岐にわたり、対応に時間や人手が不足している 3 保護者面談や相談の時間確保が難しい 4 保護者参加型の行事への参加率が低い 5 保育方針や活動内容が十分に伝わっておらず、誤解が生じることがある 6 保護者同士のトラブルや関係性に施設側が関与せざるを得ない場合がある 7 保護者の多様な価値観に対応することが難しい 8 情報共有ツール (アプリ・連絡帳等) の活用が定着していない 9 保育士が保護者対応に苦手意識を持っている / 支援体制が整っていない 10 特に大きな課題はない 11 わからない 12 その他 (FA)	MA

2. 施設の課題に対する口対策	全て	9	あなたの勤務している施設における定員充足率を向上させるため対応について、実施されていることをすべてお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ホームページやSNS等で施設の情報発信を強化している</li> <li>2 見学希望者のニーズに柔軟に対応している</li> <li>3 利用者の口コミや紹介を促進する取り組みを行っている</li> <li>4 保護者ニーズに応じた柔軟な保育時間や延長保育を導入している</li> <li>5 入園説明会やイベントなどを開催し施設の魅力を伝えている</li> <li>6 企業や地域との連携を通じて利用者拡大を図っている</li> <li>7 定員充足率の状況を分析し、改善に向けた施策を実施している</li> <li>8 保育内容や環境の質を高めて、選ばれる施設づくりを行っている</li> <li>9 対象年齢や受け入れ条件の見直しを行っている</li> <li>10 特に取り組んでいない</li> <li>11 わからない</li> <li>12 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		10	あなたの勤務している施設において、保育士の人員確保、業務負担軽減策、離職予防、職場環境改善、待遇改善、質向上策のために、どのような対応が実施されていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 採用活動の強化 (求人媒体、紹介制度、インターン活用など)</li> <li>2 業務の標準化・効率化 (マニュアル整備、ICT活用など)</li> <li>3 シフトや業務分担の見直しによる負担軽減</li> <li>4 保育士向けのメンタルヘルス・相談支援体制の整備</li> <li>5 離職者の意見を分析し、改善に活かす取り組み</li> <li>6 職場内のコミュニケーション活性化 (朝礼、面談、スタッフ交流など)</li> <li>7 給与・手当・福利厚生などの待遇見直し</li> <li>8 保育士の園内のキャリア形成の仕組みや研修制度の整備</li> <li>9 保育の質向上を目的とした勉強会・外部研修の参加促進</li> <li>10 多様な働き方への対応 (短時間勤務、フレックス制度など)</li> <li>11 SNS等で施設の魅力発信</li> <li>12 特に取り組んでいない</li> <li>13 わからない</li> <li>14 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		11	あなたの勤務している施設において、保護者との関わりについて、どのような取組が行われていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 連絡帳やアプリで毎日の様子を伝えている</li> <li>2 月ごとなど定期的に保育内容や成長を報告している</li> <li>3 保護者との面談を定期的に行っている</li> <li>4 必要に応じて個別の相談に応じている</li> <li>5 運動会や季節の行事などに保護者が参加できる</li> <li>6 入園・卒園式などで保護者との交流がある</li> <li>7 子育てに関する講座やセミナーを開催している</li> <li>8 保護者アンケートなどで意見を取り入れている</li> <li>9 保護者同士が交流できる場がある (座談会、カフェなど)</li> <li>10 特に取り組んでいない</li> <li>11 今後検討中</li> <li>12 わからない</li> <li>13 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		12	企業主導型保育施設の制度、運営に関するご意見がありましたら記載をお願いします。	-	FA

## 付録3 保護者向け調査

### ① 調査依頼状

こども家庭庁 令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業：  
企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究

# WEBアンケートのお願い

～企業主導型保育施設を利用する保護者向け～



皆様にとって大切な調査となりますので、お一人でも多くの方に  
ご回答いただきたいと考えております。ご協力をお願いいたします。



**期限** 令和7年11月21日（金）まで

**所要時間** 5分程度

**目的** ご回答いただきました内容は、こども家庭庁にお届けし、  
企業主導型保育施設の今後の政策について検討するための  
基礎情報として活用されます

企業主導型保育  
施設の

**利用状況**

企業主導型保育  
施設の

**選定理由**

企業主導型保育  
施設の

**満足度**

### 回答方法

右記二次元コード、又は下記URLより回答を入力の上、  
送信ボタンを押してください

**URL** <https://forms.office.com/r/12ChsgTw8X>



※今回ご協力いただいたご回答からは、個人情報収集いたしません。  
また、ご協力いただいたご回答については個人が特定されないよう集計、分析いた  
します。  
※調査結果をとりまとめた事業報告書は、令和8年4月以降に調査実施主体のPwCコ  
ンサルティング合同会社のウェブサイトに掲載いたします。また、こども家庭庁の  
ホームページにも掲載される予定です。

ご不明な点がございましたら、下記問合せ先までご連絡ください。

【問合せ先】

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究 回収事務局（株式会社リサーチワークス）  
問い合わせフォーム：<https://jp-cons-corporate-nursery-school.researchworks.co.jp/contact/>

## ② 調査項目

分類	対象	問番号	調査項目	選択肢	回答方式
保護者向け調査					
1. 基本情報	全て				
		1	お子様はどちらの枠で当該施設を利用されていますか。	1 運営法人に勤務、または運営法人と共同利用契約を結んでいる企業に勤務し、施設を利用している 2 地域住民として利用している	SA
		2	当該施設から居住地までの主な送迎手段を教えてください。	1 徒歩 2 自転車 3 車 4 電車 5 バス 6 その他 (FA)	SA
		3	現在の利用されている施設のある都道府県を選択してください。	47都道府県	SA
		4	施設が設置されている市町村名をお答えください。	-	FA
		5	下記URLより確認いただき、利用する施設の定員充足率をお答えください。 (参考) 企業主導型保育事業ポータル (令和7年4月) <a href="https://www.kigyounaihoiku.jp/wp-content/uploads/2025/07/20250731-01-r704jyuusoku.pdf">https://www.kigyounaihoiku.jp/wp-content/uploads/2025/07/20250731-01-r704jyuusoku.pdf</a>	1 100% 2 90%以上100%未満 3 80%以上90%未満 4 70%以上80%未満 5 60%以上70%未満 6 50%以上60%未満 7 40%以上50%未満 8 30%以上40%未満 9 20%以上30%未満 10 10%以上20%未満 11 10%未満 12 わからない	SA
		6	あなたの施設がある市町村の人口規模を教えてください。	1 ~5万人程度 2 5万~10万人程度 3 10万人~20万人程度 4 20万人~50万人程度 5 50万~100万人程度 6 100万人以上 7 わからない	SA
		7	当該施設からご自宅までの距離を教えてください。	1 徒歩5分以内 (施設近隣に居住) 2 徒歩5~15分圏内 3 自転車で10~20分程度 4 公共交通機関 (電車・バス) を利用し15~30分程度 5 自家用車などで30分以上かかる 6 公共交通機関 (電車・バス) を利用し30~60分程度 7 その他 (FA)	SA
		8	当該施設から勤め先までの距離を教えてください。	1 同じ建物内に当該施設と勤め先がある 2 徒歩5分以内 (施設近隣に勤め先がある) 3 徒歩5~15分圏内 4 自転車で10~20分程度 5 公共交通機関 (電車・バス) を利用し15~30分程度 6 自家用車などで30分以上かかる 7 公共交通機関 (電車・バス) を利用し30~60分程度 8 その他 (FA)	SA

2. 施設の選定	全て	9	企業主導型保育施設と認可保育所との違いについてご存じですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 知っている</li> <li>2 知らない</li> </ul>	SA
		10	保育施設を選定する際に重要視していることをすべて選択してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開所時間の長さ</li> <li>2 自宅からのアクセスの良さ</li> <li>3 職場からのアクセスの良さ</li> <li>4 保育士の人数</li> <li>5 保育士の対応</li> <li>6 保育の内容</li> <li>7 施設や設備の充実さ</li> <li>8 園庭の広さ</li> <li>9 保育料</li> <li>10 法人/施設の信頼性</li> <li>11 入園までの時期、プロセスの柔軟さ</li> <li>12 周りの評判や口コミ</li> <li>13 重要視していることはない</li> <li>14 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		11	現在利用している企業主導型保育施設を選定した理由をすべて選択してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 早朝や夜間等、平日の開所時間が長い</li> <li>2 土日・祝日も開所している</li> <li>3 自宅と保育施設が近いため、送り迎えがしやすい</li> <li>4 職場と保育施設が近いため、すぐに親が駆けつけることができる</li> <li>5 1クラスの担任等の保育士の先生が多い</li> <li>6 施設・設備が充実している・新しい</li> <li>7 普段活動する保育室が広い</li> <li>8 防犯・防災体制がしっかりしている</li> <li>9 保育料の料金設定を低くしている</li> <li>10 入園までの時期、プロセスが柔軟・簡潔である</li> <li>11 他の併設施設・サービスと連携している</li> <li>12 周囲の評判・口コミが良い</li> <li>13 施設や保育士の雰囲気が良い、コミュニケーションがとりやすい</li> <li>14 保育施設の利用をきっかけに、保護者が職場内で新たなネットワークを構築することができる</li> <li>15 他の認可保育所等が定員をいっぱいに入れていなかった</li> <li>16 空きがあり、すぐに入れた</li> <li>17 勤務先が運営していた</li> <li>18 当該施設と直接契約できる</li> <li>19 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		12	当該施設で取り組まれている保育の質を保障するために重視されていることを全てお答えください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 一人ひとりの発達・生活リズムに応じた関わり</li> <li>2 子どもが安心して過ごせる人間関係づくり (愛着・信頼)</li> <li>3 子どもに興味・関心を大切にした活動内容や遊びの環境構成</li> <li>4 異年齢の子と同志の関わりを通じた保育活動</li> <li>5 個別のニーズ (国籍・文化・特別な配慮など) に応じた柔軟な対応</li> <li>6 保護者との連携・子育て支援の取り組み</li> <li>7 地域資源の活用 (散歩・行事・地域の他機関との連携など)</li> <li>8 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		13	当該施設で取り組まれている特色ある活動内容はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 食育活動 (園内調理/畑づくりなど含む)</li> <li>2 リトミック・音楽活動</li> <li>3 英語活動</li> <li>4 運動遊び・体操指導</li> <li>5 ICTやプログラミング的要素の導入 (タブレット活用、デジタル絵本など)</li> <li>6 知育的活動 (ワークブック/教材活用など)</li> <li>7 保育理念・方針に基づいた独自のキュラム (自然活動、プロジェクト型保育など)</li> <li>8 伝統行事や地域文化の継承 (年中行事、地域文化の体験など)</li> <li>9 上記のような活動は特に実施されていない</li> <li>10 その他 (FA)</li> </ul>	MA
3. 施設の満足度	全て	14	お子さまの園での様子について、当てはまるものをすべてお選びください	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 園での生活に楽しみに通っている</li> <li>2 新しい友だちや先生と関わる姿が増えてきた</li> <li>3 食事やお昼寝など、生活リズムが整ってきた</li> <li>4 自分の気持ちや考えを伝えようとするようになった</li> <li>5 家でも園の出来事や歌・遊びなどを話してくれる</li> <li>6 少しずつ身のまわりのこと (着替え・片付け等) に挑戦している</li> <li>7 通うことに不安や抵抗がある様子がある</li> <li>8 園での様子はよくわからない</li> <li>9 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		15	当該施設の保育の質に満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 とても満足している</li> <li>2 おおむね満足</li> <li>3 どちらとも言いえない</li> <li>4 やや不満</li> <li>5 不満</li> </ul>	SA

問15に1、2と回答した場合	16	当該施設の保育の質に満足している場合、どのような点で満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 保育士が熱心</li> <li>2 子どもが楽しそうに通っている</li> <li>3 施設で行われる行事やイベントなどの活動が多く、充実している</li> <li>4 連絡を丁寧にとってもえらる</li> <li>5 定期的な面談がある</li> <li>6 こどもの個性や発達段階に応じた支援が行われている</li> <li>7 他の保護者と交流する機会がある</li> <li>8 保育士が十分に配置されている</li> <li>9 その他 (FA)</li> </ul>	MA
問15に4、5と回答した場合	17	当該施設の保育の質に満足していない場合、どのような点で不満がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 保育士に熱意を感じられない</li> <li>2 子どもが楽しそうに通っていない</li> <li>3 施設で行われている行事やイベントの活動が少ない</li> <li>4 連絡が十分ではない</li> <li>5 保護者とのコミュニケーションの機会が十分でない</li> <li>6 こどもの個性や発達段階に応じた支援が行われていない</li> <li>7 他の保護者と交流する機会が十分でない</li> <li>8 保育士が十分に配置されていない</li> <li>9 その他 (FA)</li> </ul>	MA
全て	18	当該施設の保育士の対応に満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 とても満足している</li> <li>2 おおむね満足</li> <li>3 どちらとも思えない</li> <li>4 やや不満</li> <li>5 不満</li> </ul>	SA
問18に1、2と回答した場合	19	当該施設の保育士の対応に満足している場合、どのような点で満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 親身になって対応している</li> <li>2 日々の報告が丁寧である</li> <li>3 保育士の定着が良く、安定した体制が整っている</li> <li>4 子どもとの相性がいい</li> <li>5 子どもと密に関わっている</li> <li>6 その他 (FA)</li> </ul>	MA
問18に4、5と回答した場合	20	当該施設の保育士の対応に満足していない場合、どのような点で不満がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 保育士の対応が事務的である</li> <li>2 日々の報告が丁寧さに欠ける</li> <li>3 保育士の入れ替わりが多い</li> <li>4 子どもと相性が良くない</li> <li>5 子どものかかわりが薄い</li> <li>6 その他 (FA)</li> </ul>	MA
全て	21	当該施設的环境について満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 とても満足している</li> <li>2 おおむね満足</li> <li>3 どちらとも思えない</li> <li>4 やや不満</li> <li>5 不満</li> </ul>	SA
問21に1、2と回答した場合	22	当該施設的环境に満足している場合、どのような点で満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開所時間が長い</li> <li>2 土日も開所している</li> <li>3 家から施設までのアクセスが良い</li> <li>4 職場から施設までのアクセスが良い</li> <li>5 施設は清潔で安全である</li> <li>6 施設の設備が整っている</li> <li>7 園庭が広い</li> <li>8 施設の安全管理（避難訓練・防犯等）に安心している</li> <li>9 連絡係がアプリ等でやり取りできるので、手間が少なく便利</li> <li>10 認可保育所と比較し、保育料の料金設定が低い</li> <li>11 保育料をキャッシュレスで支払うことができ、便利</li> <li>12 栄養のある給食が提供されている</li> <li>13 その他 (FA)</li> </ul>	MA
問21に4、5と回答した場合	23	当該施設的环境に満足していない場合、どのような点で不満がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開所時間が短い</li> <li>2 土日に開所していない</li> <li>3 家から施設までのアクセスが良くない</li> <li>4 職場から施設までのアクセスが良くない</li> <li>5 衛生面で懸念がある</li> <li>6 施設は設備が十分ではない</li> <li>7 園庭がなかったり、園庭が狭かったり、使いづらい</li> <li>8 施設の安全管理（避難訓練・防犯等）に不安がある</li> <li>9 紙の連絡係を使用しており、不便を感じる</li> <li>10 認可保育所と比較し、保育料の料金設定が高い</li> <li>11 保育料は現金払いのため、不便を感じる</li> <li>12 給食があまり充実していない</li> <li>13 その他 (FA)</li> </ul>	MA

全て	24	これらすべて（保育の質・保育士の対応・施設の環境）を踏まえて、総合的な施設の満足度を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 とても満足している</li> <li>2 おおむね満足</li> <li>3 どちらとも言えない</li> <li>4 やや不満</li> <li>5 不満</li> </ul>	SA
	25	施設に対して改善を希望する点をすべて選択してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開所時間</li> <li>2 開所日</li> <li>3 保育士の人数や体制</li> <li>4 保育内容や活動内容の充実</li> <li>5 園内設備や安全面</li> <li>6 保護者とのコミュニケーション</li> <li>9 保育料</li> <li>10 給食</li> <li>11 アプリを活用するなど、デジタル化の促進</li> <li>12 園庭</li> <li>13 駐車場</li> <li>14 特に改善を希望する点はない</li> <li>15 その他（FA）</li> </ul>	MA
	26	企業主導型保育施設の制度、運営に関するご意見がありましたら記載をお願いします。	-	FA

## 付録4 自治体向け調査

### ① 調査依頼状

令和7年10月吉日

都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市  
企業主導型保育施設の運営指導等担当部署  
ご担当者様

PwC コンサルティング合同会社

#### こども家庭庁 令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業： 企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究

#### 自治体向け実態調査へのご協力をお願い

このたび、PwC コンサルティングでは、こども家庭庁 令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業の国庫補助を受け、「企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究」事業を実施しております。本事業では、企業主導型保育施設の運営実態や課題等を把握し、今後の在り方について検討するための基礎情報とするため、都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市を対象とし、企業主導型保育施設の運営指導等に関する実態把握調査を実施いたします。

皆様におかれましては、ご多忙の折大変恐縮ですが、下記調査への回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1. 調査目的

企業主導型保育施設の運営指導等に関する実態を把握する

#### 2. 調査対象

都道府県、指定都市、中核市、児童相談所設置市の企業主導型保育施設の運営指導等担当部署  
ご担当者様

※認可外保育施設の指導監督に関して、権限移譲されている場合は、都道府県が本調査をご回答くださいますようお願い申し上げます。

#### 3. 調査内容

設問内容は下記の構成となっており、選択式の設問となっております。  
また、本調査は3分程度で回答いただけます。

- ・ 認可外保育施設に対する指導監督基準に基づく指導監督等の内容
- ・ 企業主導型保育施設における課題

#### 4. 回答方法

下記の調査票リンク（web 調査票）に回答を入力の上、送信ボタンを押下してください。

**5. 回答期日**

2025年11月21日（金）までにご回答をお願いいたします。

**6. 回答先**

以下のリンクから回答フォームにお入りください。

リンク：<https://smilesurvey.co/s/56aaf46e/o>

**7. 調査結果の活用方法**

- ・ 調査結果については、事業報告書として取りまとめ、国において、企業主導型保育施設の在り方の検討における基礎情報として活用されます。
- ・ 事業報告書は、令和8年4月以降に弊社のウェブサイトに掲載いたします。また、子ども家庭庁のホームページにも掲載される予定です。
- ・ 今回ご協力いただいたご回答からは、個人情報を収集いたしません。また、ご協力いただいたご回答については、個人が特定されないよう集計、分析いたします。

皆様におかれましては、お忙しいところお手数をおかけしますこと大変恐縮でございますが、調査にご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

以上

**【問合せ先】**

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究 回収事務局(株式会社  
リサーチワークス)

<https://jp-cons-corporate-nursery-school.researchworks.co.jp/contact/>

**【調査実施主体】**

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究事業事務局

担当者：当新、中辻

## ② 調査項目

分類	対象	問番号	調査項目	選択肢	回答方式
自治体向け調査					
1. 基本情報	全て	1	貴自治体名を教えてください。(都道府県) (回答自治体が市区の場合)	〇〇都道府県	FA
		2	企業主導型保育施設の監査を担当している部署名を教えてください。	〇〇市区	FA
		3	貴自治体では、企業主導型保育施設への定期立入調査、実地指導等を実施していますか。	1 実施している 2 実施していない	SA
2. 認可外保育施設に対する指導監督基準に基づく指導監督等	問3 = 1と回答した場合	4	定期立入調査、実地指導等において、企業主導型保育事業実施主体（児童育成協会）との連携について教えてください。	1 密接に連携している（情報共有や相談等を実施） 2 一部連携している（必要時のみ、情報共有や相談等を実施） 3 ほとんど連携していない 4 連携していない	SA
	問3 = 1と回答した場合	5	認可保育所への監査や運営指導と企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向について、企業主導型保育施設に対する具体的な内容を教えてください。	1 職員配置に関する指摘が多い 2 安全管理体制に関する指摘が多い 3 保育内容やプログラムに関する指摘が多い 4 財務管理に関する指摘が多い 5 労務管理に関する指摘が多い 6 認可保育所と企業主導型保育施設の立入調査等において、指導内容に差異は見られない 7 わからない 8 その他（FA）	MA
	問3 = 1と回答した場合	6	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の定期立入調査、実地指導等における指導の傾向について、企業主導型保育施設に対する具体的な内容を教えてください。	1 職員の資格や配置基準に関する指摘が多い 2 設備や衛生管理に関する指摘が多い 3 保護者対応や運営方針に関する指摘が多い 4 財務管理に関する指摘が多い 5 労務管理に関する指摘が多い 6 企業主導型保育施設以外の認可外保育施設と企業主導型保育施設の立入調査等において、指導内容に差異は見られない 7 わからない 8 その他（FA）	MA
	問3 = 1と回答した場合	7	企業主導型保育施設の定期立入調査等において、特に多い指摘内容を教えてください。	1 職員配置基準の未達成 2 安全管理体制の不備 3 保育内容の不適切さ 4 書類不備や報告遅延 5 労務管理の不十分さ 6 その他（FA）	MA
	問3 = 1と回答した場合	8	児童育成協会が行う監査と貴自治体の定期立入調査等との連携状況について教えてください。	1 児童育成協会と定期立入調査、実地指導等対象を確認している 2 児童育成協会による指導・定期立入調査、実地指導等の実施計画の共有及び実施日程の調整を実施している 3 定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているため、自治体として定期立入調査、実地指導等を行い、必要時のみ情報共有を行っている 4 定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているため、児童育成協会と共同で定期立入調査、実地指導等を実施している 5 定期立入調査、実地指導等の対象が重複しているが、児童育成協会とは連携していない 6 その他（FA）	MA
	問8 = 5以外の場合	9	児童育成協会が行う監査と貴自治体の定期立入調査等との連携内容について教えてください。	1 自治体として立入調査を実施している 2 自治体として午即時調査を実施している 3 自治体として追加で定期立入調査、実地指導等に関する取組を実施している 4 児童育成協会が実施する定期立入調査、実地指導等において、児童福祉の観点から助言や支援を実施している 5 児童育成協会と合同で定期立入調査、実地指導等を実施している 6 わからない 7 その他（FA）	MA
	全て	10	児童育成協会との監査を踏まえ、自治体で実施する定期立入調査、実地指導等について、どのようにお考えですか。	1 対象が重複しているため、児童育成協会と自治体で項目を分けたほうがいい 2 対象が重複しているため、どちらかが実施すればよい 3 対象が重複しているが、どちらの監査も必要である 4 その他（FA）	SA

3.企業主導型保育施設における課題	全て	11	認可外保育施設に対する指導監督基準等を踏まえ、企業主導型保育施設における課題をすべて教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 園児が来ます、定員が埋まらない</li> <li>2 園児の募集方法がわからない</li> <li>3 定員人数を常に超過している</li> <li>4 保育士が不足している</li> <li>5 保育士の育成の仕方がわからない</li> <li>6 企業主導型保育施設ごとの保育の質の差が大きい</li> <li>7 企業主導型保育施設における保育の質を向上させる方法がわからない</li> <li>8 安全管理や衛生管理が十分にできていない</li> <li>9 保護者対応が十分ではない</li> <li>10 施設・職員のマネジメントがうまくいっていない/不十分である</li> <li>11 児童育成協会と企業主導型保育型施設の連携が十分ではない</li> <li>12 課題は特に感じていない</li> <li>13 わからない</li> <li>14 その他 (FA)</li> </ul>	MA
		12	定員充足率が低い施設（定員充足率が40%未満）に特有の課題を感じていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 はい</li> <li>2 いいえ</li> <li>3 わからない</li> </ul>	SA
	問12=1の場合	13	定員充足率が低い施設に課題がある場合、どのような課題がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 園児が来ます、定員が埋まらない</li> <li>2 園児の募集方法がわからない</li> <li>3 保育士が不足している</li> <li>4 保育士の育成の仕方がわからない</li> <li>5 企業主導型保育施設ごとの保育の質の差が大きい</li> <li>6 企業主導型保育施設における保育の質を向上させる方法がわからない</li> <li>7 安全管理や衛生管理が十分にできていない</li> <li>8 保護者対応が十分ではない</li> <li>9 施設・職員のマネジメントがうまくいっていない/不十分である</li> <li>10 児童育成協会と企業主導型保育型施設の連携が十分ではない</li> <li>11 課題は特に感じていない</li> <li>12 その他 (FA)</li> </ul>	MA
	全て	14	企業主導型保育施設の制度、運営に関するご意見がありましたら記載をお願いします。	-	FA

令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業

企業主導型保育事業における地域の課題や充足率に関する調査研究

発行日：令和8年3月

編集・発行：PwC コンサルティング合同会社